

【別冊1】平成19年度行政監査（評価）

監査委員評価及び自己評価対比シート

施策分野

子ども未来戦略

（73事業）

平成19年9月14日

横浜市監査委員

《目次》

【区分】欄の表記 指摘：指摘事項（改善を求めるもの）
 改善：改善要望事項（改善を要望するもの）
 理由：評価の理由（自己評価と監査委員評価が異なるもの）
 ※評価項目の一部を「評価対象外」とした事業については、
 「括弧」をつけ、「(A)」のように表示しています

基本施策2-1

基本施策	監査委員評価		自己評価		区分	頁
地域における子育て家庭への支援を推進します	75	B	79	B	—	1
事業【11事業】						
地域子育て支援拠点の設置	80	B	85	B		3
親と子のつどいの広場補助事業	88	A	93	A		5
私立幼稚園はまっ子広場事業	75	B	83	B		7
市立保育所障害児保育事業	78	B	83	B		9
24時間型緊急一時保育	75	B	85	B		11
民間保育所特別保育事業（一時保育）	80	B	83	B		13
民間保育所特別保育事業（休日・年末年始保育）	75	B	73	B		15
病児保育事業	70	C	80	B	理由	17
病後児保育事業	68	C	73	B	改善	19
保育所整備事業等	75	B	75	B		21
小児医療費助成事業	75	B	80	B		23

◆基本施策に関連する区の主な事業

事業【19事業】		監査委員評価		自己評価		区分	頁
鶴見・あいねっといきいきつるみっこ育成事業	鶴見	70	C	83	B	理由	25
すくすくかめっ子事業	神奈川	85	B	85	B		27
次世代育成支援～市立保育所体験保育事業～	西	80	B	78	B		29
子育て広場「のんびりんこ」運営支援事業	中	68	C	90	A	理由	31
子育て支援事業	南	73	B	83	B		33
初めて子育て応援事業	港南	70	C	75	B	理由	35
ホッとほどがや子育てPower Up事業	保土ヶ谷	73	B	75	B		37
旭区子育て広場運営事業	旭	80	B	88	A	理由	39
子育てひろば事業	磯子	75	B	83	B		41
のびのびかなざわっこ応援事業	金沢	75	B	93	A	理由	43
港北元気っ子育て支援事業①(妊婦乳幼児体験学習)	港北	75	B	83	B		45
港北元気っ子育て支援事業②(新米パパの育児教室)	港北	73	B	78	B		47
ほっとホームステイ・サポート事業	緑	73	B	88	A	理由	49
地域展開型子育て支援拠点整備事業	青葉	73	B	75	B		51
子育て支援センターポポラPR・交流事業	都筑	78	B	78	B		53
あんしん子育て対策事業(地域における子育て支援)	戸塚	73	B	78	B		55
つどいの広場さかえ開設事業	栄	85	B	75	B		57
「まち」の子育て支援事業	泉	78	B	75	B		59
子育てギャラリー事業	瀬谷	80	B	93	A	理由	61

基本施策2-2

基本施策	監査委員評価		自己評価		区分	頁
子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します	58	B	63	B	—	63
事業【14事業】						
英語教育改善事業	63	C	80	B	改善	65
小学校英語教育理解推進事業	75	B	80	B		67
小学校国際理解教室	70	C	83	B	理由	69

英語指導助手配置事業	75	B	83	B		71
国語力向上推進事業	65	C	73	B	指摘	73
小学校教員対象英語活動研修事業	73	B	83	B		75
スクールサポート事業	73	B	85	B		77
教職員研修事業	70	C	83	B	理由	79
教師力向上事業	73	B	85	B		81
特別支援教育推進事業	70	C	75	B	理由	83
北部方面中学校通級指導教室整備事業	73	B	78	B		85
高等養護学校整備・拡充事業：第二高等養護学校（仮称）整備事業	88	A	98	A		87
高等学校教育費（市立高校改革推進事業）	78	B	83	B		89
科学技術高等学校（仮称）整備推進事業	75	B	80	B		91

基本施策2-3

基本施策	監査委員評価		自己評価		区分	頁
子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します	71	B	75	B	—	93

事業【15事業】	監査委員評価		自己評価		区分	頁
放課後キッズクラブ事業	78	B	88	A	改善	95
はまっ子ふれあいスクール事業	73	B	85	B	改善	97
放課後児童健全育成事業	78	B	93	A	理由	99
放課後児童育成施策人材養成事業	73	B	80	B		101
よこはま若者サポートステーション（仮称）事業	73	B	83	B		103
青少年相談センター事業	68	C	78	B	理由	105
ひきこもり・不登校児童家庭支援事業	75	B	80	B		107
社会的ひきこもり就労支援モデル事業	73	B	80	B		109
青少年の居場所支援事業	68	C	73	B	理由	111
思春期の子どもへの支援事業	70	C	75	B	理由	113
思春期保健指導事業	73	B	73	B		115
学齢障害児地域生活サポート等事業	78	B	73	B		117
アーツ・コミッション事業（教育プログラム試行事業）	75	B	90	A	理由	119
子どものためのJAZZ教育事業	73	B	78	B		121
プレイパーク支援事業	75	B	90	A	理由	123

◆基本施策に関連する区の主な事業

事業【14事業】		監査委員評価		自己評価		区分	頁
次世代育成支援～地域の学習活動支援事業～	西	68	C	85	B	理由	125
青少年サポート事業	中	68	C	73	B	理由	127
青少年健全育成事業	港南	75	B	78	B		129
みんなで育むがやっこ事業	保土ヶ谷	73	B	83	B		131
学齢障害児地域生活サポート事業	旭	78	B	80	B		133
こども体験学習・交流事業	金沢	78	B	80	B		135
青少年活動支援事業	港北	73	B	78	B		137
青少年地域サポート事業	緑	73	B	88	A	理由	139
青少年居場所交流・運営サポーター養成事業	都筑	80	B	85	B		141
青少年パフォーマンス・スペース提供事業	戸塚	60	C	65	C		143
栄区青少年にやさしいまちづくり事業	栄	68	C	70	C		145
青少年を育むまちづくり事業	泉	78	B	75	B		147
せやキッズデイ事業	瀬谷	80	B	88	A	理由	149
瀬谷ユースフォーラム事業	瀬谷	73	B	80	B		151

◆巻末：評価シートの見方

1 基本情報

評価対象の基本施策名	地域における子育て家庭への支援を推進します	基本施策番号	2 - 1
関連する基本構想	5. いつまでも安心して暮らせる 安全安心都市	担当	進行管理担当課名 都市経営局 政策課
重点政策名	【重点政策2】 子ども未来戦略	担当	課長名 井尻 靖 電話 671 - 3911
重点政策の目的	横浜の未来を担う子どもたちが健やかに育つ都市を実現します。		
現状と課題	晩婚化、未婚化などに伴い少子化が進んでいる。また、女性の就業思考の高まり等により、一時保育など多様な保育サービスが求められている。一方、孤立感や育児不安を抱える親も少なくなく、子育てを地域で共有し、支える仕組みが必要となっている。		
取組の方向と目指す姿	各区に「地域子育て支援拠点」を設けるなど、徒歩で行ける身近な場所に地域子育て支援の場を確保する。また、NPOなどによる多様で質の高い保育サービスの提供と、市立保育園による障害児保育や地域子育て支援の推進などを行う。		

2 目標の達成状況(指標の選定または、変更・追加の理由を記入。累積値の場合は、※を記入。)

達成目標(成果指標)	H17実績	H22目標値	H18実績	H18目標値	H18達成率
① 地域子育て支援の場(週1回以上開催)の利用者数	325,400人	997,400人	422,500人	425,046人	99.4%
指標の選定・変更理由	地域が子育てを共有し、支え合う仕組みが構築できた結果として表される数値であり、指標として適切である。				
②	-				
指標の選定・変更理由					

3 施策を構成する重点事業の事業費総額(億円)

	H18年度	H19年度	H20年度～H22年度合計	計画期間合計
概算事業費(実績・予算)	122	117	341	580

4 施策を構成する重点事業の主な課題(共通する課題等)

共通課題等	NPOなどの事業主体を確保し、多様なニーズに対応していく施設環境を整備する必要がある。さらに、子供が安全で健やかに育ち、利用者も安心して利用できるようなサービスを提供することが求められる。
-------	--

5 項目別評価

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	着眼点評価、理由・説明等
政策目的等との整合性	①基本構想または政策の目的を実現するために適切なものとなっているか。 ■4 □3 □2 □1 地域における子育て家庭への支援を行うことは、横浜で安心して子育てを行うための環境を整備し、多様な保育サービスに役立ていくことであり、市民が安心して暮らせる安全安心都市の実現に不可欠な施策であることから、政策目的と施策の関係は十分に明確である。
適応性	②市民ニーズや社会経済情勢の変化に柔軟に対応しているか。 ■4 □3 □2 □1 親の就業状況の変化や多様な保育ニーズといった社会経済情勢等に対応していくための施策となっている。また、他自治体の動向等を踏まえ小児医療費助成の所得制限を緩和するなど、施策を構成する事業も的確な対応ができている。子育て家庭のニーズを把握し、今後も柔軟な取組みを行っていくことが求められる。
目標達成度	③目標水準を適切に設定しているか。 □4 ■3 □2 □1 今後の施設設置数と既存の施設利用者状況から利用数ニーズをとらえて設定している。施設を整備するだけでなく、実際に利用する人数を目標値に設定し、施策の目的を適切に示した市民にわかりやすい目標となっている。
	④施策の目標水準どおりに進めることができているか。 □4 □3 ■2 □1 施策目標の18年度実績は水準を満たしていない。事業単位では子育て支援拠点の設置が施設整備の遅れにより若干未達成であったが、親子のつどい広場、幼稚園はまっす広場の利用者が目標値を超えており、全体としては目標水準通りに進捗している。
有効性	⑤事業の重点化について明確な理由をもって行っているか。 □4 ■3 □2 □1 施策の目標達成に向けて、それぞれの事業が、子供の年齢、健康状態及び親の就業など様々なニーズに対応するために必要な事業として重点化されている。
	⑥施策を構成する事業が円滑に進むように調整をしているか。 □4 ■3 □2 □1 施策を構成する事業の進捗状況の確認、調整などを行い、18年度は概ね予定どおりに進んだ。事業によっては、NPOなど事業主体の確保がむずかしい状況も想定され、今後はさらなる進捗管理、調整が必要となる。

6 総合評価(上記1～5とランクを踏まえて記入)

ランク(A～C)	B	子どもたちが健やかに育つ都市像の実現に向け、利用者ニーズの多様化に対応した施策となっており、適切な目標を設定している。遅滞や目標未達成の事業もあるが、全体としては概ね順調に進んでいる。子育て家庭の利用促進に向けて、わかりやすい情報提供などにさらに取り組んでいく必要がある。	合計 19 ↓ / 24 100点換算 79 / 100
----------	---	--	---------------------------------------

7 改善の方向性

方向性	□拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピードアップ □計画の検証 ■現状維持			
何を	何時までに			
どのような状態にするか				

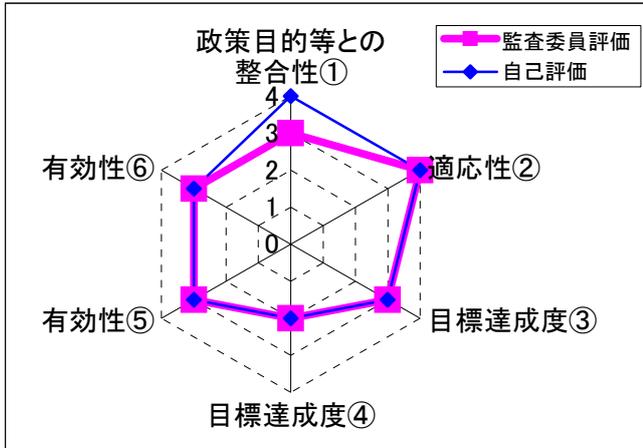
施策評価シート【監査委員評価】

平成 18 年度

1 基本情報

基本施策名	地域における子育て家庭への支援を推進します	基本施策番号	2 - 1
-------	-----------------------	--------	-------

【グラフによる比較】



	中期計画上の整備目標			(箇所数)
	平成17年度までの実績	平成18年度整備箇所数	計	平成22年度末目標値
地域子育て支援拠点	1	4	5	18
親と子のつどいの広場	12	3	15	36
幼稚園はまっ子広場	13	3	16	36

2 項目別評価

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	着眼点評価、理由・説明等	
政策目的等との整合性	①基本構想または政策の目的を実現するために適切なものとなっているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	地域において、すべての子育て家庭に対し、子育てについて抱えている不安や悩み等を解決するための支援を行うことや、仕事と子育ての両立を支援するための保育ニーズにこたえることは、「子どもたちが健やかに育つ都市を実現する」という政策目的を実現するために欠かせない施策と考えられ、政策目的と整合している。	
適応性	②市民ニーズや社会経済情勢の変化に柔軟に対応しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	次世代育成支援に関するニーズ調査、かがやけ横浜子どもプラン関連事業の利用者アンケートなどにより、地域子育て支援の場や、多様な保育に対するニーズを把握し、施策に反映している。また、小児医療費助成制度については、市民要望や、他自治体の動向などを踏まえて対応している。今後も、引き続き、地域での子育て支援に関するニーズ把握を行い、社会経済情勢に応じた柔軟な対応が求められている。	
目標達成度	③目標水準を適切に設定しているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	施設設置による環境整備を行い、実際に活用してもらうことが施策目的の実現のために適切な指標といえるので、目標値として、施設利用者数を設定していることは、市民にとって明確で分かりやすい指標といえる。	
有効性	④施策の目標水準どおりに進めることができているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	設定された目標値を、下回った結果となっている。地域子育て支援拠点の設置が、スケジュールどおり進まなかったことにより、利用者数が伸びなかったことが主な理由であり、今後、目標達成に向けた着実な取組が必要である。	
有効性	⑤事業の重点化について明確な理由をもって行っているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	重点事業の選定は、中期計画に位置付ける中で、局と調整の上で行われている。それぞれの事業が、対象者の範囲や子育てニーズを踏まえて、施策実現のために重点化されている。	
有効性	⑥施策を構成する事業が円滑に進むように調整をしているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	中期計画の進行管理スケジュールに沿って、予算、決算等の機会に、定期的に、施策を構成する個別の事業について、進捗状況の把握を行っている。しかし、一部事業については、目標値を下回っている事業があり、今後、事業の進捗状況に応じて、一層、各事業の進捗管理を徹底し、施策目標達成に向けた取組を強化する必要がある。	

3 総合評価

ランク (A~C)	B	<p>本施策は、すべての子育て家庭を、地域で支援するための施策で、地域子育て支援の場の利用者数を指標として選定するなど、明確で分かりやすい目標設定となっている。施策目標達成に向けて、おおむね計画どおりに事業が進捗しているが、一部事業の進捗の遅れなどにより、設定された目標値を下回った結果となった。一方保育所整備については、本市として特に重点的に取り組んでいる課題であり、待機児童の解消に向けて着実な整備促進が図られているが、結果として待機児童の解消には至っていない。</p> <p>今後は、施策目標実現のための取組を強化するとともに、地域で求められている子育てネットワークづくりや人材育成などの課題も含め、事業の実施状況の検証やニーズ把握に努め、子育て家庭が必要とする支援を効果的・効率的に実施することが求められる。</p>	合計	18
			↓	/ 24
			100点換算	75
				/ 100

事業名	地域子育て支援拠点の設置		担当	区局部課名	子ども青少年局地域子育て支援課	電話	671 - 2701
				課長名	齋藤		
施策名	■中期計画	地域における子育て家庭への支援を推進します				重点事業 番号	2 - 1 - 1
	■運営方針	地域における子育て支援の充実					
目的	すべての子育て家庭が、子どもの成長段階に合わせた支援を受けられるとともに、地域で子育て家庭を支え、子どもの育ちの意義や喜びを地域全体で共有できる仕組みづくりを目指す。						
内容	①親子の交流の場、子育て相談、情報提供等さまざまな子育て支援、②区内の子育て支援の場や活動のネットワーク化、③人材育成等を行う子育て支援の総合的な拠点を設置。18年度は中、保土ヶ谷、緑、都筑の4区に新たに設置。						
根拠法令等	保育対策促進事業実施要綱(厚生労働省)						

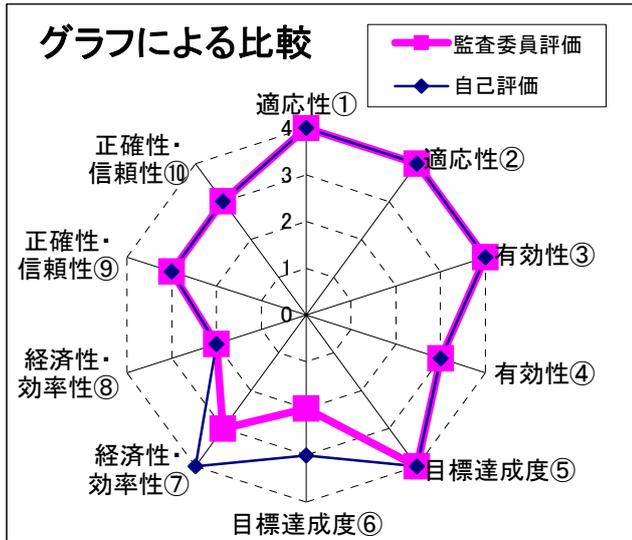
コスト	区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)			20,666	232,081	177,793
うち一般財源等 (千円)			19,368	220,396	170,021	317,352
人件費(概算) (千円)			15,701	30,600	31,402	37,800
総コスト(概算) (千円)			36,367	262,681	209,195	372,442

活動・成果 指標	名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		設置及び運営箇所数	人		1	5	5
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)			(36,367)	(52,536)	(41,839)	(41,382)
	親子の交流の場の延べ利用者数	人		0	56,000	45,561	120,000
成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)			-	(5)	(5)	(3)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)						

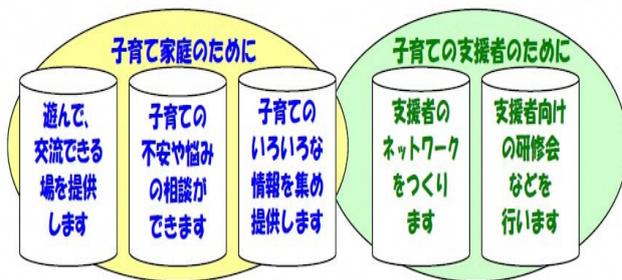
評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1

総合評価	合計	34	特記事項 (協働の取組状況) 事業を協働事業と位置づけており、モデル区の港北区で、協働協定書の策定、協働に基づく役割分担表の策定について試行した。 (環境への負荷) 既存建物活用という手法が環境負荷の低減に有効である。
	100点換算	85	
ランク (A~E)		B	必要性、緊急性の高い事業であり、実際の利用状況からも多くの子育て家庭が求めていることがうかがえる。拠点以外の事業とも合わせて、身近な場への整備が急がれている。区においてスムーズに、かつ法人のノウハウ、良さを消してしまわぬように事業を協働で推進するために、局においてバックアップ、働きかけが必要である。

事業名	地域子育て支援拠点の設置
-----	--------------



●地域子育て支援拠点では、次のことを行います。



※こども青少年局ホームページより転載

4: 十分にできている 3: できている 2: あまりできていない 1: できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 次世代育成支援に関するニーズ調査で要望が多かった、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」、「子育てに不安や悩みを持つ親同士の交流・仲間づくり」等を目的として実施している事業で、「かがやけ横浜子どもプラン」に基づき開始された事業である。市が実施している子育て支援事業は他にもあるが、常設の居場所の提供や、今後の地域での子育て支援に欠かせない、区内で子育て支援の活動に取り組む人や組織の支援（ネットワークづくり、人材育成）を内容としており、市が行う必要がある。
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 地域でのかかわりを重視し、区と運営団体が協働で事業を実施する手法を採っている。また、居場所の提供という点では、「つどいの広場事業」より開所日数が多く、規模も大きいので、多くの利用者があり、効果的な手法である。中期計画及び局の運営方針に位置付けられた事業で、その実現を推進している。拠点のほとんどが、事業開始後間もないため、事業についての詳細な検証はなされていないが、今後、検証を行い、ニーズにあった効果的な事業内容とするなど、地域での子育て支援拠点としての機能を充実させる必要がある。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 各区に1か所設置するという目標は、居場所の設置という点では不足しているが、地域支援機能の総合的な拠点の設置という点では、成果が期待できる適切な目標であるといえる。 平成18年度は、新規4か所の設置を目標とし、実現している。しかし、事務手続の遅れにより、開所時期が遅れた施設が多く、利用者数は当初見込みを下回っている。
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 既存建物の改修という整備手法を採用し、開設に伴う経費についてコスト縮減を図っている。 新規施設の整備に際し、①契約手続について、公共の契約に準じた手続を求めたこと ②場所の選定作業に手間取ったこと から、スケジュールが大幅に遅れており、効率的な事務執行ができていない。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 緊急対応のマニュアルを拠点ごとに整備しており、救急研修を実施している拠点もあるなど安全管理に配慮している。広報については、拠点ごとにホームページ、チラシを作成するとともに、広報や、区の窓口、健診等の各種行事において周知を行っている。今後は、事業目的である、地域での子育て支援を推進するために、この事業を必要としている人を対象とした、効果的な利用促進策を推進することが必要である。
監査の結果	合計 32 / 40 100点換算 80 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 ■なし

事業名	親と子のつどいの広場補助事業		担当	区局部課名	こども青少年局地域子育て支援課		
				課長名	齋藤 功	電話	671 - 2701
施策名	■中期計画	地域における子育て家庭への支援を推進します				重点事業 番号	2 - 1 - 2
	■運営方針	地域における子育て支援の充実					
目的	子育て中の親子が気軽につどい、同じような不安や悩みをもつ仲間との交流・団らんの場の提供を促進することにより、子育て不安の解消を図る等を目的に開設する広場事業です。						
内容	1 子育て親子の交流、つどいの場の提供 2 子育てアドバイザー等による子育て・悩み相談の実施 3 地域の子育て関連情報の提供 4 子育て支援に関する講習等の実施 原則として週3日以上、1日5時間以上開設の常設の広場						
根拠法令等	次世代育成支援対策交付金(厚生労働省)、親と子のつどいの広場事業補助金交付要綱						

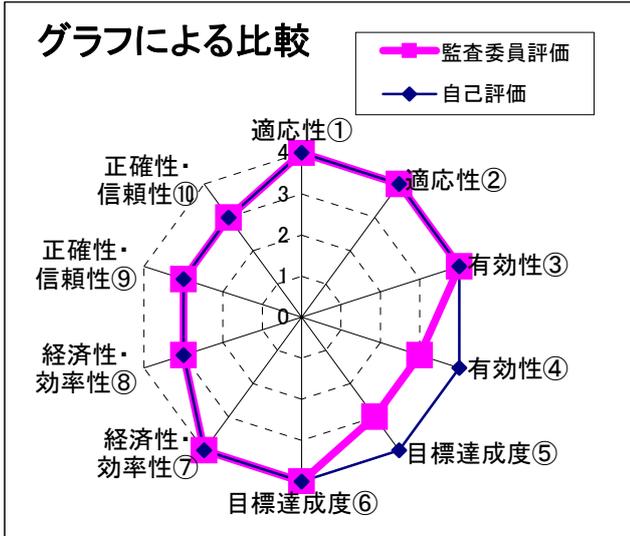
コスト	区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)	18,450	24,450	35,500	33,970
うち一般財源等	(千円)	9,000	12,000	18,000	29,550	47,333
人件費(概算)	(千円)	7,261	7,389	7,200	7,389	7,200
総コスト(概算)	(千円)	25,711	31,839	42,700	41,359	76,700

活動・成果 指標	名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		設置及び運営箇所数	人	9	12	14	15
	活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(2,857)	(2,653)	(3,050)	(2,757)	(4,037)
	親子の交流の場の延べ利用者数	人	25,082	39,109	46,848	46,848	59,337
	成果 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					

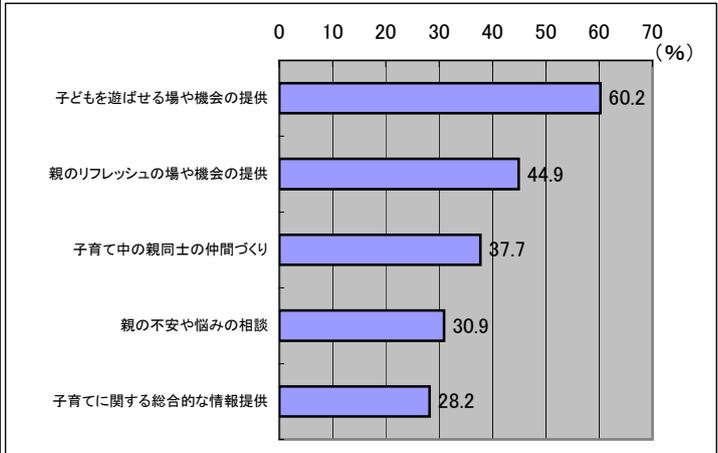
評価項目	点数	理由・説明等	
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。	■4□3□2□1
		② 事業を市が行う必要性があるか。	■4□3□2□1
次世代育成支援に関するニーズ調査では、「子どもを遊ばせる場」「親のリフレッシュの場」「子育て中の親同士の仲間づくり」「親の不安や悩みの相談」等について意見が多く出され、反映できる事業内容となっている。今後、つどいの広場等の居場所を徒歩で行ける範囲(小学校区程度)に確保することを計画している。現在、事業実施主体は市社会福祉協議会、運営主体はNPO法人等で全国的にも数少ない方法で実施しているが、今後の拡充により運営主体のレベルの保持や運営委託費の見直し等について、市が積極的に検討し、進めていくべき事業である。			
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。	■4□3□2□1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。	■4□3□2□1
横浜の広場は公設公営がないため、新規開設については公募により決定されることから、拡充のための担い手、広場継続のための人材育成が必要となっている。区との連携が必須の事業と従来からいわれてきており、一部連携が進まない状況がみられているが、地域子育て支援拠点事業の区実施に伴い、広場事業がクローズアップされ、区と連携するなど相乗効果を生んでいる。その結果、広場事業の運営主体が地域子育て支援拠点事業の事業者となるケースも生まれてきている。広場は市内各所に点在するよう計画しており、また実施主体もNPO法人等民間の力が十分に活かされるよう地域が創る子育て支援を目指している。中期計画における親子の居場所づくり支援の目標実現に大きく寄与している。			
3 目標達成度	8	⑤ 目標の水準は適切か。	■4□3□2□1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。	■4□3□2□1
中期計画では、平成22年度までに36か所での開設を計画している。各年度3か所程度を開設する計画であるが、NPO法人等の積極的な取組により、平成18年度までに15か所の目標を達成することができた。平成19年度以降、年度毎の開設数が拡充されるが担い手の確保が懸念される。			
4 経済性 効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。	■4□3□2□1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。	□4■3□2□1
平成14年度に定めた一広場あたりの事業運営費が低く、現在に至るも大きな変化はない。事業費総額のコスト縮減は図られてはいるが、委託事業の本来の目的を検討し、経費内容を厚労省基準並に見直す必要がある。広場事業は国の次世代育成支援の施策により、平成17年度からソフト交付金で、1/1補助となり2年度目となった。事務については、広場連絡会を定期的に開催し、事業の振り返り、人材の育成、広場従事者のスキルアップ等を図っている。			
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。	□4■3□2□1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。	□4■3□2□1
親と子のつどいの広場事業補助金交付要綱に基づき実施している。情報の提供は主にホームページを用いているが、主要場所に設置してあるPRボックス等での周知も実施している。			

総合評価	合計	37	特記事項	(協働の取組状況)
	↓	/ 40		NPO法人等が主体的に実施している事業となっている。
	100点換算	93	(環境への負荷)	事業費が少ないところで既存建物活用という手法での事業実施により環境への負荷が軽減されている。
ランク(A~E)	A	居場所づくりは計画通りに達成されているが、さらに居場所は市民満足度の向上を見据えて小学校区程度の徒歩で行ける身近な場所に設けることを目指しており、その際には、広場の設置場所の選定、広場の運営費、利用料の無料化、スタッフ人材の育成等が課題となる。		

事業名 **親と子のつどいの広場補助事業**



(次世代育成支援に関するニーズ調査 就学前児童 n=4,857) 問 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサービスはどのようなものだと思いますか。(3つまでに○) (平成16年3月)



4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
次世代育成支援に関するニーズ調査でも要望が多かった、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」、「子育てに不安や悩みを持つ親同士の交流・仲間づくり」等を目的として実施している事業で、国も推進している事業である。ほとんどすべての都道府県で実施されており、実施主体の過半数が市町村直営であるが、横浜市では、広場の運営を市民活動団体が任じ、その実施主体である市社会福祉協議会に補助を行い実施している。		
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
「子育て親子の交流、つどいの場の提供」等を目的とした広場を設置し、事業を実施する手法で、国が推進している「つどいの広場事業」の手法を採っている。「地域子育て支援拠点」と比べ、規模が小さく、開所日数が週3日程度の広場もあるが、設置箇所数が多いため、地域での身近な利用を促進する効果がある。今後は、全区に設置される「地域子育て支援拠点」との連携を進め、地域での子育て支援を推進する必要がある。中期計画及び局の運営方針に位置付けられた事業で、その実現を推進している。		
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
中期計画上、「地域子育て支援の場」を確保する必要があることから、平成22年度までに36か所設置することを目標としている。平成18年度は、2か所の新規設置目標であったが、3か所を設置し、利用者数も目標を上回った。平成19年度以降、目標達成のために設置箇所数が増加するため、担い手となる人材の発掘、地域バランスを配慮した場所等の確保についての取組が必要である。		
4 経済性・効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
広場への補助金(18年度予算)は、1か所当たり2,500千円で、国の基準より低額となっており、コストの縮減が図られている事業である。 募集案内から選考を含めてほとんどすべての事務を、市社会福祉協議会が行っており、市は、委託料の決定・選考の補助、対外的対応を行っている。随時打合せを実施し、事務を効率的に執行している。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
保険に加入しており、また、広場連絡会において、事故防止・安全管理について指導している。 広報については、広場ごとのホームページ、区役所・PRボックスでのチラシ配布にて周知を行っている。今後は、事業目的である地域での子育て支援を推進するために、この事業を必要としている人を対象とした、効果的な利用促進策を推進することが必要である。		
監査の結果	合計	35 / 40
	100点換算	88 / 100
	ランク (A~E)	A
□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし		

事業名	私立幼稚園はまっ子広場事業		担当	区局部課名	こども青少年局地域子育て支援課	電話	671 - 2701
				課長名	齋藤 功		
施策名	■ 中期計画	地域における子育て家庭への支援を推進します				重点事業 番号	2 - 1 - 2
	■ 運営方針	地域における子育て支援の充実					
目的	幼稚園が放課後に園庭・園舎を開放することで幼稚園児や地域の幼児が友達や保護者とともに安全に楽しく遊んで過ごせる場や付き添いの保護者同士が子育てについて交流、情報交換できる場を提供することを目的としています。						
内容	実施内容 1 事業の広報及び周知 2 子育て支援サークル等のための集まりの場又は交流の場の提供 3 子育て相談 4 親子教室・子育て講演会・音楽会等の開催 5 図書室及び遊具を備えた部屋の開館 開設時間:14時頃～17時頃 運営方法:幼稚園設置者が運営 利用料:無料						
根拠法令等	私立幼稚園はまっ子広場事業補助金交付要綱						

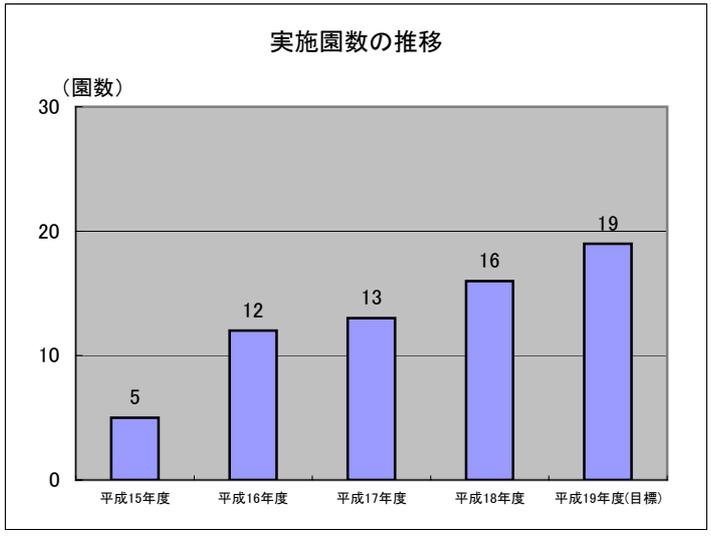
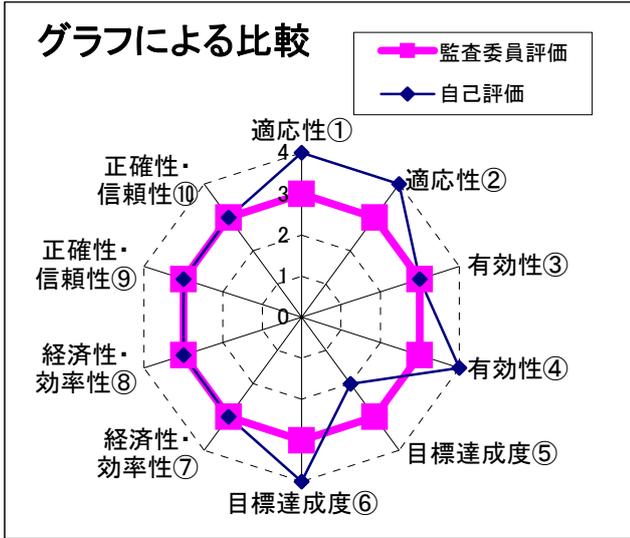
コスト	区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)	10,500	13,000	15,250	14,750
うち一般財源等	(千円)	10,500	13,000	15,250	14,750	19,312
人件費(概算)	(千円)	3,630	3,694	3,600	3,694	3,600
総コスト(概算)	(千円)	14,130	16,694	18,850	18,444	22,912

活動・成果 指標	名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	設置及び運営箇所数		人	12	13	15	16
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(1,178)	(1,284)	(1,257)	(1,153)	(1,206)
親子の交流の場の延べ利用者数		人	28,281	40,906	52,080	56,730	74,400
成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 次世代育成支援に関するニーズ調査では、「子どもを遊ばせる場」「親のリフレッシュの場」「子育て中の親同士の仲間づくり」「親の不安や悩みの相談」等について意見が多く出され、反映できる事業内容となっている。今後、居場所を徒歩で行ける範囲(小学校区程度)に確保することを計画している。事業開始以降、実施園数は横ばい状態であるが、中期計画では平成22年度までに36か所での開設を計画しており、当事業の推進に協力をいただいている「社団法人横浜市幼稚園協会」と幼稚園が取り組める実施内容等について再検討し、実施園数を拡充していきたい。現在、幼稚園は区の所管にはなっていないため、子育て支援の観点から市が積極的に進めていくべき事業である。
	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 横浜市は公立の幼稚園を1園も持たず、全園私立という状況にある。公立園であれば全園一律に実施の可能性もありえるが、当事業は私立幼稚園を対象に募集を実施しているため、計画目標に到達しない年度も生じている。計画通りに推進できるような手法への取組・検討が急務である。幸い子育てへの支援の取組に国を挙げて実施している状況が反映され、他の子育て支援事業への幼稚園の関心が高まっている現状があり、当事業についても推進してまいりたい。幼稚園は地域の子育て資源として有効であり、中期計画における親子の居場所づくり支援の目標実現に大きく寄与している。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 中期計画では平成22年度までに36か所の開設を計画しているが、市内幼稚園を対象にした募集であり、園の方針によるため、年度毎に応募園が片寄ること、1区2か所程度の計画があるが18区から均等に応募がないことなどが挙げられる。このため、各年度の計画数を決定することは難しく、達成も同様に難しい。18年度は計画通りに目標を達成したと評価できる。
	4	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 事業は幼稚園の既存施設を使用しており、コストを縮減できている。 事務については、実施数が増えていくことから簡単な事務要領からマニュアル化して効率的に進めていく。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 私立幼稚園はまっ子広場事業補助金交付要綱に基づき実施している。情報の提供は主にホームページを用いているが、インターネット利用者以外の対象者への周知方法の検討が必要である。

総合評価	合計	33	(協働の取組状況) 事業を広めていくうえで、地域との連携は不可欠である。
	100点換算	83	(環境への負荷) 幼稚園として環境負荷軽減の取組を実施している。
	ランク(A~E)	B	子育て支援を実現しようとする際に市内にある子育て支援に関する施設の利用は不可欠である。広場開設数の拡充計画に対して、地域の子育て資源としての実績を持つ幼稚園の協力は重要であり、事業に参画しやすい条件等の整備を検討する。

事業名	私立幼稚園はまっ子広場事業
-----	---------------

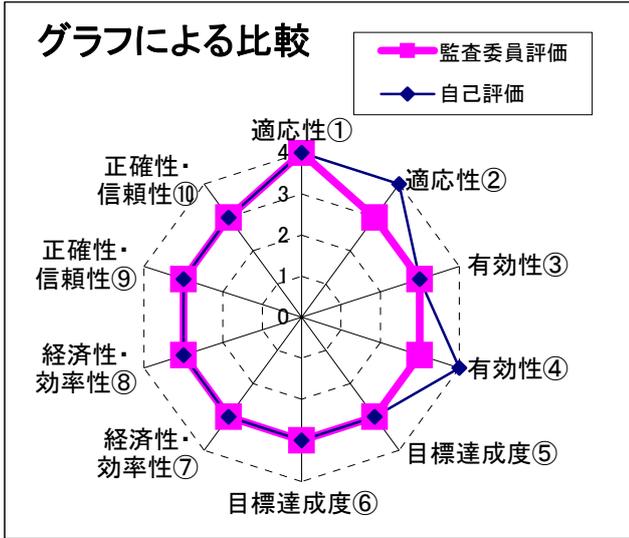


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	<p>① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>② 事業を市が行う必要があるか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>次世代育成支援に関するニーズ調査で要望が多かった、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」、「子育てに不安や悩みを持つ親同士の交流・仲間づくり」等を目的として実施している事業で、市が独自に実施している。未就学児とその親を対象に、通常週5日実施している事業で、市民に身近な、地域の幼稚園の園庭・園舎を開放する事業として、ニーズがある。</p>
	6	<p>③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>市民に身近な幼稚園という施設を居場所として利用している点で、有効な手法である。幼稚園の終了後、通常週5日、夏休み等の長期休業中は週3日開設しており、利用可能日数が多い。実施内容は、園庭・園舎の開放が中心だが、講演会や子育て相談会等も実施しており、利用者のニーズにこたえる内容となっている。中期計画及び局の運営方針に位置付けられた事業で、その実現を推進している。</p>
3 目標達成度	6	<p>⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>平成18年度は、2園の新規開設を目標としていたが、3園開設することができ、利用者数も目標を達成している。なお、中期計画上、「地域子育て支援の場」を確保する必要があることから、平成22年度までに、36園を整備することを目標として設定しているが、現在16園の整備となっており、今後、整備数の増加が必要である。また、地域的にも、北部地区の実施園が少なく、地域的なバランスを考慮して整備を進める必要がある。</p>
	6	<p>⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>開設日数が多く、幼稚園の長期休業中も実施している事業であることからみて、コスト的には縮減されている事業であるといえる。今後、目標どおりに実施園が整備できれば、事務が増加することが予想されるので、現在作成されていない事務マニュアルを整備する等、事務を効率的に進める必要がある。</p>
5 正確性信頼性	6	<p>⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>各幼稚園ごとに、通常の園の事故防止対策に準じて、安全管理を行っている。ホームページ、子育てガイドブックや各園に看板を設置して広報しているが、実施園周辺の地元への周知が行われていないため、広報の充実が必要である。</p>
	合計	<p>30 / 40</p> <p>□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし</p>
監査の結果	100点換算	75 / 100
	ランク(A~E)	B

事業名		市立保育所障害児保育事業		担当	区局部課名	こども青少年局子育て支援部保育運営課		
				担当	課長名	片岡 暁	電話	671 - 2396
施策名	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画	地域における子育て家庭への支援を推進します						2 - 1 - 3
	<input type="checkbox"/> 運営方針							
目的	保育が必要な障害児が身近な地域で適切な保育が受けられることを目的とします。							
内容	市立保育所全園で障害児保育を実施します。							
根拠法令等	横浜市障害児保育事業実施要綱							
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)			227,091	317,774	384,486	384,486	370,811
	うち一般財源等 (千円)			226,015	298,918	369,874	369,874	336,473
	人件費(概算) (千円)			1,815	1,847	1,800	1,847	1,800
	総コスト(概算) (千円)			228,906	319,621	386,286	386,333	372,611
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	入所児童数		人	421	421	465	465	461
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(544)	(759)	(831)	(831)	(808)
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)						
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)						
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
障害児が身近な地域で保育が受けられるよう環境整備することは、障害児の保護者からのニーズが非常に高い。 民間保育所においても障害児の受入れが進んでいるが、市立保育所における全園での受入れ、障害児保育に関するノウハウの蓄積など、市立保育所の役割は重要である。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
障害児の入所に対して、職員を加配置し、手厚い保育が可能となっている。 中期計画「多様な保育ニーズへの対応」の実現に寄与している。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
入所児童数について目標を定めるのではなく、全園で受け入れられる体制を整えることを目標としており、目標は達成されている。 現在は、重度の障害を持つ児童の受け入れも積極的に行っている。								
4 経済性効率性	6	⑦ コストは削減しているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
手厚い保育を実現するためには、コスト増も発生するが、正規職員とアルバイト職員を組み合わせることにより、一定のコスト削減に取り組んでいる。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
手厚い保育と安全に配慮するため職員を別途配置している。								
総合評価	合計	33	(協働の取組状況)					
	↓ 100点換算	83	特記事項	(環境への負荷)				
	ランク (A~E)	B	引き続き障害児保育に積極的に取り組むとともに、重度の障害を持つ児童の受け入れも積極的に行っていく。					

事業名	市立保育所障害児保育事業
-----	--------------



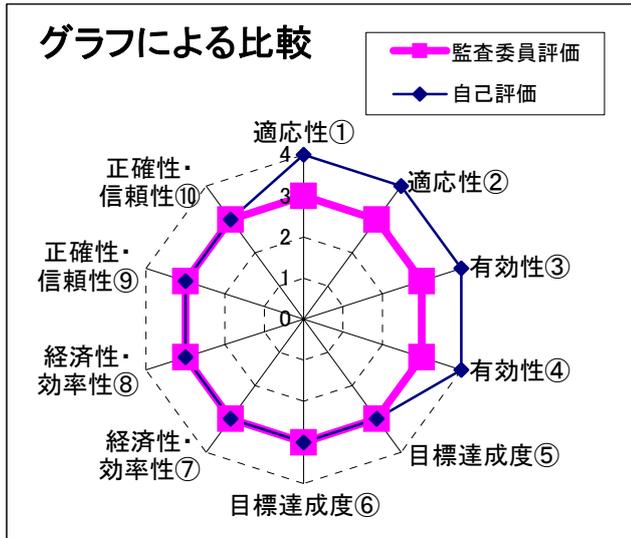
障害児保育実施状況			(平成18年度)
	保育所 か所数	受入可能 園 数	実 施 園 数
市立	114	114	107
民間	259	217	172

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
昭和48年に国の中央児童福祉審議会の提言により、障害児保育の必要性が提言され、事業の実施要綱が策定された。横浜市では昭和50年より事業を開始している。当初は実施可能な市立の指定園による実施で行っていたが、平成10年より市立では全園実施となっている。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
市立保育所への入所に当たって、各区において「障害児保育調整委員会」に諮り、その意見を受けて福祉保健センター長が入所決定を行う。療育センターと連携をとり、保育の向上に努めている。障害児保育は個々に対応処方も異なり、実際に経験のある保育士が対応し、そのノウハウを蓄積し次に生かすよう努めている。今後は、民間の実施園を増やすために、そのノウハウを民間に伝えることが求められている。なお、事業は中期計画の重点事業の一翼を担う事業となっている。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
中期計画上の目標は市立・民間を問わず全園で障害児が受入れ可能となることが目標となっている。本事業の対象である市立については、既に全園が受入れ可能となっている。重度障害者については、障害による人的な加算措置を執ることで実施している。入所希望者については、各区の障害児保育調整委員会で新規入所者の審査を行い、保育所での受入れが、その子にとってより発達を促すような状況の場合、受入れを促進している。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
過年度比較をすると入所児童一人に対する経費は増加しているが、障害の状況に応じた受入れを促進するため、「横浜市障害児保育事業実施要綱」を制定し、重度・中度障害にも対応していることが理由である。また、療育センターと、入所希望者についての情報を共有するなど、連携をとりながら、事務を効率的に行っている。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
アルバイトも含めて派遣研修を実施するなど、安全研修の充実等が図られている。事業の対象者の範囲が、療育センターの通所者等が多いため、センターと連携しながら、適切な情報提供等も行われている。		
監査の結果	合計	31 / 40
	100点換算	78 / 100
	ランク (A~E)	B
□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし		

事業名		24時間型緊急一時保育		担当	区局部課名	こども青少年局 保育運営課			
				担当	課長名	片岡 暁	電話	671 - 2399	
施策名		<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画 地域における子育て家庭への支援を推進します <input type="checkbox"/> 運営方針					重点事業番号	2 - 1 - 3	
目的		就学前の児童を持つ保護者が、病気・就労等の事情により、緊急に児童を預ける必要が生じた場合に、24時間、365日受け入れ可能な緊急一時保育を設置し、保護者の子育てに対する負担感の軽減を図る。							
内容		24時間、365日受け入れ可能な緊急保育事業を実施する。							
根拠法令等		横浜市24時間型緊急一時保育事業実施要綱							
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
		事業費 (千円)		23,826	33,410	34,310	34,310	34,310	
		うち一般財源等 (千円)		22,969	31,658	32,558	32,558	32,694	
		人件費(概算) (千円)		1,815	1,847	1,800	1,847	1,800	
		総コスト(概算) (千円)		25,641	35,257	36,110	36,157	36,110	
活動・成果指標		名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		実施施設数		施設	2	2	2	2	2
		活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)	(12,821)	(17,629)	(18,055)	(18,079)	(18,055)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)					
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)					
評価項目		点数	理由・説明等						
1	適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■4□3□2□1				
			② 事業を市が行う必要性があるか。		■4□3□2□1				
就学前の児童を持つ保護者が、病気・就労等の事情により、緊急に児童を預ける必要が生じた場合に、24時間、365日受け入れ可能な緊急一時保育を設置し、保護者の子育てに対する負担感の軽減を図ることを目的としており、近年の社会情勢の現状に合っている。									
2	有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		■4□3□2□1				
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		■4□3□2□1				
子育て世帯にとって必要不可欠なサービスであり、多様な保育ニーズに対応している。									
3	目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		□4■3□2□1				
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□4■3□2□1				
目標どおり2施設で実施している。また、引き続き利用者数を向上させるため周知に努める。									
4	経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。		□4■3□2□1				
			⑧ 事務は効率的に行われているか。		□4■3□2□1				
施設改修をしていないため、最低限必要な経費の支出のみとなっており、概ね効果的に行われている。									
5	正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		□4■3□2□1				
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□4■3□2□1				
ホームページや制度の案内チラシを区役所で配付することによって、情報提供している。児童を保育する際は、保育士を常時複数配置し、安全に配慮している。									
総合評価	合計	34	(協働の取組状況)						
	↓	/ 40	実施施設の施設長との意見交換などを実施している。						
	100点換算	85	(環境への負荷)						
	↓	/ 100							
ランク (A~E)	B		引き続き周知を図り、多くの市民が安心して子育てができるようにしていく。						

事業名	24時間型緊急一時保育
-----	-------------



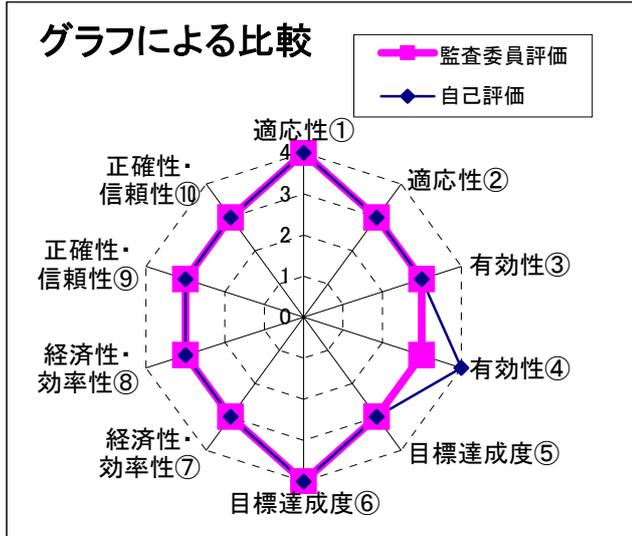
実施施設	区名	開設時期
あおぞら保育園	神奈川区	15年 4月
港南はるかぜ保育園	港南区	17年 2月

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

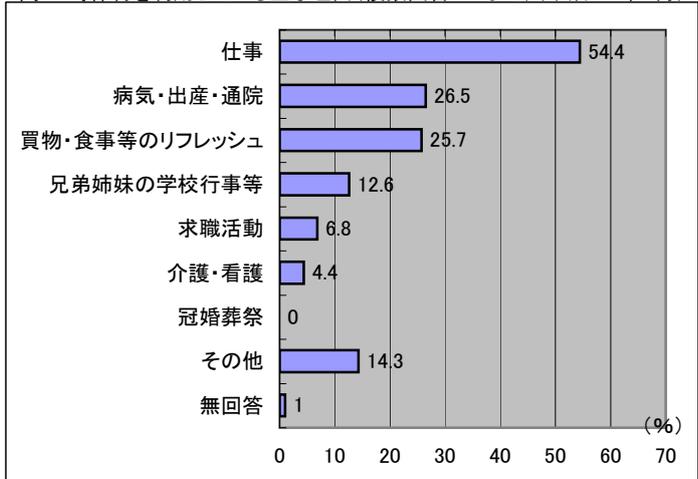
評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 24時間 365日受入れ可能な緊急保育事業で、市民からのニーズをアンケート等により把握し実施している。いくつかの認可外保育施設でも実施しているが、自園の児童のみ受入れの場合が多く、セーフティネットとして市が実施する必要がある。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 神奈川区・港南区の2園で実施しており、24時間 365日受け入れている。かがやけ横浜子どもプランの「多様な保育ニーズに対応するためのサービスの充実」の実現に寄与している。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 利用希望者が、必要な時に利用可能な体制がとれるように、現状の2園での円滑な実施が目標となっている。利用延べ人数は、2施設合わせて、年間約 3,000人で、定員に比べて低い利用率となっているが、利用希望者が必要なときに利用できる制度となっており、セーフティネットとしての役割を果たしているといえる。
	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 補助金の内訳は、配置基準に見合った保育士2名分の人件費、利用人数に応じた事業費が中心であり、必要な経費の支出となっている。実施園が2園と限られているため、会議や定期的な打合せは実施されていないが、個別に連絡をとる等、効率的に事務を行っている。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 緊急時には、親、園医、区等に連絡がいく仕組みになっている。事業内容等を市のホームページに掲載するとともに、チラシを局で作成し、区の窓口で配布している。また、新設か所については、広報よこはまに掲載している。今後、本事業のセーフティネットとしての役割を市民に周知し、利用促進を図るため、情報提供の充実が必要である。
	合計	30 / 40 □指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし
監査の結果	100点換算	75 / 100
ランク(A~E)	B	

事業名		民間保育所特別保育事業 (一時保育)		担当	区局部課名	こども青少年局子育て支援部保育運営課		
				担当	課長名	片岡 暁	電話	671 - 2427
施策名	■ 中期計画	地域における子育て家庭への支援を推進します					重点事業 番号	2 - 1 - 3
	■ 運営方針	地域における子育て支援の充実「多様な保育ニーズへの対応」						
目的		就業形態の多様化などに伴う多様な保育ニーズへの対応						
内容		パート就労や家族等の入院などにより家庭での保育が一時的に困難な児童に対して保育を実施する。一時保育を実施している民間保育所(公設民営含む)に対して市から助成を行う。						
根拠法令等		横浜市一時保育事業補助金交付要綱						
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)	199,878	242,658	315,803	319,892	378,852	
	うち一般財源等	(千円)	171,984	152,224	212,169	264,740	323,322	
	人件費(概算)	(千円)	9,076	9,236	9,000	9,236	9,000	
	総コスト(概算)	(千円)	208,954	251,894	324,803	329,128	387,852	
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	延べ利用人数		人	52,113	62,781	61,662	87,720	90,968
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(4)	(4)	(5)	(4)	(4)
	実施施設数		施設	75	103	132	147	152
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(2,786)	(2,446)	(2,461)	(2,239)	(2,552)
			(千円)					
			(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■4□3□2□1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		□4■3□2□1				
		一時保育に対するニーズは増えている。施設数の拡充に努めているが、なお利用ニーズを充足していない。民間保育所によるサービスの提供に対し、市は事業実施に必要な経費を助成している。						
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		□4■3□2□1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		■4□3□2□1				
		18年度に要綱を改正し、補助体系の見直しを図った。利用枠やか所数の増加により、年々利用者数は伸びてきており、市民の多様な保育ニーズへの対応が図られている。						
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。		□4■3□2□1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		■4□3□2□1				
		18年度に関しては、当初の見込みを上回るペースで施設数、利用者数も増加している。1施設あたりの利用者も17年度に比べ増加している。						
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。		□4■3□2□1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		□4■3□2□1				
		実施施設数、利用者の増によりコスト全体は増加している。18年度に補助金交付要綱を改正し、全体の効率化を図っている。事務の効率化については、園や区の意見も踏まえながら随時検討し改善を図っている。						
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		□4■3□2□1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□4■3□2□1				
		支弁事務については区で行い、決算時に局でも確認できるようにしている。利用者に対しては、ホームページでの案内に加え市・区で独自の案内チラシの作成等を作成し配布するなど必要な情報提供に努めている。						
総合 評価	合計	33	(協働の取組状況)					
	↓	40	施設開所時に一時保育室をあわせて設置する他、施設長会等を通じて実施の働きかけを行っている。					
100点 換算		83	(環境への負荷)					
		100						
ランク (A~E)		B	コストは増加傾向にあるが、これは実施施設、利用者数ともに伸びているのが主な原因。18年度に要綱を改正し、補助体系の見直しをはかったが、一時保育に対する市民ニーズは現在も多く、今後も全体のコストは増えていくと思われる。					

事業名 **民間保育所特別保育事業
(一時保育)**



保育所「一時保育」利用者アンケート(n=412)
問 一時保育を利用している主な理由(複数回答3つまで)(平成18年8月)

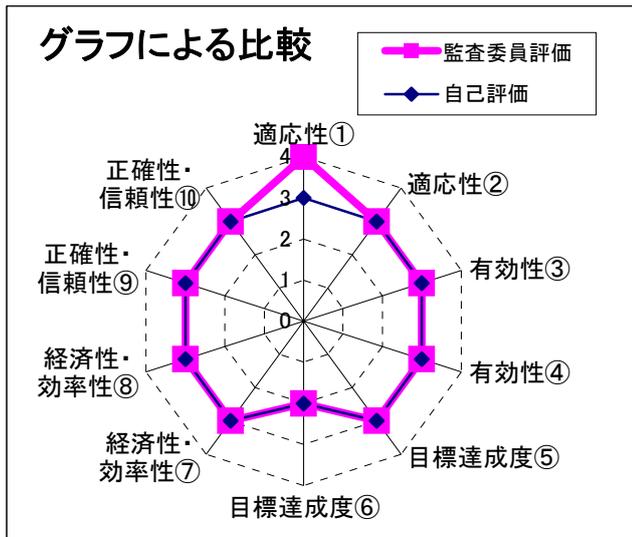


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 保護者の心理的負担等の解消のためのリフレッシュ保育や、就労形態の多様化に対応する非定型的保育などを実施しており、利用者アンケートによると今後の利用ニーズが高く、市が推進していく必要がある事業である。民間保育所の多くの施設が実施しているが、市立保育所では、待機児童の解消を優先して事業展開を行っていたため、利用者の利便性を考慮した上で、体制の整った保育園から実施している。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 従来と同様に民間保育所が主として実施しており、本市はその実施実績に基づき補助している。受益者負担について、国に利用料のガイドラインはないが、市で提示している。ニーズは増加傾向にあり、新規施設では一時保育の実施を確保している。中期計画及び局の運営方針に位置付けられた事業で、その実現を推進している。
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 実施箇所数を目標として設定しているが、箇所数の増加は、利用者の利便性の向上につながることから、適切な指標である。平成19年度の運営方針では、実施箇所数の目標は、163か所であったが、実績は、180か所と目標を大きく上回っている。なお、利用者も、前年度に比べ大幅に増加している。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 運営費補助については補助体系の見直しを行い、利用率の低いところについては補助額を圧縮するなど、より利用状況に応じた補助金支出となるよう改正を行い、利用人数比のコストは逡減している。また、事務作業の効率化のため、申請書の様式を書きやすくする等の見直しを行った。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 各施設で保険に加入し、事故が発生した場合に備えている。事業の広報については、ホームページに掲載するとともに、各区において作成したチラシ等により、利用対象となる保護者等に対し、機会あるごとに情報提供を行っている。
監査の結果	合計 32 / 40 100点換算 80 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし

事業名		民間保育所特別保育事業 (休日・年末年始保育)		担当	区局部課名	こども青少年局子育て支援部保育運営課		
				課長名	片岡 暁	電話	-	
施策名	■中期計画	地域における子育て家庭への支援を推進します					重点事業 番号	2-1-3
	■運営方針	地域における子育て支援の充実「多様な保育ニーズへの対応」						
目的	就業形態の多様化などに伴う多様な保育ニーズへの対応							
内容	日曜・祝日等の保護者の勤務等により、家庭での保育が困難な児童に対して休日・年末年始保育を実施する。休日・年末年始保育を実施している民間保育所(公設民営含む)に対して市から助成を行う。							
根拠法令等	横浜市休日・年末年始保育事業実施要綱							
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)	1,014	2,306	17,847	4,024	15,282	
	うち一般財源等	(千円)	782	1,036	15,307	810	10,536	
	人件費(概算)	(千円)	9,076	9,236	9,000	9,236	9,000	
	総コスト(概算)	(千円)	10,090	11,542	26,847	13,260	24,282	
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	実施施設数		施設	1	3	5	4	7
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(10,090)	(3,847)	(5,369)	(3,315)	(3,469)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		勤務形態の多様化等により、休日においても保育ニーズは存在している。民間の保育所が実施する休日・年末年始保育に対して、事業の実施に必要な補助を行っている。						
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		休日・年末年始における保育ニーズに対応しているが、利用実績は低調となっている。事業の性格として、子育て世帯に対するセーフティーネットという面もある。						
3 目標 達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		<input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		かがやけ横浜子どもプラン、中期計画に基づき、適切に目標水準が設定されている。実施施設数は、計画5か所に対して4か所となっている。18年度に要綱を改正し、より実効的な補助体系の構築に努めている。						
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		利用人数見込みについては、過去の実績を踏まえた現実的な数値を算出し、事業費を抑えた。事務作業の効率化については、随時検討し改善していく。						
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		事業報告を求めるなど、事業の運営実態を把握している。ホームページ等において事業案内をしているが、今後は広報の強化に努め利用促進を図る必要がある。						
総合 評価	合計	29	(協働の取組状況)					
	↓ 100点 換算	73	実施施設の施設長との意見交換を通じて、協働して事業の改善を図っている。					
ランク (A~E)		B	(環境への負荷)					
			通常の保育所で実施していない休日等に保育を実施する意義はある。実施施設が少ないため、地域の偏りもあるが、利用者数は見込みを下回っている状況となっている。潜在的なニーズはあるものと考え、利用実績を踏まえながら事業展開をすべきと考える。					

事業名 **民間保育所特別保育事業
(休日・年末年始保育)**



実施施設	区名	開設時期
上大岡ゆう保育園	港南区	16年10月
とつかルーテル保育園	戸塚区	17年 9月
横浜市かながわ保育園	神奈川区	17年11月
聖保育園	港北区	18年 6月

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
保育ニーズが多様化する中で「今後の重点保育施策(方針)」(平成15年4月)等を踏まえ平成16年度より実施している。利用者アンケートを実施し利用ニーズについて把握に努めている。他都市でも休日保育について、実施している。認可外保育施設でも実施しているが、自園の児童のみ受入れの場合が多い。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
休日の児童の受皿は不足していると考えられている。ニーズの散在が予想されるのでそれにこたえるため、方面別整備の考えによりターミナル駅から至近の保育所を選定整備するようにしている。中期計画及び局の運営方針に位置付けられた事業で、その実現を推進している。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成16年度1か所で事業を開始し、平成17年度には3か所に拡大し、本年は更に2か所へ整備することが目標となっている。北部方面、西部方面の整備を目標としているが、実際の開設数は北部方面1か所にとどまっている。利用者数について、利用予定数は1,800人で実績は1,308人で、こちらも予定を下回った。		
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
本格実施初年度で、補助金額の算定方法について整理を行い、基本額と利用実績に応じた補助金交付形式とすることで、コスト縮減を図っている。また、事務手続の効率化のため、様式等の見直しを実施している。予約申込みは多いものの、直前のキャンセル等への対応を課題としている。		
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
各施設で保険に加入し、事故が発生した場合に備えている。新設か所については、広報よこはまに掲載している。また、ホームページへの掲載、区の窓口でのチラシ配布により、事業周知に努めているが、利用者数が見込みを下回っている。今後、利用者数を増やすため、情報提供方法や利用促進策について、検討する必要がある。		
監査の結果	合計	30 / 40
	100点換算	75 / 100
	ランク (A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし		

事業名	病児保育事業		担当	区局部課名	子ども青少年局保育運営課	電話	671 - 2399
			担当	課長名	片岡 畔		
施策名	■ 中期計画	地域における子育て家庭への支援を推進します				重点事業 番号	2 - 1 - 3
	■ 運営方針	地域における子育て支援の充実「多様な保育ニーズへの対応」					
目的	児童が病気又は病気の回復期にあり、他の児童との集団生活が困難な期間、当該児童を預かることにより、保護者の就労支援及び児童の健全な育成を図る。						
内容	医療機関併設型の病児保育室で実施している。 利用日時:月曜日～金曜日(祝日、年末年始を除く)午前8時30分～午後6時 利用者負担額:1人1日2,000円(所得額による減免措置あり)						
根拠法令等	横浜市病児保育事業実施要綱、横浜市病児保育事業施設・設備整備補助金交付要綱						

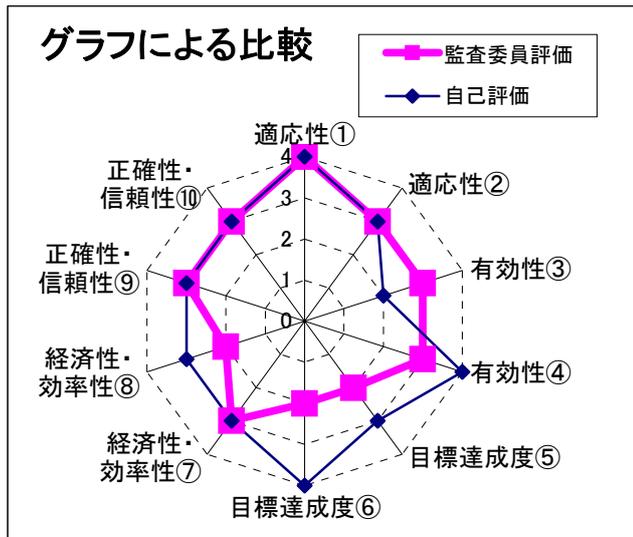
コスト	区 分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)	14,590	27,768	48,000	40,585
うち一般財源等	(千円)		20,242	36,443	29,028	62,944
人件費(概算)	(千円)	4,538	4,618	4,500	4,618	4,500
総コスト(概算)	(千円)	19,128	32,386	52,500	45,203	87,794

活動・成果 指標	名 称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	利用者数		人	140	656	1,800	1,800
成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(137)	(49)	(29)	(25)	(30)
施設数			1	3	4	4	7
成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(19,128)	(10,795)	(13,125)	(11,301)	(12,542)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
多様な保育サービスへの対応の一環として、市民ニーズを踏まえた事業となっている。 市の委託事業として、医療機関から病児保育サービスが提供されている。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
キャンセルが多いことなど、ニーズに比べて実績が伸びていない。 子育て世帯にとって必要不可欠なサービスであり、多様な保育ニーズに対応している。		
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
かがやけ横浜子どもプラン、中期計画に基づき、適切に目標水準が設定されている。 18年度についても、計画的に1か所新規認定済み(18年12月)。		
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
国庫補助事業として実施していることから、多様な財源を確保しながら事業を実施している。 キャンセルが多いことなどから、一部効率性が損なわれている面もあるが、子育て世帯のセーフティーネットという事業の性格もあり、おおむね効率的に実施されているものと考えている。		
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
事業報告を求めるなど、事業の運営実態を把握している。 区の窓口での広報、ホームページを通じた情報提供を行っているが、キャンセル待ちへの対応などさらに改善すべき点もある。		

総合評価	合計	32	特記事項	(協働の取組状況)
	↓	/ 40		市の委託事業として、医療機関から病児保育サービスが提供されている。
	100点換算	80	(環境への負荷)	
ランク(A~E)		B	より効率的な事業となるよう委託内容の見直しや、対象児童などについて引き続き検討する。	

事業名	病児保育事業
-----	--------



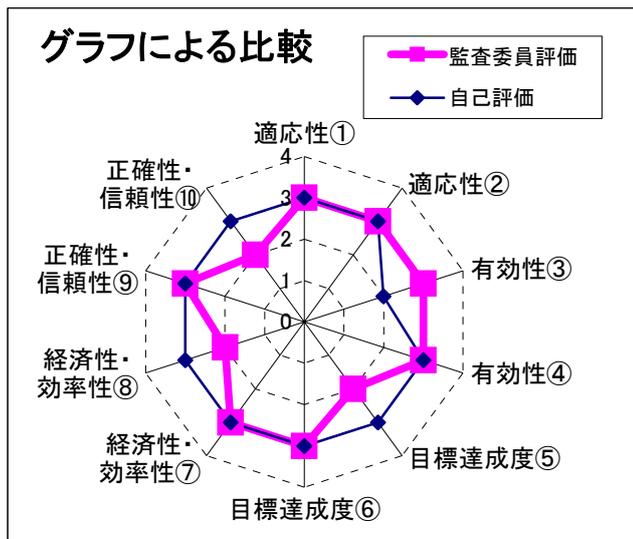
実施施設	区名	開設時期
星川小児クリニック 「病児保育室アニモ」	保土ケ谷区	16年12月
シブヤチャイルドクリニック 「くりっこ病児保育室」	港北区	17年12月
水野クリニック 「おひさま病児保育室」	都筑区	18年 3月
上大岡こどもクリニック 「病児保育室ベアルーム」	港南区	18年12月

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 ■4□3□2□1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 □4■3□2□1
平成15年の病児保育検討会の報告を踏まえ、平成16年より事業を実施している。「子どもの病気」が保育を必要とする母親の負担になっており、アンケート等の結果からもその利用ニーズは大きいと考えられる。一部の民間事業者では、同様のサービスを実施しているが、利用料や施設数などの利用しやすさから、行政が主体となって実施することの要望が高い事業と考えられる。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 □4■3□2□1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 □4■3□2□1
病気回復期にある児童に加え、病期中の児童も保育の対象としている事業で、病後児保育に比べ受入対象者の範囲が広い。地域バランスに配慮し、沿線ルート別に配置を推進し、整備を図っている。他都市では公立の医療機関が実施している都市もあるが、本市では民間医療機関への委託方式で実施している。開設募集を行い、選考委員会により選定している。中期計画及び局の運営方針に位置付けられており、その中で事業を推進している。		
3 目標達成度	4	⑤ 目標の水準は適切か。 □4□3■2□1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 □4□3■2□1
他都市や過去の整備状況との比較の中では、平成18年度の実施施設数は、必ずしも高い目標設定とはいえない状況である。実際の施設の整備数は1か所で、予算等の制約の中での整備数にとどまっている。利用者数の実績については、当初の見込みを約 200人下回ったものとなっている。		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 □4■3□2□1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 □4□3■2□1
利用者数・施設数についてのコストは、過去の推移からみてほぼ維持されている状況である。委託料の算定方法を、定額制から利用実績に応じたものに改正し、コスト縮減をはかっている。病気の回復等による利用予約のキャンセルが多いため、受入れについて弾力的な運用を図り、より効率的な運営が進められるように実施要綱の改正を行っているが、他都市の予約システムを参考にするなどの利用促進策が不足している。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 □4■3□2□1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 □4■3□2□1
事業のよりどころとなる要綱等は整備されている。看護師及び保育士を複数配置し、事故防止、安全管理のための体制をとっている。新設か所の紹介については、広報よこはまに掲載している。利用方法・窓口等について本市のホームページや各区のチラシ、実施施設のホームページ等により、広報が行われている。		
監査の結果	合計	28 / 40
	100点換算	70 / 100
	ランク (A~E)	C
□指摘事項 □改善要望事項 ■評価の理由 □なし 利用ニーズは、施設の利用予約等への状況から見込まれているが、キャンセル等への対応をスムーズに行うことができず、定員枠が有効に活用されていなかった。受入れについて、効率的な運営が進められるように実施要綱の改正を行っているが、他都市の予約システムを参考にするなどの利用促進策が必要である。		

事業名		病後児保育事業		担当	区局部課名	こども青少年局保育運営課			
				担当	課長名	片岡 畔	電話	671 - 2399	
施策名		<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画 地域における子育て家庭への支援を推進します <input type="checkbox"/> 運営方針					重点事業番号	- -	
目的		児童が病気の回復期にあり、他の児童との集団生活が困難な期間、当該児童を預かることにより、児童の健全な育成及び資質の向上を図る。							
内容		保育所併設型の病後児保育室で実施している。 利用日時:月曜日～金曜日 午前7時30分～午後6時30分、土曜日午前7時30分～午後3時30分 利用者負担額:1人1日2,000円(所得額による減免措置あり)							
根拠法令等		横浜市乳幼児健康支援一時預かり事業実施要綱							
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
		事業費 (千円)		45,138	45,024	41,184	37,440	37,440	
		うち一般財源等 (千円)		25,015	26,159	23,584	21,440	21,440	
		人件費(概算) (千円)		2,269	2,309	2,250	2,309	2,250	
		総コスト(概算) (千円)		47,407	47,333	43,434	39,749	39,690	
活動・成果指標		名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		利用者数		人	1,816	1,962	1,900	1,900	1,900
		成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(26)	(24)	(23)	(21)	(21)
		実施施設数			6	6	5	5	5
		成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(7,901)	(7,889)	(8,687)	(7,950)	(7,938)
評価項目		点数	理由・説明等						
1	適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			多様な保育サービスへの対応の一環として、市民ニーズを踏まえた事業となっている。 市の委託事業として、保育所により病後児保育サービスが提供されている。						
2	有効性	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			キャンセルが多いこと、対象児童(病後児)の範囲があいまいであるなど、実績が伸びていないが、子育て世帯にとって必要不可欠なサービスであり、多様な保育ニーズに対応している。						
3	目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			現在5か所での実施となっている。今後は病後児保育事業の拡充に努める。						
4	経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			国庫補助事業として実施していることから、多様な財源を確保しながら事業を実施している。 キャンセルが多く、利用実績も伸びていないことなどから、一部効率性が損なわれている面もあるが、子育て世帯のセーフティネットという事業の性格もあり、おおむね効率的に実施されているものと考えている。						
5	正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			事業報告を求めるなど、事業の運営実態を把握している。 区の窓口での広報、ホームページを通じた情報提供を行っているが、効果的な広報に努め利用促進を図っていく必要もある。						
総合評価	合計	29	(協働の取組状況) 市の委託事業として、民間保育所による病後児保育サービスが提供されている。						
	↓	40							
	100点換算	73	(環境への負荷)						
	ランク(A~E)	B	より効率的な事業となるよう委託内容の見直しや、対象児童などについて引き続き検討する。						

事業名	病後児保育事業
-----	---------



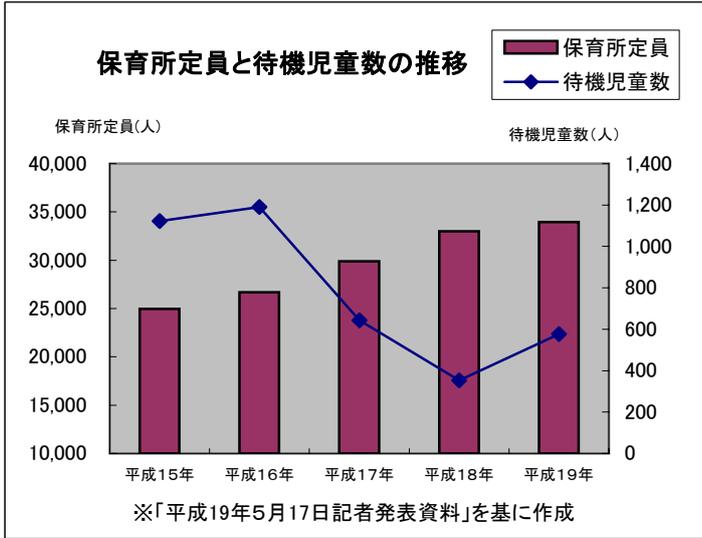
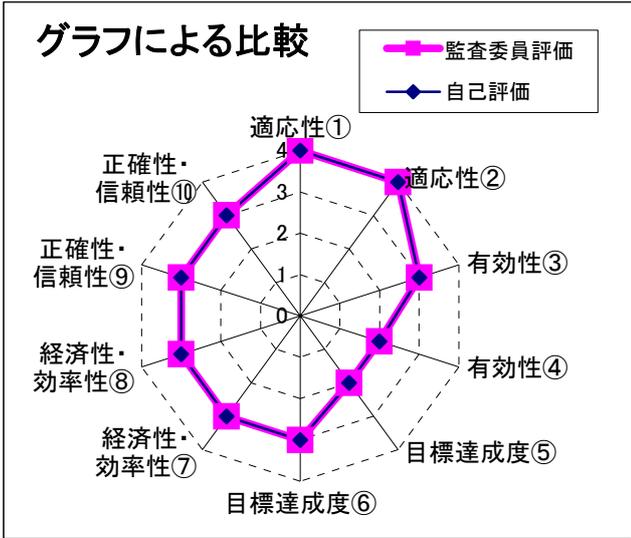
実施施設	区名	開設時期
きらら保育園	金沢区	12年10月
あおぞら第2保育園	神奈川区	12年12月
睦町保育園	南区	13年 4月
緑園なえば保育園	泉区	15年 4月
洋光台中央福澤保育センター	磯子区	16年 4月

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 「子どもの病気」が保育を必要とする母親の負担になっており、アンケート等の結果からもその利用ニーズは大きいと考えられる。病気回復期にあり、集団保育が困難な時期にある子どもを対象とした事業で、一部の民間事業者では、同様のサービスを実施しているが、利用料や施設数などの利用しやすさから、行政が主体となって実施することの要望が高い事業と考えられる。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 子どもに身近な施設である保育所で実施している事業で、地域的には、病児保育を実施していない区で実施している。また、利用者の半数が、実施保育所以外の児童であることから、他の保育所の児童も利用しやすくなっている。 なお、対象者が、病気回復期にある児童に限られており、病児保育に比べ受入れ対象に制限がある。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 利用者数、実施箇所数ともに、目標値を上回っている。しかし、目標値である利用者数の施設ごとの1日当たりの平均が、定員4人に対し、約1.30人と低い状況である。
	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 委託料の算定方法を、定額制から利用実績に応じたものに改正し、コスト縮減を図っている。利用者負担については国の補助基準によって実施しており他都市もほぼ同様な水準である。病気の回復等による利用予約のキャンセルが多いため、受入れについて弾力的な運用を図り、より効率的な運営が進められるように実施要綱の改正を行っているが、今のところ利用促進につながっていない。
5 正確性信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 看護師及び保育士を複数配置し、事故防止、安全管理のための体制を確保している。 市のホームページ、区役所窓口での広報を行っているが、利用実績が少ないことから、より効果的な利用促進のための方策を検討する必要がある。
	合計	27 / 40
監査の結果	100点換算	68 / 100
	ランク (A~E)	C
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input checked="" type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 病気の子どもの預かってほしいというニーズは大きいですが、この事業における1日当たりの施設ごとの平均利用者数が、定員4人に対し、1.41人と少ない人数になっている。実施要綱を改正し、利用予約方法の弾力化や、委託料算定方法の変更を行っているが、今のところ利用促進につながっていない。今後、利用者数を増加させるためには、事業内容のより一層の周知が不可欠と考えられるので、従来の広報手段に加えて、関係機関を通じての広報を充実するなど、より効果的な利用促進策を推進する必要がある。		

事業名		保育所整備事業等		担当	区局部課名	こども青少年局子育て支援部保育計画課		
				担当	課長名	花田 清廣	電話	671 - 2376
施策名	■ 中期計画	地域における子育て家庭への支援を推進します					重点事業 番号	2 - 1 - 4
	■ 運営方針	地域における子育て支援の充実						
目的	様々な整備手法を用いて保育所の整備を推進し、保育ニーズの増加に対応します。							
内容	①駅周辺等の民間ビル等を活用することなどによって新設保育所整備を進める。 ②新たに民間保育所の老朽改築に取り組む。 ③多様な保育ニーズに対応するため、幼稚園を活用して、新たに認定こども園の整備を進める。							
根拠法令等	児童福祉法・社会福祉法・児童福祉施設最低基準・社会福祉法人の助成に関する条例・横浜市民間保育所建設費等補助金交付要綱他							
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)		5,946,733	7,005,503	4,158,099	3,954,188	2,874,828
	うち一般財源等	(千円)		2,270,046	2,332,452	3,943,970	3,620,694	2,470,354
	人件費(概算)	(千円)		117,988	129,304	99,000	101,596	99,000
	総コスト(概算)	(千円)		6,064,721	7,134,807	4,257,099	4,055,784	2,973,828
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	整備による定員増		人	1,706	3,199	870	950	1,394
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(3,555)	(2,230)	(4,893)	(4,269)	(2,133)
	老朽改築		園			2	3	6
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)			(2,128,550)	(1,351,928)	(495,638)
	認定こども園の整備による定員増(再掲)		人			270	110	
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)			(15,767)	(36,871)	
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
待機児童の分布状況のマップ化や、就学前児童数の推移を町丁目別に把握することなどにより、保育ニーズに即した整備を進めている。また、区役所と連携を取りながら地域ニーズに即した整備を行っている。新たに老朽化した民間保育所の改築に着手し、また認定こども園(総合施設)制度のスタートに対応した整備を進めている。増加する保育ニーズに対応するためには、市が主導して計画的に保育所整備を進める必要がある。								
2 有効性	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
「民の力」を活用した多様な整備手法を用いることにより、事業の成果を高めている。待機児童解消という事業目的を実現するためには、さらなる定員増が必要である。								
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
目標整備量は、平成18年4月の待機児童解消を前提としている。870人の定員増を上回る整備量を実現できたが、認定こども園については、法例等の制度が遅れたことや、運営主体が今後の動向をみていること等から、目標整備量には満たなかったものの、2園整備した。								
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
従来の新築ではなく、既存建物や空きテナント等の内部改修による保育所整備を進めることによって、低額の事業費で最大限の経済効果が得られるように工夫している。また、新たに配属された係長、職員が多い状況を踏まえ、課の事業執行体制は、業務の難易度や複雑性などに配慮し、担当区、整備か所、担当業務など複数軸で担当を決めるマトリックス組織とし、しかも業務への習熟度に伴い柔軟に変更するなど課の執行体制を恒常的に改善している。また、事業者に対しては、電子メールを活用している。								
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
要綱、要領等業務の運用の基準を明瞭に定め、解釈等に疑義がある場合には、定例会議等で統一したものとしている。償還金等法人への通知については、ダブルチェックを励行し事故防止に努めている。待機児童マップの閲覧を認め、また説明会、本市ホームページや広報よこはまによる情報提供を積極的に行っている。								
総合 評価	合計	30	(協働の取組状況)					
	↓ 100点 換算	75	企業NPOなどを広く整備事業主体とすることで「民の力」を十分活用して事業を実施している。					
	ランク (A~E)	B	(環境への負荷) 周辺環境への影響を考慮した設計をするよう事業者に求めており、環境負荷の低減を考慮した施設設計となっている。 保育所整備事業は本市重要施策の1つであり、市民のニーズも非常に高い。それ故、事業実施にあたっての的確な情報提供と、公平公正な事業実施、効率的・経済的な整備手法の採用等絶えず事業を見直ししながら、目標数値達成を実現している。					

事業名	保育所整備事業等
-----	----------



4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適切であるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>本市では、平成18年4月に待機児童を解消し、その後も待機児童を出さないことを目標として保育所整備を推進してきた。しかし、待機児童数は353人まで減少したものの解消せず、平成19年4月には、再び576人まで増加に転じた状況となっている。中期計画では、各種調査をもとに整備計画を策定し、保育所整備を推進している。保育所については民間事業者も参入し運営しているが、行政が主体となって整備推進を実施していく事業である。</p>		
2 有効性	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>民間事業者の力を活用した整備手法をとっており、待機児童マップや区の要望などにより、整備が望ましい地域一覧を作成し、必要な地域の整備を促進している。整備促進のために、賃料補助、設置要件の見直し、定員外入所制度の活用、入所情報等空き情報の公開による対応も図っている。中期計画や局の運営方針に位置付けられ事業を推進しているが、待機児童の解消には至っていない。</p>		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>次世代育成計画作成時は、平成18年4月の待機児童解消を見込んでの定員増の計画となっていた。平成18年度の定員増は870人の計画であったが、年度当初に待機児童の解消ができなかったため、計画数を上回る950人の定員増を行っている。しかし、平成19年4月の待機児童数は、入所申込率の上昇等により、再び増加に転じており、中期計画で定められた平成22年度当初に待機児童を解消する目標達成のためには、担い手の確保を含め、着実な整備促進が必要である。</p>		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>民間事業者によって、既存建物を改修して整備を進める手法を利用しており、コストを縮減している。「保育所整備の手引き」を作成し、事務マニュアルとして活用するとともに、事業者との調整に使用している。また、手引や基準を、ホームページに掲載し、問い合わせに対する業務の効率化を図っている。</p>		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>整備に当たっては、法令や、横浜市福祉のまちづくり条例、横浜市建築物バリアフリー条例によるとともに、児童の健康及び安全面からシックハウス対策を行っている。整備計画や保育所入所状況をホームページに掲載するとともに、広報よこはま、待機児童マップの閲覧により情報提供を行っている。なお、ホームページについては、申込状況を掲載し、積極的に情報提供を行っている区もあった。</p>		
監査の結果	合計	30 / 40
	100点換算	75 / 100
	ランク (A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし		

事業名	小児医療費助成事業		担当	区局部課名	健康福祉局生活福祉部医療援助課	電話	671 - 3694
				課長名	竹内 敏		
施策名	■ 中期計画	地域における子育て家庭への支援を推進します				重点事業 番号	2 - 1 - 5
	■ 運営方針	小児医療費助成制度の所得制限緩和					
目的	安心して子どもを育てる環境づくりのひとつとして、小児の医療費を助成することにより、子どもをもつ世帯の経済的負担の軽減を図り、小児の福祉の向上に寄与する。						
内容	安心して子どもを育てる環境づくりのひとつとして、0歳児から中学卒業までの小児が医療機関で受診した場合、保険診療の自己負担額を助成する。						
根拠法令等	横浜市小児の医療費助成に関する条例、横浜市小児の医療費助成に関する条例施行規則						

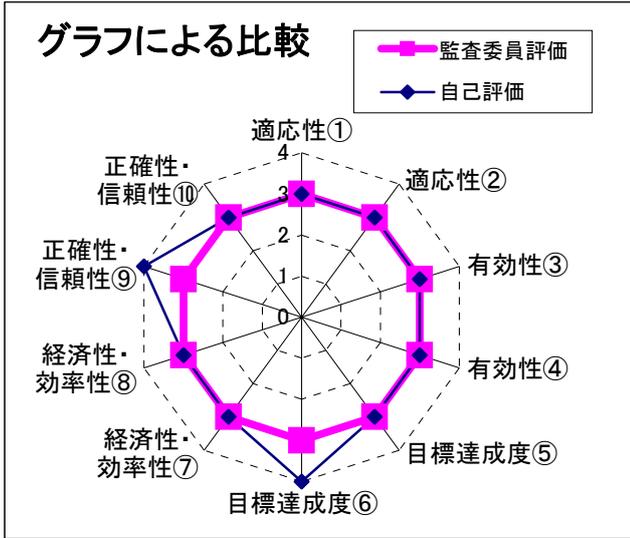
コスト	区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)	6,542,015	6,528,720	6,993,662	6,993,662
うち一般財源等	(千円)	5,670,822	5,790,466	5,944,131	5,944,131	6,302,307
人件費(概算)	(千円)	18,152	18,472	18,000	18,000	18,000
総コスト(概算)	(千円)	6,560,167	6,547,192	7,011,662	7,011,662	7,287,195

活動・成果 指標	名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	扶助件数		回	2,941,785	3,035,605	3,187,635	3,187,635
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					

評価項目	点数	理由・説明等	
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
① 医療費助成を必要とする市民のニーズに適切して、事業が運用されている。子育て支援策の一環として、制度拡大に関する市民ニーズも高く、今後も制度のあり方を検討していく必要がある。 ② 市町村が独自事業として実施するより、国の責任で実施することが望ましい。今後も、国へ財政支援などを要望していく必要がある。			
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
医療機関の協力のもと、医療証の交付により、県内統一した制度として実施しており、窓口負担なしで、安心して医療が受けられることから、子育て世帯における福祉の増進が図られている。			
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。	<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
目標を定めるのが難しい事業であるが、子育て世帯への経済的負担の軽減と安心して子育てする環境の整備に役立っている。			
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成18年7月からは所得制限を緩和したが、円滑に事務を執行することができた。			
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
条例及び条例施行規則に基づき適正に事業を行っている。 また、ホームページに掲載するとともにリーフレットなども区役所窓口を設置している。			

総合評価	合計	32	特記事項	(協働の取組状況) 医療費助成事業は、医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会などの医療機関の理解を得て実施できている。
	100点換算	80		(環境への負荷) レセプトの電子化を県下統一して検討する必要がある。
ランク(A~E)		B	事業はおおむね順調に進捗しており、医療費助成を必要とする市民に医療費助成を実施している。今後も子育て支援の一環として、市民からの制度拡大に向けた要望は高くなるが見込まれ、今後も制度のあり方を検討していく必要があるが、県は補助率の引き下げや補助率格差を行っており、将来にわたり継続かつ安定的に制度が運用できるようにするためには制度見直しなどの検討も必要となっている。	

事業名	小児医療費助成事業
-----	-----------



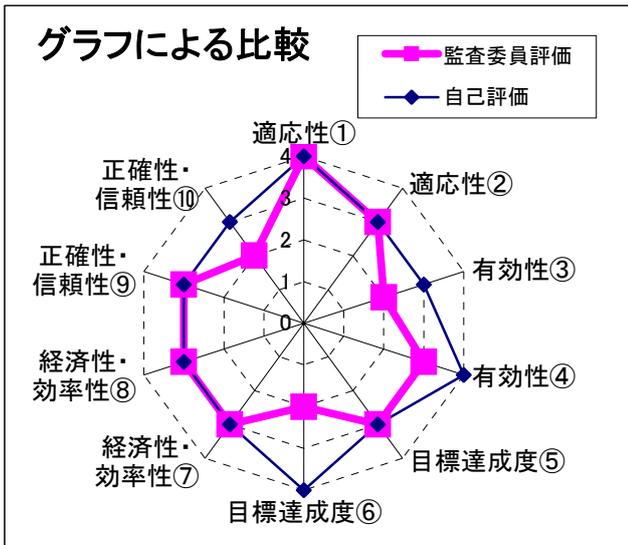
小児医療費助成制度の対象年齢と助成範囲		
対象年齢	助成対象	所得制限
0歳児	通院・入院の保険診療の一部負担金	なし
1歳～小学校就学前	通院・入院の保険診療の一部負担金	あり
小学校入学～中学校卒業	入院の保険診療の一部負担金	あり

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 通院費の助成については、他政令市の多くが対象を就学前児童とし、また所得制限がない市がいくつかある中で、市民ニーズや他都市の状況を踏まえ、他都市並みに緩和を行い対象者の拡大を図っている。平成18年度から所得制限について緩和を行い、平成19年4月からは対象年齢を就学前児童に引き上げた。国には医療費助成の考えはなく、神奈川県は通院費助成は、2歳までが対象で、市では、対象年齢の引上げ等の部分の助成を行っている。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 通院については現物給付、入院については償還払いという手法により助成を実施している。従来と同様の手法であり、他都市もおおむね同様の手法を採用している。一部自己負担金の徴収を行っている都市もいくつか見受けられるが、対象範囲やサービスの水準についておおむね他都市と遜色のない水準と考えられる。中期計画の重点事業であり、局の運営方針でも重点推進課題とされている。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 政令市等の他都市の動向を注視し、事業を推進している。平成18年度は、所得制限の緩和及び平成19年度の制度改正の準備が目標となっている。事業は予定どおり円滑に進められ、所得制限の緩和は7月に、年齢の引上げは平成19年4月に実施された。なお、平成18年度は、所得制限の緩和に伴い、新たに約8,000人に医療証を交付した。
	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 国に対する財政支援の実施要望や、県に対する補助格差の撤廃要望活動を行うことで市に負担軽減を図ろうとしている。また、対象児童一人当たりの補助額についてはほぼ横ばいで、コスト面からは大きく変わっていない。事務の効率化については、事務マニュアルを給付担当窓口マニュアルとして整備している。支払い処理事務については国保連合会に委託されている。勸奨手続についても電算システムを利用することで、各区同様に行われている。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 医療証は事務の手続で誤送付が起こらないよう、証の住所・氏名の見える窓明き封筒を用いて送付している。新たに資格を得る方々への勸奨は、医療証未交付者全員に案内を送付することで漏れのないようにしている。その他に広報の掲載、リーフレット等を作成し、制度の周知に努めている。
	合計	30 / 40 100点換算 75 / 100 ランク (A~E) B

事業名		鶴見・あいねっといきいきつるみっこ 育成事業		担 区	鶴見区サービス課	電話	510 - 1764	
担当		課長名		後藤 治				
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画 <input checked="" type="checkbox"/> 運営方針 鶴見の未来を育てる		重点事業		番号 - -		
目的		一貫したこども・青少年施策が「鶴見区こども・青少年プラン」としてまとめ、居場所づくりや利用しやすい子育て情報の集積・利用が進むとともに、「鶴見・あいねっ」とに基づき、地域育児力が向上し、子育てに理解を示しみんなで子育てのことを考えられる地域づくりが進んでいます。						
内容		(1)生まれる前から青少年期まで、一貫した施策を展開するため、現状を把握し、課題解決の方向を探り、施策を推進するための検討を行います(3月まで)。 (2)地域子育て支援会議を開催し、各地域の課題について話し合い、解決に向けてその地域に応じた活動を検討します(随時)。 (3)地域子育て支援会議のメンバーが集まり、各地区での活動の情報交換等を行う全体会議を開催し、地域子育て支援会議の充実、活性化を図ります(2月)。 (4)就労妊婦と父親のための両親教室を、土曜日に開催します(通年)。 (5)育児教室のプログラムを充実します(通年)。 (6)育児講座を開催します。(11月)						
根拠法令等								
コスト		区 分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
		事業費 (千円)	2,341	2,518	2,439	2,439	3,436	
		うち一般財源等 (千円)	2,341	2,518	2,439	2,439	3,436	
		人件費(概算) (千円)	10,619	10,806	10,530	10,806	10,530	
		総コスト(概算) (千円)	12,960	13,324	12,969	13,245	13,966	
活動・成果指標		名 称	単 位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		親子の居場所数	か所	-	34	44	44	55
		成果 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	-	(392)	(295)	(301)	(254)
		地域子育て支援会議	地区	6	6	7	6	7
		活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(2,160)	(2,221)	(1,853)	(2,208)	(1,995)
		両親教室の参加者数		-	173	1,000	1,008	1,000
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	-	(77)	(13)	(13)	(14)
評価項目		点数	理由・説明等					
1	適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
平成16年の2歳児全数調査などにより、子育て中のニーズや課題を整理しており、これを基に、必要な事業を推進しています。区民、地域団体、事業者、行政が協働で行うことが必要であり、協働の取組を展開しています。								
2	有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
事業の大きな目的は、子育て支援及び青少年育成であり、情報や場のニーズに直接対応しています。また、地域で子育て支援について考える地域子育て支援会議は、まさに運営方針の目的の実現と合致しています。								
3	目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
平成18年4月にこども青少年局が設置されたばかりであり、「鶴見区こども青少年プラン」は、乳幼児から青少年までの行動計画として他区に先駆け、策定しました。								
4	経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
こども青少年プランの印刷物作成に当たり、市庁舎コピー室の利用や必要最低部数の発行としました。課を越えて事業検討するため、会議の開催回数が多くなりましたが、Eメール等での情報交換にも努めました。また、予算編成に当たり、乳幼児・青少年の事業を一覧表にし、新規、統合、廃止等が一目でわかるよう工夫しました。								
5	正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
こども青少年施策推進事業部の検討内容は、鶴見区こども青少年プランに反映し、印刷物として作成し、ホームページに掲載し、区民へ広報しました。								
総合評価	合計	33	(協働の取組状況)					
	↓	40	この事業は、区民、地域団体、事業者、行政の協働による事業となっています。すべてを民に任せるのではなく、事業・状況に応じた役割分担を検討していくこともこの事業の課題となっています。					
	100点換算	83	(環境への負荷)					
		100	鶴見区こども青少年プランの印刷について、再生紙を活用しました。ただ、課を越えた横断的組織であったため、会議資料の増刷などがあり、工夫の余地は残されていたと考えます。					
ランク (A~E)		B	子育て・青少年育成に関わる事業の課を超えた職員同士のコミュニケーションが進み、課題の共有、事業の整理統合、改善・改革につながりました。また、鶴見・あいねっとの地区フォーラムなどの地域ごとの会議を通じて、子育て支援の必要性がより認識され、親子の居場所づくり等、各地域において事業化されています。					

事業名 **鶴見・あいねっといきいきつるみっこ
育成事業**



4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成16年2月から3月にかけて、区内に在住する2歳児の親子全員を対象とした「2歳児子育て全数調査」を行い、区民ニーズを把握した上で、地区別に地域子育て支援会議を立ち上げた。区では、各地域の子育て支援団体をサポートするとともに、それぞれの地域で子育て支援の輪を広げるために、団体同士を仲介して連携を促進したり、区内の子育て支援団体のネットワーク化に取り組むなどしている。		
2 有効性	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
「鶴見区子ども青少年プラン」を策定したが、今後の具体的な数値目標や年次計画は盛り込まれておらず、行動計画としては効果が不明である。ただし、地域ケアプラザ6か所が中心になって地域子育て支援会議を設置し、子育て支援に取り組んでおり、運営方針で掲げている目的の実現に一定の寄与をしていると認められる。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
全地域ケアプラザでの地域子育て支援会議の設置を目指し、対象を1か所増やすことを目標としたものの、達成できなかった。区民活動センター内への子ども情報コーナーの設置も予定より遅れた。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
前年度と比べて講師謝金の単価を下げるなどコスト削減に努めた。 事業の流れを記した手順書を作成している。		
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域子育て支援会議事業補助金交付要綱を整備している。ただし、保険に加入しているほかは、特段事故防止のための取組を行っていない。 「鶴見区子ども青少年プラン」の策定に当たって、議事録の作成や情報提供はしなかった。		
監査の結果	合計	28 / 40
	100点換算	70 / 100
	ランク (A~E)	C
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 地域ケアプラザ6か所が中心となって地域子育て支援会議を設置し、各地域での子育て支援に取り組んでいるが、区民活動センターへの子育て情報コーナーの設置が年度末になるなど、他区に比べて常設の子育て支援施設整備への取組が遅れている。		

事業名	すくすくかめっ子事業	担当	区局部課名	神奈川区福祉保健センターサービス課
			課長名	内藤 博昭
			電話	411 - 7102
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画	重点事業番号 - -		
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針			
目的	区民と行政が協働して、地域の中で子育てを見守り育む風土作りをすることを目的に、区内全域で親子のたまり場が開催され、その活動を支援する体制作りをめざします。			
内容	民生児童委員など地域住民主体のすくすく子がめ隊が、身近な会場で定期的に親子のたまり場を開催する。民生児童委員連絡協議会など子育て支援関連団体などの代表等で組織された「親がめ会議」が、子がめ隊向け研修会の開催などで、この活動を支援する。この活動の蓄積を活かして、18年9月から地域子育て支援拠点モデル事業に取組んだ。			
根拠法令等	神奈川県すくすくかめっ子事業補助金交付要綱			

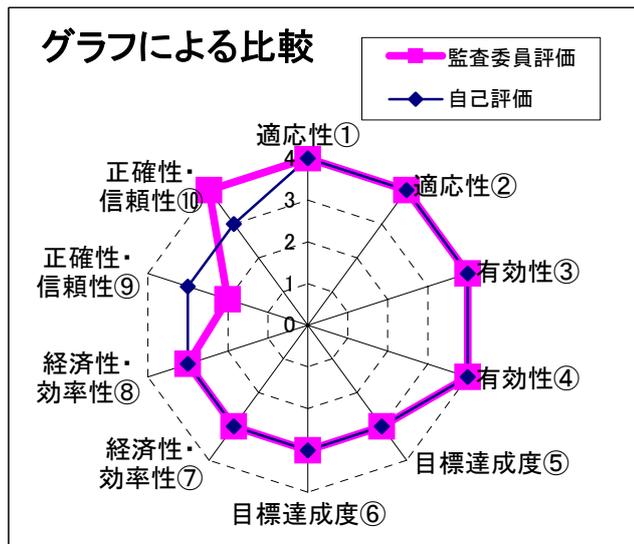
区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)	1,700	1,187	1,209	3,040
うち一般財源等 (千円)	1,700	1,187	1,209	3,040	2,135
人件費(概算) (千円)	634	636	620	954	620
総コスト(概算) (千円)	2,334	1,823	1,829	3,994	2,755

活動・成果指標	名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	活動	すくすく子がめ隊延利用者数	人	13,120	13,580	14,000	14,000
すくすく子がめ隊延担い手数			2,980	3,054	3,104	3,100	3,150
開催会場数			33	34	35	34	35
成果		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(71)	(54)	(52)	(117)

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1

総合評価	合計	34	特記事項	(協働の取組状況) 親子の居場所の提供や子育て相談の実施等、事業実施は地域住民主体で行っている。行政は、区民が地域において活動がしやすいよう、調整活動を中心に担っている。
	100点換算	85		(環境への負荷) 親子のたまり場として、町内会館等の既存の施設を利用しており、環境への負荷を抑えている。
	ランク (A~E)	B		横浜市中期計画の重点事業である「地域子育て支援拠点の設置」に向け、神奈川県独自の子育て支援事業である「すくすくかめっ子事業」との機能の一体化をめざし、準備を進めている。区内34か所という親子の居場所の存在等、既存の活動と連携することにより、効果的に事業が推進されている。拠点のモデル事業に取組むことにより、親子の居場所の開催数、利用者数ともに増えているが、子がめ隊の担い手数の増加、充実に課題となっている。

事業名	すくすくかめっ子事業
-----	------------

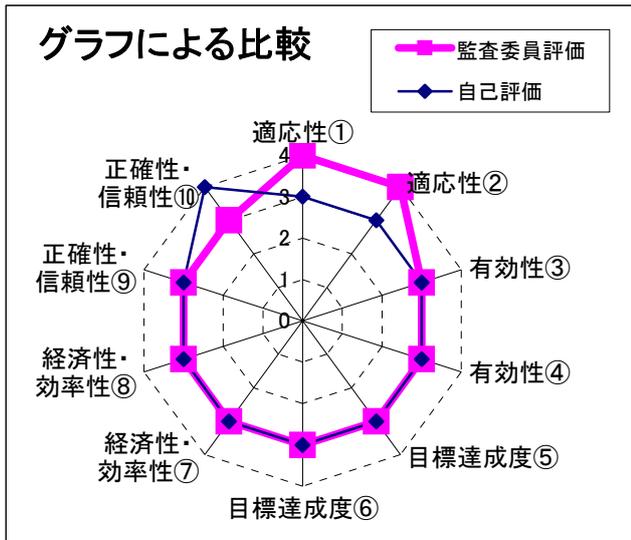


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成18年度区民意識調査によれば、親子のたまり場づくりなど地域ぐるみで子育てを支えることについて、約8割が「必要だと思う」と回答しており、区民ニーズは高いと考えられる。適切な役割分担のもとで、地域住民主体により運営されており、区は活動助成や広報などを通して事業をバックアップしている。		
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
親子のたまり場については、民生委員児童委員協議会の地区ごとに整備されており、身近な会場で定期的に開催されている。また、平成19年度からの地域子育て支援拠点開設を控え、モデル事業により拠点の仕組みづくり等に関する検討を進めることができた。この事業は、運営方針の重点推進施策「子育てが楽しくなるよう子育てネットワーク機能を強化します」の主要事業に位置付けられており、目的の実現に十分貢献している。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
すくすく子がめ隊の延利用者数と延担い手数については、過去の実績から考えて妥当な目標水準であり、計画どおり達成することができた。ただし、新規子がめ隊の立ち上げがなかったため、目標としていた開催会場数を下回った。開催会場は既に小学校区に1か所以上整備されており、今後は他の成果指標の設定について検討する必要がある。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域子育て支援拠点モデル事業実施に当たっては、予算外で取り組んだため決算額が予算額を大幅に超えているものの、区民活動支援センター跡地に整備することにより、施設借上料の縮減につながった。行政と地域の連携は図られており、事務分担についても地域でできることは地域に任せている。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
子がめ隊に対し研修会、交流会を通して事故防止に関する指導を行っているものの、事故防止・事故発生時の対応マニュアルは整備されておらず、保険加入についても各会場任せになっていることから、今後更なる安全の確保に努める必要がある。事業内容については、ホームページやパンフレットを通して乳幼児健診や両親教室等において周知するとともに、子がめ隊立ち上げのための個別説明会も実施している。		
監査の結果	合計	34 / 40
	100点換算	85 / 100
	ランク (A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし		

事業名		次世代育成支援～市立保育所体験 保育事業～		担当	区局部課名	西区福祉保健センターサービス課			
				担当	課長名	斉藤 貴子	電話	320 - 8404	
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画							重点事業 番号	- -
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	重点推進課題2 元気でいきいきとしたまちづくりの推進							
目的	保育所の給食事業を充実し、併せて地域子育てで家庭の食に関する不安と負担を軽減します。また、保育所が食を通じて子育て全般への相談助言を行い、子育て支援の施設として、地域での存在感を高めます。								
内容	①地域の親子が給食時間を含めた保育所体験をします。なお、子どもに対しては、有料で給食を提供します。【ランチ交流】 ②市立保育所に在園する3歳以上児に対して、有料で主食(ご飯・パン)を提供します。【主食提供】								
根拠法令等									
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費 (千円)					1,120	1,070	2,500	
	うち一般財源等 (千円)					146	146	1,526	
	人件費(概算) (千円)					4,667	4,667	4,667	
	総コスト(概算) (千円)					5,787	5,737	7,167	
活動・成果 指標	名 称		単 位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	ランチ交流実施回数		回			24	24	24	
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【コスト/指標】 (千円)				(19)	(19)	(20)	
	ランチ交流参加児童数		人			72	69	72	
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果	単位当たりコスト【コスト/指標】 (千円)				(6)	(7)	(7)	
	主食提供利用児童数		人			66	67	66	
<input checked="" type="checkbox"/> 成果	単位当たりコスト【コスト/指標】 (千円)				(81)	(79)	(79)		
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適切しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
保育所には、子育てをしている親の孤立感や育児不安を解消し、子育て支援を推進するため、様々な取組を提供することが求められています。また、食育基本法により、食に関する体験活動や食育推進活動を行う必要が保育所(市立保育所を含む)にはあります。									
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
子育ての中でも関心の高い事業内容であり、参加利用しやすい方法で可能な限りの受け入れができています。育児支援のメニューとして大きな成果をあげるなど効果的な手法となっています。また、保護者の相談等にきめ細かな対応ができるなど区民の生活を支える事業として、運営方針等に対して一定の寄与が見られます。									
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
設備面(施設面積)や在園児童数を考慮すると、最大の受入、または対応が行われています。また、実施回数、提供児童数についても、目標どおりの達成ができています。									
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
受益者負担で、利用料(実費相当額:各区同額)の徴収を行っており、事業費は歳入とほぼ同額となっています。なお、事務作業については、関係職員間での情報の共有化、及び役割分担を明確にするなど効率化を図っています。									
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
要綱を整備し、利用者にわかりやすく説明し、理解を得てから実施しています。また、事業実施の周知については、保育所からの文書等の配布、又は広報よこはま、ホームページ、チラシ等への掲載、作成により広く情報提供を行っています。									
総合評価	合計	31	(協働の取組状況)						
	↓ 100点 換算	78	特記 事項	(環境への負荷)					
	ランク (A～E)	B	子育て家庭への支援を推進するため、食に関する事業を実施し成果があがっています。今後は、子育て支援施設としての周知を一段と図るために、広報の充実及び当該事業を発展させた事業や他の子育て支援事業の実施の必要性があります。						

事業名 **次世代育成支援～市立保育所体験
保育事業～**

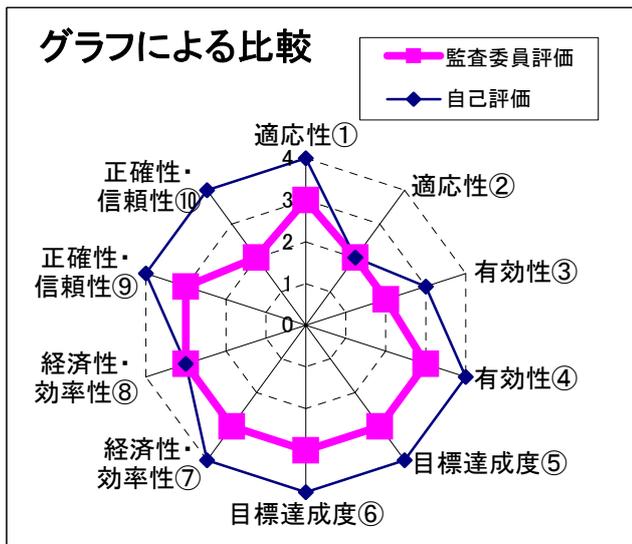


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 区内の保育園の園庭開放に参加している保護者から、子どもの食やしつけなどに関する相談・要望が寄せられていたことがこの事業の発端であり、保護者の育児不安解消を目的としてランチ交流を実施している。3歳以上児への主食提供は、民間園や先行する他区の取組もあり、職員の提案により事業化し、実施した。対象児童の全保護者から申込みがあったことから、保護者のニーズも認められる。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ランチ交流という形にしたので、参加した保護者たちに育児について気軽に相談できる機会が提供できていた。利用実績をみても定員以上の申込みがあり、リピーターも多く好評である。主食の提供は、民間保育園や他区の市立保育園でも実績があり、安全でおいしい食事の提供は、子どもたちにはもちろんのこと、保護者全員から申込みがあったという実績からしても、保護者から歓迎されているサービスである。
2 有効性	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ランチ交流では、施設の広さや相談のしやすさを考慮して月2回、1回3組を目標とした。子どもの体調による急なキャンセルがあったものの、その当日園庭開放に参加していた親子に声をかけるなどの臨機応変な対応により、おおむね目標を達成している。主食の提供は、在園児童全員分の申込みを目標とし、申込率100%を達成している。
	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ランチ交流及び主食の提供ともに各区同額の受益者負担相当分を徴収しており、新たな区の負担を伴うことなく、既存の予算の範囲内で実施することができている。ランチ交流では、支援センター保育士の協力で相談事業を行っている。主食の提供では、本格実施する前に試行期間を設け、調理員・保育士とともにそれぞれの役割を確認するなど効率的に行うために課題を整理し、改善に努めた。
3 目標達成度	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ランチ交流においては、参加に際し保護者には子どもへの安全対策を促しており、職員には事故防止とともに事故発生時に備えた対応を周知している。ランチ交流の広報は、園庭開放に参加した親子への声かけ、乳幼児健診時の保健師による紹介などの口コミをはじめ、育児講座やホームページなどで行っており、これによる参加もあるので、現状の手段で成果を上げている。
	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ランチ交流及び主食の提供ともに各区同額の受益者負担相当分を徴収しており、新たな区の負担を伴うことなく、既存の予算の範囲内で実施することができている。ランチ交流では、支援センター保育士の協力で相談事業を行っている。主食の提供では、本格実施する前に試行期間を設け、調理員・保育士とともにそれぞれの役割を確認するなど効率的に行うために課題を整理し、改善に努めた。
4 経済性・効率性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ランチ交流においては、参加に際し保護者には子どもへの安全対策を促しており、職員には事故防止とともに事故発生時に備えた対応を周知している。ランチ交流の広報は、園庭開放に参加した親子への声かけ、乳幼児健診時の保健師による紹介などの口コミをはじめ、育児講座やホームページなどで行っており、これによる参加もあるので、現状の手段で成果を上げている。
	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ランチ交流においては、参加に際し保護者には子どもへの安全対策を促しており、職員には事故防止とともに事故発生時に備えた対応を周知している。ランチ交流の広報は、園庭開放に参加した親子への声かけ、乳幼児健診時の保健師による紹介などの口コミをはじめ、育児講座やホームページなどで行っており、これによる参加もあるので、現状の手段で成果を上げている。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ランチ交流においては、参加に際し保護者には子どもへの安全対策を促しており、職員には事故防止とともに事故発生時に備えた対応を周知している。ランチ交流の広報は、園庭開放に参加した親子への声かけ、乳幼児健診時の保健師による紹介などの口コミをはじめ、育児講座やホームページなどで行っており、これによる参加もあるので、現状の手段で成果を上げている。
	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ランチ交流においては、参加に際し保護者には子どもへの安全対策を促しており、職員には事故防止とともに事故発生時に備えた対応を周知している。ランチ交流の広報は、園庭開放に参加した親子への声かけ、乳幼児健診時の保健師による紹介などの口コミをはじめ、育児講座やホームページなどで行っており、これによる参加もあるので、現状の手段で成果を上げている。
監査の結果	合計 32 / 40 100点換算 80 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 ■なし

事業名		子育て広場「のんびりんこ」 運営支援事業		担当	区局部課名	中区サービス課		電話	224 - 8170		
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画 <input checked="" type="checkbox"/> 運営方針 誰もが暮らしやすいまちづくり		重点事業番号		-					
目的		子育て中の母親が集える場所を作り、そこで育児情報交換が活発にできるようなコミュニティの場所とします。また、母親の育児不安の解消を図り、地域で助け合いながら子育てが行えるような拠点として位置づけていきます。									
内容		就学前の子どもと母親が自由に集い育児の情報が入手できる場「のんびりんこ」を運営します。18年度は横浜市次世代育成支援行動計画に基づいて地域子育て支援拠点に移行しました。									
根拠法令等											
コスト		区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算				
		事業費 (千円)	6,489	6,244	4,658	3,424	0				
		うち一般財源等 (千円)	6,489	6,244	4,658	3,424	0				
		人件費(概算) (千円)	4,500	4,600	4,500	4,600	0				
		総コスト(概算) (千円)	10,989	10,844	9,158	8,024	0				
活動・成果指標		名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定			
		年間来場者数	人	11,898	12,693	4,584	4,584				
		<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(1)	(1)	(2)	(2)				
		1日平均来場者数		48	52	56	56				
		<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(229)	(209)	(164)	(143)				
		<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)								
評価項目		点数	理由・説明等								
1	適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
			② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
		子育てに不安を感じる親が増えているとともに、都心部居住志向の高まりにより、中区への転入者が増えている。その中で利用者アンケートでは9割の方が満足と回答しており、利用者数も年々伸びている。地域や区内の子育て支援者からなる運営委員会方式をとってきた。									
2	有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
		平成15年度の開設以来運営委員会方式で行ってきたが、平成18年度11月に地域子育て支援拠点に移行し、NPO法人への事業委託方式となった。横浜市次世代育成支援行動計画、区政運営方針に沿っている。									
3	目標達成度	8	⑤ 目標の水準は適切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
		横浜市次世代育成支援行動計画も盛り込んだ目標を設定し、地域子育て支援拠点化を実現した。地域子育て支援拠点になってから利用者はさらに増えている。									
4	経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
			⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
		ボランティアの協力を得て運営を行っている。地域子育て支援拠点に移行後は専属の職員(NPO法人職員)を置いている。									
5	正確性信頼性	8	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1								
		スタッフ会議などで話し合い、子どもが集まる場所としての意識を高めている。広報よこはま中区版、ホームページ、母子健康手帳交付時や乳幼児健診時、ミニコミ誌など多様な方法で周知に努めている。									
総合評価	合計	36	(協働の取組状況)								
	100点換算	90	地域や区内の子育て支援者からなる運営委員会方式をとり、ボランティアスタッフの協力を得て事業を行っている。								
ランク(A~E)	特記事項		(環境への負荷)								
		A	広場に出たゴミは持ち帰ってもらっている。								
		市民との協働で事業を行い、利用者の満足度も高いが、利用者ニーズをさらに取り入れつつ効率的な運営を行うため、地域子育て支援拠点に移行した(平成18年11月)。									

事業名	子育て広場「のんびりんこ」 運営支援事業
-----	-------------------------

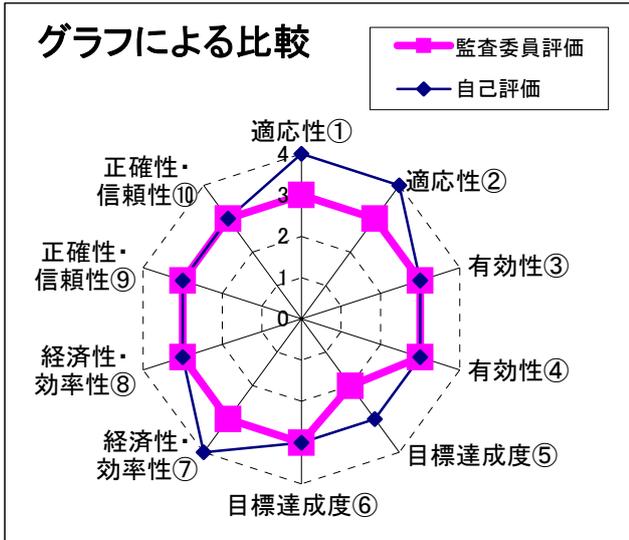


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	5	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成13年に行われた市の「1万人の子育て提言」を基に始めた事業だが、他の地域からの常設の子育て支援施設の設置を要望する声もあるので、区内のニーズ分布について改めて調査する必要がある。子育て広場の運営に関しては、NPO法人等民間に委託して実施している区もある中で、中区では見直しを行ってこなかった。		
2 有効性	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
JR関内駅前に1か所だけ子育て広場を設けて運営し、後にこれを地域子育て支援拠点に移行させたが、他の地域からも常設の子育て支援施設の設置を要望する声があり、場所の選定が適切であったのか疑問が残る。また、子育て支援のネットワーク作りの点でも課題を抱えている。ただ、多くのボランティアがこの事業にかかわった結果、各地域で子育て支援の輪が広がりを見せるなど、運営方針で目指した目的の実現には一定程度寄与した。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
1日当たりの利用者数の目標は、前年度より若干多めに設定した。地域子育て支援拠点として運営を始めた平成18年11月以降は、1日当たりの利用者数は増加した。ただし、地域子育て支援拠点の整備に関しては、スケジュールに遅れが生じた。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
決算が予算を下回った主な理由は、テナント料を1か月多く予算計上していたためである。ただし、地域子育て支援拠点への移行による施設面積の拡大等により、1日当たりの利用者数が増加し、利用者1人当たりのコストを約1割軽減することができた。ボランティアの研修ハンドブックを作成し、事務処理の改善を図った。		
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
年1回防災訓練を実施している。また、ボランティアの研修ハンドブックには「事故発生時には区に連絡する」と注意書きしている。平成18年度は「のんびりんこ通信」の発行が2回にとどまった。地域子育て支援拠点に移行したことから、今後は発行頻度を増やす予定である。NPO法人が立ち上げたホームページについても、今後内容を充実していく予定である。		
監査の結果	合計	27 / 40
	100点換算	68 / 100
ランク(A~E)		C
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 平成15年度からこの事業を行っているが、運営方法や事業内容について見直しを行ってこなかった。そのため、他の地域から常設の子育て支援施設を要望する声がかかるなど、地域子育て支援拠点を中心とした子育て支援のネットワーク作りに課題を抱えている。こうした点を踏まえると、「母親の育児不安の解消を図り、地域で助け合いながら子育てが行えるような人材を育成する」という事業目的が十分に達成されているとはいえない。		

事業名		子育て支援事業		担当	区局部課名	南区福祉保健センターサービス課		電話	743-8211	
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画							重点事業番号	- -
		<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針 誰もがいきいき暮らせるまち								
目的		子育てに関する情報や交流の場を提供し、子育てに対する不安をもつ親に対して不安の軽減を図るとともに、子育てを支援するネットワーク化を推進する。								
内容		1子育てサークルネットワーク会 2親子で楽しく遊ぼう 3外国人への子育て支援(外国人ママの会) 4子育て支援(子ども家庭支援相談) 5ベビーマッサージ 6絵本の読み聞かせ普及啓発 7子どもの看護教室 8子育て支援ボランティア育成講座 9子育てを考える親の集い								
根拠法令等		母子保健法 児童福祉法 南区子育てグループ活動助成金交付要綱								
コスト		区分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算		
		事業費 (千円)		2,148	2,467	1,900	1,891	2,085		
		うち一般財源等 (千円)		2,418	2,467	1,900	1,891	2,085		
		人件費(概算) (千円)		14,522	14,778	14,400	14,778	18,000		
		総コスト(概算) (千円)		16,670	17,245	16,300	16,669	20,085		
活動・成果指標		名称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
		子育て支援事業の充実			推進	推進	推進	推進	推進	
		<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)								
		<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)								
		<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)								
評価項目		点数	理由・説明等							
1	適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■4□3□2□1					
			② 事業を市が行う必要性があるか。		■4□3□2□1					
核家族化、少子高齢化が進む南区では、子育てに関する情報や交流の場の提供は重要である。育児不安が強い養育者に向けての支援が課題であるが、乳幼児とその親が自由に出入りできる場の提供や、子育て中の外国人への情報や交流の場の提供を行うなど、表面化していないケースや予備軍も含めてケアできるよう工夫した。地域のネットワークから外れがちな世帯も漏らさず支援するためには、自治体に関わる必要性は未だ強く残っていると思われる。										
2	有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		□4■3□2□1					
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		□4■3□2□1					
地域のボランティアの方々に交流の場に御協力いただくことは、子育て不安の解消に加え、地域の人々の子育て世代への関心が高まることにつながっている。子育てサークルのネットワーク会の活動や外国人ママの会等は、様々な情報を当事者同士が交換する機会として定着している。										
3	目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		□4■3□2□1					
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□4■3□2□1					
ベビーマッサージでは、育児不安が強い親子が参加しているが、子どもに大いに役立っていると思われる。また、交流の場等他の企画も順調に参加者は集まっており、不適切養育が疑われる親子と関わっていくきっかけとなる場合もある。										
4	経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。		■4□3□2□1					
			⑧ 事務は効率的に行われているか。		□4■3□2□1					
区民利用施設を減免申請の上活用したり、地域ボランティアや子育てサークルネットワーク会のメンバーの協力により、経費の節減と資源の有効活用を図った。										
5	正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		□4■3□2□1					
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□4■3□2□1					
各企画は要綱や規約等に基づいて行われており、実施にあたっては事故防止に留意した手順に従事者に周知するとともに、事業実施中は参加者(親など)にも子どもへの配慮を促した。										
総合評価	合計	33	(協働の取組状況)							
	↓	40	子育て支援ボランティアグループ、保健活動推進員の協力を得て活動している。また、子育てサークルの参加者有志で構成されるネットワーク会が様々な企画を実施している。							
	100点換算	83	(環境への負荷)							
ランク(A~E)	B 安心して子育てのできる環境づくりは、核家族化や少子高齢化の進む中で、今後もより必要とされている課題である。									

事業名	子育て支援事業
-----	---------

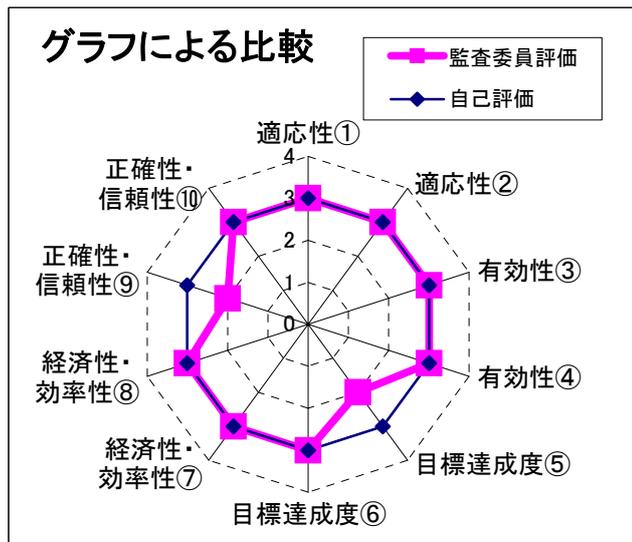


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 この事業は、子育て支援の一環として子育てサークルや保護者個人に対する子育て情報の提供、育児相談などその内容は多岐にわたっており、「子育てサークルネットワーク」のアンケートや区が行っている様々な事業を通じて把握したニーズをもとに組み立てられている。子育てを巡る様々な課題は、市が行っている健診等を通じて発見されることも多く、育児に関する知識と経験を持った保健師等による支援の必要性は高い。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 この事業で実施している多くの取組については、スタッフ数や場所の制約がある中で、工夫して効果的に実施している。しかし、「外国人ママの会」は日本語での講座であるため、言葉が分からない外国人が参加していないことや、新規ボランティアの養成と現在活動中のボランティアのスキルアップを目指した「ボランティア育成講座」では、想定とは異なり、ボランティア未経験者が11人中2人にとどまるなど、一部の取組で目的にそぐわない結果となった。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 目標は「推進」となっているが、この事業の成果を測定し、事業の内容や水準を決定するためには実施回数や参加者数を設定して、実施後に成果を検証する必要がある。あらかじめ設定した目標が単に「推進」となっているため、定量的な比較はできないものの、予算編成時の見積りなどと比較すると、それぞれの取組の活動結果は、「外国人ママの会」と「ボランティア育成講座」を除いてはおおむね良好である。
	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 かかった経費の多くは講師謝金であり、ボランティアなどの協力によりコストを抑えている。また、平成17年度に実施していた「読み聞かせ普及啓発」は定着してきたことが認められたので見直した。また、健診等の機会を通じて、育児支援が必要な親子に「ベビーマッサージ」を紹介したり、子育てサークルのネットワークに加わってもらったりするなど、区の取組間での連携を図ることによって効果を高めている。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 親子参加の取組が多く、その中で想定される事故とその備えについて保護者に説明し、注意を促している。
	合計	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし 29 / 40 ↓ 100点換算 73 / 100 ランク (A~E) B

事業名		初めて子育て応援事業		担当	区局部課名	港南区サービス課 こども家庭支援担当				
				担当	課長名	植木 毅	電話	847 - 8412		
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業	-	
		<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針		子育てと青少年の健全育成					番号	-
目的		父親の積極的な育児参加を促し、親子で公園に出やすい環境をつくり地域とのつながりをもつことにより、母親の孤立化を防ぎ、育児不安の軽減を図ります。								
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・パパママ一緒に子育てセミナー ・公園あそび支援事業 ・保育園を活用した子育て支援事業 								
根拠法令等		横浜市次世代育成支援行動計画								
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算		
		事業費 (千円)			2,636	1,500	1,500	659		
		うち一般財源等 (千円)			2,636	1,500	1,500	659		
		人件費(概算) (千円)			923	902	902	396		
		総コスト(概算) (千円)			3,559	2,402	2,402	1,055		
活動・成果指標		名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
		第1子出生数に対する参加者割合		%		13	10	12	12	
		活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)	(276)	(240)	(197)	(88)	
		公園あそび開催箇所数		箇所		5	7	7	10	
		活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)	(712)	(343)	(343)	(106)	
		区内保育施設の参加割合		%		90	90	100	100	
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)	(40)	(27)	(24)	(11)			
評価項目		点数	理由・説明等							
1	適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			② 事業を市が行う必要性があるか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
孤立した環境で育児をし、虐待に陥りやすい養育者が増えているのは社会全体の課題です。父親の育児参加を促し、地域で子育てを見守る環境づくりは必要であり、市が積極的に事業展開したり、地域とのコーディネートをしていく必要がある。また、保育園と育児支援を担う機関が連携して地域の子育て支援を行うことは重要である。										
2	有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
パパママ一緒に子育てセミナーは父親の育児参加を促すため、参加しやすい休日に開催したり、区主催の公園あそびを18年度末には7箇所まで地域主催の公園あそびへ移管することができた。また地域のボランティア同士のネットワークもでき地域で子どもを見守る環境づくりの1つとなった。また、公立保育園を核としたイベントは地域の民間保育園や横浜保育室とも連携し実施し、親同士の交流が始まっており、育児支援の効果が上がっている。										
3	目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
父親の育児参加の意識向上を図るとともに公園あそびの定着を目標とした。育児参加意識についてはアンケート等で効果を図りよい評価を得ることができた。また公園あそびも地域の団体やボランティアが運営し定着することができた。保育園を活用した育児支援については、参加者も多く他の保育施設との連携もあり地域でも楽しみにされるイベントとなっている。										
4	経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			⑧ 事務は効率的に行われているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
休日の出勤については職員は2名体制とし、保育ボランティアの協力を得ることで安全確保を図った。また公園あそびでは「実施報告書」を雇用した保育士に記入してもらうことで、職員の事務負担を軽減し地域のボランティア育成に力を注ぐことができた。										
5	正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1					
パパママセミナーでは保育ボランティアの協力を得ることで安全確保をおこない、名簿の管理については鍵付きロッカーに保管を徹底した。また公園あそびは自己責任で安全確保をするようチラシに明記する他、「公園であそび ゆうぐであそび」パンフレット(環境創造局発行)を配布し安全な公園あそびを啓発した。										
総合評価	合計	30	(協働の取組状況)							
	↓	40	公園あそびボランティアの育成や支援、ネットワークづくりをすることで、地域で公園あそびを定着する方向にある。							
	100点換算	75	(環境への負荷)							
ランク(A~E)		B	公園あそびは地域主催で定着する方向にあり、保育園での子育て支援事業でも公立、民間、保育室などの施設が協力して作り上げるイベントとなっている。パパママ一緒に子育てセミナーについては、第1子出生数の比率からすると受け入れ数も限界があり、回数、方法など検討が必要である。							

事業名 初めて子育て応援事業

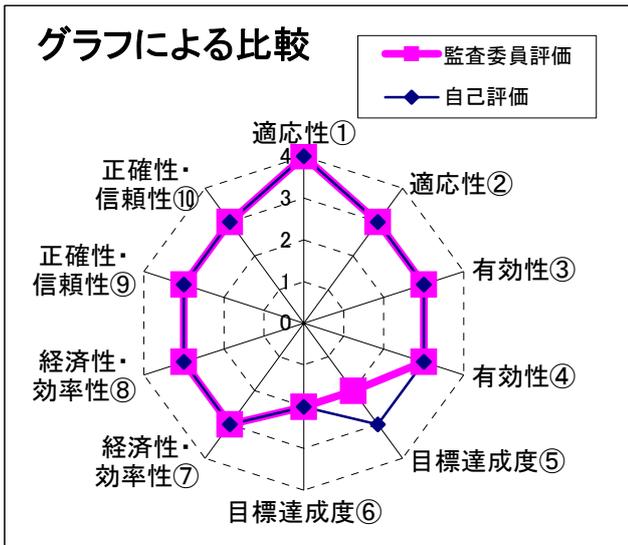


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		区内出生数のうち第一子の占める割合は50%を超えている。また、「港南区子育てに関する調査(平成13年)」を実施して「子育て家庭の孤立化」、「子育ての負担感増大」などの実情を把握している。こうした区民ニーズを受け、区ではこの事業の中で様々な育児支援事業を展開している。パパ・ママ一緒に子育てセミナーについては、保育協力者の派遣に関してNPO法人との協働により実施しており、適切な役割分担のもとに当面は区が主体となって行う必要がある。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		公園遊び支援事業については、初年度は区主体で開催し、2年目以降は地域主体に移行させるなど、適切な役割分担のもとに実施した。パパ・ママ一緒に子育てセミナーの実施により、父親の育児への積極的な参加の意識が高まっているものの、会場の規模や対応できる職員数に限りがあることから、希望者全員が参加することができない。この事業は運営方針の重点推進施策「子育ての応援」に位置付けられており、目的の実現に一定の寄与をしている。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		パパ・ママ一緒に子育てセミナーの参加者の数は把握しており、前年度の目標とほぼ同等の水準となっている。公園遊びでは新たに2か所で区が主催して実施するとともに、地域主体の公園遊びも5か所で定着している。しかし、地域主体の公園遊びに参加している人数については把握していない。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		公園遊びではコストの削減を考慮し、地域ボランティアの育成・活用を図った。パパ・ママ一緒に子育てセミナーでは保育ボランティアを活用するとともに、応募方法を電話から往復はがきに変更したことにより事務が効率的に行われている。
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		これまでは職員やボランティアの見守りが功を奏して事故は発生していないものの、パパ・ママ一緒に子育てセミナーや公園遊びでは、事故防止・事故発生時の対応マニュアルが整備されていない。同セミナーについては赤ちゃん教室や乳幼児健診時に対象者に案内するとともに、公園遊びについては広報紙や区の子育て情報誌へ話題を掲載したり、区のメールマガジンを配信したりするなどして周知を図っている。
監査の結果	合計	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし
	100点換算	28 / 40
ランク(A~E)		70 / 100
		C

事業名		ホッとほどがや子育てPower Up事業		担当	区局部課名	保土ヶ谷福祉保健センターサービス課		
				課長名	梅谷 泰久	電話	334 - 6392	
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業番号	- -
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	子育て支援から高齢者支援まで、地域で実践する支えあいの仕組みづくり						
目的	乳幼児を育てる養育者が、安心して子育てできるように、地域・関係機関・団体と連携して、地域の中で子育てに関する相談支援体制の充実と人材育成を行う。							
内容	子育て支援拠点の運営支援 ほどがや子育て応援隊育成支援及び子育て支援者・団体等の連絡会の開催 ホームページの充実							
根拠法令等	母子保健法 次世代育成支援行動計画							
コスト	区分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)				5,715	3,515	2,278
	うち一般財源等	(千円)				0	0	
	人件費(概算)	(千円)				7,650	7,650	4,500
	総コスト(概算)	(千円)				13,365	11,165	6,778
活動・成果指標	名称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	子育て支援拠点相談件数		件			340	348	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)			(39)	(32)	
	子育て応援隊育成講座開催数		回			6	6	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)			(2,228)	(1,861)	
子育て力アップ連絡会・講座開催		回			6	6	6	
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)			(2,228)	(1,861)	(1,130)	
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
核家族化、少子化が進む中、育児に不安を持つ養育者の支援など、地域における子育て支援の推進が求められている。地域の育児力向上を図る上で、区内で実際に子育て支援を行っている関係団体・者と協働で実施することにより、効果的な事業展開ができる。								
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
地域の子育てを支援する力を高めていくための手法として行われている。人材養成講座受講後、在宅の保育士等有資格者を中心とした地域での子育て支援に取り組む者もでてきた。								
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
地域の子育て力を高めるため、ネットワークを構築させ支援者間の連携をはかったり、支援者の人材養成を行うことができ、目標達成に向けおおむね計画どおりに取り組めた。ほどがや子育て応援隊事業においては、地域子育て支援拠点立ち上げの関係で、人材育成及び支援に関する事業委託が実施できず、職員が対応して実施した。								
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
人材養成講座では身近な地域の人の協力を得たり、連絡会では各関係団体・者がいろいろなアイデアを持ち寄り地域ごとの情報発信の工夫を行い、コスト削減に配慮した。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
ホームページの充実により、子育て支援に関する効果的な情報提供ができた。情報の更新については担当職員で内容の精査などを行い、他課とも連携しメール配信などを実施し、タイムリーに情報提供ができるように努めた。								
総合評価	合計	30	(協働の取組状況)					
	↓	40	幼稚園や保育園、地域ケアプラザ、子育て支援者、主任児童員など協働で情報共有の工夫を行い、地域ケアプラザ単位で自主的に連携し子育て支援を展開するグループも出てきた。					
	100点換算	75	(環境への負荷)					
		100						
ランク (A~E)		B	地域で養育者を支える仕組みづくりが求められている中、現子育て支援に取り組んでいる者・団体を中心に連携強化と支援力向上をめざし、地域ケアプラザ単位で自主的に連携し子育て支援を展開するグループも出てきた。次年度は地域子育て支援拠点と協働で子育て支援に関するネットワーク構築に努めていく。また支援者(支援団体)の育児力を高めるための研修内容の検討も課題である。					

事業名 **ホッとほ도가や子育てPower Up事業**

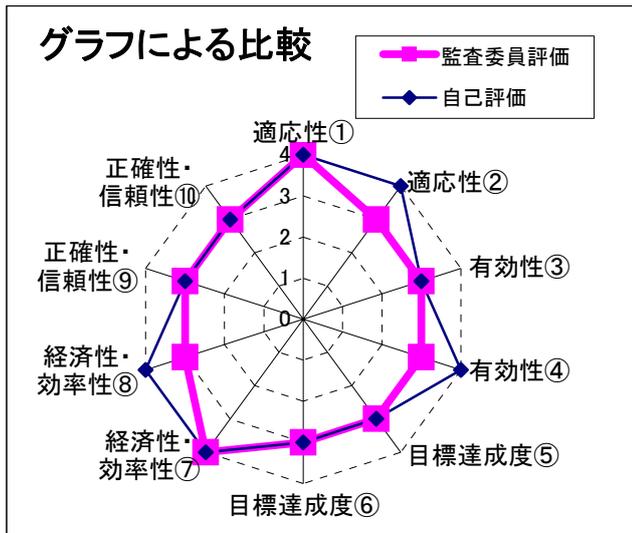


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に <u>適</u> っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う <u>必</u> 要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成15年実施の保土ヶ谷区福祉・保健ニーズ調査報告書や平成17年実施の保土ヶ谷区地域福祉保健計画などで区民ニーズを把握している。同調査では地区別のニーズ分析も行っている。本来は、地域が主体となって子育て支援のネットワークを形成したり、人材育成等を行うことが望ましいと考えられるが、まだそうした段階ではないため、当面は区が積極的に支援していく必要があると思われる。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に <u>照</u> らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の <u>実</u> 現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
ほとんどの地域に子育てサロンが設置されており、また各地域ケアプラザで子育て広場を開催し、星川に地域子育て支援拠点も開設した。子育て支援が必要な養育者は、自分のニーズに合ったサービスを選択することが可能であり、運営方針の目的に沿った事業となっている。子育て支援者の育成と地域間のネットワーク作りが今後の課題である。		
3 目標達成度	4	⑤ 目標の水準は <u>適</u> 切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
各事業の目標水準は、過去の同種の事業実績をもとに同程度の水準に設定した。子育て支援者養成のための「ほ도가や子育て応援隊事業」は、当初計画していた委託による実施ができなかった。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は <u>効</u> 率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
実績が予算を下回った主な理由は、「ほ도가や子育て応援隊事業」を当初の計画どおり委託することができなかったためであり、全体的には過去の同種の事業と同程度のコストがかかった。子育て支援関連の取組をこの事業で集約して実施することによって、相互の連携が円滑に進むなど集積のメリットを発揮することができた。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が <u>講</u> じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために <u>適</u> 切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域子育て支援拠点には安全マニュアル、危機管理マニュアルを整備し、相談員に対し個人情報の保護に関する研修を実施している。また、各会場には子どもの事故に気をつけるよう「留意事項」を掲示している。昨年度から作成を始めたホームページは内容が充実し、アクセス件数も区のホームページの中で一番多い。		
監査の結果	合計	29 / 40
	100点換算	73 / 100
	ランク (A~E)	B
□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし		

事業名		旭区子育て広場運営事業		担当	区局部課名	旭区福祉保健センターサービス課			
				担当	課長名	福島 博	電話	954 - 6124	
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画							重点事業番号	- -
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	豊かな子育て環境の充実～すくすく元気に～							
目的	身近な場所に子育て支援の場を確保する。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 旭区子育て広場運営団体に対する補助 子育て広場事業を円滑に実施するための運営団体との連携、支援 子育て広場の施設整備 								
根拠法令等	旭区子育て広場運営要綱、旭区子育て広場運営事業補助金交付要綱								
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算		
	事業費 (千円)		1,959	3,485	3,200	3,103	3,200		
	うち一般財源等 (千円)		1,959	3,485	3,200	3,103	3,200		
	人件費(概算) (千円)		10,891	739	720	739	360		
	総コスト(概算) (千円)		12,850	4,224	3,920	3,842	3,560		
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	開所日数		日	69	151	231	231	250	
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(186)	(28)	(17)	(17)	(14)	
	入場者数		人	2,329	10,768	12,000	11,500	12,000	
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(6)	(0)	(0)	(0)	(0)	
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。						■4□3□2□1	
		② 事業を市が行う必要性があるか。						■4□3□2□1	
<p>中期計画にもあるように、身近な場所に地域子育て支援の場の確保というのは、これからの子育て支援にとって重要な役割を果たしている。当該事業は、そのモデル事業としてスタートし、3年目を迎えたが、来場者数は増加傾向にあり、区民の認知度も向上したものと考える。</p>									
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。						□4■3□2□1	
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。						■4□3□2□1	
<p>区づくり推進費として補助していたが、運営団体も自立的活動を行えるようになってきたため、今後は市の施策である「親と子のつどいの広場」事業への参加も含めて検討する。</p>									
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。						□4■3□2□1	
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。						□4■3□2□1	
<p>週3回から週5回の開催としたが、様々な課題に対する取り組みは十分評価できるものであり、それを継続することが今後の課題となる。また、来場者を確保し、事業を継続していくための種々のイベント等を企画することも重要である。</p>									
4 経済性効率性	8	⑦ コストは縮減しているか。						■4□3□2□1	
		⑧ 事務は効率的に行われているか。						■4□3□2□1	
<p>団体に対する補助金額は、昨年度と同額であるが、週5日開催とするため、民間企業との協働事業による収入や、イベント開催による有料企画など、様々な手法により自主財源の確保に取り組んでいる。他の事業と比較しても、これだけの区民参加がある事業で、当該経費で実施しているものは類を見ないのではないかと考える。</p>									
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。						□4■3□2□1	
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。						□4■3□2□1	
<p>区役所の近隣に設置されているとはいえ、不測の事態が生じた場合の懸念はあるが、①当会場は3階にあり、1・2階には区社会福祉協議会があること、②外部に対して、緊急を知らせるパトライトが設置されていることなどにより、安全策は取れている。また、運営団体では年4回発行の「ぼけっと通信」やホームページも開設し、その活動について区民に広報している。</p>									
総合評価	合計	35	(協働の取組状況)						
	↓	40	運営団体は、区民主体となって設置されており、事業実施にあたっては、今後も行政と連携を図りながら推進していく。						
	100点換算	88	(環境への負荷)						
ランク(A~E)	A	手作りおもちゃの製作では、牛乳パックを利用したイス作りなどを実施し、来場者と共に環境に配慮した事業などを実施している。							
<p>団体では、更に自立的な活動が行えるよう法人格の取得を目指している。区民活動からスタートした団体でもあり、行政として必要な支援を行うとともに、今後も継続した協働事業として推進する。</p>									

事業名 旭区子育て広場運営事業

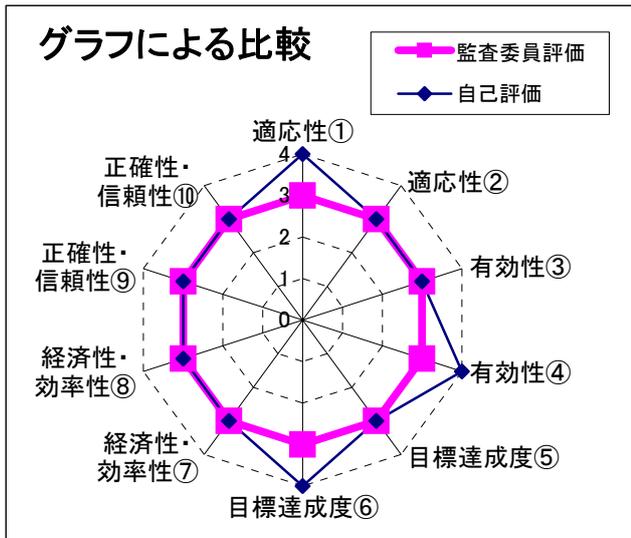


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域子育てサロンの開催回数が少ないので、養育者からの要望があり実施している。親と子が自由に集える場所を提供するという市民ニーズにこたえた事業で、地域的にも需要が高い。運営委員会の立ち上げと自立化を区が支援した。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域における子育て支援の場として設置した「子育て広場」に対して、運営費の一部を補助する事業である。アドバイザー、保育サポーターで、週5日運営している。平成19年度から、市の「親と子のつどいの広場」事業へ移行した。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成18年度から、開所日数を週2日増やし、週5日の開催とした。市民ニーズを踏まえた適切な目標設定となっている。また、利用人員は11,578人で目標の12,000人に満たなかったが、イベントを実施するなど、ほぼ目標を達成している。		
4 経済性・効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
月2回、民間企業の協賛によるイベントを実施し、協賛金収入を得る等、コストの縮減に寄与している。事務局会議に、区の保健師がメンバーとして参加し、運営に関する相談に応じたり、情報提供を行っている。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
事故発生時への対応研修が、運営団体により行われており、マニュアルが作成されている。利用のきっかけは口コミが多いが、運営団体が作成しているホームページや、年4回発行の情報誌を、区の窓口や乳幼児家庭訪問等で配布し、周知を行っている。		
監査の結果	合計	32
	↓ / 40	
	100点換算	80
↓ / 100		
ランク (A~E)		B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 平成18年度から、市民ニーズを踏まえて、開所日数を週2日増やし、週5日とする目標を達成している事業である。また、有料のイベントを実施する等、コストの縮減にも取り組んでいる。なお、平成19年度から、市の「親と子のつどいの広場」事業へ移行している。		

事業名		子育てひろば事業		担当	区局部課名	磯子区サービス課		
				担当	課長名	高橋 哲也	電話	750 - 2493
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業	-
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	重点施策2 健康・福祉・子育てを支える基盤づくり					番号	-
目的	親子が安心して交流や相談できる場を増やし、子育て情報を提供するなど子育て環境の充実に図る。							
内容	①子育てひろばへの支援 ②子育て情報誌の作成 ③地域育児グループの育成							
根拠法令等	母子保健法、横浜市中期政策プラン							
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)	1,295	962	1,446	1,446		
	うち一般財源等	(千円)	1,295	962	1,446	1,446		
	人件費(概算)	(千円)	640	190	270	280		
	総コスト(概算)	(千円)	1,935	1,152	1,716	1,726		
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	子育てひろば参加者		人	840	2,141	2,200	2,200	
	成果 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)	(2)	(1)	(1)	(1)	
	子育て情報誌の作成		部			4,000	4,000	
	成果 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)			(0)	(0)	
地域育児グループの活性化								
活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)						
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。				■4□3□2□1		
		② 事業を市が行う必要性があるか。				□4■3□2□1		
平成16年度事業スタート当初は、区内で親子が交流できる場所は少なく、様々なアンケートでも交流場所のニーズは高かった。そこで区が主体となって交流場所を設置したが、地域が主体となって運営する同様の交流の場が広がっている。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。				□4■3□2□1		
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。				■4□3□2□1		
ひろばについては、区主体から地域主体のひろばに波及していき、好循環な状況が生まれた。また、子育て情報誌も育児グループの協力により、少ない予算で充実した冊子が作成できて効果的であった。								
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。				□4■3□2□1		
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。				■4□3□2□1		
新たな地域に親子の交流場所が増加し、身近な場所で交流できるようになってきた。								
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。				□4■3□2□1		
		⑧ 事務は効率的に行われているか。				□4■3□2□1		
子育て情報誌は、広告の掲載により印刷費の1割程度を確保するとともに、多くの作業を育児グループなどの協力により大幅な人件費の節約となっている。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。				□4■3□2□1		
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。				□4■3□2□1		
事故の危険を未然に予防するために複数の目でチェックをし、安全を確保している。広報については、ホームページをはじめチラシや広報誌など様々な媒体でPRに努めている。								
総合評価	合計	33	(協働の取組状況)					
	↓	/ 40	地域の育児グループの協力で、詳細な遊び場の情報を満載した子育て情報誌を作成できた。					
	100点換算	83	(環境への負荷)					
↓	/ 100	子育てひろばで活用する遊具には、手作りのものなどリサイクル物品を活用するなどして、環境の負荷の低減に努めている。						
ランク (A~E)	B		区が主体的になってスタートしたひろばが、次第に地域主体のひろばが増えてくるなど、波及効果があらわれてきており、将来的な行政負担を抑えるとともに、子育て環境を改善し、子育て中の親子と地域の人々を結びつけるきっかけづくりにもなっている。また、土曜日に、保育園の施設を活用してひろばを実施するなど独自の取り組みも行い、父親の育児参加も促した。					

事業名 **子育てひろば事業**

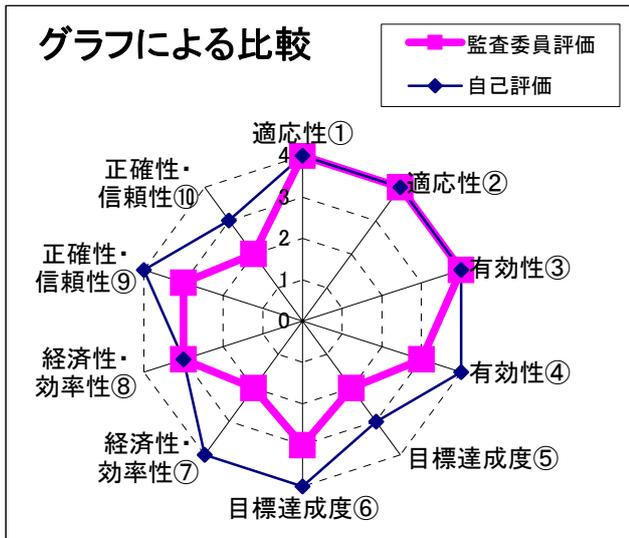


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に <u>適っているか。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	6	② 事業を市が行う <u>必要性があるか。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 アンケートの結果などによれば、区に対する要望として親子の交流の場を求める声は多く、区民のニーズがあると認められる。この事業では区内の公園など育児をする上で参考になる情報を掲載した小冊子「子育てマップ」を作成しているが、このマップの作成と地域育児グループ育成支援については、子育てサークルの声を聴きながら実施しており、区民の声を反映させた事業となっている。
2 有効性	6	③ 事業の目的に <u>照らして効果的な手法か。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	6	④ 施策や運営方針等の目的の <u>実現に寄与しているか。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 平日に地域ケアプラザ4か所、土曜日に地区センター1か所、保育園3か所で「子育てひろば」を開催しているが、参加者数からみると平日のニーズは認められるものの、土曜日のニーズは明確でない。参加者の的確なニーズを把握するとともに、集約したデータの振り返り結果を参加した区民と共有するシステムが必要である。また、「子育てマップ」は、子育てグループとの交流を通じて作成したにもかかわらず、どれだけ有効に活用されたのか明らかでない。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は <u>適切か。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	6	⑥ 計画通りに <u>目標を達成できたか。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 「子育てひろば」の参加者数は、増加傾向を見込んで目標を設定し、達成している。しかし、実施会場の五つのケアプラザを個々にみると、利用者数の多いところは1回当たり54人、少ないところでは11人となっており、実績に格差がある。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは <u>縮減しているか。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	6	⑧ 事務は <u>効率的に行われているか。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 「子育てマップ」は育児グループの協力を得たり、広告を掲載などしてコストを軽減している。しかし、1部の値段は365円で、他区の同種のものとは比べると、割高なパンフレットとなっている。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が <u>講じられているか。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	6	⑩ 説明責任を果たすために <u>適切な情報提供がされているか。</u> <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 子育てのメール情報「isogokko」の配信は、情報提供の積極的な取組として注目できる。そこで扱われる個人情報情報は横浜市のサーバーで管理されており、区役所で関与することはできないようになっている。
監査の結果	合計 30 / 40 100点換算 75 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 ■なし

事業名		のびのびかなざわっこ応援事業		担当	区局部課名	金沢区サービス課		
				担当	課長名	海原 逸子		
					電話	788 - 7771		
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画							
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	子どもと青少年が健やかに育つ地域づくり						
目的	子育てや子どもの発達への理解を進め、家庭の育児力の向上と地域全体で子育てを支援する環境づくりを推進します。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・健やか子育て連絡会の開催(年6回) ・地域の子育て基盤強化事業・・・支援者向け研修1回、養育者向け研修(地区別5回、保育園と協働で土曜日開催1回)、啓発冊子・リーフレットの作成、公園遊びサポート事業 							
根拠法令等	かがやけ横浜こどもプラン、母子保健法、地域保健法、児童虐待の防止等に関する法律、金沢区公園遊びサポート事業実施要綱							
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費 (千円)				5,540	5,540	3,331	
	うち一般財源等 (千円)				5,540	5,540	3,331	
	人件費(概算) (千円)				27,000	27,708	27,000	
	総コスト(概算) (千円)				32,540	33,248	30,331	
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	健やか子育て連絡会開催数		回			6	6	6
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(5,423)	(5,541)	(5,055)
	啓発活動(講演会、出前講座)参加者数		人			642	642	650
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(51)	(52)	(47)
	公園遊びサポート事業参加者数		人			1,356	1,356	1,360
成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(24)	(25)	(22)	
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
養育者、地域で子育て支援に携わる区民、関係機関が協働で事業実施することにより、多様化するニーズに的確に対応しています。また、健やか子育て連絡会では、金沢区の子育て支援のあり方を検討し、養育者・地域・関係機関・区の役割分担を「金沢区の子育て支援の協働の指針」として作成しました。								
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
養育者向けの地区別出前講座を5会場で実施し、健やか子育て連絡会委員を中心に、地域の子育て支援に携わる区民と協働で実施しました。地域の企画力・運営力が向上し、自主活動の見直しにつながっています。地域との協働で、子育てしやすい地域づくりをすすめることで、運営方針の「子どもと青少年が健やかに育つ地域づくり」の実現に寄与しています。								
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
健やか子育て連絡会は、予定どおり開催し、「金沢区の子育て支援の協働の指針」を作成することができました。公園遊びサポート事業では、当初の予定(公園3ヶ所固定)からキャラバン隊方式へ変更しましたが、マスコミを含めて多くのプラスの反響を得て、金沢区全域で事業を定着させることができました。また、啓発活動とともに多数の親子の参加を得ることができました。								
4 経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
健やか子育て連絡会の各啓発活動は、地域や関係機関(保育園など)と協働で企画・運営しており、コストは最小限に抑えられています。また、18年度に初めての試みとして、コンサルティング会社への連絡会運営委託や、公園遊びサポーターの本格実施前に試行を行いました。これにより、効率的な事業実施を図ることができ、19年度実施時の事務改善を検討しています。								
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
公園遊びサポート事業では、レクリエーション保険に加入し、事故時への対応を整備しています。また、サポーター連絡会で、各サポーターが情報交換しお互いに啓発することで、事故の未然防止を図っています。健やか子育て連絡会の取組みについて、支援者向け冊子と、養育者向け子育てマップを作成し、わかりやすく情報提供しています。								
総合評価	合計	37	(協働の取組状況)					
	↓	/ 40	すべての事業を、地域や関係機関と協働で実施しています。					
	100点換算	93	(環境への負荷)					
		/ 100	公園遊びサポート事業で、遊びの前に親子のごみ拾いを実施し、子どもへの環境教育を推進しています。					
ランク(A~E)		A	18年度健やか子育て連絡会では、金沢区全地区からの参加により、子育て支援のネットワークが充実し、情報交換や地域の活動の底上げが図られました。また、公園遊びサポート事業においても、自治会町内会や公園愛護会の協力を得ることで、公園の活性化や地域に向けた子育て支援の必要性の啓発ができました。					

事業名 **のびのびかなざわっこ応援事業**



4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成15年度からアンケートやシンポジウム等を段階的に実施し「健やか子育て連絡会」(以下「連絡会」という)を発足させ、養育者や地域で子育て支援に携わる区民のニーズを把握している。「連絡会」では子育て支援のあり方を検討し、「金沢区の子育て支援の協働の指針」(以下「協働の指針」という)で、養育者、地域住民、金沢区社会福祉協議会・保育所・ケアプラザ等の関係機関や区役所の役割を明確にしている。		
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
「連絡会」で明確にした役割の中で、子育て支援の講習会、講演会を企画・運営しており、地域の力を活用した自主的な子育て支援サークルや団体などの活動となっている。「協働の指針」に基づいて、地域との協働による子育てしやすい地域づくりを進めており、上位方針である「子どもと青少年が健やかに育つ地域づくり」に貢献していると認められる。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
養育者向け地区別出前講座は5地区で開催して385人、就労している親向け講演会(土曜日開催)は67人、地域の子育て支援者向け講演会は190人の参加があったが、これは実績であって目標値ではない。公園遊びサポート事業は38回実施し、延べ1,251人が参加している。なお、「連絡会」は予定どおり実施された。		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは削減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
「連絡会」の運営補助としてコンサルティング会社に委託しているが、委託料の6割を占めている議事録が公表されていない。「連絡会」の場を利用して子育て支援団体、地域役員等との情報の共有化や伝達をしている。		
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
公園遊びサポート事業では、レクリエーション保険に加入するとともに、公園サポーターは、子育て経験がある人を経験に応じて配置するなど安全性に配慮している。「協働の指針」が掲載されている「キラキラ輝かなざわっこ！みんなで子育て金沢区」の冊子とマップが育児教室及び乳幼児健診で配布されている。「連絡会」の議事録が公表されていない。		
監査の結果	合計	30
	↓	/ 40
	100点換算	75
	↓	/ 100
ランク(A~E)		B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 平成15年度から子育てに関するアンケートやシンポジウム等を段階的に実施し「連絡会」を発足させるなど、区民ニーズを把握して事業に反映している。また、「協働の指針」を作成し、行政と地域住民等との役割を明確にし、地域の力を活用した取組となっている。 なお、「連絡会」の運営の一部を委託しているコンサルティング会社が作成した議事録は、公表することを検討されたい。		

事業名	港北元気っ子育て支援事業① (妊婦乳幼児体験学習)		担当	区局部課名	港北区福祉保健センターサービス課	電話	540 - 2309	
			担当	課長名	丸山 由利子	電話	540 - 2309	
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業 番号	- -
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	子ども・障がい者・高齢者等にやさしい地域社会の実現						
目的	生命の大切さや男女の相互理解の必要性を理解する学習の場を提供し、青少年の心身の健全な成長を支援するため。							
内容	小中学校において、生命の誕生に関する授業、妊婦疑似体験、乳幼児とのふれあい体験などを実施する。							
根拠法令等	母子保健法、健やか親子21、思春期保健指導事業実施要領							

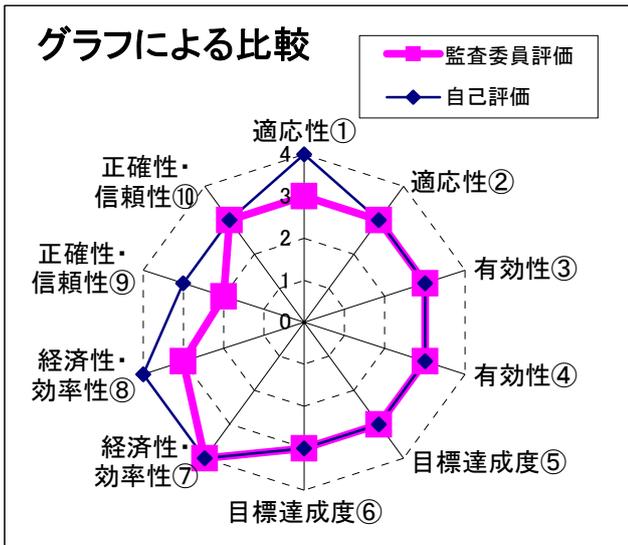
コスト	区 分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)	747	225	204	204
うち一般財源等	(千円)	747	225	204	204	345
人件費(概算)	(千円)	500	500	500	500	500
総コスト(概算)	(千円)	1,247	725	704	704	845

活動・成果 指標	名 称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	成果	延べ参加者数	人	863	842	900	1,027
単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)	(1.445)	(0.861)	(0.782)	(0.685)	(0.845)
開催回数		回	7	6	7	7	7
活動		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(178)	(121)	(101)	(101)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
4 経済性効率性	8	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1

総合評価	合計	33	特記事項	(協働の取組状況) 学校・地域との協働により実施している。
	100点換算	83		(環境への負荷)
	ランク (A~E)	B	思春期保健指導事業として青少年の健全育成を図るだけでなく、地域、学校及び行政の協働推進の場としても活用することができている。今後は、行政主導から地域・学校の主導へと移行していくことが望ましい。	

事業名 **港北元気っ子育て支援事業①
(妊婦乳幼児体験学習)**

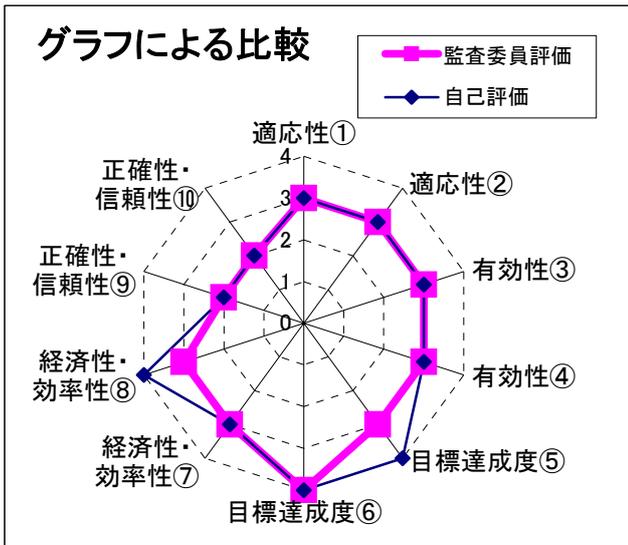


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
区内小中学校からの衛生教育実施に関する要望に基づき事業化したものである。妊婦、乳幼児世帯の転入が多いという地域特性を踏まえ、地域との協働により実施している。学校が主体となって行うことが望ましい事業であるが、当面は区と学校とが協力しながら進める必要がある。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
授業実施前と実施後における児童生徒へのアンケートで乳幼児に対する意識がどのように変化したかをみると、否定的な意識(うるさい、わがまま等)から肯定的な意識(かわいい等)へと大きく変化しており、効果的な手法といえる。この事業は、運営方針の重点推進施策「子ども・障がい者・高齢者等にやさしい地域社会の実現」に位置付けられており、目的の実現に一定の貢献をしている。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
延べ参加者数及び開催回数については、過去の実績から見て適切な目標水準となっており、計画どおり進めることができた。参加した児童生徒の妊婦や乳幼児に対する意識の変化についてアンケートにより把握しており、今後は、これを活用した成果指標についても検討する必要がある。また、区内全小中学校において実施できるよう、学校や地域との協力体制を築く必要がある。		
4 経済性・効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
単位当たりコストは年々通減している。また、地域ボランティアの募集に当たっては、赤ちゃん会やロコミなどにより経費をかけずに行うことができた。地域子育て支援拠点「どろっふ」を活用した体験学習も行っており、ボランティアの募集にかかる事務を省くことができた。事務マニュアルの整備については、今後の課題である。		
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
妊婦や乳幼児がかかわる事業であることから、マットを敷くなどして安全の確保に努めているものの、事故防止・事故発生時の対応マニュアルは整備されておらず、今後の課題である。ホームページのほか、リーフレットや学校便りなどにより事業内容を適切に周知している。		
監査の結果	合計	30 / 40
	100点換算	75 / 100
	ランク(A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし		

事業名		港北元気っ子育て支援事業② (新米パパの育児教室)		担当	区局部課名	港北区福祉保健センターサービス課		
				課長名	丸山 由利子	電話	540 - 2309	
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業番号	- -
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	子ども・障がい者・高齢者等にやさしい地域社会の実現						
目的	父親の育児参加の重要性を啓発するとともに、仲間づくりを進めるため。							
内容	各地域ケアプラザ、地域子育て支援拠点及び保育園との共催で、父親を対象とした育児教室を実施する。							
根拠法令等	健やか親子21							
コスト	区分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)	395	389	389	389	335	
	うち一般財源等	(千円)	395	389	389	389	335	
	人件費(概算)	(千円)	500	500	700	700	700	
	総コスト(概算)	(千円)	895	889	1,089	1,089	1,035	
活動・成果指標	名称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	延べ参加者数		組	134	213	220	242	250
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(6.679)	(4.174)	(4.950)	(4.500)	(4.140)
	開催会場		か所	4	5	7	9	9
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(224)	(178)	(156)	(121)	(115)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
育児における母親の孤立化を防止するとともに、父親の育児参画の促進にも貢献している。父親同士の自主的な活動に発展するまでは、行政の支援が必要であると考える。								
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
地域に出向いて休日に実施するなど、参加しやすい工夫を行っている。父親同士の自主的な活動が徐々に発展しつつあり、地域における子育て家庭のネットワーク活性化につながっている。								
3 目標達成度	8	⑤ 目標の水準は適切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
今年度の目標であった「全地域ケアプラザでの開催」が達成できたうえ、地域子育て支援拠点「どろっふ」及び南日吉保育園でも開催することができた。								
4 経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
活動内容の企画、実施などについて、行政主導から当事者間の自主的な活動へと発展するように支援することで、将来的なコスト削減を図っている。また、今後の活動につなげるため、各拠点の活動内容を互いに発表・評価し合う研修会を実施し、地域ボランティアによる活発な意見交換を行うことで、PDCAサイクルに則った活動展開ができています。								
5 正確性信頼性	4	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
地域との協働で企画・実施する内容のため、確立されたマニュアルは存在しない。常に事故予防には留意するように、スタッフ及び参加者に呼びかけている。参加者の感想や事業効果などを、ホームページ等で積極的に発信していく必要がある。								
総合評価	合計	31	(協働の取組状況)					
	↓	/ 40	地域ボランティアとの協働により、企画・実施している。					
	100点換算	78	(環境への負荷)					
		/ 100						
ランク (A~E)		B	地域ボランティアや参加者の積極的な関わりを得ることができ、目標以上の活動を行うことができた。今後は、当事業の意義をより幅広く周知し、さらに父親の育児参画を促進することで、区内の子育て不安の軽減を図っていきたい。					

事業名 **港北元気っ子育て支援事業②
(新米パパの育児教室)**

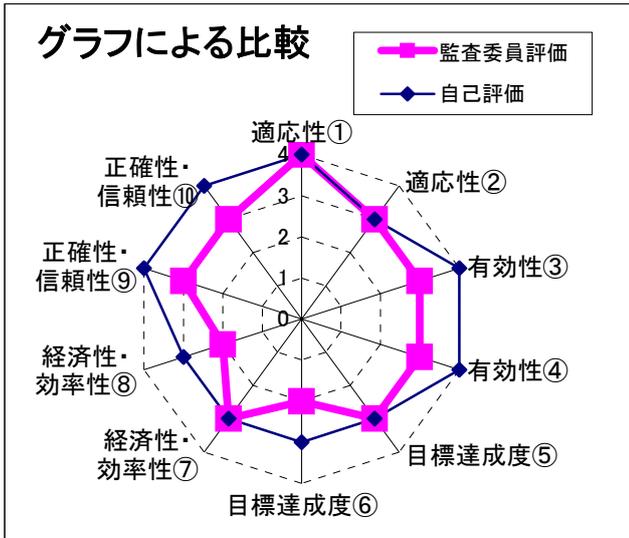


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成15年度に実施した子育て中の父親、母親へのグループインタビュー調査、平成17年度に実施した乳幼児健診対象世帯に対する子育てアンケート調査において、多くの父親は子育ての知識情報を得る機会がないことが明らかとなった。父親同士の自主的な活動への発展が一部で見られつつあるが、当面は区が主体となって進める必要のある事業である。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
身近な場所で父親だけでなく家族ぐるみで参加できるよう、区内全7か所の地域ケアプラザを会場として土日に開催している。この事業は、運営方針の重点推進施策「子ども・障がい者・高齢者等にやさしい地域社会の実現」に位置付けられており、目的の実現に一定の貢献をしている。		
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
延べ参加者数及び開催会場については、過去の実績から見て適切な目標水準となっており、計画どおり進めることができた。また、全地域ケアプラザのほか、地域子育て支援拠点「どろっぶ」及び南日吉保育園でも開催することができた。今後は、父親同士のネットワーク作りへの支援も成果目標としていく必要がある。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域ケアプラザと協働で開催することにより、用紙代等の事務費の節減に努めた。将来的には地域主体の事業へと移行させていくことにより、さらなるコスト削減も可能と考えられる。会場によっては担当者の配置を3名から2名にするなど効率化を図っているものの、事務マニュアルは作成されておらず、今後整備していく必要がある。		
5 正確性・信頼性	4	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
この事業は乳幼児が対象であるため、絶えずスタッフが目配りをしてはいるものの、事故防止・事故発生時の対応マニュアルは整備されておらず、今後の課題である。育児教室の実施案内については、区や地域ケアプラザ発行のちらし等により周知しているが、ホームページを活用した情報提供は行われていない。普段忙しい父親に対して積極的な参加を呼びかけるため、今後、適切な情報提供について検討していく必要がある。		
監査の結果	合計	29 / 40
	100点換算	73 / 100
	ランク(A~E)	B
□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし		

事業名		ほっとホームステイ・サポート事業		担当	区局部課名	緑区サービス課	電話	930 - 2431	
担当		課長名		津田 洋子					
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画							重点事業番号	-
		<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針 共に支えあい、誰もが安心して暮らせるまちづくり							
目的	親の養育力低下を地域にセイフティネット(ホストファミリーの確保)を設けることにより補う。地域で子育て支援を活性化することにより、子どもの成長を地域で見守れる街にする。								
内容	子どもの緊急時(親の養育不安・親の入院・事故)などの場合、区内に確保したホストファミリーが短期(1ヶ月以内)のホームステイを実施する。								
根拠法令等	緑区ほっとホームステイ・サポート事業実施要綱								
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算		
	事業費	(千円)		3,129	2,657	1,990	2,007		
	うち一般財源等	(千円)		3,129	2,657	1,990	2,007		
	人件費(概算)	(千円)		1,847	1,800	1,800	1,800		
	総コスト(概算)	(千円)		4,976	4,457	3,790	3,807		
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	ホームステイ利用日あたり		日		7	540	159	168	
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(711)	(8)	(24)	(23)	
	ホストファミリー		世帯		7	10	10	16	
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(711)	(446)	(379)	(238)	
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		地域支援者を設け、事業のあり方について、検討をしている。また、利用者の意向を踏まえて、制度の変更や利用料金の見直しを行っていく予定である。							
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		子育てしやすいまち緑区をめざし、各種事業と一体的に実施している。同種の事業を行っている児童相談所と対象者を明確にわけている。かがやけ横浜子どもプランの中の基本目標である子育てを地域全体で支援する「地域力」を創るに寄与している。							
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		ホストファミリーの登録数が計画どおり増加した。							
4 経済性効率性	6	⑦ コストは削減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		利用料を見直し、区負担の削減をしている。事務については、マニュアルをさらに整備し、受付から利用のコーディネートまで誰もができるようにしていく必要がある。							
5 正確性信頼性	8	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		緑区ほっとホームステイ・サポート事業保険を組み加入している。保護者には、傷害保険の加入をお願いしている。緊急時対応などについて、ホストファミリー研修を行っている。ホームステイを利用する際は、区・ホストファミリー・利用者の三者で契約を締結し、契約内容については、重要事項説明書で説明を行っている。							
総合評価	合計	35	(協働の取組状況)						
	↓	40	地域支援者を設け、事業検討から市民と協働で行っている。事業開始後も実施状況を報告し、事業内容などについて、意見を聞いている。						
	100点換算	88	(環境への負荷)						
		100	当該事業は、環境負荷に影響を与える要因がない。						
ランク(A~E)	A	地域で子育てを支える制度として、こどものセイフティーネットとして、機能を発揮し始めている。今後は、広報をさらに充実させ、ホストファミリーを増員させ、さらに、利用しやすい制度とする必要がある。							

事業名	ほっとホームステイ・サポート事業
-----	------------------

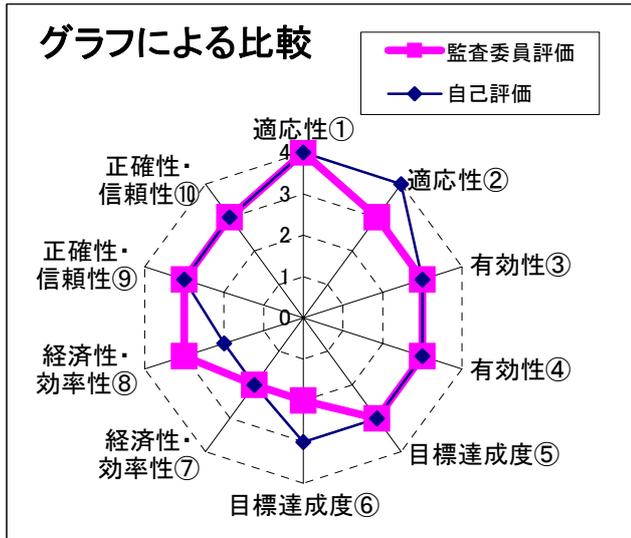


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
親の病気・事故などで養育が困難になった子どもを、地域の家庭で預かる事業である。神奈川県内では、緑区のみで実施されており、長期の宿泊による預かりが可能な点で、他の事業とすみ分けができており、ニーズがある。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域の人にホストファミリーになってもらい、援助を依頼する手法をとっており、地域での子育て支援を推進する点で、効果的な手法である。また、児童相談所では、虐待等の原因により、親による養育ができない場合の事業を実施しており、対象が異なっている。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域のセーフティネットとしての機能を果たすため、ホストファミリーの登録数を目標としている。登録数は増加したものの9家族にとどまり、目標の10家族に達しなかった。小学校区1家庭、計16家庭を目指しており、今後、ホストファミリー数の増加に向けての取組が求められている。なお、利用件数は26件、延べ143日で、予算上の見込数値を下回っている。		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
利用者負担を一部見直し、コストを縮減した。また、支払事務・広報事務について、NPO法人に委託することにより、効率化を図っている。しかし、区の事務については、事務マニュアルが整備されておらず、また、事業執行上、職員の事務分担に偏りがあり、適正な執行体制の確保が難しい状況にある。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
この事業を対象とした「緑区ほっとホームステイ・サポート事業保険」に加入するとともに、ホストファミリーに対して事故対応についての研修を実施した。利用に際しては、利用者に重要事項を説明し、契約を締結している。広報については、ポスターを作成し、地域の団体に掲示依頼するとともに、チラシを作成し、乳幼児健診等、他事業実施の際に配布した。		
監査の結果	合計	29 / 40
	100点換算	73 / 100
	ランク (A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 一時的に養育が困難になった子どもを、地域の家庭で、長期の宿泊により預かることが可能な事業で、他の事業とすみ分けができており、ニーズがある。ホストファミリーの登録数が目標を下回っており、今後、ホストファミリー数の増加に向けての取組が求められている。		

事業名		地域展開型子育て支援拠点整備事業		担当	区局部課名	青葉区福祉保健センターサービス課			
					課長名	高家 達朗			
					電話	978 - 2443			
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画 <input checked="" type="checkbox"/> 運営方針 「子ども・子育て」地域展開型子育て支援と拠点整備		重点事業番号		- -			
目的		乳幼児数の多い青葉区では、養育者の子育て不安や負担感を、より身近な地域で民と行政、関係機関が連携し支援する体制が不可欠である。そこで地域の子育て支援の要となる地域展開型子育て支援拠点を区が設置し、民が運営する。							
内容		2つの地域ケアプラザを活用して、地域展開型子育て支援拠点(以下「拠点」という)を設置し、地域での親子の交流の場づくり、子育て相談、子育て関連情報の収集・提供、地域の子育て支援団体の連携づくり、子育て支援人材の育成の各事業を実施し、子育て支援事業の定着を図る。							
根拠法令等									
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
		事業費 (千円)		-	-	9,370	5,789	6,300	
		うち一般財源等 (千円)				9,370	5,789	6,300	
		人件費(概算) (千円)				10,800	11,083	10,800	
		総コスト(概算) (千円)				20,170	16,872	17,100	
活動・成果指標		名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		親子の居場所事業の実施回数					34	29	94
		活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)					(593)	(582)	(182)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)							
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)							
評価項目		点数	理由・説明等						
1	適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		国や市の施策として、在宅の子育て世帯への支援にも力を入れてきていることや、青葉区の特長として、乳幼児のいる核家族世帯の転入が多いことから、地域の子育て情報や子育て当事者の集いや相談できる場に対するニーズが高く、区としてこれに対応していく必要がある。							
2	有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		地域ケアプラザという身近な地域で子育て支援の場があるということは、子育てを地域で支える基盤づくりの点で地域力の向上に寄与している。							
3	目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		局事業である地域子育て支援拠点事業とはほぼ同じ種類の5つの事業展開を行うことを目標としたが、規模は小さく展開するものの、おおむね実現可能な妥当な目標だった。18年度予算要求時よりは、開設時期は1ヶ月ほどあとにずれ込んだが、公募を経て選考委員会による公開審査で運営法人を決定し、予定どおりに拠点事業を展開することができた。							
4	経済性効率性	4	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		今後フォーラムなどを開催する際の一時託児を実施する場合など、保育のおやつ代、保険料などの実費負担を利用者から求めていくことも検討していく。							
5	正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		拠点の事業の中で使うおもちゃについて衛生面や安全面で気を配り、親子の居場所事業開催時に子どもの事故対策のための保険に加入したり、スタッフへの教育を行ったりして、参加者の安全への対策を行っている。また、拠点の事業については、青葉区ホームページ等で事業の案内を行うなど、努めて情報提供を行っている。							
総合評価	合計	30	(協働の取組状況) 委託事業の実施にあたり、必要に応じて運営法人と連絡調整し、事業の展開のしかたなどを確認しあっている。						
	100点換算	75							(環境への負荷) 必要以上にごみを出さないようにしている。
	ランク(A~E)	B	拠点の運営法人は、法人スタッフだけでなく、地域で活動している子育て支援を行っている人やボランティアにも企画してもらい、地域のネットワークを広げつつ事業を進めている。しかし、これだけにとどまらず、地域ケアプラザ会場を利用している点を生かして、地域ケアプラザで実施している子育て支援の事業にも積極的に協力、協働する形で、事業展開を図るよう、区として運営法人に働きかけていきたい。						

事業名 **地域展開型子育て支援拠点整備事業**

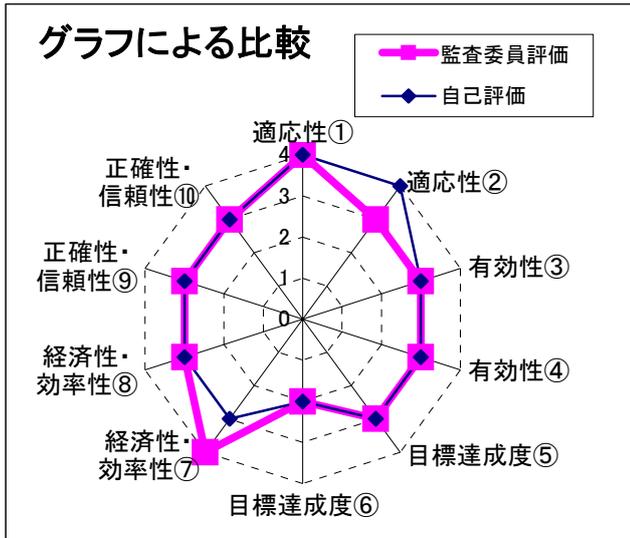


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 青葉区は5歳児までの人口が市内で最も高い区であり、子育てに関するニーズが高い。平成16年度の「わくわく会議」(子育てに関する区民会議)において、子育ての拠点事業のニーズ把握が行われ、今後取り組むべき課題として、「場作り」「ネットワーク」「情報」などがあげられた。市では、地域子育て支援拠点事業を開始したところであるが、青葉区では地域事情を考慮し、地域展開型の拠点整備の推進を図る方向で事業を推進している。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 拠点については1か所に置くのではなく、区内にある2か所の地域ケアプラザを利用する地域展開型を取り入れることで、地域にきめの細かいサービスを提供するものとして開始した。運営は区民との協働を推進する方式として、局と同様に運営団体を公募し委託する形態としている。この事業は区の運営方針に位置付けられている。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 事業初年度のため、専ら拠点の開設と円滑な運営を目標としている。実際の開設時の機能については、予定どおり五つの機能を備えたものとして開設されたが、当初の予定時期よりも1か月ほど遅れて開設することとなった。このため、親子の居場所事業の実施回数が当初の見込みを下回っている。
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 既存の施設を利用し事業を実施することで、局の方式より安価に実施されているが、開設の遅れによる事業実施回数の減により利用者数が少なかったことで、コストの縮減を図ることができなかった。事務処理マニュアルは作成していないが、局や他区の事務を参考にして進めている。専門職、その他保育担当等との情報の共有化を図り、地域ケアプラザとの調整・連携をしながら事業を進めた。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 施設内での事故対応、個人情報の管理については、委託契約の特記事項にのっとりた処理を実施し、備品については台帳を作成し適正管理を行うなど、事故発生防止に努めている。また、開設に当たっては区議員団会議、区連合自治会長会、区民生委員児童委員協議会など、区内関係団体に説明を行っている。区のホームページ、リーフレット、チラシ等により情報提供を行うとともに、戸籍課と連携し転入者への情報提供もしている。
監査の結果	合計 ↓ 100点換算 ランク(A~E)	29 / 40 73 / 100 B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし		

事業名		子育て支援センターポポラPR・交流事業		担当	区局部課名 都筑区サービス課 課長名 玉木 登士彦	電話	948 - 2315
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画				重点事業番号	- -
		<input type="checkbox"/> 運営方針	子育て支援と青少年育成				
目的		・ポポラの本格稼働に伴い、地域子育て支援拠点の事業内容等をあらためて区民へ周知する。 ・ポポラを中心に、子育てに関係する人々のネットワーク化を図る。					
内容		○子育て支援に関する講演会の開催(3月) ○子育て支援に関する事業や子育て支援センターポポラのPRイベントの開催(3月)					
根拠法令等		なし					
コスト		区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
		事業費 (千円)	0	0	1,000	109	0
		うち一般財源等 (千円)	0	0	1,000	109	0
		人件費(概算) (千円)	0	0	3,870	3,870	0
		総コスト(概算) (千円)	0	0	4,870	3,979	0
活動・成果指標		名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込
		講演会及びイベント参加者数	人	0	0	200	420
		成果 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(24)	(9)
		成果 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)					
		成果 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)					
評価項目		点数	理由・説明等				
1	適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■4□3□2□1		
			② 事業を市が行う必要性があるか。		■4□3□2□1		
		本区において地域子育て支援拠点が開設した初年度でありPRが必要であること、少子化や子育て支援の重要性が指摘される社会情勢を鑑みると、現在の市民ニーズにかなった事業です。					
2	有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		□4■3□2□1		
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		□4■3□2□1		
		子育て世代が多く居住する区の特長から、同じ子育て世代の区民や子育て支援に関心のある区民による参加など、適切・妥当な手法が採用されています。事業をきっかけに地域団体との連携が進んでいます。					
3	目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。		□4■3□2□1		
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□4□3■2□1		
		目標の数値化は困難ですが、事業体制や経過、社会情勢から総合的に見て概ね妥当な成果を挙げる事ができました。当初計画は地域子育て支援拠点が実施する予定でしたが、開設遅延に伴い若干計画に修正が必要となり実施時期が年度末になりました。					
4	経済性効率性	6	⑦ コストは削減しているか。		□4■3□2□1		
			⑧ 事務は効率的に行われているか。		□4■3□2□1		
		ボランティア団体や子育て支援センターポポラ(地域子育て支援拠点)の協力により効率的に行いました。					
5	正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		□4■3□2□1		
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□4■3□2□1		
		実施にあたっては職員による見守りを実施するなど、安全に配慮しました。また情報を提供については多くの媒体を利用するなど適切な情報提供に努めました。					
総合評価	合計	31	(協働の取組状況)				
	↓	40	NPOとの協働実施、区民参加の促進に努めました。				
	100点換算	78	(環境への負荷)				
		100	特になし				
	ランク(A~E)	B	「参加者が区全域を網羅しているのか」「子育てに関するネットワーク化を維持するための更なる取組の検討」など課題はありますが、本区の特長(子育て世代が多い)を鑑みると、一定の成果を挙げた事業です。				

事業名	子育て支援センターポポラPR・交流事業
-----	---------------------

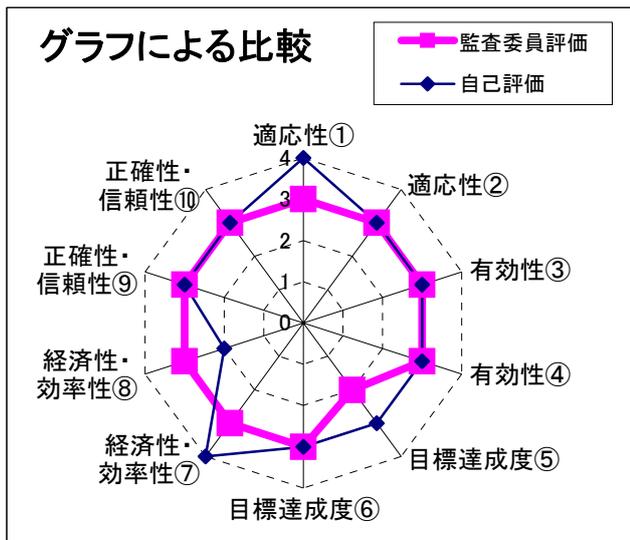


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適切しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 モデル事業として実施していた事業を、地域子育て支援拠点として開設するのに伴い、事業内容等を区民に周知するためのPR事業である。若年・子育て世代の割合が高く、区民に事業内容を周知する必要があった。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 PR事業として、チラシの作成や講演会・子どもたちが参加するイベント・パネル展を実施。事業実施により、地域の団体と拠点が交流できる手法を採った。当初、拠点への委託を予定していたが、区と団体の協働で実施した。運営方針の子育て支援センターの機能拡充に貢献する手法である。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 PRイベントを実施し、その来場者に対し、拠点の事業内容を周知すること等を目標としていた。イベント来場者数は420名で、目標の200名を上回った。しかし、実施時期が、当初目標としていた拠点開設前より大幅に遅れ、3月の実施になった。
	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 当初、拠点への委託を予定していたが、区と団体の協働で実施することにより、大幅にコストを縮減するとともに、事務の効率化を図っている。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 イベント等については、区役所ロビー・会議室で実施し、職員による見守りを行った。PRチラシを団体が作成し、乳幼児検診・赤ちゃん会・子育てサークル等で配布するとともに、ホームページ・広報よこはま区版によりPRを行った。
	合計	31 / 40
監査の結果	100点換算	78 / 100
	ランク (A~E)	B

事業名		あんしん子育て対策事業 (地域における子育て支援)		担当	区局部課名	戸塚区サービス課			
				担当	課長名	阿部 和泉			
					電話	866 - 8409			
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画 <input checked="" type="checkbox"/> 運営方針				重点事業 番号	- -		
		地域の支えあいで作る安心社会のまちづくり							
目的		区民・子育て支援団体と協働で講演会や親子の居場所づくりを行い、子育て支援団体のネットワーク化、子育て情報の共有化をはかり、多様化する子育てのニーズに対応する。							
内容		① 子育てほっとスペース「しゃべり場」を実施 ② 外国人母子対象に7か国語対応リーフレットを作成 ③ とつか子育て応援隊と協働で子育て支援策を検討し、講演会を実施							
根拠法令等		母子保健法、児童福祉法							
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
		事業費 (千円)		4,465	4,407	5,399	4,689	1,986	
		うち一般財源等 (千円)		4,465	4,407	5,399	4,689	1,986	
		人件費(概算) (千円)		1,929	1,929	1,929	1,929	1,781	
		総コスト(概算) (千円)		6,394	6,336	7,328	6,618	3,767	
活動・成果 指標		名 称		H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
		しゃべり場開催回数		回	0	2	5	5	72
		活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)		(3,168)	(1,466)	(1,324)	(52)
		子育て支援講演会の開催		回	1	1	2	3	
		活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)	(6,394)	(6,336)	(3,664)	(2,206)	
		とつか子育て応援隊会議の開催		回	9	10	10	9	
		活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)	(710)	(634)	(733)	(735)	
評価項目		点数	理由・説明等						
1	適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		戸塚区では住宅開発が進み、未就学児を持つ世帯の流入が相次いでいる。出生時や転入時に、親子の居場所や子育て支援情報提供を求める声が多い。行政としては、各子育て支援団体の自主性を生かし、場合によっては協働で事業を実施しながら、団体の支援を行いネットワーク化を図る役割が期待されている。							
2	有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		とつか子育て応援隊において協働で事業内容・手法について検討しながら実施した。講演会実施後のアンケート調査では、よかったとの回答が9割を超え、区政運営方針の目標の実現に寄与している。							
3	目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		しゃべり場の開設は1か所5回実施と当初の計画通りであったが、しゃべり場事業として、意見交換会を区内11か所で実施し、目標以上の成果を得られた。講演会の実施は、準備などの業務量増を考えると目標の2回実施はやや困難な目標と思われたが、小規模でかつ会場を分けることにより、3回実施と目標を上回った。							
4	経済性 効率性	6	⑦ コストは削減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		講師謝金等を中心に経費削減ができた。関係職員で打ち合わせを月平均3回以上行うなど、情報の共有・伝達に努めているが、事務作業の効率化にはつながっていない。							
5	正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		しゃべり場及び講演会実施当日の運営に関しては、実施会場それぞれの事故防止のルールに従って対応している。また事業実施にあたっては、広報区版で特集を組むなど、通常の広報ルートやタウン誌等による周知を行っている。							
総合 評価	合計	31	(協働の取組状況)						
	↓	40	とつか子育て応援隊の構成員である地域役員、子育て支援団体、子育て中の当事者との協働で実施している。						
	100点 換算	78	(環境への負荷) 使用物品等はグリーン購入法適合商品を使用している。また、リーフレットは既存のものを活用している。						
ランク (A~E)		B	地域の子育て支援については、行政で居場所をつくと同時に、民間の支援をバックアップしていく必要がある。次年度以降も、地域子育て支援拠点設置に向けた事業を加え、引き続き取り組んでいく予定である。						

事業名 **あんしん子育て対策事業
(地域における子育て支援)**



4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	6	② 事業を市が行う必要があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 区と区民協働の「とつか子育て応援隊」の企画により講演会を実施するとともに、「かがやけ横浜子どもプラン」で定めた「地域子育て支援拠点」の設置に向けて、地域のニーズを把握するための意見交換会を開催するなど、区民の声を反映しながら事業を進めている。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	6	④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 講演会は、区の北部、中部、南部で分散して開催することによって、区民に対して公平に参加機会を提供している。「地域の子育て支援拠点」のあり方について意見交換会の場を設けているが、その結果はまだまとめられていない。また、子育て支援拠点のモデル事業と位置付けて親子の居場所を設置し、子育て支援者による育児相談などを行い、実証的な検討も進めている。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	5	⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 当該事業の居場所開設は週1回だが、より多くの区民に気軽に利用してもらうためには、回数の増が望まれる。他区では週3回以上開設しているところもあるので参考にしてほしい。講演会は参加者の利便性を考慮して3会場に分割して実施した。参加者の状況は東戸塚地域ケアプラザ67名、区役所35名、大正地区センター64名となっている。
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	6	⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 より低廉な謝金で講演等を依頼することにより、講師謝金等の削減を中心にコスト縮減に努めた。関係職員で打合せを定期的に行い、情報の共有に努めた。
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	6	⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 参加している子どもの人数によって必要な保育協力者を増やして事故防止に努めている。平成18年度はホームページを更新して、提供する情報の充実を進めるとともに、講演会の広報は、「ピースカフェ」や「ぼど」等のタウン誌にも掲載している。
監査の結果	合計 ↓ 100点換算 ランク(A~E)	29 / 40 73 / 100 B □指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし

事業名	つどいの広場さかえ開設事業		担当	区局部課名	栄区サービス課	電話	894 - 8519	
			担当	課長名	加藤 恭司			
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業 番号	- -
	<input type="checkbox"/> 運営方針	地域福祉計画の推進						
目的	障害者の相談及び軽度発達障害児の放課後活動を支援します。また、子育て不安の解消を図るため、子育て中の親子がつどい、交流をする場を提供します。							
内容	(1)障害者の相談を利便性の高い駅前で実施し、相談者の利便性を高めます。 (2)対人関係等において何らかの課題を有する軽度発達障害児の居場所を設け、放課後活動を支援します。 (3)子育て中の親子が気軽に集い、相談ができる場を設け、育児不安を解消するなど、子育てを支援します。							
根拠法令等								

コスト	区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)				12,000	14,124
うち一般財源等 (千円)				10,000	13,504	4,740
人件費(概算) (千円)				1,800	1,800	1,800
総コスト(概算) (千円)				13,800	15,924	10,500

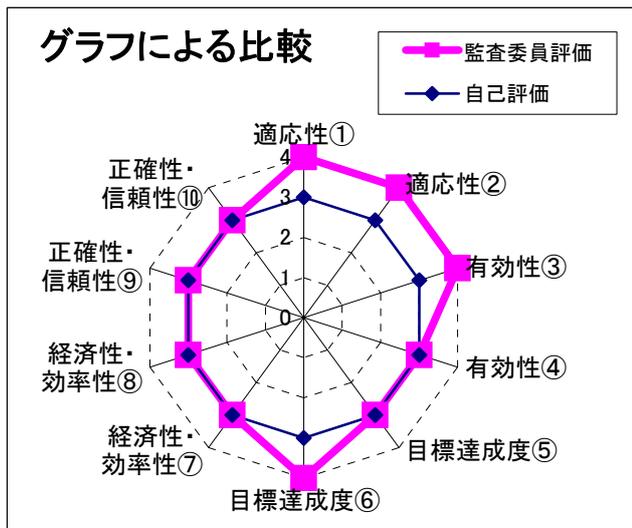
活動・成果 指標	名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		子育てサロンの開催	日/週			5	5
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(2,760)	(3,185)	(2,100)
	軽度発達障害児の放課後活動支援	日/週			4	4	4
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(3,450)	(3,981)	(2,625)
	障害者相談の実施	日/週			5	5	5
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(2,760)	(3,185)	(2,100)

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 子育てにおいては、親子が集える場所や親同士の仲間づくり、子育てに関する相談等に係るニーズが高いのが現状です。また、約6%と推定される特別な教育的支援を必要とする児童については、放課後活動における支援がこれまで手薄でした。このため、市としてこうした場の提供などに対する側面からの支援が必要です。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 子育ての広場においては、くつろぎながら必要なときはいつでも子育ての相談ができる雰囲気を大切にしながら運営されています。また、必要に応じて催しを開くなど、より地域に密着した広場を目指しています。軽度発達障害児の放課後活動の支援は、全区の中でも先進的な取組です。支援の手法として確立したものはありませんが、関係機関の連携の下でより有効な支援を目指しています。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 子育ての広場は、連日、非常に多くの方に利用されており、利用者からも好評です。また、軽度発達障害児の放課後活動支援においては、区内小学校との連携に基づき実施しており、事業の習熟度や運用実態に応じ、可能な範囲で受入児童を増やす方向で検討しています。
	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 つどいの広場さかえは、市及び市社協からの委託や補助を受けた法人が、効率的な事務執行に努めています。また、限られたスペースを有効に活用するため、同一スペースを時間を分け、10:00~15:00は子育てサロン、15:30~17:00は軽度発達障害児支援事業に使用するという工夫をしています。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 乳幼児が利用するスペースであるため、設置備品の転倒防止金具を取り付けたほか、角にはクッション材を貼るなど、安全確保に万全を期しています。利用に当たっては、広報よこはま区版のほか、小学校や関係機関・各種事業等で周知を図っています。

総合評価	合計	30	特記事項 (協働の取組状況) 事業は社会福祉・NPO法人が担っており、両法人ともボランティアスタッフを有効に活用した運営を図っています。 (環境への負荷) 広場で発生したゴミは、利用者の持帰り又は運営法人が処理していますが、事業実施上の環境への負荷は、極めて軽微なものとなっています。
	100点換算	75	
	ランク (A~E)	B	

つどいの広場さかえにおいては、利用者数も多く、また満足度も高い状況です。駅前の利便性の高い場所で、子育て支援や障害者支援に関する情報コーナーを設け、ここに来れば区内の利用・活用資源がすべて分かる形となっています。今後、関係諸団体との連携の下で、更なる有効活用を図っていきます。

事業名 **つどいの広場さかえ開設事業**

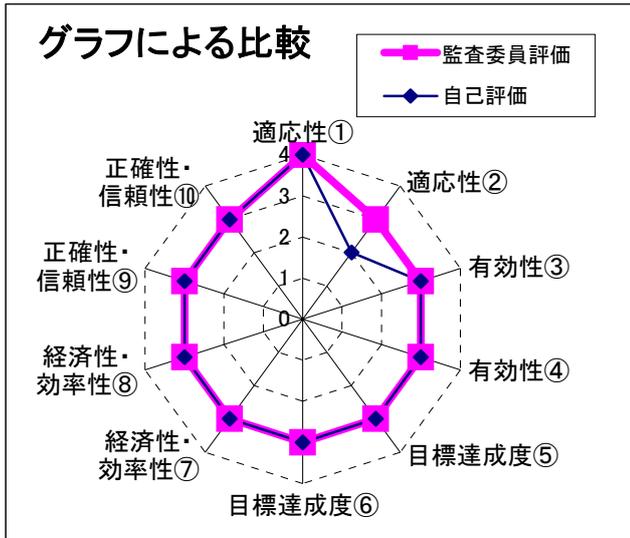


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 子育てサロン、軽度発達障害児への支援、障害者相談の三つの施設を駅前に設置することは、こうした場や機会を切望している多くの障害児・者及び養育者の期待や要望にこたえるものであり、ニーズにかなっている。また、それぞれの事業は社会福祉法人及びNPOとの協働により適切な役割を設定して区が支援する必要がある。
	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 子育てサロンの平成19年3月の登録者数350人で、1日当たりの利用者数は平均68人と、良好な利用状況となっている。また、軽度発達障害児の居場所事業は、中区に次いで二区目であり、現在のところ利用者数の増よりも安全を最優先して、関係機関と連携しながら取り組んでいる。
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 子育てサロンは市の基準では週3日以上のところ、この事業では5日開館しており、利用者数も平均68人の実績があることから、効果の面からも高い目標を達成していると考えられる。
	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 子育てサロンは10:00～15:00、軽度発達障害児の居場所は15:30～17:00と、同じスペースを時間で分けることにより利用効率を上げ、コストも削減している。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 施設は、子どもが利用することを前提に、クッション材を張るなど安全確保に努めている。また、防犯上緊急時には警備会社につながる非常通報ボタンを設置している。事業内容の情報などは広報等を活用し、特に軽度発達障害児の居場所事業については安全確実に支援できる人数を見定めながら事業を進めるため、対象を徐々に拡大している。
	合計	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし 34 / 40 ↓ 100点換算 85 / 100 ランク (A～E) B

事業名		「まち」の子育て支援事業		担当	区局部課名	泉区 サービス課		
				担当	課長名	楠原 光一		
					電話	800 - 2410		
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画							
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	横浜で1番子育てが楽しい区づくり						
重点事業番号	- -							
目的	地域全体で子育てを温かく支えていく仕組みづくりを進め、子育てを通し「地域力」の向上と、健康な親子が育つための「まち」づくりを推進します。							
内容	地域子育て支援事業として、赤ちゃん会、子育てサロンの運営を支援します。 区子育て支援拠点では、子育て情報をホームページで提供するほか、常設の子育て相談を始めるなど拠点機能を充実します。子育て世代の仲間づくりのための育児サークル支援、父親の育児参加を促すための休日両親教室を開催します。							
根拠法令等								
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)					4,272	5,290	7,800
	うち一般財源等 (千円)					4,272	5,290	7,800
	人件費(概算) (千円)					14,400	14,400	14,400
	総コスト(概算) (千円)					18,672	19,690	22,200
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	関連事業参加者数(累計)		人			6,770	6,970	
	<input type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(3)	(3)	
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)						
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)						
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
核家族化が進む中、初めて子育てを経験する保護者は、育児に関する知識が少ないため、不安を抱え、多くの知識や仲間を求めている。これらを軽減するため、育児知識の習得と仲間づくりを目指し、休日の両親教室を実施する。								
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
身近な地域で子育てができるよう地域での事業展開を図った。 地域全体で子育てを支えていくため、自治会など地域の協力を得ながら、地域の運営支援者と連携・調整を行い、事業の重複・欠落が生じないよう調整を図っている。 事業の成果を上げることで、上位施策の「かがやけ横浜こどもプラン」の目標の実現に寄与している。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
拠点事業は、子育てサロンは、12月までに地域運営団体の協力により目標数開設することができている。 赤ちゃん会や子育てサロンは、開催地域や対象乳幼児人口の不均衡を是正していくとともに、運営者と協力し参加しやすい内容になるよう工夫した。								
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
地域での開催は、地区センターや地域ケアプラザ、自治会館などを借用することにより会場借り上げ費用を節減した。 運営には、地域の子育てボランティアの協力を求め、保育園に地域支援事業の一環で保育士を派遣してもらうなど経費の節減に努めた。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
地域の運営者には、必要以外の個人情報の収集を行わないこととし、管理にも注意するよう研修で指導している。 広報よこはま区版、区ホームページ、乳幼児健診時のチラシ、タウン誌など多様な広報媒体を活用し幅広く周知に努めている。								
総合評価	合計	30	(協働の取組状況)					
	↓ 100点換算	75	特記事項	(環境への負荷)				
	ランク (A~E)	B	父親の積極的な育児参加や、地域の協力が必要になっているところから、父親が楽しく育児ができるような内容とするとともに、地域住民が主体性を持ち地域での子育てを見守っていく風土づくりのために一層の支援が必要である。					

事業名 「まち」の子育て支援事業

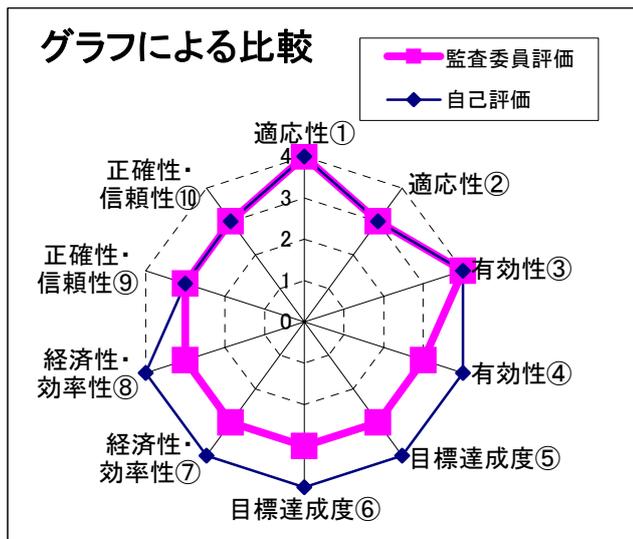


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域全体で子育てを支えたいという地域の要望を受け、子育てサロンなどの事業を実施している。泉区としての地域特性をとらえ、区民アンケートでニーズを把握しながら、各事業を実施している。民間事業者が実施している事業も見受けられるが、泉区民アンケートによると区に寄せるニーズが高く、区として実施していく必要がある事業である。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域型赤ちゃん会や子育てサロンの運営は、自治会や地区社協等地域の協力により行われている。事業の地域展開において地域住民の協力が不可欠であるが、積極的に運営に参加・協力していこうとする泉区の地域特性を十分に反映して実施されている。区政運営方針の「横浜で一番子育てが楽しい区づくり」のための事業として位置付けられている。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
子育てサロンや子育て支援拠点事業は、身近な場所に居場所を設置することを目標として実施されている。保育士派遣事業については、地域で行われている事業の年間計画と整合性がとれず、今回は2回の派遣にとどまっている。赤ちゃん会の参加者は698人(対象者850人)で、区内の各地域で実施された。他の事業についても、おおむね予定どおり実施されている。		
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
両親教室の実施以外は、ボランティアによる運営が主で、また、地域の主催により自治会館等を利用するなど、経費負担を意識した事業の組立てとなっている。泉区では保健師等について地区担当制をとっており、地域の実情など必要な情報について、各担当間の連携によって統合された福祉の支援体制を推進している。		
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
ボランティアを含め事故防止・安全研修を区で実施しており、危機管理体制の整備を行っている。個々の事業のPRについては、それぞれの事業の対象を考慮し、検診でのチラシ配布、手帳交付や訪問時の案内、地域の広報誌、広報よこはま区版への掲載など効果的な方法を使い分けている。		
監査の結果	合計	31 / 40
	100点換算	78 / 100
	ランク (A~E)	B
□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし		

事業名		子育てギャラリー事業		担当	区局部課名	瀬谷区サービス課		
				担当	課長名	多田眞理子		
					電話	367 - 5701		
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業番号	- -
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	重点推進項目 やさしさ交流						
目的	アレルギーセンター跡地を有効活用するとともに、人口が比較的多い割に適当な施設、場所が少ない二ツ橋、三ツ境地区の子育て支援をバックアップします。また、19年度以降に整備が予定されている「子育て支援拠点」のプレ事業的な意味を持たせ、当該施設・地域における子育てニーズを調べます。							
内容	アレルギーセンター跡地を用いて、保育園と幼稚園のパネル展や9月から3月まで子育てサロン、子育て相談を行います。							
根拠法令等	母子保健法 母親教室実施要領 横浜市次世代育成支援行動計画「かがやけ横浜子どもプラン」 横浜市中期計画 瀬谷区区政運営方針							
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)			-	-	863	863	1,108
	うち一般財源等 (千円)			-	-	863	863	1,108
	人件費(概算) (千円)			-	-	4,618	4,618	3,694
	総コスト(概算) (千円)			-	-	5,481	5,481	4,802
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	幼稚園・保育園パネル展実施日数		日	-	-	112	112	112
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		-	-	(34)	(34)	(28)
	子育てサロン実施回数		回	-	-	26	26	52
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		-	-	(65)	(65)	(31)
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		乳幼児の養育者は子育てに対する不安が高く、また、少子化等の影響により、仲間づくりが難しくなっています。また、乳幼児が安全に遊ぶことのできる場所が必要となっています。そこで、地域の中に親子の居場所を確保することにより、安心して楽しく子育てすることを支援しています。アレルギーセンター跡地で実施することにより、子育て支援拠点の設置につながります。						
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		幼稚園・保育園等と共同実施することなどにより、効率的に執行することができた。						
3 目標達成度	8	⑤ 目標の水準は適切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		適切である。幼稚園・保育園相談会の実施や、子育てサロンミニイベント、地域振興かとの協働子育て事業等、計画を上回る取組ができた。						
4 経済性効率性	8	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		子育てサロンの運営については、保育士・看護師等を雇用することにより、地域の担い手を育成するとともに、人件費の抑制ができた。パネル展は、幼稚園・保育園等と協働実施することなどにより、効率的に執行することができた。						
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		事業実施に当たっては、乳幼児を対象とするものが多い為、安全に執行できるよう、アルバイトを含めて注意喚起しながら執行した。						
総合評価	合計	37	(協働の取組状況)					
	↓	/ 40	幼稚園・保育園等と協働で、新規事業に取り組むことができた。					
	100点換算	93	(環境への負荷)					
		/ 100	保育物品を廃物を利用して手作りするなど、環境への負荷の低減に努めた。					
ランク (A~E)		A	幼稚園・保育園パネル展については、当初はアレルギーセンター跡地でのみの実施予定だったが、パネルの有効活用を兼ねて、区内3箇所での巡回実施をすることができた。					

事業名	子育てギャラリー事業
-----	------------



4:十分にできている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 ■4□3□2□1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 □4■3□2□1 アレルギーセンター跡施設での地域子育て支援拠点整備に向けたプレ事業で、子育てのニーズ調査を兼ねて実施している。二ツ橋地区については、これまで子育て関連施設がなかったため、地域からの要望があり、子育てサロン、子育て相談、保育園・幼稚園パネル展等を実施している。なお、集いの広場が、区内に2か所あるが、最近転入してきたいわゆる新住民が多い等の地域特性を踏まえて、施設を設置している。
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 ■4□3□2□1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 □4■3□2□1 子育てサロンを実施することで、在宅で育児をしている人の育児不安の解消や、育児相談の内容を区の職員と共有することにより、必要とされている子育て支援につなげている。また、保育園・幼稚園パネル展の実施により、従来は情報の少なかった同施設の紹介をすることで、入所への不安解消を行っている。特に、幼稚園が初めて参加したことで、今後の連携が期待されている。この事業は区の運営方針に位置付けられており、局の子育て支援拠点設置に向けた取組である。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 □4■3□2□1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 □4■3□2□1 子育てサロンのニーズの把握、親子の居場所の拡充、保育園・幼稚園の連携や情報提供を目標としている。サロンは計画どおり毎週実施しているが、計画では午前・午後開設予定であったものが、利用者数の動向から、午前みの開設としている。パネル展については、当初1会場での予定であったものを3会場に増設して実施した。相談会については、パネル展と併せて実施し、その他の相談についてはサロンでの簡易な対応となっている。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 □4■3□2□1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 □4■3□2□1 事業の実施に当たって、使用料のかからない施設を使うことで会場費を節減した。パネルについては、毎年繰り返して使用できるように工夫して作成した。謝金については、当初の積算の基準を変更して支出したが、配置人員を減らして調整したので、増えることはなかった。事務処理マニュアルは作成していないが、事業報告書を作成しており、以降は、この報告書を参考にして事務を執行することとしている。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 □4■3□2□1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 □4■3□2□1 事業実施施設と区役所とは、不測の事態に備えて連携することとなっているが、事故は発生していない。事故対応マニュアルについては作成することを検討中であるが、スタッフに対する安全確保・事故対応研修は実施されていない。個人情報の管理については、事業終了後の管理体制を定めている。また、情報提供は区が持っている資料等を最大限利用して行っており、事業の対象者には、ほぼ行き渡っていると考えられる。
監査の結果	合計	32 / 40
	100点換算	80 / 100
	ランク (A~E)	B

□指摘事項 □改善要望事項 ■評価の理由 □なし

将来の地域子育て支援拠点の開設に向けたプレ事業として、地域のニーズや利用状況の調査を兼ねて実施している。今後、地域子育て支援拠点が開設されるまで、継続して実施していく事業としての位置付けとなっているが、子育てサロンを実施したことで把握したニーズを、地域子育て支援拠点事業の実施のときに有効に活用していくことが望まれる。

1 基本情報

評価対象の基本施策名	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します	基本施策番号	2 - 2
関連する基本構想	1. 世界の知が集まる 交流拠点都市	担当	進行管理担当課名 都市経営局 政策課
重点政策名	【重点政策2】 子ども未来戦略	担当	課長名 井尻 靖 電話 671 - 3911
重点政策の目的	横浜の未来を担う子どもたちが健やかに育つ都市を実現します		
現状と課題	学力向上、国際化に応じた語学教育の推進、家庭・地域・学校など社会全体の教育力の向上、障害のある子どもへの適切な教育的支援、市立高校改革の推進などが求められている。		
取組の方向と目指す姿	子どもたちが自ら考え、判断し、行動できる総合的な力を育むための取組と、そのための教員の指導力向上を図る。学校・地域・家庭の役割・責任を明確にし、協力し取り組むことで社会全体の教育力を向上していく。障害のある子どもへの支援、不登校対策など子ども一人ひとりに応じた取組を進める。市立高校の個性・特色を明確にする。		

2 目標の達成状況(指標の選定または、変更・追加の理由を記入。累積値の場合は、※を記入。)

達成目標(成果指標)		H17実績	H22目標値	H実績	H目標値	H達成率
①	保護者等満足度の向上	-	向上	-	-	-
指標の選定・変更理由	学力の指標ではなく、子どもの教育環境全体をとらえるために、保護者、地域などの満足度(評価)を目標とした。(具体的な指標設定は、平成19年度に調査を実施し、設定する。)					
②		-				
指標の選定・変更理由						

3 施策を構成する重点事業の事業費総額(億円)

	H18年度	H19年度	H20年度～H22年度合計	計画期間合計
概算事業費(実績・予算)	8	11	56	75

4 施策を構成する重点事業の主な課題(共通する課題等)

共通課題等	子どもの学力低下への懸念、社会帰属意識及び規範意識の低下、いじめ・暴力など子どもを取り巻く問題は、学校だけでなく家庭や地域が力を合わせて解決していく必要がある。
-------	--

5 項目別評価

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	着眼点評価、理由・説明等
政策目的等との整合性	①基本構想または政策の目的を実現するために適切なものとなっているか。 ■4 □3 □2 □1 子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成することは、子どもたちが自らの人生を切り拓いていく力を身につけさせ、横浜の未来を担う市民を育てていくことであり、交流拠点都市を支えていく上で不可欠な施策であることから、政策目的と施策の関係は十分に明確である。
適応性	②市民ニーズや社会経済情勢の変化に柔軟に対応しているか。 □4 ■3 □2 □1 国際化、情報化などの社会経済情勢、教師力向上などの教育ニーズに的確に対応した施策となっている。今後も子どもを取り巻く環境の変化に柔軟に対応した取組を行っていくことが求められる。
目標達成度	③目標水準を適切に設定しているか。 □4 □3 □2 ■1 施策の目標を適切に示す指標であるが、目標は19年度に設定することとしているため、設定が不十分と考え、低い水準に準じた評価とした。 ④施策の目標水準どおりに進めることができているか。 □4 □3 □2 ■1 目標が未設定であり、評価できない。(評価点は1で集計)
有効性	⑤事業の重点化について明確な理由をもって行っているか。 □4 ■3 □2 □1 施策の目標達成に向けて、それぞれの事業が、国際化、情報化などの社会ニーズ、教師力向上などの教育ニーズに対応した事業として重点化されている。 ⑥施策を構成する事業が円滑に進むように調整をしているか。 □4 ■3 □2 □1 施策を構成する事業の進捗状況の確認、調整などを行い、18年度は概ね予定どおりに進んだ。

6 総合評価(上記1～5とランクを踏まえて記入)

ランク(A～C)	B	横浜の未来を担う子どもたちが健やかに育つ都市像の実現に向け、学校教育を取り巻く状況や変化、多様化する教育ニーズに対応した施策となっている。施策目標は、保護者等の満足度を適切に示し、市民に分かりやすい明確な目標を設定する必要がある。事業は全体としておおむね順調に進んでいる。	合計 ↓ 100点 換算	15 / 24 63 / 100
----------	---	--	-----------------------	---------------------------

7 改善の方向性

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 計画の検証 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
何を どのような 状態にするか	何時までに

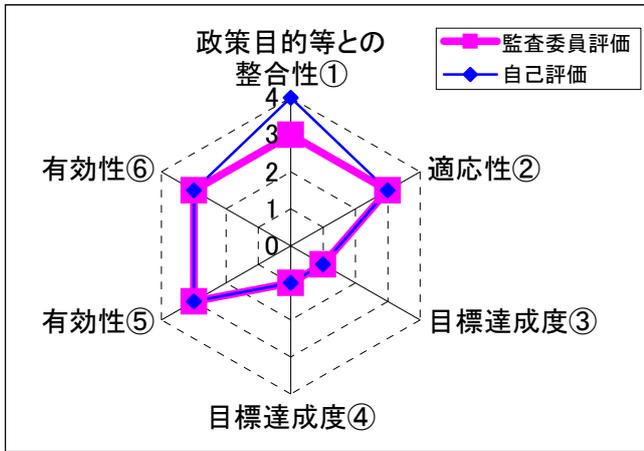
施策評価シート【監査委員評価】

平成 18 年度

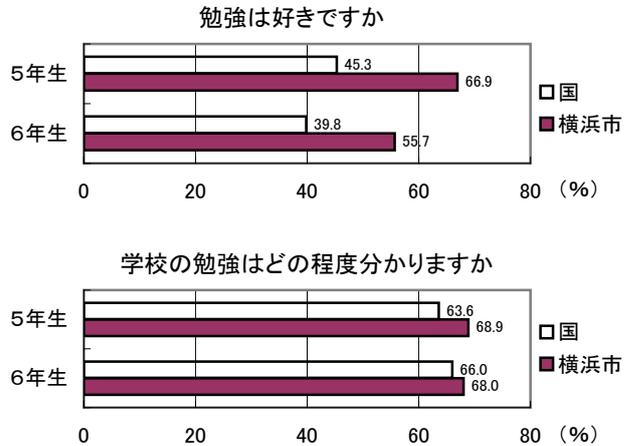
1 基本情報

基本施策名	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します	基本施策番号	2 - 2
-------	------------------------------------	--------	-------

【グラフによる比較】



平成18年度 横浜市学習状況調査(小学校)



2 項目別評価

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	着眼点評価、理由・説明等
政策目的等との整合性	<p>①基本構想または政策の目的を実現するために適切なものとなっているか。 □4 ■3 □2 □1</p> <p>子どもたちの学力低下や発達障害児の増加、家庭や地域における教育力の低下などは喫緊の課題となっており、「横浜の未来を担う子どもたちが健やかに育つ都市を実現します」という政策目的との関係は明確である。</p>
適応性	<p>②市民ニーズや社会経済情勢の変化に柔軟に対応しているか。 □4 ■3 □2 □1</p> <p>施策を構成する各事業において市民ニーズや社会情勢の変化を適宜とらえており、学習内容や生活実態の把握に努めている。「教師力の向上」事業の実施に当たっては、都市部における教員不足という深刻な事態を踏まえ、質の高い教員の確保策として「よこはま教師塾」を開設するなど柔軟な対応を行った。</p>
目標達成度	<p>③目標水準を適切に設定しているか。 □4 □3 □2 ■1</p> <p>達成目標(成果指標)としている「市立学校に対する保護者等の満足度の向上」については、平成19年度に目標設定することとしているため、平成22年度目標値「満足度向上」は、現段階では客観的に進ちよく状況を示す目標水準になっていない。</p> <p>④施策の目標水準どおりに進めることができているか。 □4 □3 □2 ■1</p> <p>施策の達成目標(成果指標)の数値化については平成19年度に設定することを予定しており、平成18年度の進ちよく度合については判断できない。</p>
有効性	<p>⑤事業の重点化について明確な理由をもって行っているか。 □4 ■3 □2 □1</p> <p>「学力及び社会性の育成」という施策目標達成のために優先すべき事業については、中期計画の重点事業として位置付けている。</p> <p>⑥施策を構成する事業が円滑に進むように調整をしているか。 □4 ■3 □2 □1</p> <p>施策を構成する各事業については、予算、決算時などに事業所管局へのヒアリングを通して進ちよく状況の確認を行うとともに、状況に応じて関係課長会の開催や都市経営執行会議に付議するなど調整を図っている。</p>

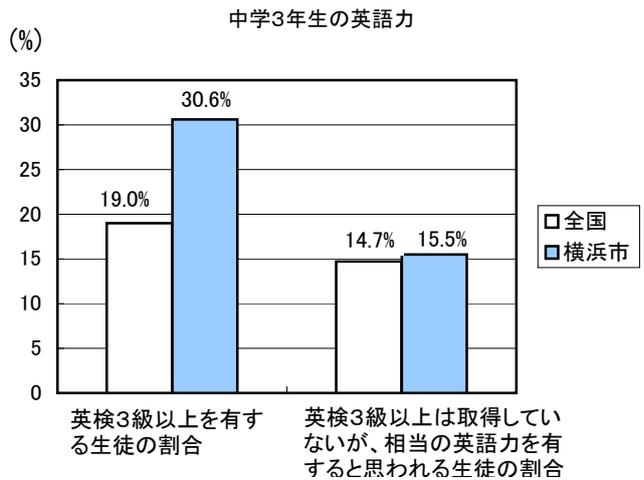
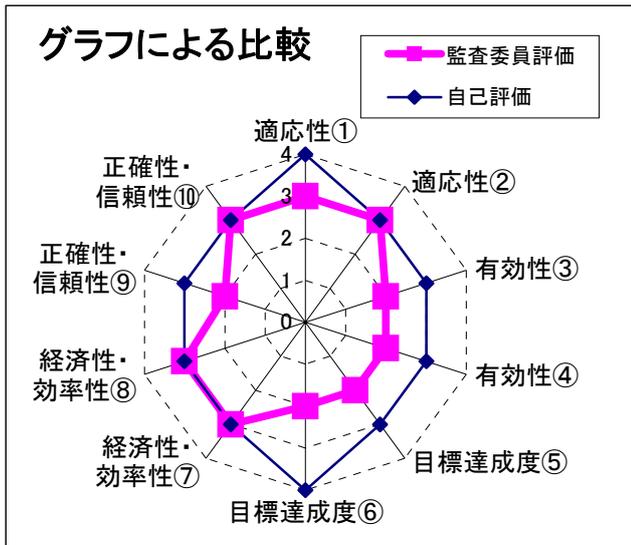
3 総合評価

ランク(A~C)	B	<p>教育基本法の改正や国際化の進展、いじめの問題など、子どもや学校教育を取り巻く環境は大きく変化しており、子どもたちに対して充実した質の高い教育の機会を提供することが教育行政に求められている。また、学校、家庭及び地域が緊密に連携協力しながら、社会全体の教育力の向上を目指していくことが期待されているが、この施策の目標は単に「満足度向上」となっており客観的なものではない。達成目標(成果指標)については、平成19年度にアンケート調査を行う予定としており、定期的かつ確実に目標の達成状況を把握していく必要がある。また、全学校における児童生徒、教員等の状況を的確に把握するとともに、学校の実態に即した支援体制を構築することが求められている。</p>
----------	---	--

合計	14
↓	/ 24
100点換算	58
	/ 100

事業名		英語教育改善事業		担当	区局部課名 教育委員会事務局学校教育課	課長名 河野 良雄	電話 671 - 3588	
施策名	■中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します				重点事業番号	2 - 2 - 2	
	■運営方針	英語教育の充実						
目的	本市の学校教育における英語教育の充実を図るため、ネイティブスピーカーの活用、授業の改善や地域人材等民の力を活用した指導体制の充実を図ります。							
内容	中学校英語教育推進校を20校にAET (Assistant English Teacher) を常駐させ、英語力向上につながる指導法や教材開発を行います。 英語教育推進校区を中学校区単位で5校区(中5校・小5校程度)設置し、小・中の連携を図った英語教育を実施します。 小学校英語活動推進校を市立小学校54校に設置し、英語教育の指導体制や教材開発を行います。							
根拠法令等								
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)	3,343	36,400	175,157	93,170	355,420	
	うち一般財源等	(千円)	3,343	36,400	175,157	93,170	355,420	
	人件費(概算)	(千円)	18,752	18,472	18,000	18,472	18,000	
	総コスト(概算)	(千円)	22,095	54,872	193,157	111,642	373,420	
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	小学校英語活動推進校数		校	23	38	54	54	140
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(961)	(1,444)	(3,577)	(2,067)	(2,667)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。					■4□3□2□1	
		② 事業を市が行う必要性があるか。					□4■3□2□1	
小学校英語教育のニーズの高まりを受けて、小中学校が連携した英語教育について研究を始めている。学校へのアンケートや授業に対するオブザベーションを行う中で、学校から意見・要望を把握して、その結果を次年度の改善につなげている。								
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。					□4■3□2□1	
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。					□4■3□2□1	
・施策を構成する事業は、英語教育を充実させるのにふさわしいものとなっており、重点化を図り、確実に推進している。 ・小中学校それぞれにおける施策は重点化を図りつつ推進しているが、9年間を見通した英語教育という点では、プログラムにおいて理念等の確認をしているところであり、今後は学校現場における具体的な支援等の充実を図っていかねばならない。								
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。					□4■3□2□1	
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。					■4□3□2□1	
・小中学校英語教育推進プログラムにおいて、横浜の子どもを取りまく環境等を踏まえねらい等を設定したが、時数の設定や教育課程上の扱いについては、国の方針が示されるのを待つ必要があり、明確にできない部分がある。								
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。					□4■3□2□1	
		⑧ 事務は効率的に行われているか。					□4■3□2□1	
委託化により、廉価で質の高い講師を配置している。 委託化により、経費の支出や労務管理が軽減された。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。					□4■3□2□1	
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。					□4■3□2□1	
英語指導助手受入れガイドブックを作成し、学校に配布するとともに、委託業者との連携において、対応マニュアルを作成し、迅速に対応している。 ホームページに掲載することで、事業趣旨や実施内容など必要な情報は提供できている。								
総合評価	合計	32	(協働の取組状況) 地域で英語が堪能な人材を発掘・採用することで、小学校英語活動を充実させるとともに、地域に開かれた学校としての役割も果たしている。					
	100点換算	80	(環境への負荷) 地域人材の採用に際して、募集チラシの配布等は行わずに、学校で把握している地域情報を活用している。					
	ランク(A~E)	B	市民ニーズや社会経済情勢の変化に的確に対応しており、地域人材の活用により地域における学校の役割が推進されるが、小中学校9年間を見通した英語教育のあり方やその実現について、具体的な検討を進めていく必要がある。					

事業名	英語教育改善事業
-----	----------



※文部科学省：平成18年度英語教育改善実施状況調査（中学校）

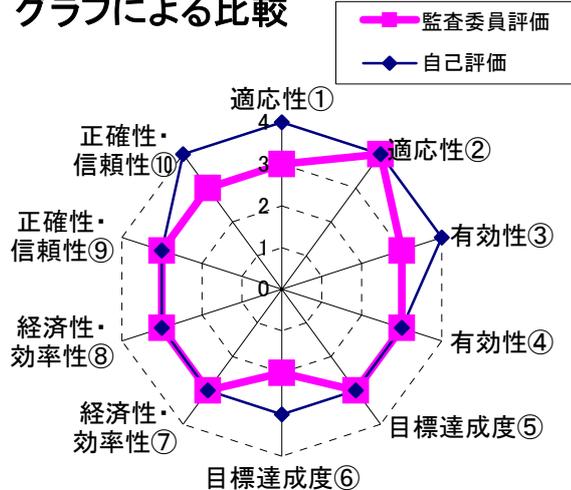
4：十分できている 3：できている 2：あまりできていない 1：できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		文部科学省の「小学校の英語教育に関する意識調査」（平成16年度）によると、児童の7割以上が英語活動の時間が好きと回答しており、保護者の7割以上が英語教育の必須化を望んでいる。また、英語は国際社会の中で共通のコミュニケーションツールでもあるところから、外資系企業や外国人観光客の誘致に力を入れている国際港都横浜の地域特性に照らしても、その必要性は高いものと考えられる。
2 有効性	4	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		平成16年度より小学校英語活動推進校、中学校英語教育推進校を設置して事業を行っているが、その効果について計測可能な方法で検証されていないため、AETを活用した授業の効果が判然としない。そのため、この事業がどの程度施策の向上に寄与しているのか確認することができない。
3 目標達成度	4	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		所管課では成果指標として小学校英語活動推進校数を掲げているが、この事業の目的が生徒の英語力向上であるとすると、同推進校数は、むしろ活動指標というべきであり、英語を学ぼうとする態度が身についたと認められるかどうかや、英語でコミュニケーションをとることができるようになったかどうかを成果指標として設定すべきである。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		従来は、国のJETプログラムで招致した外国青年をAETとして採用していたが、かなりの費用と事務作業が必要であった。これを委託化することで、コストの縮減と事務作業の軽減につなげることができた。
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		年度途中で地域ボランティアが生徒の安全を脅かす事件を起こした。その後、この事件がきっかけとなって「学校教育ボランティアの活用に関する指針」が作られた。事業計画書、運営方針、横浜教育ビジョン推進プログラムにより情報提供している。今後、市民、保護者向けに事業の理解促進のためのリーフレットを作成し、配布する予定である。
合計	25 / 40	□指摘事項 ■改善要望事項 □評価の理由 □なし
100点換算	63 / 100	小学校における英語教育の実施に当たっては、教育改革会議の答申でも指摘されているとおり適切な評価規準や評価方法が必要である。答申の中では、小中学校英語一貫教育を通して、「中学校卒業段階で、外国人来訪者に対して、自らが考える横浜の良さを伝え、簡単な横浜市の観光案内をできる」という目標を掲げているが、その英語力が具体的にどの程度のものなのか不明瞭である。また、平成18年度に策定された小中学校英語教育推進プログラム（中間案）では、小中学校9年間を見通した英語教育のねらいや概要が中心で、具体的な評価規準や評価方法は示されなかった。
ランク (A~E)	C	文部科学省の英語教育改善実施状況調査（平成18年度）を見てみると、横浜市の中学3年生の英語力は、むしろ全国平均を上回っていると考えられる。こうした状況も踏まえて、今後どの程度の英語力の向上を目指すのか、平成17年度から開始した横浜市学習状況調査を活用するなどして市民に分かりやすい明確な目標水準を示すとともに、事業の実施結果を検証するための評価規準と評価方法を確立することが期待される。 また、事業の進め方については、昭和62年以降ネイティブスピーカーのAETを大量に採用し、積極的に活用してきたが、これまでのところ、その効果について検証した形跡は認められない。そのため、費用対効果の点で的確な評価がなされないままとなっている。最少の経費で最大の効果を上げることが求められており、早急に検証されたい。

事業名		小学校英語教育理解推進事業		担当	区局部課名	教育委員会事務局学校教育課	電話	671 - 3588	
施策名	■ 中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します					重点事業番号	2 - 2 - 2	
	■ 運営方針								
目的		平成19年度からの小学校における英語教育の順次実施に向けて、小学校における教育課程、英語教育への保護者や市民などの理解促進を図る。							
内容		(1)平成17年度に策定された小中学校英語教育推進プログラムをもとに、目標、内容、指導体制を含めイメージが浮かぶようなリーフレットを作成する。 (2)小学校教員を対象とした小学校英語教育フォーラムを開催する。							
根拠法令等									
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費 (千円)			0	0	1,000	160	0	
	うち一般財源等 (千円)			0	0	1,000	160	0	
	人件費(概算) (千円)			0	0	250	257	0	
	総コスト(概算) (千円)			0	0	1,250	417	0	
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	参加人数		人			500	350		
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(3)	(1)		
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)							
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)							
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。				■4□3□2□1			
		② 事業を市が行う必要性があるか。				■4□3□2□1			
		・小中学校英語教育推進プログラム(中間案)では、横浜市教育ニーズ調査を踏まえ、社会状況の変化に応じた内容を盛り込んでいる。 ・プログラムリーフレット版作成およびフォーラムの開催については、小学校英語教育について、市民や教職員の理解を促進するうえで有効であり、市が行う必要性がある。							
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。				■4□3□2□1			
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。				□4■3□2□1			
		・施策を構成する事業は、英語教育を充実させるのに効果的であり、重点化を図り、確実に推進している。 ・9年間を見通した英語教育という点では、プログラムにおいて理念等の確認をしているところであり、今後は学校現場における具体的な支援等の充実を図っていかねばならない。							
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。				□4■3□2□1			
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。				□4■3□2□1			
		・小中学校英語教育推進プログラム(中間案)において、横浜の子どもを取りまく環境等を踏まえねらい等を設定したが、時数の設定や教育課程上の扱いについては、国の方針が示されるのを待つ必要があり、明確にできない部分がある。 ・小中学校英語教育推進プログラムリーフレット版については、今後国から示される学習指導要領に則り、時数等に関して見直す必要がある。							
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。				□4■3□2□1			
		⑧ 事務は効率的に行われているか。				□4■3□2□1			
		講師依頼や広報、資料作成等を担当ごとに振り分けることで、個人の事務負担を減らした。 リーフレットの印刷を自ら行い、支出を抑えた。							
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。				□4■3□2□1			
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。				■4□3□2□1			
		・市民、保護者、教職員が共通理解を図れるよう、小中学校英語教育推進プログラム(中間案)を作成し、フォーラムを開催した。 ・記者発表、ホームページに掲載することで、事業趣旨や実施内容など必要な情報は提供できている。							
総合評価	合計	32	(協働の取組状況)						
	↓	40	シンポジウムの形式で、市民の意見も参考にしている。						
	100点換算	80	特記事項	(環境への負荷)					
		↓	案内については、各学校には組織メールで、市民にはホームページを活用して行った。						
		ランク(A~E)	B 市民ニーズや社会経済情勢の変化に的確に対応しており、市民、教職員の理解推進に貢献できているが、今後は国の動向を見据え、内容面で修正が必要であり、継続して取り組んでいく必要がある。						

事業名 **小学校英語教育理解推進事業**

グラフによる比較



小学校で英語教育を必修とすべきか

	そう思う	そう思わない
保護者	70.7%	21.5%
教員	36.6%	54.1%

小学校で英語教育を必修とすべきでない理由
(教員、複数回答)

小学校では他の教科の内容をしっかりと学んでほしいと思うから	68.2%
正しい日本語を身につけることがおろそかになると思うから	44.0%
子どもの負担が増えると思うから	43.9%
小学校では英語を教えることができる先生が少ないから	22.4%

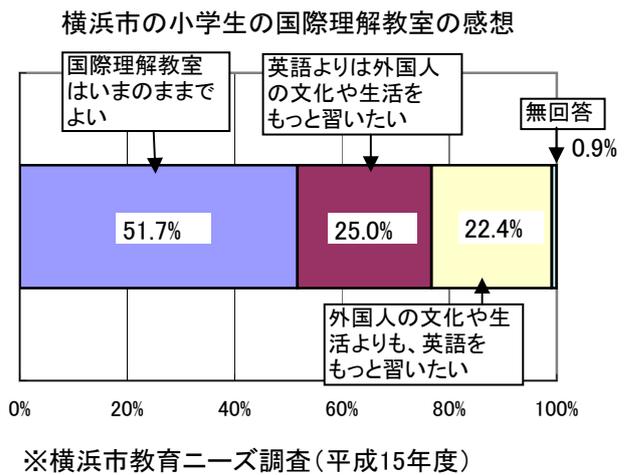
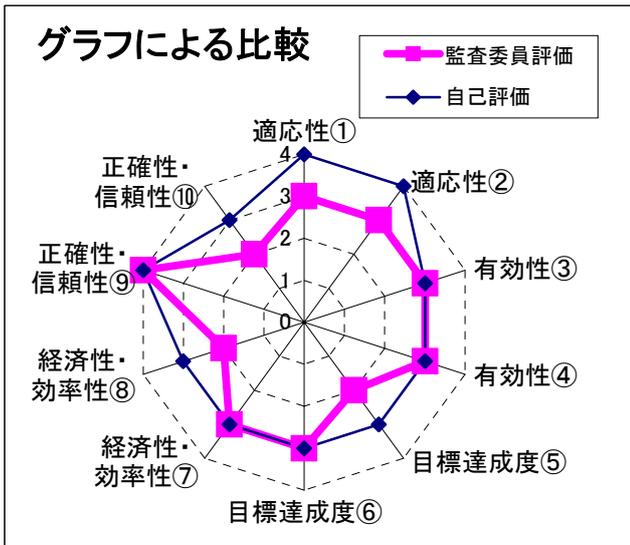
※文部科学省
「小学校の英語教育に関する調査」(平成16年度)

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
文部科学省の「小学校の英語教育に関する意識調査」(平成16年度)によると、「小学校で英語教育を必修とすべきか」との問いに、半数以上の教員が「そう思わない」と答えるなど、小学校への英語教育導入に疑問や不安を感じている教員は多い。平成19年度から本市では順次小学校において英語教育を行っていくため、教員や市民に趣旨等を説明する必要があった。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
小学校全校を対象とした「小学校英語教育フォーラム」には、平成19年度から英語教育を導入する予定のほとんどの小学校から参加があった。また、50名の市民がフォーラムに参加した。こうしたことから、施策に対しても一定程度寄与したといえる。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
全小学校数を考えると、「小学校英語教育フォーラム」への参加予定人数を500人としたことは妥当な水準といえる。ただし、実際の参加人数は当初の予定を下回った。また、平成18年度は国から小学校への英語教育導入に関する明確な指針が出されなかったため、リーフレット(案)は作成したものの、配布はしなかった。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
当初リーフレットの印刷、作成を業者に委託する予定だったが、配布を取りやめたためその必要はなくなった。最終的には講師の報償費とフォーラム用の看板製作委託料の支出のみで済んだ。それに伴い、事務作業量も限られた。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
「小学校英語教育フォーラム」の講師選定にあたっては、国の動向に精通している人を選んだ。講師の謝金については、教育委員会で内規を定め、それにのっとって適切な額とした。 横浜市英語教育推進協力者会議の議事録はホームページで公開しているが、小学校への英語教育導入に関する市民への周知については、リーフレットの配布を取りやめたこともあり、今後検討が必要である。		
監査の結果	合計	30 / 40
	100点換算	75 / 100
	ランク(A~E)	B
□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし		

事業名		小学校国際理解教室		担当	区局部課名	教育委員会小中学校教育課		
					課長名	河野 良雄	電話	671 - 3588
施策名	■中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します					重点事業番号	2 - 2 - 2
	■運営方針	小中学校の一貫した英語教育の推進						
目的	全小学校に外国人講師を派遣し、英語で外国の生活や文化を紹介する国際理解教室の中で、小学校段階にふさわしい体験的な英語活動を取り入れながら、児童の国際性を養う。							
内容	対象:横浜市立小学校 349校(全校) 授業回数:1クラスあたり年平均4~5回 *平成11年度から全校実施(派遣校数349校、派遣講師数97人)							
根拠法令等								
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費 (千円)		118,228	119,139	118,020	116,688	120,853	
	うち一般財源等 (千円)		118,228	119,139	118,020	116,688	120,853	
	人件費(概算) (千円)		18,752	18,472	18,000	18,472	18,000	
	総コスト(概算) (千円)		136,980	137,611	136,020	135,160	138,853	
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	年間授業回数		回	5	5	5	5	5
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(27,396)	(27,522)	(27,204)	(27,032)	(27,771)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■4□3□2□1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		■4□3□2□1				
		小学校国際理解教室は横浜市教育ニーズ調査を踏まえたヨコハマ語学教育に位置づけられており、社会状況の変化に応じた内容となっている。						
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		□4■3□2□1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		□4■3□2□1				
		6年間異なった国の外国人講師を全小学校に派遣することにより児童の国際性を養うことができている。小学校段階にふさわしい体験的な英語活動を取り入れ、実践的な英語活動の場となっている。						
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		□4■3□2□1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□4■3□2□1				
		・小中学校英語教育推進プログラムにおいて、横浜の子どもを取りまく環境等を踏まえねらい等を設定したが、国の方針が示されるのを待つ必要があり、明確にできない部分がある。 ・IUIの配置については、一定の成果が期待できる目標水準を達成することができている。						
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。		□4■3□2□1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		□4■3□2□1				
		コストの縮減のため各校あたりの授業時数を明確に配当し、効率的な執行を行うよう努めた。事務処理については効率的な作業に努めた。						
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		■4□3□2□1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□4■3□2□1				
		「小学校国際理解教室外国人非常勤講師就業要綱」を作成し全小学校及び非常勤講師に配付すると共に、年に1回全体説明会を開催することにより情報提供をしている。						
総合評価	合計	33	(協働の取組状況)					
	↓	40	国際理解教育という点で一定の水準を保つためには協働は難しい。					
	100点換算	83	(環境への負荷)					
ランク(A~E)		B	担当者研修会において出席人数の確認を事前に行うことにより研修資料の作成部数を限定している。 市民ニーズや社会経済情勢の変化に対応しているが、今後、英語教育のニーズの高まりへの対応IUIの質の保持・向上に、更なる工夫が必要である。					

事業名	小学校国際理解教室
-----	-----------



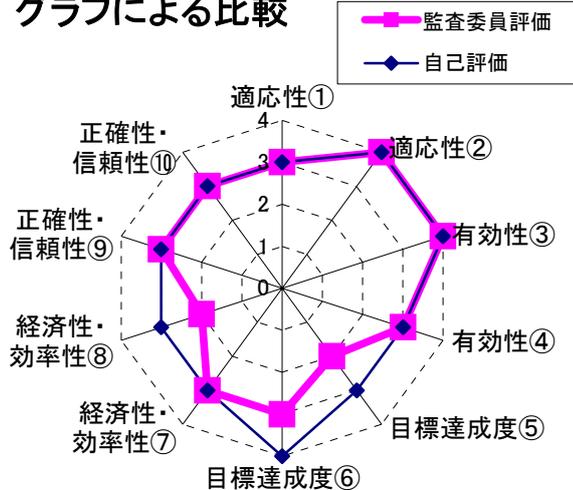
4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>文部科学省の小学校英語活動実施状況調査(平成18年度)によると、全国の公立小学校の9割以上が「英語活動」を実施しており、横浜市では、全市立小学校でこの「小学校国際理解教室」を英語活動として実施している。</p> <p>平成19年度より本市では順次小学校において英語教育を行うことになっており、国際理解教室を「英語教育の実践的な一場面」として活用することになっているが、実践的プログラムの裏付けが欠けている。</p>		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>児童は、学年ごとに異なった国の講師による授業を年間5回ずつ受けており、様々な国の文化に触れることができる。横浜市教育ニーズ調査(平成15年度)によると、約50%の児童が「国際理解教室は今のままでよい」と感じている。</p> <p>また、こうした状況から、事業は施策に対して寄与していると考えられる。</p>		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>長年年間授業回数を5回とし、一定程度の検証を行っている学校もあるが、この水準が適切かどうかについて判断材料が不足している。なお、設定した授業回数は計画どおり実施した。</p>		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>決算が予算を下回ったのは、学校の統廃合で学校の数が減ったためである。全体的にコストは前年度並みである。</p> <p>この事業を効率化するための特段の取組は行われていない。</p>		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>小学校国際理解教室外国人非常勤講師就業要綱に基づき、事業を実施している。また、講師に対して年数回研修を行っている。</p> <p>昨年度課題として上げた「市民への一層の周知を行う工夫」として、「小学校英語教育理解推進事業」の活用を予定していたが、市民向けのリーフレットは配布できなかった。</p>		
監査の結果	合計	28 / 40
	100点換算	70 / 100
	ランク(A~E)	C
<p>□指摘事項 □改善要望事項 ■評価の理由 □なし</p> <p>この事業の目的は児童の国際性を養うことにあるが、客観的な指標による事業の目標水準が設定されていない。</p> <p>また、前年からの課題であった市民への情報提供についても解決できなかった。</p>		

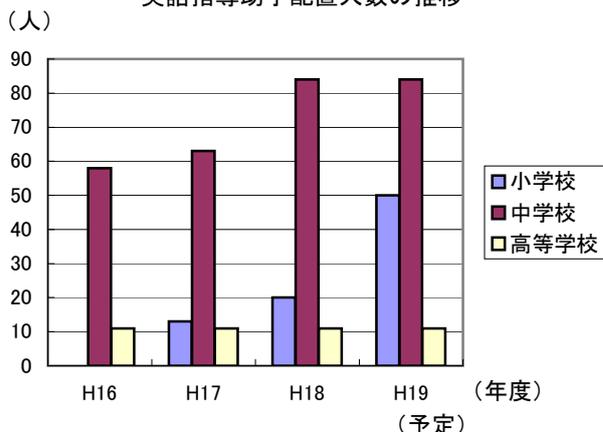
事業名		英語指導助手配置事業		担当	区局部課名	教育委員会事務局学校教育部小中学校教育課		電話	671 - 3588	
施策名	■ 中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します						重点事業番号	2 - 2 - 2	
	■ 運営方針	英語教育の充実								
目的	本市の外国語教育における生徒のコミュニケーション能力の育成及び国際理解教育の一層の推進を図るため、外国人英語指導助手(AET)を、市立中・高等学校全校及び盲・ろう・養護学校に配置します。									
内容	英語指導助手(AET)95人を市立中・高等学校全校及び盲・ろう・養護学校4校に配置する。									
根拠法令等										
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算		
	事業費 (千円)			294,296	302,777	313,756	386,680	317,318		
	うち一般財源等 (千円)			294,296	302,777	313,756	386,680	317,318		
	人件費(概算) (千円)			18,752	18,472	18,000	18,472	18,000		
	総コスト(概算) (千円)			313,048	321,249	331,756	405,152	335,318		
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定		
	年間TT授業実施回数		回	11	16	23	23	23		
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(28,459)	(20,078)	(14,424)	(17,615)	(14,579)		
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)								
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)								
評価項目	点数	理由・説明等								
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。		<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
<p>・小中学校英語教育推進プログラムでは、横浜市教育ニーズ調査を踏まえ、社会状況の変化に応じた内容を盛り込んでいる。</p> <p>・AETの配置数増については、横浜市教育ニーズ調査において、体験的学習の機会を望む保護者の声も意識したものとなっている。</p>										
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
<p>・施策を構成する事業は、英語教育を充実させるのにふさわしいものとなっており、重点化を図り、確実に推進している。</p> <p>・小中学校それぞれにおける施策は重点化を図りつつ推進しているが、9年間を見通した英語教育という点では、プログラムにおいて理念等の確認をしているところであり、今後は学校現場における具体的な支援等の充実を図っていかねばならない。</p>										
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
<p>・小中学校英語教育推進プログラムにおいて、横浜の子どもを取りまく環境等を踏まえねらい等を設定したが、時数の設定や教育課程上の扱いについては、国の方針が示されるのを待つ必要があり、明確にできない部分がある。</p> <p>・AETの配置については、一定の成果が期待できる目標水準を設定することができている。</p>										
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
<p>委託化により、廉価で質の高い講師を配置している。</p> <p>委託化により、経費の支出や労務管理が軽減された。</p>										
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
<p>英語指導助手受入れガイドブックを作成し、学校に配布するとともに、委託業者との連携において、対応マニュアルを作成し、迅速に対応している。</p> <p>ホームページに掲載することで、事業趣旨や実施内容など必要な情報は提供できている。</p>										
総合評価	合計	33		(協働の取組状況)						
	↓	/ 40		民間委託により質の高いAETを確保している。						
	100点換算	83		(環境への負荷)						
<p>月例会案内文を廃止して、年間スケジュールの配布に替えている。</p>										
ランク(A~E)	B		市民ニーズや社会経済情勢の変化に的確に対応しており、民間委託によるコスト削減効果も大きい。今後、英語教育のニーズの高まりへの対応や英語指導助手の質の保持・向上に、更なる工夫が必要である。							

事業名 英語指導助手配置事業

グラフによる比較



英語指導助手配置人数の推移



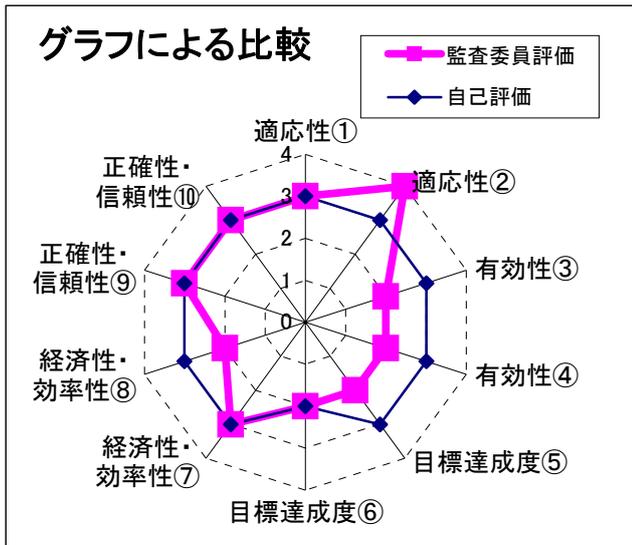
※教育委員会事務局 事業計画書等より作成

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
横浜市教育ニーズ調査(平成15年度)によると、中学校における今後の英語教育の進め方として、保護者の約8割が外国人講師を増やし、生きた英語に触れる機会を増やして欲しいと感じている。そのための人材確保については、市が行う必要がある。		
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
委託により、英語指導助手として必要な数の外国人講師を一括して確保している。英語力向上に必要な人材確保ということで、施策の目的の実現に寄与している。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
年間TT(ティームティーチング)授業実施回数を成果活動指標として掲げているが、中学校への英語指導助手の配置がこの事業の目的であり、計画どおりに配置が行われていることを示す指標の設定が望ましい。		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
委託の際の英語指導助手の単価は、他都市と比較して安い。この事業を効率化するための特段の取組は行われていない。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
外国人講師に対して堅実に研修等を行っている業者を選定した。市民に対しては、事業計画書、運営方針、横浜教育ビジョン推進プログラムにより情報提供している。		
監査の結果	合計	30 / 40
	100点換算	75 / 100
	ランク(A~E)	B
□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし		

事業名		国語力向上推進事業		担当	区局部課名	教育委員会小中学校教育課		
				担当	課長名	河野 良雄	電話	671 - 3588
施策名	■中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します					重点事業 番号	2 - 2 - 2
	■運営方針	国語教育の充実						
目的	すべての教科の基本となる国語力を身につけるため、読書活動の推進、国語科の授業改善、読解力向上を実践し、市内小中学校に成果を発信する。							
内容	(1)地域と連携した読書活動の推進 (2)国語科授業の改善 (3)読解力向上モデルの作成							
根拠法令等								
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)		0	0	1,000	1,037	40,000
	うち一般財源等	(千円)		0	0	1,000	1,037	40,000
	人件費(概算)	(千円)		0	0	18,000	18,472	18,000
	総コスト(概算)	(千円)		0	0	19,000	19,509	58,000
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	事業推進校		校		34	28	28	28
	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)		(0)	(679)	(697)	(2,071)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)					
	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。				□4 ■3 □2 □1		
		② 事業を市が行う必要性があるか。				□4 ■3 □2 □1		
社会全般に、国語力向上や読書の重要性が広く求められているなかで、国語科の授業改善という具体的な取組と読書の習慣化を目指した取組として、柔軟に対応できている。								
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。				□4 ■3 □2 □1		
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。				□4 ■3 □2 □1		
国語科の授業改善を図るために、各学校において身近で日常的に活用できる指導資料が必要であり、今後は、この資料をもとに各学校における授業実践の活性化が望まれる。各学校における読書活動の基盤を担うものが図書館年間計画であり、これによって意図的・計画的な活用が可能となり、読書活動の一層の活性化が期待できる。								
3 目標 達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。				□4 ■3 □2 □1		
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。				□4 □3 ■2 □1		
読書活動の全体計画作成率や朝の読書活動実施率については、前年度までの実態を踏まえつつ、適切に設定されている。授業改善モデルの作成・配付については、当初平成18年12月を計画していたが、各学校の取組の差異や資料確定に時間を要し、実施が遅れている。読書活動に関する取組については、ほぼ目標水準どおりの進行である。								
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。				□4 ■3 □2 □1		
		⑧ 事務は効率的に行われているか。				□4 ■3 □2 □1		
地域の人材を活用し、経費削減に努めている。国語科授業改善モデルの作成にあたっては、担当指導主事と作成校との連絡を密にしながら調整を図っている。								
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。				□4 ■3 □2 □1		
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。				□4 ■3 □2 □1		
実施要項を制定し、各推進校の担当者会を開催するなど適正に推進している。								
総合評価	合計	29	特記 事項	(協働の取組状況) 読書活動の推進のためにボランティアとして地域の人材を活用し、実施している。				
	100点 換算	73		(環境への負荷) 資料の作成などは必要最小限にとどめている。				
	ランク (A~E)	B	国語科授業改善モデル作成については、近々各学校に資料配付される段取りであり、今後これを各学校において積極的に活用していけるよう情報提供ならびに指導をしていきます。 読書活動推進に関しては、読書年間計画、朝の読書活動ともに昨年度の取組より実施率の微増が図られました。今後さらに、趣旨・目的等の徹底をすすめながら読書活動の推進を図っていきます。					

事業名 **国語力向上推進事業**



読解力の平均得点の国際比較
(OECD生徒の学習到達度調査)

国名	2003年		2000年	
	順位	得点	順位	得点
フィンランド	1	543	1	546
韓国	2	534	6	525
カナダ	3	528	2	534
オーストラリア	4	525	4	528
リヒテンシュタイン	4	525	22	483
日本	14	498	8	522

※文部科学省(2000年、2003年調査国際結果の要約)

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
2 有効性	4	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
3 目標達成度	4	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
合計	26 / 40	■指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 □なし OECD(経済協力開発機構)が実施した生徒の学習到達度調査によると、日本の生徒の読解力は低下しており、これを受けて文部科学省は、国語授業の改善、読解力向上などに取り組んできた。中央教育審議会でも、「国語力はすべての教科の基本となるものであり、その充実を図ることが重要である」と国語力の重要性に言及しており、こうした状況を踏まえ、横浜市においても「読解力の向上」を横浜教育ビジョン推進プログラムの重点政策に位置付けている。 しかしながら、平成18年度におけるこの事業の取組状況をみると、国語科授業改善モデル作成協力校を10校、「まち」とともに歩む読書活動推進校を18校設置し、これらの学校の取組をとりまとめ、事例集として全学校に配布し活用してもらおうというものにとどまっている。すべての教科の基本となる「国語力」の低下は深刻な課題と受け止められており、他都市においては日本語教育特区として国語力の向上に特に力を入れて取り組んでいる自治体もある。そこでこうした取組を参考にすると、早急に国語力の向上のために効果的な指導方法や指導体制を確立し、それに必要な予算を重点的に配分すべきである。また、スケジュールについても前倒して全校で取り組むことが期待される。 さらに、現状では本市の小中学生の国語力の水準や各学年での到達目標が明確に示されていないため、客観的に評価・検証することができない。この点についても、早急に客観的・具体的な指標を作成し、常に検証して改善につなげていくPDCAサイクルを確立する必要がある。
100点換算	65 / 100	
ランク(A~E)	C	

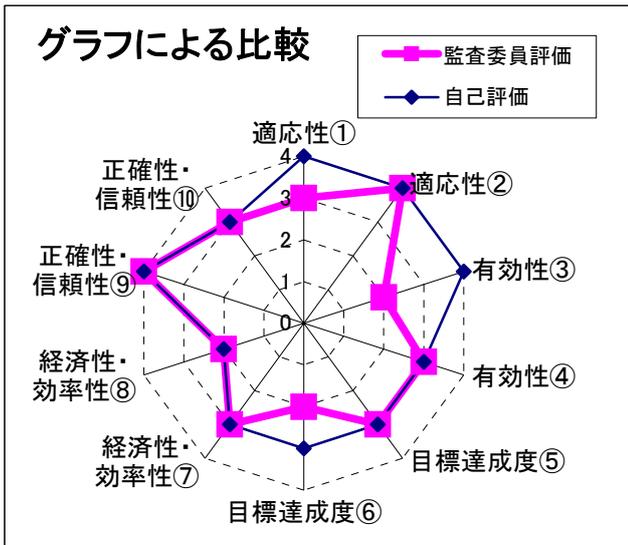
事業名		小学校教員対象英語活動研修事業		担当	区局部課名	教委事務局教育センター研修研究指導課		
				担当	課長名	齋藤 紀子	電話	671 - 3707
施策名	■ 中期計画	子どもたちの新たな時代を生きぬく確かな学力と豊かな社会性を育成します。					重点事業 番号	2 - 2 - 2
	■ 運営方針	小中学校一貫英語教育の推進						
目的	小学校での英語教育実施に向けて、小学校教員教員が英語教育のねらいを理解し、英語指導能力の向上を目指す。							
内容	小学校英語活動推進校・研究開発校及び英語活動未実施校の教員を対象に、①小学校において英語を導入するに際してのポイント、②児童の発達段階に応じた英語活動、③児童の発達段階に応じた指導計画立案の留意点などについて、外部委託研修を実施することで、小学校教員の英語活動を推進する。							
根拠法令等	教育公務員特例法(第21～25条)及び同施行令							
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)				1,048	1,500	1,530	3,000
	うち一般財源等 (千円)							
	人件費(概算) (千円)							
総コスト(概算) (千円)				1,048	1,500	1,530	3,000	
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	研修参加者		人		83	500	400	400
	□ 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)		(13)	(3)	(4)	(8)
	□ 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)					
□ 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)						
□ 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)						
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
①「研修のキャリアステージを踏まえた教職員研修」体系や小学校での英語教育に対する社会経済情勢を考慮して、研修の組立てを時代の要請に対応させています。 ②研修の実施は、法的にも規定されていますが、本市の場合、中期計画等でこの事業の推進を掲げているため、本市の積極的な事業推進が必要と判断しています。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
③ 外部の専門ノウハウ(NPOや英語専門業者)を活用しているため、研修手法は妥当と判断しています。 ④ 「中期計画」や「運営方針」そのものを踏まえて取り組んでいる事業となっており、効果的な目的実現のために機能していると考えます。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
⑤ 本来、小学校において英語は教科ではないため、教科としての導入に向けた初歩的なものからより指導実践的なものへと、段階的に積み上げていく研修内容としており、適切な水準となっています。 ⑥ ほぼ全ての研修事業において目的を達成できました。								
4 経済性効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		□ 4 □ 3 ■ 2 □ 1				
⑦ 外部委託を全面的に研修実施に活用し、効果的なコスト削減を意識しました。 ⑧ 外部委託によっても、業者との企画・実施などに係る調整・連絡、さらに事後処理などの作業が発生し、さらなる効率化を図る必要がありました。								
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
⑨ 研修事業は事業の性格から、プログラム内容、日程、対象者など全ての点で正確性が求められ、実施にあたっては綿密なシナリオの作成・担当者の確認作業をマニュアル化して対応しています。 ⑩ 事業対象者は関係者(市立学校教職員)のため、関係者との関係ではネットワークなどを活用した適切な情報提供を行いません。								
総合評価	合計	33	(協働の取組状況)					
	↓	40	特記事項	・小学校英語教員対象の研修事業の実施にあたっては、教育研究会(英語科)等との連携・協働が欠かせず、広報・参加などで積極的に協働作業を進めています。				
	100点換算	83		(環境への負荷)				
ランク(A~E)		B	・研修テキスト等のペーパー類が大量に消費されますが、ネットワークを活用してHP上での提供で参照できるようにしたりして、環境負荷の軽減に努めています。 ・この研修は小学校での英語教育を推進するリーダーを育成し、これを通じて英語活動の活発化を目指すもので、量的効果を直ちに期待できるものではないが、研修受講による効果を広く校内に広げていってもらうことが重要です。 ・今後も研修内容の精選と併せて、研修の外部委託など実効性の高い実施を工夫していきます。					

事業名 **小学校教員対象英語活動研修事業**

英語活動を実施する上での課題
(教員、複数回答・上位5項目)

ALT(外国語指導助手)や英語に堪能な民間人など外部人材の確保	74.2%
教員間や、ALTや英語に堪能な民間人など外部の協力者との打合せの時間の確保	50.2%
教材・教具等の開発や準備	45.0%
小学校教員の英語力や指導力の向上	44.9%
英語活動に関する教員研修の充実	42.0%

※文部科学省
「小学校の英語教育に関する意識調査」(平成16年度)

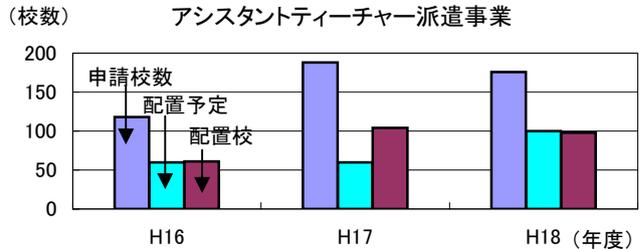
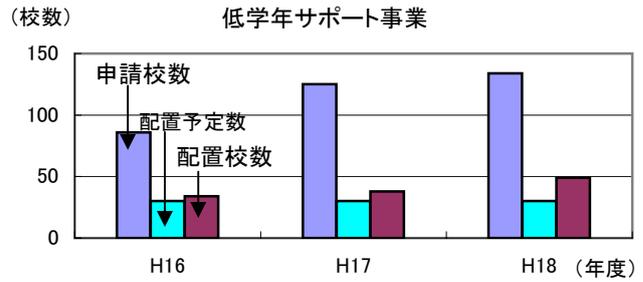
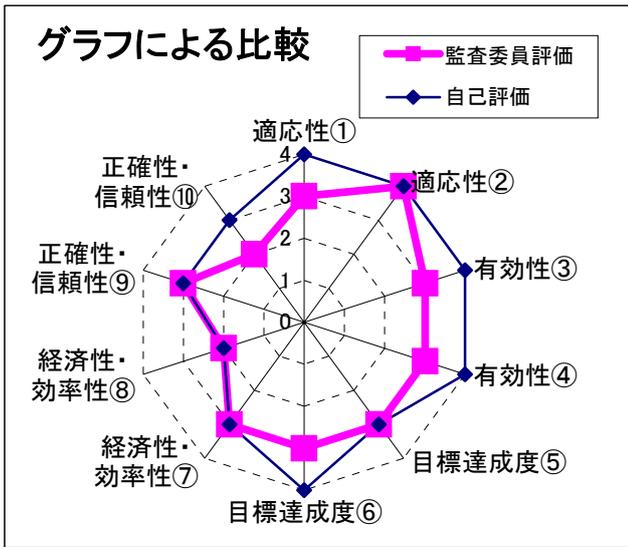


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>文部科学省の「小学校の英語教育に関する意識調査」(平成16年度)によると、「英語活動を実施する上での課題」として、4割以上の教員が「小学校教員の英語力や指導力の向上」、「英語活動に関する教員研修の充実」と答えている。そこで、平成19年度から順次本市の小学校において英語教育を行っていくためには、小学校教員を対象とした英語研修が必要であった。</p>		
2 有効性	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>ワークショップ研修と英語実技研修を行ったが、任意参加であり、この研修において取得すべきスキル等の目標は明確になっていない。ただし、英語を教えるスキルを持たない小学校教員に対してこうした研修を行う意味は大きく、施策に対して一定の寄与はしていると考えられる。</p>		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>小学校ごとに英語教育を推進するリーダーを育成し、そうした人を中心に各学校で英語活動を実施するという点から、研修参加者を500人に設定したことは妥当な水準だったといえる。ただし、実際の研修参加者は目標人数を下回っており、各学校の英語教育を推進するリーダーが全員研修に参加したわけではなかった。</p>		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>実績が予算を若干上回ってしまったが、指導主事が中心となってこの研修を行った場合のコストを考えると、委託によるコスト縮減効果は大きいと考えられる。事務作業の見直しについては検討中である。</p>		
5 正確性・信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>個人情報扱っていない。研修の委託に関しても適正に行っている。打合せや確認を何度も行い、ミスのないように取り組んでいる。この事業の直接の対象者である教員には、横浜市教育情報ネットワーク(Y・YNET)を活用して情報提供を行っている。市民への情報提供は、事業計画書や運営方針にとどまっている。</p>		
監査の結果	合計	29 / 40
	100点換算	73 / 100
	ランク(A~E)	B
<p><input type="checkbox"/>指摘事項 <input type="checkbox"/>改善要望事項 <input type="checkbox"/>評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/>なし</p>		

事業名		スクールサポート事業		担当	区局部課名	教育委員会事務局教職員人事課任用係		
				担当	課長名	宮下 岡三	電話	671 - 3246
施策名	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します					重点事業 番号	2 - 2 - 4
	<input type="checkbox"/> 運営方針							
目的	児童数が多い低学年学級で、児童の状況により、学級運営が困難な学級への支援や指導力不足教員に対する校内研修を実施する際に非常勤講師を設置する。また、教員志望の学生を小中学校に派遣し、教員の教育支援や学生の知識・経験の向上を目指すとともに、優秀な教員の人材確保を図る。							
内容	①小学校低学年のサポート ②校内研修等充実 ③アシスタントティーチャーの派遣							
根拠法令等								
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)			56,725	69,619	111,780	69,412	151,555
	うち一般財源等 (千円)			56,725	69,619	111,780	69,412	151,555
	人件費(概算) (千円)			2,722	2,770	2,700	2,770	2,700
	総コスト(概算) (千円)			59,447	72,389	114,480	72,182	154,255
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	小学校低学年のサポート非常勤配置人数		人	31	38	40	49	60
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(1,918)	(1,905)	(2,862)	(1,473)	(2,571)
	校内研修時非常勤配置人数		人	5	5	10	1	10
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(11,889)	(14,478)	(11,448)	(72,182)	(15,426)
	アシスタントティーチャーの派遣人数		人	61	96	100	98	150
<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(975)	(754)	(1,145)	(737)	(1,028)	
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適切しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
学校現場でのニーズを把握し、分析・検討を行い、実施対象校を決定している。 また、事業に市場性がなく、行政が積極的に取り組む必要がある。								
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
学級の状況に応じて選択して申請・配置決定を行うなど、人的資源を有効に配分している。 重点政策課題である「確かな学力向上のための人的支援の充実」の実現に大きく寄与している。								
3 目標 達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
それぞれの事業の数値目標を達成した。また、アンケート調査等により、当該学級に落ち着きが見られるなど、有効な事業手法であることを確認している。								
4 経済性 効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
アシスタントティーチャー派遣については、大学、学生ボランティアの協力を得て事業を実施している。 ITを活用した事務の省力化を進めているが、対象が異なるため、低学年サポート、アシスタントティーチャーそれぞれの申請が必要となっているが、今後の検討課題である。								
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
アシスタントティーチャーについては、ボランティア保険に加入し、万が一の事故に備えている。 アシスタントティーチャーの募集については、教員確保対策の観点から大学を通じた募集を主としており、不特定多数を対象とした広報は行っていないが、それ以外の事業については、対象となる全校に対し周知している。								
総合 評価	合計	34	(協働の取組状況)					
	↓ 100点 換算	85	学生ボランティアの協力を得て事業を実施しており、また、アンケートの実施や大学が実施する事例検討会への参加など、意見や提案を把握する機会を設けている。					
	ランク (A~E)	B	(環境への負荷)					
			教育現場のニーズに積極的に対応しており、大学・学生ボランティアとの協働による効果も大きい が、年間スケジュールなど更なる検討が必要である。					

事業名	スクールサポート事業
-----	------------



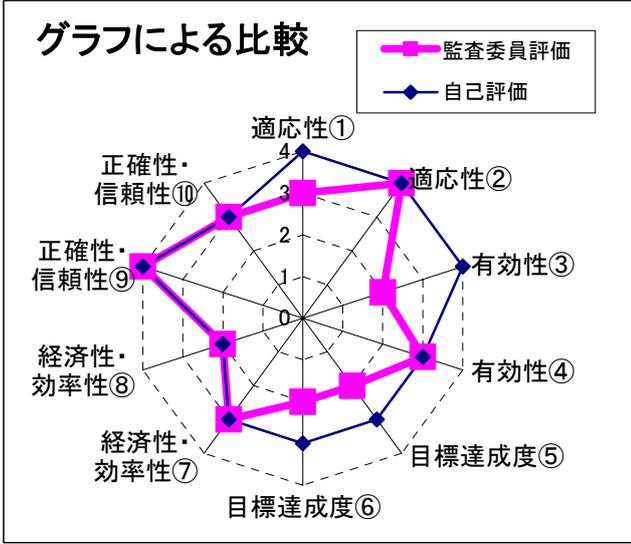
※教育委員会事務局実績

4:十分にできている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

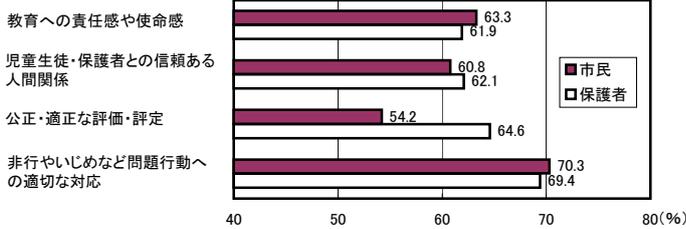
評価項目		点数	理由・説明等	
1	適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
			② 事業を市が行う必要性があるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
市民アンケート等は実施していないが、学校として人手を欲している、保護者は子どもたちへのきめ細かな対応を求めているという現場の状況を踏まえ、学校からの申請をもとに、非常勤講師の派遣、アシスタントティーチャーの派遣を行っている。学校に対する人的支援であり、今後とも市が取り組む必要がある。				
2	有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
学校からの申請を受けて、その学校の状況を調査、審査し、非常勤講師やアシスタントティーチャーを派遣している。ただし、その効果や結果の把握を十分に行っているとはいえない。非常勤講師を派遣した学校の状況、アシスタントティーチャーへのアンケート等から、施策に対して一定程度寄与していると考えられる。				
3	目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
学校の現状を踏まえて、適宜非常勤講師やアシスタントティーチャーを派遣しているため、目標は過去の実績を考慮して設定している。非常勤講師の派遣は目標を上回ったが、当初計画していたアシスタントティーチャーに対する専門家によるセミナー等は行わなかった。				
4	経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
			⑧ 事務は効率的に行われているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
実績が予算を下回った主な理由は、校内研修等充実事業において、当初予定していたよりも非常勤講師を派遣する必要がなかったためである。また、事務上の課題については、昨年度から引き続き検討している。				
5	正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
アシスタントティーチャーについては、協定を締結している大学においては大学側が、それ以外の大学の場合は教育委員会が面接し、加えて派遣する学校でも再度面接している。市民に対する情報提供は、事業計画書や運営方針にとどまっておき、個々の取組は各学校任せになっている。				
監査の結果	合計	29	□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし	
	↓	/ 40		
	100点換算	73		
ランク (A~E)		B		

事業名		教職員研修事業		担当	区局部課名	教委事務局教育センター研修研究指導課		
				担当	課長名	齋藤 紀子	電話	671 - 3707
施策名	■ 中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します					重点事業番号	2 - 2 - 5
	■ 運営方針	教師力を高める						
目的	教職員研修を通じて、教員の授業力・指導力の向上および学校組織マネジメント力の強化を図る							
内容	教職員を対象に、①キャリア開発研修(初任者研修、5・10年次研修、管理職研修等)、②指導者育成研修(人権教育指導者養成研修、初任者コーディネーター研修等)、③教職員専門研修(教科・領域研修等)、④教育関係機関及び企業等への派遣研修を実施し、教師力を高める。							
根拠法令等	教育公務員特例法(第21～25条)及び同施行令							
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)		32,023	27,222	38,336	38,620	34,000
	うち一般財源等	(千円)						
	人件費(概算)	(千円)						
	総コスト(概算)	(千円)		32,023	27,222	38,336	38,620	34,000
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	研修参加者		人	47,439	55,310	76,692	67,722	110,077
	□ 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)	(1)	(0)	(0)	(1)	(0)
	□ 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)					
	□ 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
① 「研修のキャリアステージを踏まえた教職員研修」体系を市民ニーズや社会経済情勢を考慮して策定するなど、研修の組立ては時代の要請に敏感に対応しています。 ② 教職員研修の実施は法的にも規定されています。もちろん研修内容や性質により、専門知識・スキルなどを持っている外部の業者に委託しているものもあります。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
③ 教職員研修を新たに組み立て直し体系化することで、教職のステージにおいて必要な研修の重点化を図ることができました。 ④ 研修体系並びに研修内容については、運営方針等の目的実現を第一としていますが、研修の目的実現への寄与の度合はすぐには測りにくい性質のものです。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
⑤ 研修の性格上、達成目標を具体的に設定することは難しいが、新規の研修や新たに対象者を設定した研修を導入する中でも、ニーズに沿ったものを組み立てたため、比較的高い達成水準となりました。 ⑥ ほぼ全ての研修事業において目的を達成できました。								
4 経済性効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		□ 4 □ 3 ■ 2 □ 1				
⑦ 外部委託を一部研修に活用したが、研修事業は労働集約的なため、縮減に必ずしも繋がりませんでした。 ⑧ 研修事務には、事前準備、連絡調整、事後処理など手間ひまのかかる作業が多く、効率的な対応が困難な場合が多く、さらなる効率化を図る必要がありました。								
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1				
⑨ 研修事業は事業の性格から、プログラム内容、日程、対象者など全ての点で正確性が求められ、実施にあたっては綿密なシナリオの作成・担当者の確認作業をマニュアル化して対応しています。 ⑩ 事業対象者は関係者(市立学校教職員)のため、関係者との関係ではネットワークなどを活用した適切な情報提供を行ないました。								
総合評価	合計	33	(協働の取組状況)					
	↓	40	・研修事業の実施にあたっては、教育研究会、大学さらには企業等との連携・協働が欠かせず、積極的に協働作業を進めています。					
	100点換算	83	(環境への負荷)					
ランク(A～E)	B	・研修テキスト等のペーパー類が大量に消費されるが、一部のもの及び研修案内・申込等はネットワークを活用してHP上で参照できるようにしたりして、環境負荷の軽減に努めています。 ・新たに策定した教職員研修体系に沿って、授業力・指導力の向上を目指して、約15000人の教員、管理職を対象に多種多様な研修を計画的に実施することができました。 ・今後も研修内容の精選と併せて、研修の外部委託など効果の上がる実施方法を工夫していきます。						

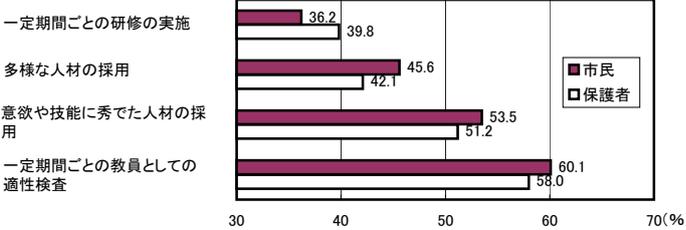
事業名 **教職員研修事業**



教員に望むこと



教員に望むことを実現するために必要なこと

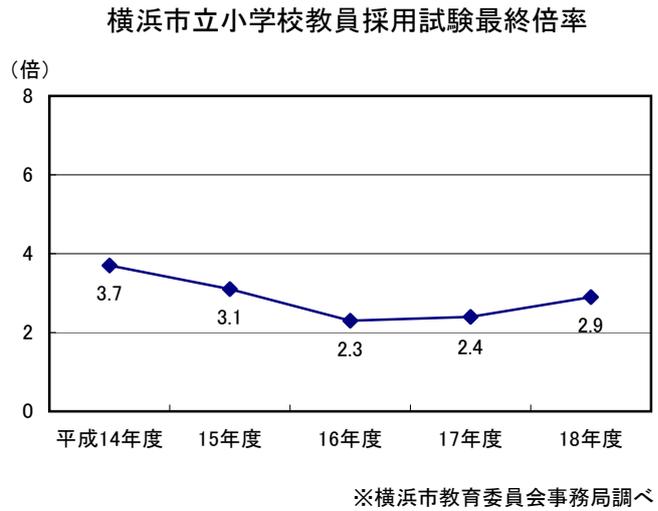
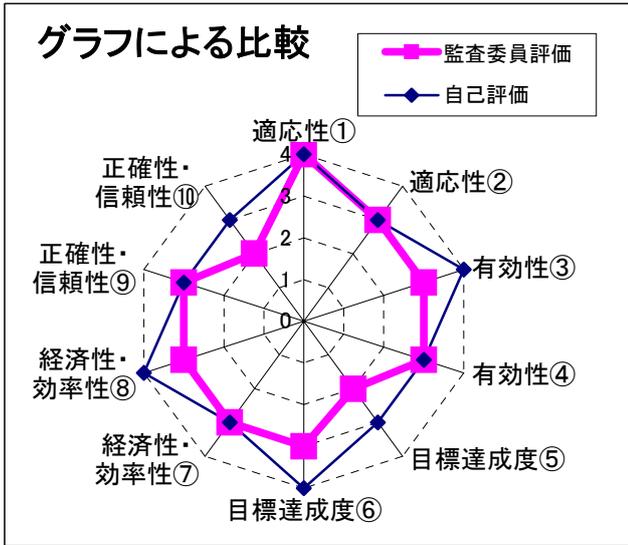


※平成15年度横浜市教育ニーズ調査
4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
2 有効性	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
3 目標達成度	4	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
5 正確性・信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
監査の結果	合計 28 / 40 100点換算 70 / 100 ランク (A~E) C	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 教員の授業力・連携力・マネジメント力の現状について、十分な分析が行われていない。また、研修の実施に当たっては受講者アンケートを実施しているものの、成果を検証するための客観的な指標が設定されていない。今後は、受講者の研修満足度や学習到達度など、適切な成果指標の設定について早急に検討する必要がある。

事業名		教師力向上事業		担当	区局部課名	教育委員会事務局研究研修指導課		
					課長名	齋藤 紀子		
					電話	671 - 3707		
施策名	■ 中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します					重点事業番号	2 - 2 - 5
	■ 運営方針	方針4 “教師力”を高めます-優秀な教員の確保・育成						
目的	教員の確保・育成策の充実を図ります。							
内容	よこはま教師塾の開設により、教員の確保・育成策の充実が進んでいます。							
根拠法令等	-							
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)		0	0	30,000	23,162	30,000
	うち一般財源等	(千円)		0	0	30,000	20,162	30,000
	人件費(概算)	(千円)		0	0	9,000	9,236	9,000
	総コスト(概算)	(千円)		0	0	39,000	32,398	39,000
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	<input type="text"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
	<input type="text"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
	<input type="text"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。				■4□3□2□1		
		② 事業を市が行う必要性があるか。				□4■3□2□1		
教職員の大量退職、大量採用時代を迎える中、教員の質の維持・向上は喫緊の課題となっている。優秀な教員の確保は教育委員会の責務である。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。				■4□3□2□1		
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。				□4■3□2□1		
学校現場でのニーズをもっとも知る立場にある教育委員会が育成を手がけることで、現場で必要な教員の効果的な確保につなげられる。目的の実現に寄与しているかの検証は、今後委ねられる。								
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。				□4■3□2□1		
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。				■4□3□2□1		
大量退職の始まる時期は迫っており、早急に立ち上げる必要があったものの、十分な準備期間、周知期間を確保するための時間的余裕が持てない状況もあった。計画どおり、12月に最終合格者を決定し、平成19年1月の開塾(入塾式)を執り行うことができた。								
4 経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。				□4■3□2□1		
		⑧ 事務は効率的に行われているか。				■4□3□2□1		
募集要項については、ホームページからダウンロード配布の形態をとっており、印刷経費を削減している。一方、定員を100名とするために、既存の研修設備等に対応しきれず、拡充の必要があった。また、電話応対や入力作業等の定型的な業務については業務委託化し、コストを縮減している。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。				□4■3□2□1		
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。				□4■3□2□1		
募集案内等、印刷物の全内容は局HP上に公開しており、塾のコンセプトについて広報に努めている。また、同一のページから全ての記者発表資料もアクセスできるようにしている。ホームページ上での募集要項配布により、一次試験の課題も含め、情報提供している。								
総合評価	合計	34	特記事項	(協働の取組状況)				
	↓	40		塾生の実践活動の場として活用する土曜学校は、地域の力を活用した子どもの学び場であり、そのモデル実施についてはNPOへ委託している。				
	100点換算	85		(環境への負荷)				
ランク(A~E)	B	インターネットによる募集要項配布の形式により、必要な人のみ個々に印刷することになり、印刷物の無駄をなくしている。						
採用前の段階から育成を手がけることで、より効果的な即戦力教員の養成をすすめることができるが、塾生である1年間だけでなく、その後も継続的にフォローすることでより一層の教師力向上を図ることができると思われる。そのために、卒塾した後もフォロー・検証を行っていくことが課題となる。								

事業名	教師力向上事業
-----	---------

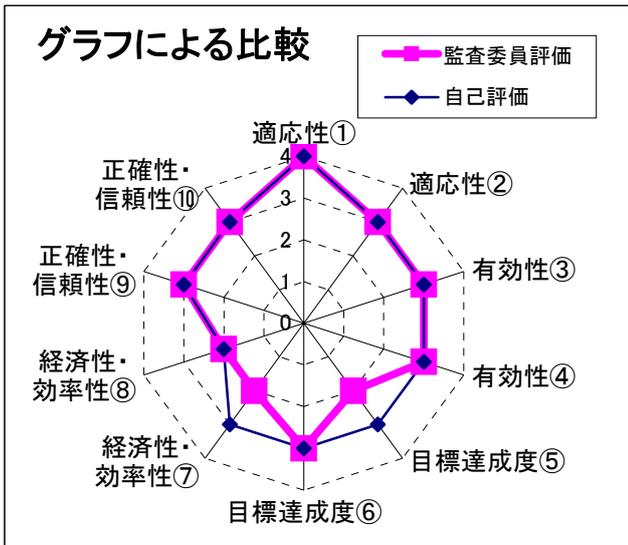


4:十分にできている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
今後約10年間にわたり教員の大量退職・大量採用が続くものと推測され、小学校教員の採用倍率についてはここ数年低倍率が続いていることから、質の高い教員の確保は喫緊の課題となっている。当該事業については、国や県において類似の事業を実施しておらず、市が実施することが望ましい。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
東京都や杉並区でも同様の教員養成塾を設置しており、全国的に広まりつつある手法である。8万円/人の本人負担については教員採用後に返還することとしているが、必ずしも卒業生を本市教員として採用する拘束力になっているとはいえない。開設初年度であるため成果は出ていないものの、募集定員を超える応募の中から106名の塾生を確保し、塾生の出席率も毎回90%以上であることから、運営方針の「優秀な教員の確保・育成」に向けて一定程度貢献している。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
活動・成果指標の設定が行われていないが、入塾者数については100名/年、修了者数については75名/年を目標としている。東京都では入塾者のうち96%が、杉並区では80%が卒業(採用)しており、やや低い目標水準となっている。当初平成18年9月開塾予定であったが、十分な職員数の配置が行われなかったため平成19年1月開塾に変更した。このスケジュールに沿って106名の塾生を確保し、目標を達成することができた。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
決算額が予算額を下回ったのは、開塾時期が遅れたことにより講義回数が増えたためである。なお、募集要項(申込書)については、ホームページからダウンロードができるよう工夫を行い、印刷経費を縮減している。職員1名体制で塾の開設及び運営を行うこととなったため、応募に係る入力作業など簡易な事務を委託(人材派遣)することにより効率化を図った。今後は、事務マニュアルの整備が課題である。		
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
塾生の個人情報や鍵のかかる書庫に保管するとともに、学校等の現場実習に備え保険に加入している。これまでにミスや事故は発生していない。募集要項については、公共施設や大学への配布を行い、大学への説明会も実施した。入塾に関する情報についてはホームページで公開しているものの、塾での取組状況や実績については公開しておらず、今後必要に応じて情報提供を行っていく必要がある。		
監査の結果	合計	29 / 40
	100点換算	73 / 100
	ランク(A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし		

事業名		特別支援教育推進事業		担当	区局部課名	教育委員会事務局学校教育部特別支援教育課		電話	671 - 3956		
施策名	■ 中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します					重点事業番号	2 - 2 - 7			
	■ 運営方針	特別支援教育の推進									
目的	小・中学校の普通学級で学ぶLD、ADHD、高機能自閉症等の軽度発達障害児等、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して学校全体で支援する体制づくりを進める。										
内容	小・中学校全校に特別支援教育コーディネーターと特別支援教育校内委員会を設置することにより校内支援体制を整備する。また、専門家による支援チームを必要に応じて学校に派遣し、助言等を行う。										
根拠法令等											
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算			
	事業費	(千円)		7,910	7,910	14,016	8,028	26,720			
	うち一般財源等	(千円)		7,910	7,910	14,016	8,028	26,720			
	人件費(概算)	(千円)		9,076	9,236	9,000	9,236	9,000			
	総コスト(概算)	(千円)		16,986	17,146	23,016	17,264	35,720			
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定			
	特別支援教育コーディネーター指名数	人		511	518	506	528	506			
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(33)	(33)	(45)	(33)	(71)			
	特別支援教育推進検討会議開催数	回		10	10	10	10	10			
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(1,699)	(1,715)	(2,302)	(1,726)	(3,572)			
支援チーム派遣回数	回		157	164	247	247	247				
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(108)	(105)	(93)	(70)	(145)				
評価項目	点数	理由・説明等									
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
発達障害児など、特別な教育的支援を必要とする児童生徒等が増加しており、特別支援教育への高まるニーズに応えるため、市立学校においても特別支援教育校内指導体制整備を推進する必要がある。											
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
市立小・中・盲・ろう・養護学校全校における特別支援教育コーディネーターを指名・特別支援教育校内委員会を設置すること及び特別支援教育支援体制整備等への助言を行う専門家支援チームの派遣は、個々の学校事情に応じた特別支援教育の校内指導体制を展開する目的達成に効果的である。											
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
19年度には特別支援教育の完全実施のため、市立学校全校において特別支援教育コーディネーターの指名及び特別支援教育校内委員会全校設置は適切であり、目標を達成しているといえる。											
4 経済性効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
事業推進のための会議開催やそのための資料作成などの事務の効率化が課題である。											
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1									
児童生徒等の個人情報保護を確保し、委員あての送付物などの二重チェック等正確を確保する必要がある。会議資料や議事録、会議開催案内などは市のホームページに掲載しており、情報提供が確保されている。											
総合評価	合計	30	(協働の取組状況)								
	↓	40	具体的な協働は実行していないが、地域関係機関や地域住民・市民と協力して特別支援教育を推進する必要がある。								
	100点換算	75	(環境への負荷)								
ランク(A~E)		B	評価対象外の事業であるが、効率的に事業を進める必要がある。								
平成19年度の特別支援教育完全実施により、発達障害児童生徒への対応や学校への支援などの市民からのニーズが今後ますます増加することが考えられる。効果的、効率的な特別支援教育の校内指導体制の整備の推進や関係機関との連携などが課題である。											

事業名	特別支援教育推進事業
-----	------------



学習面や行動面で著しい困難を示すと学級担任が回答した児童生徒の割合

	横浜市	全国
学習面か行動面で著しい困難を示す	6.5%	6.3%
学習面で著しい困難を示す	4.6%	4.5%
行動面で著しい困難を示す	3.3%	2.9%
学習面と行動面で著しい困難を示す	1.3%	1.2%

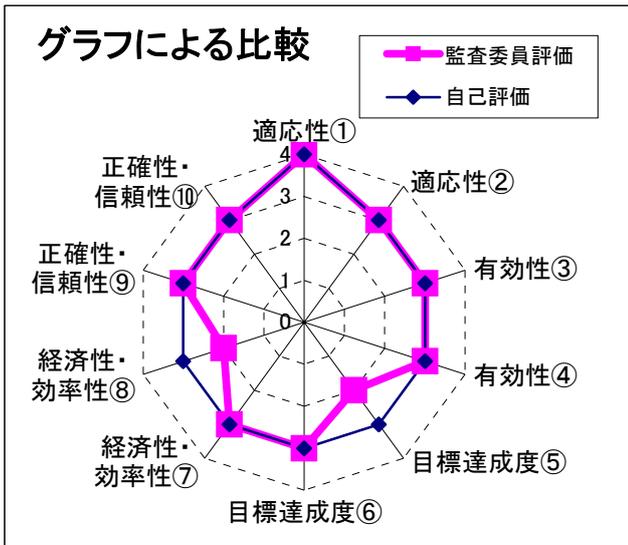
※特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態調査

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

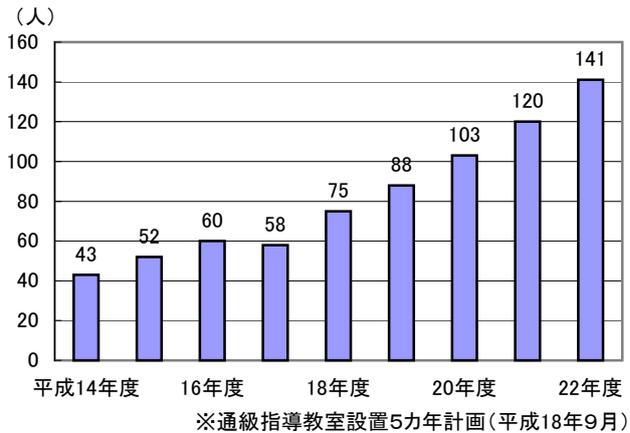
評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適切しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成15年度に実施した実態調査によれば、本市の小中学校の普通学級に在籍するLD・ADHD等の児童生徒の割合は約6.5%であり、増加しつつあるこうした児童生徒に対する適切な支援は喫緊の課題となっている。平成18年6月には学校教育法の一部改正が行われ、小中学校においてLD・ADHD等障害のある児童生徒に対して適切な教育を行うことが新たに規定された。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
文部科学省が示している方針に沿って、校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの指名を行うなど、組織的な校内支援体制を整えてはいるが、各学校によって実態把握や対応状況にばらつきが生じており、今後はガイドラインの基準に沿った取組を全校で進める必要がある。特別支援教育コーディネーターの指名数や支援チームの派遣回数は増えつつあり、運営方針の「特別支援教育の推進」に向けて一定程度貢献している。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成18年度に文部科学省が実施した特別支援教育体制整備に関する調査によれば、本市の「校内委員会の設置割合」等については全国平均を上回っているものの、「個別の指導計画の作成」等については全国平均を下回っており、これらの指標も含め再度検討する必要がある。特別支援教育コーディネーターの指名数は養成研修の実施により年々増加しており、設定した目標については、すべて予定どおり達成している。		
4 経済性・効率性	4	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
医師等有償の支援チームの派遣回数(55回)が予算上の回数(216回)を大幅に下回ったため、結果として不用額が生じており、コスト縮減ための工夫は見られなかった。各学校向けに特別支援教育に関する手引等を作成しているが、事務マニュアルは整備されておらず、今後の課題である。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
特別支援教育推進会議委員の個人情報については適正に管理するとともに、送付物の発送に当たってはダブルチェックを励行している。推進会議は公開で開催し、会議資料や議事録、提言についてはホームページにおいて公開している。特別支援教育コーディネーター等、学校の特別支援教育の取組に関する保護者等への周知については、前年度に比べ向上しているが、引き続きすべての保護者等に対し特別支援教育についての正しい理解を広めていく必要がある。		
監査の結果	合計	28 / 40
	100点換算	70 / 100
	ランク(A~E)	C
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 特別支援学校、個別支援学級、通級指導教室の児童生徒について、「個別の指導計画」の作成状況は100%となっている。しかしながら、普通級在籍のLD等発達障害児童生徒の「個別の指導計画」については、文部科学省通知にあるとおり「必要に応じ作成する」ものではあるが、全国平均を下回っており、とりわけ中学校での作成率は16.4%と全国平均30.2%に比べ著しく低くなっている。また、コスト縮減のための取組や事務効率化のための取組が行われていない。		

事業名		北部方面中学校通級指導教室整備事業		担当	区局部課名	教育委員会事務局学校教育課特別支援教育課		電話	671 - 3956
施策名	■ 中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します						重点事業番号	2 - 2 - 7
	■ 運営方針	【方針3】豊かな心と健やかな体を育みます							
目的	情緒障害通級指導を要する児童が毎年10%程度増加し、中学の通級は南部方面に1校のみなので、北部方面に早急に整備する必要がある。								
内容	鴨志田中学校通級指導教室整備								
根拠法令等									
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)				40,000	59,364		
	うち一般財源等	(千円)				40,000	59,364		
	人件費(概算)	(千円)				4,000	4,000		
	総コスト(概算)	(千円)				44,000	63,364		
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	中学校通級指導教室児童生徒数		人	99	108	120	126	150	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(367)	(503)		
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)							
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)							
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
LD、ADHDの児童生徒を新たに通級による対象になったので、一層の機能強化・体制整備が必要。									
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
学校の空き教室、既存の学校施設を最大限活用して改修し、非常に効果的に事業を実施した。また、当事業は従前から中期政策プランの重点施策にも位置づけ、実現の段階を果たした。									
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
最低限の経費で最大の効果を得られるよう基本構想・設計のもとで事業を進めた。									
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
学校の空き教室、既存の学校施設を最大限活用して実施しており、コストを十分に削減した。事務については、学校現場と取りまとめ局、実施局と分かれており、事務連絡に手間取ることがあった。									
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
工事に際しては適切な配慮がなされていた。									
総合評価	合計	31	(協働の取組状況) 協働にはなじまない。						
	↓ 100点換算	78							
	ランク (A~E)	B	特別支援教育推進に重要な通級指導教室を横浜市内に適切な配置で整備する年次計画を着実に実現した。						

事業名 **北部方面中学校通級指導教室整備事業**



中学校情緒障害通級指導教室生徒数の推移(見込み)

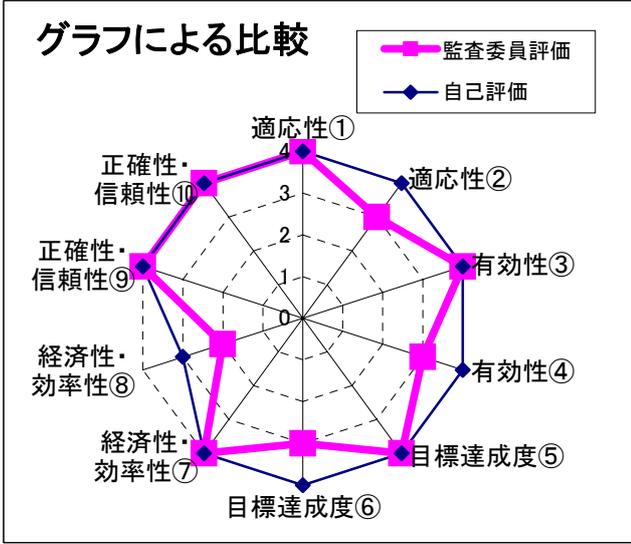


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

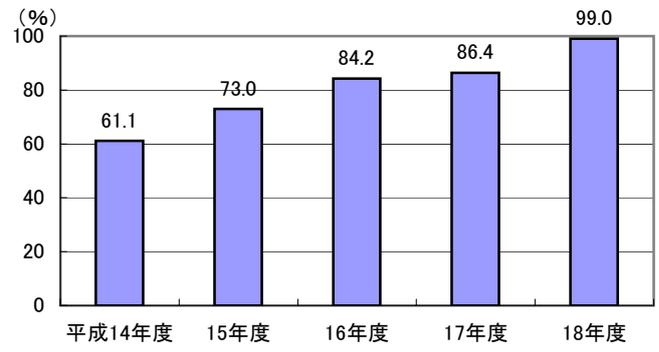
評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 共進中学校通級指導教室(情緒障害)においては過大規模化が顕著になっており、情緒障害通級生徒数は今後も前年度比約15%の増加で推移すると予想されている。通級による指導は、学校教育法施行規則に規定されており、平成18年4月からはLD・ADHDについても新たに通級による指導の対象に加えられた。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 中学校通級指導教室については共進中学校(南区)に設置され、北部方面の生徒には通級しづらい状況にある。このため、北部方面で余剰教室のある中学校の中から、交通アクセス、余剰教室の配置、通級生徒の動線等を総合的に判断し鴨志田中学校を選定した。また、「通級指導教室設置5カ年計画」に基づいた方面別の適正配置を推進しており、運営方針の「特別支援教育の推進」に向けて一定程度貢献している。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 当該事業の目的は南部方面の過大規模化を解消することであり、「中学校通級指導教室生徒数」を指標として設定するよりも「北部方面への通級指導教室整備」を目標とすることが適切である。通級指導教室の整備については、当初の計画・スケジュールどおり平成19年3月に完成した。
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 決算額が予算額を上回ってはいるが、既存の余剰教室を活用するなどしてコスト削減に努めた。通級指導教室整備に当たっては、まちづくり調整局や学校との連絡調整にかなりの時間を要しており、改善の余地があった。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 事故防止策については工事仕様書に明記しており、事故等不測の事態は発生しなかった。鴨志田中学校への通級指導教室設置については、共進中学校通級指導教室の生徒保護者や養護教育総合センター相談者に情報提供を行った。また、工事に当たっては、事前に鴨志田中学校生徒保護者に対して口頭による周知を行った。
監査の結果	合計 29 / 40 100点換算 73 / 100 ランク(A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし

事業名		高等養護学校整備・拡充事業 第二高等養護学校(仮称)整備事業		担当	区局部課名	教育委員会事務局学校教育課特別支援教育課		電話	671 - 3956
施策名	■ 中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します						重点事業 番号	2 - 2 - 7
	■ 運営方針	【方針3】豊かな心と健やかな体を育みます							
目的	急増する養護学校入学希望者に対応し、知的障害等が軽い生徒の後期中等教育を充実させるため、市立高等養護学校の整備・拡充を行います。								
内容	第二高等養護学校(仮称の)改修整備工事								
根拠法令等									
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費 (千円)					530,000	521,754		
	うち一般財源等 (千円)					53,000	475,490		
	人件費(概算) (千円)					4,000	4,000		
	総コスト(概算) (千円)					534,000	525,754		
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	高等養護学校就労率		%	79.2	84.6	98.0	96.3	100.0	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(5,449)	(5,460)		
	高等養護学校生徒数		人	182	213	249	249	273	
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(2,145)	(2,111)		
	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)								
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1					
		② 事業を市が行う必要性があるか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1					
昨今、個別支援学級生徒数の急増に伴い養護学校入学希望者が増加しており、市民ニーズは高い。また、養護学校高等部については義務教育ではなく、県に設置義務はないことから、本市後期中等教育の充実のために、市の施策として学校整備を行う必要がある。									
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1					
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1					
既存の学校施設に必要な最低限の改修を加え、コストパフォーマンスを重視しつつ充実した職業教育の推進を可能とする学校に整備しており、非常に効果的に事業を実施した。また、当事業は従前から中期政策プランの重点施策にも位置づけられており、その目的を果たしたと言える。									
3 目標達成度	8	⑤ 目標の水準は適切か。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1					
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1					
最低限の経費で最大の効果を得られるよう基本構想・設計のもとで事業を進めており、充実した職業教育を進めていくための最良の目標水準であった。									
4 経済性 効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1					
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		□ 4 ■ 3 □ 2 □ 1					
既存校舎の最低限の活用により改修工事を実施しており、コストを十分に削減した。事務については、それぞれの担当が非常によく頑張ってくれたが、時に縦割りの弊害がでる面もあった。									
5 正確性 信頼性	8	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1					
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		■ 4 □ 3 □ 2 □ 1					
工事は、要所に警備員を配置し安全に行った。また工事期間中は全生徒の教室を隣接施設やプレハブに移して実施し、最大限の安全性を確保した。工事着手の際には、地元説明、近隣住宅へのチラシ配布等、十分配慮を行った。									
総合 評価	合計	39	(協働の取組状況)						
	↓	/ 40	協働にはなじまない。						
	100点 換算	98	特記 事項	(環境への負荷)					
	/ 100		環境にやさしい工事を行った。						
ランク (A~E)	A 障害者が社会進出を強く希望し、それを実現する高等教育の場を整備することができた。								

事業名 **高等養護学校整備・拡充事業
第二高等養護学校(仮称)整備事業**



高等養護学校卒業生の職場定着率(平成19年5月現在)



※横浜市教育委員会事務局調べ

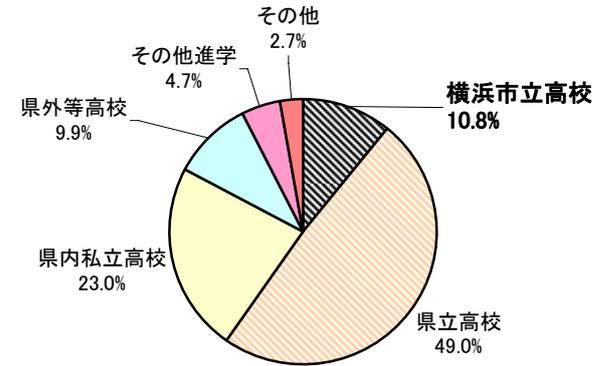
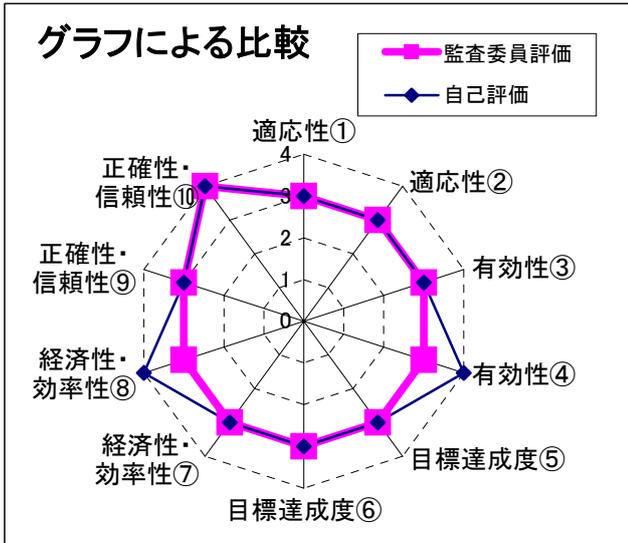
4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に <u>適</u> っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う <u>必</u> 要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>中学校個別支援学級に在籍する知的障害等の軽い生徒数は今後も増加することが予測されている。また、高等養護学校への入学希望者は増大しつつあるが、定員は対象生徒の3割程度にとどまっている。高等養護学校については県・市とも学校教育法上の設置義務はないものの、過大規模化の解消と適切な職業教育を実施するため、県と調整しながら市が補完的に整備する必要がある。</p>		
2 有効性	7	③ 事業の目的に <u>照</u> らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の <u>実</u> 現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>二つ橋分教室を本校化することにより、生徒全員の企業就労を目指す高等学校として、教員や就業コンサルタント等の配置が可能になるとともに、職業教育に必要な調理室、実習室などの設備を整備し、定員数については1.5倍に増やすことができた。高等養護学校整備・拡充基本計画に基づいた整備を推進しており、運営方針の「特別支援教育の推進」に向けて一定程度貢献している。</p>		
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は <u>適</u> 切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>高等養護学校就労率については、過去の実績や全国・他都市の状況を考えるとやや高い水準となっている。就労率は目標を若干下回ったものの、二つ橋分教室の卒業生については100%の就労率であった。高等養護学校の整備についてはスケジュールどおり平成19年2月に竣工した。</p>		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は <u>効</u> 率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>工事の設計に当たっては、必要最小限の整備にとどめることにより、基本構想で想定した経費に比べ2割程度コストを縮減することができた。まちづくり調整局、学校と連携しながら工事を進めてはいるが、事務の効率化のための取組は特段行われていない。</p>		
5 正確性・信頼性	8	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために <u>適</u> 切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>工事期間中は生徒全員を隣接施設に移動させたりプレハブで対応するなどして、生徒の安全を第一に考え工事を行った。工事に当たっては、周辺住民への説明会の開催やちらし配布を行い、保護者に対しても説明会を開催した。工事に関する苦情は特段寄せられなかった。</p>		
監査の結果	合計	35 / 40
	100点換算	88 / 100
	ランク(A~E)	A
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし		

事業名		高等学校教育費 (市立高校改革推進事業)		担当	区局部課名 教育委員会事務局学校教育部高等学校教育課	課長名 手老 貞行	電話 671 - 3289	
施策名	■ 中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します					重点事業 番号	2 - 2 - 8
	■ 運営方針	横浜教育ビジョン(仮称)・推進プログラムの策定						
目的		市立高校教育改革推進会議等により、高校教育及び市立高校の置かれている現状や諸課題について整理を行い、今後の市立高校のあり方について検討を行う。						
内容		<ul style="list-style-type: none"> 市立高校教育改革推進会議において市立高校の将来像、教育内容・方法、学校運営等について検討し、答申を得る。 市立高校の教育改革を推進するための実施計画を策定する。 						
根拠法令等								
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)	470	1,731	3,178	1,150	3,000	
	うち一般財源等	(千円)	470	1,731	3,178	1,150	3,000	
	人件費(概算)	(千円)		18,472	18,000	18,472	18,000	
	総コスト(概算)	(千円)	470	20,203	21,178	19,622	21,000	
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	市立高校教育改革推進会議				諮問	答申		
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
	市立高等学校改革推進プログラム						策定	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		□4 ■3 □2 □1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		□4 ■3 □2 □1				
高校教育を取り巻く状況の変化に対応するため、外部有識者等による横浜市立高校教育改革推進会議を設置し、基礎自治体が設置する高校として、地域の大学や企業等と連携・協働した市立高校のあり方について検討を行った。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		□4 ■3 □2 □1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		■4 □3 □2 □1				
市立中学校、高校、大学のほか、学校経営者や研究者等による審議会を設置し、義務教育を中心とする横浜教育改革会議と連動して検討作業を進めた。また、本市及び教育委員会の中長期計画などの上位計画と計画内容、期間等を整合を図りながら計画を策定した。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		□4 ■3 □2 □1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□4 ■3 □2 □1				
横浜版学習指導要領の策定や市立高校の一体的な運営のための第三者評価組織の設置、大学との連携・接続システムの構築など、本市教育を取り巻く状況、課題を踏まえた目標水準となっている。18年度は、早期に取組を進めるべきものとして、大学との連携・接続制度を検討するため市内3大学との協定締結を行った。								
4 経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。		□4 ■3 □2 □1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		■4 □3 □2 □1				
17年7月に設置した市立高校教育改革推進会議では、11回の会議開催を通じて18年6月に審議会より最終答申を得た。その後教育ビジョン及び推進プログラムの策定と連動して検討作業をすすめ、19年1月に本市教育施策を示す一連の計画として、横浜市立高等学校改革推進プログラムを策定することができた。								
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		□4 ■3 □2 □1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		■4 □3 □2 □1				
審議会における検討経過や結果については会議や議事内容の公開、報告書・答申の公表を図ったほか、シンポジウムを開催して周知につとめた。また、計画素案をホームページや市・区役所の窓口配布等により公表し、市民意見の集約を行い横浜市立高等学校改革推進プログラムを策定した。								
総合評価	合計	33	(協働の取組状況)					
	↓ 100点換算	83	特記事項 市内中学校、高校、大学、専修学校等の関係機関及び研究者、学校経営者等からなる審議会での検討を踏まえ、横浜市立高等学校改革推進プログラムの策定を行った。 (環境への負荷) 市立高等学校改革推進プログラムの中心となる科学技術高校(仮称)の整備においては、環境負荷に配慮した施設計画としている。					
	ランク(A~E)	B	市立高校教育改革推進会議での検討から横浜市立高等学校改革推進プログラムの策定においては、市立学校や市内教育関係者等と連携してすすめることができた。今後は、将来にわたり市民に理解され、選択される高校となるべく教育の質の向上を図り、各高校とも調整を行いながら計画の実現を目指していきたい。					

事業名 **高等学校教育費
(市立高校改革推進事業)**

市立中学校卒業者の進路先(平成18年3月)



※神奈川県公立中学校等卒業者の進路状況調査

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 市立高校については市立高等学校再編整備計画に基づく再編整備が進みつつあり、県内公立中学校卒業者数は今後平準期に入ることから、本市が高校を設置する意義について明確にさせる必要がある。また、市立高校生徒からは授業内容に対して様々な要望が寄せられている。市立高校については学校教育法上の設置義務はなく、県立・私立高校も共存していることから、市立高校の現状や課題を整理するとともに、そのあり方について引き続き検討を進める必要がある。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 外部有識者等13名による横浜市立高等学校教育改革推進会議に諮問することにより、専門的かつ幅広い観点での審議が行われた。横浜市立高等学校改革推進プログラムは横浜教育ビジョン実現のための高校版アクションプランであり、一定程度寄与していると考えられる。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 これからの市立高校に求められるものや存在意義等について諮問しており、横浜市立高等学校教育改革推進プログラム策定のための目標水準として適切である。当初のスケジュールに沿って改革推進会議は開催され、答申に基づき推進プログラムを策定した。平成18年度は推進プログラムのおり市内3大学との協定締結を行うことができた。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 横浜市立高等学校教育改革推進会議の開催に当たっては局内会議室や学校を活用し、コスト縮減に努めた。これにより、会場借上げ料にかかる支払事務が不要となった。
5 正確性・信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 推進会議委員あての送付物の発送に当たっては必ず複数人で確認を行うとともに、各委員の個人情報には適正に管理を行っている。横浜市立高等学校教育改革推進会議は公開で開催し、会議資料や議事録、答申、推進プログラムについてはホームページにおいて公開した。また、推進プログラム(素案)のパブリックコメントや公開シンポジウムの開催により積極的に情報提供を行った。
監査の結果	合計 31 / 40 100点換算 78 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし

事業名		科学技術高等学校(仮称)整備推進事業		担当	区局部課名 教育委員会事務局学校教育部高等学校教育課	課長名 手老 貞行	電話 671 - 3289		
施策名	■中期計画	子どもたちの新たな時代を生き抜く確かな学力と豊かな社会性を育成します				重点事業番号	2 - 2 - 8		
	■運営方針	「科学技術高校(仮称)」の整備							
目的	PFI導入による科学技術高校整備の推進及び開校へ向けた教育内容、学校運営等の検討								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 新たに設置する科学技術高校を学校教育改革のパイオニアとして位置づけ、横浜市立高等学校改革推進プログラムの一環として整備を推進する。 科学技術高校を整備するためのPFIによる事業を実施するとともに、開校に向けたPRや従来にはない教育内容や学校運営の検討を実施する。 								
根拠法令等	民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(PFI法)								
コスト	区分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費 (千円)			48,802	70,000	50,201	30,436	45,369	
	うち一般財源等 (千円)			48,802	69,000	50,001	30,436	45,169	
	人件費(概算) (千円)			45,380	46,180	45,000	46,180	45,000	
	総コスト(概算) (千円)			94,182	116,180	95,201	76,616	90,369	
活動・成果指標	名称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	PFI事業による整備の推進			特定事業選定	契約締結	工事着手	工事着手	建設工事	
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)						
	教育内容の検討			基本構想策定	基本計画策定	実施計画策定	実施計画策定	教育課程検討	
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)						
	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)						
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
横浜の教育の目指すべき姿を描く「横浜教育ビジョン」の実現に向けて、平成19年1月に策定された「市立高等学校改革推進プログラム」において、市立学校の教育改革のパイオニア校を目指す高校として、位置づけられている。 施設整備にあたっては、民間事業者の資金とノウハウや技術力を活用するため、PFI事業を導入した。									
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
PFI事業により、設計、建設、施設管理等まで一括して行うことで、最良な教育環境の提供や施設管理面でのサービス向上などが期待される。 平成13～17年度の中期政策プランに重点事業として位置づけられるとともに、平成18年度の局運営方針の重点推進課題及び「市立高等学校改革推進プログラム」にも位置づけられ、事業を進めている。									
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
開港150周年、市政120周年を迎える平成21年の開校を目指し、施設整備を進めるとともに、教育内容などのソフト面の計画についても着実に進めている。 当初計画通り、基本設計、実施設計が終了し、建設工事が着手された。教育内容を盛り込んだ実施計画の策定やPR活動等についても、平成21年度の開校に向け計画どおり進捗している。									
4 経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
民間事業者の資金とノウハウや技術力を活用したPFI事業を導入し、設計、建設、施設管理等まで一括して行うことにより、イニシャルコスト、ランニングコストの軽減を図っている。 関係局との業務分担を明確にし、事業者の公募、選定、契約等の一連の手続きを適正に行っている。									
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
関係局との業務分担を明確にし、PFI事業者と建設工事等に向けた手続きを適正に行っている。 PFI事業及び教育内容の策定などについては、地元住民を対象とした説明会や科学技術シンポジウムの開催、記者発表等により、整備事業の節目節目において、一般市民に向けた情報提供を行っている。									
総合評価	合計	32	特記事項 (協働の取組状況) 京浜臨海部の横浜サイエンスフロンティア地区に設置される立地特性を活かし、産業界や大学との連携をすすめるとともに、学校施設であるホールやアリーナ等は、地域開放施設とする予定である。 (環境への負荷) 省エネルギー・省メンテナンスなど、ライフサイクルコストの低減に配慮した施設計画などを採用することにより、光熱費を削減し環境負荷の軽減を図る。						
	100点換算	80							
	ランク(A～E)	B						科学技術高校(仮称)は、先端科学のほんもの体験とともに高度な専門的知識を学び、未来を切り拓く意欲と力を身につけた人材を育成するという従来になかった高校である。市立学校における教育改革のパイオニアとなる学校を目指し、平成21年の開校に向け整備を進めていく。	

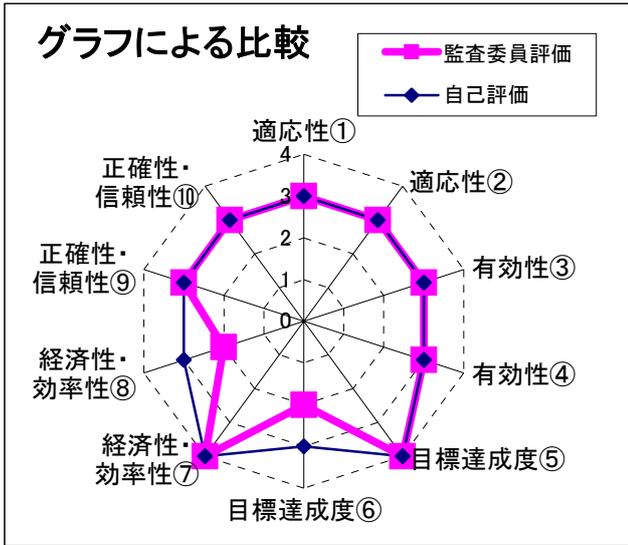
事業名 **科学技術高等学校(仮称)整備推進事業**

横浜サイエンスフロンティア高等学校 完成予想図



※横浜市立科学技術高等学校(仮称)基本計画

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
監査の結果	合計 30 / 40 100点換算 75 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし

1 基本情報

評価対象の基本施策名	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します	基本施策番号	2 - 3
関連する基本構想	5. いつまでも安心して暮らせる 安全安心都市	担当 進行管理担当課名	都市経営局 政策課
重点政策名	【重点政策2】 子ども未来戦略	担当 課長名	井尻 靖
		電話	671 - 3911
重点政策の目的	横浜の未来を担う子どもたちが健やかに育つ都市を実現します。		
現状と課題	家族機能が低下し、住民相互の育てあいの機能も脆弱化している。また、自傷や非行、ひきこもりやニートといった現代的な課題も顕在化し、保護者、教師、地域、そして子どもや青少年自らが、安心してのびのびと過ごし社会で生きていく力をつける場を創り出していくことが求められている。		
取組の方向と目指す姿	地域や市民活動団体と協力しながら、子どもや青少年が社会的・経済的に自立していくことが可能になる「居場所」を成長段階に応じて創出する。また、包括的な相談支援体制を身近な地域において確立する。		

2 目標の達成状況(指標の選定または、変更・追加の理由を記入。累積値の場合は、※を記入。)

達成目標(成果指標)	H17実績	H22目標値	H18実績	H18目標値	H18達成率
① 全在籍児童のうち、安全で快適な放課後の居場所を利用している児童の割合	※ 49.9%	※ 60.0%	※ 52.1%	※ 52.0%	※ 100.2%
指標の選定・変更理由	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出する事業は多岐に渡り、包括的な指標設定が困難であるが、施策の代表的な指標として、「放課後児童育成推進」事業を選定した。				
②	-				
指標の選定・変更理由					

3 施策を構成する重点事業の事業費総額(億円)

	H18年度	H19年度	H20年度～H22年度合計	計画期間合計
概算事業費(実績・予算)	19	22	93	134

4 施策を構成する重点事業の主な課題(共通する課題等)

共通課題等	安全で快適な空間や自立支援の場を創出していくには、多岐にわたる子ども・青少年のニーズを的確に把握し、有効な事業を重点的に展開していくことが重要である。
-------	---

5 項目別評価

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	着眼点評価、理由・説明等
政策目的等との整合性	①基本構想または政策の目的を実現するために適切なものとなっているか。 ■4 □3 □2 □1 子どもや青少年の健やかな成長空間を創出することは、横浜で暮らす人たちが安心して子どもを育て、横浜の子どもたち自身が自立する力を身につける環境を提供することであり、いつまでも安心して暮らせる安全安心都市の実現に不可欠な施策であることから、政策目的と施策の関係は十分に明確である。
適応性	②市民ニーズや社会経済情勢の変化に柔軟に対応しているか。 □4 ■3 □2 □1 非行、引きこもり、ニートなど社会・経済的に自立が遅れた若者への支援など社会情勢を的確に捉えたものとなっている。今後も子どもや青少年が求めているニーズを把握し、柔軟な取組みを行っていくことが求められる。
目標達成度	③目標水準を適切に設定しているか。 □4 □3 ■2 □1 施策を構成する代表的な事業の目標を施策目標に設定しており、施策全体を表す市民にわかりやすい指標ではないと評価した。
	④施策の目標水準どおりに進めることができているか。 □4 ■3 □2 □1 施策目標の18年度実績は目標値を達成しているとともに、事業についても、放課後児童の居場所を確保する環境整備は順調に進んでいるなど、概ね順調に進捗している。
有効性	⑤事業の重点化について明確な理由をもって行っているか。 □4 ■3 □2 □1 施策の目標達成に向けて、それぞれの事業が、子どもや青少年の健やかな成長空間を創出するために必要な事業として重点化されている。
	⑥施策を構成する事業が円滑に進むように調整をしているか。 □4 ■3 □2 □1 施策を構成する事業の進捗状況等の確認、調整を行い18年度は概ね予定通りに進んだ。事業によっては、社会情勢や利用者ニーズにより、さらなる進捗管理、調整が必要となる。

6 総合評価(上記1～5とランクを踏まえて記入)

ランク(A～C)	B	横浜の未来を担う子どもたちが健やかに育つ都市像の実現に向け、多岐にわたる子どもや青少年のニーズに対応した施策となっている。全体としてはおおむね順調に進捗しているが、子どもや青少年を取り巻く環境の変化に柔軟に対応しながら取り組んでいく必要がある。	合計 ↓ 100点 換算	18 / 24 75 / 100
----------	---	--	-----------------------	---------------------------

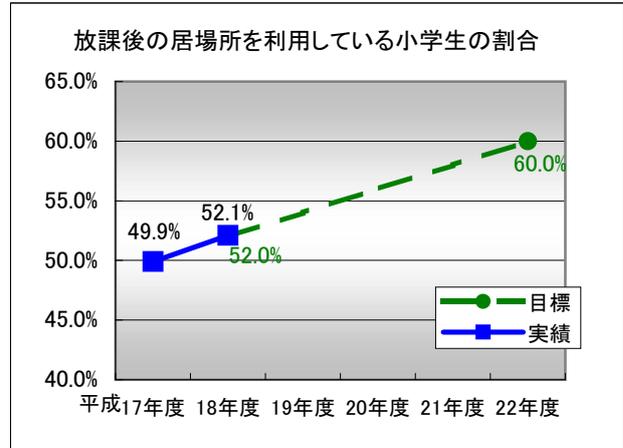
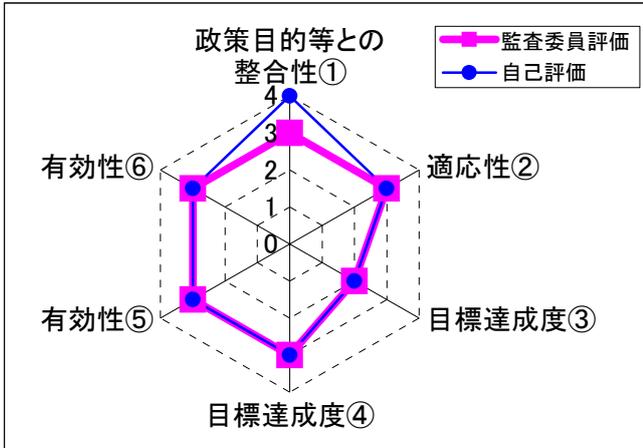
7 改善の方向性

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 計画の検証 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
何を どのような 状態にするか	何時までに

1 基本情報

基本施策名	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します	基本施策番号	2 - 3
-------	------------------------	--------	-------

【グラフによる比較】



2 項目別評価

4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	着眼点評価、理由・説明等	
政策目的等との整合性	①基本構想または政策の目的を実現するために適切なものとなっているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	地域社会の中で子どもが安心して過ごせる場所、特に障害児の居場所が少ないこと、思春期の飲酒・万引き・自傷行為、「若年無業者(ニート)」や「社会的ひきこもり」などの自立の遅れ等の課題を、学齢期からの成長段階に応じて地域や市民活動団体と解決していくこの施策は、子どもたちが健やかに育つ都市を実現するために必要であり、政策目的と整合している。	
適応性	②市民ニーズや社会経済情勢の変化に柔軟に対応しているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	それぞれの課題に対し、実態調査やアンケート、又はモデル事業によるニーズや情勢の把握に努めている。また、施策の方向性は、専門家を交えた「子どもたちの放課後懇話会」や、ひきこもりやニートに関する「横浜市青少年自立支援研究会」等の客観性のある検討も踏まえて決定されている。	
目標達成度	③目標水準を適切に設定しているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	中期計画の他の施策では、全体の進捗よくや成果を把握するために複数の目標指標を設定しているものもあるにもかかわらず、この施策の目標は、重点事業の「放課後児童育成推進」と同一であり、施策全体を表す目標としては分かりにくくなっている。	
有効性	④施策の目標水準どおりに進めることができているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	平成18年度当初に想定した目標の「放課後の居場所を利用している小学生の割合」2%向上は達成している。また、施策を構成する事業もおおむね目標を達成している。	
有効性	⑤事業の重点化について明確な理由をもって行っているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	「子どもや青少年の健やかな成長空間の創出」の施策実現のための事業が、それぞれの成長段階のニーズを踏まえて重点化されている。	
有効性	⑥施策を構成する事業が円滑に進むように調整をしているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	この施策は、重点事業の所管局が複数にまたがっているが、中期計画の進行管理に沿って進捗よく状況の確認、調整を行っている。平成19年度以降本格的に実施する事業も多く、今後の進捗よく管理と検証の必要がある。	

3 総合評価

ランク (A~C)	B	<p>子どもや青少年の健やかな成長に向け、アンケートやモデル事業、専門家を交えた委員会の検討等を通じて、ニーズや社会情勢を把握しながら施策を展開している。</p> <p>平成18年度は年度当初に想定した目標の「放課後の居場所を利用している小学生の割合」を達成するとともに、子どもや青少年の成長段階に応じた「居場所」の創出や、相談支援体制の確立に着手している。</p> <p>なお、この施策が対象としている子どもや青少年の成長は非常に早いことから、今後本格化する新たな取組を含め、スピードを上げて取り組んでいくことが望まれる。</p>
--------------	---	--

合計	17
↓	/ 24
100点 換算	71
	/ 100

事業名	放課後キッズクラブ事業		担当	区局部課名	こども青少年局青少年部放課後児童育成課	電話	671 - 4151
				課長名	徳田 文男		
施策名	■中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します				重点事業 番号	2 - 3 - 1
	■運営方針	放課後児童育成施策の推進					
目的	すべての子どもたちを対象に、小学校施設を活用し、「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所づくりを実施する。						
内容	①放課後キッズクラブの運営(年度当初18か所→年度末30か所) ②放課後キッズクラブの整備(18年度新規開設12校) ③プレイパーク等との連携による地域における放課後の居場所ネットワークの構築						
根拠法令等	横浜市放課後キッズクラブ事業補助実施要綱、児童福祉法第6条の2第2項、社会福祉法第2条第3項第2号等						

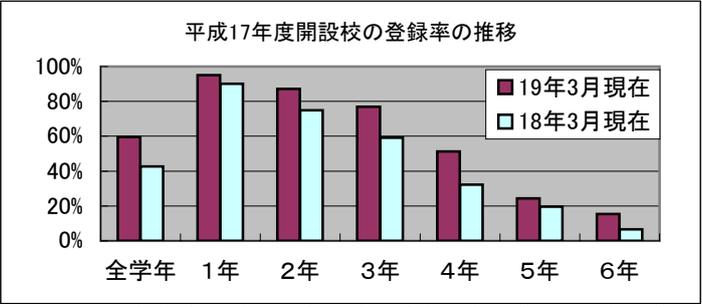
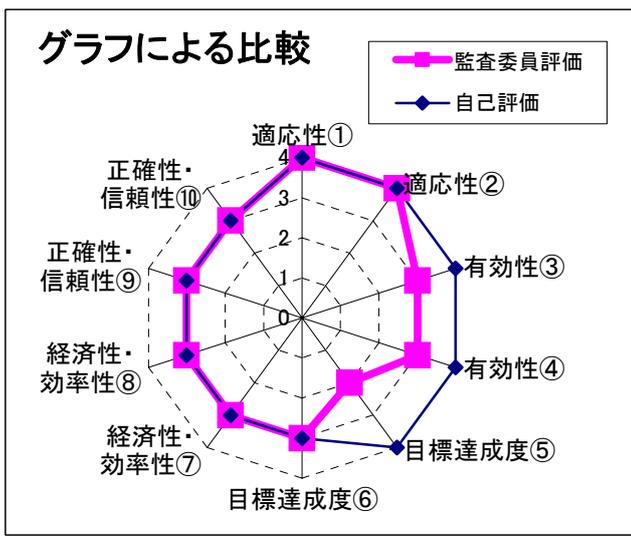
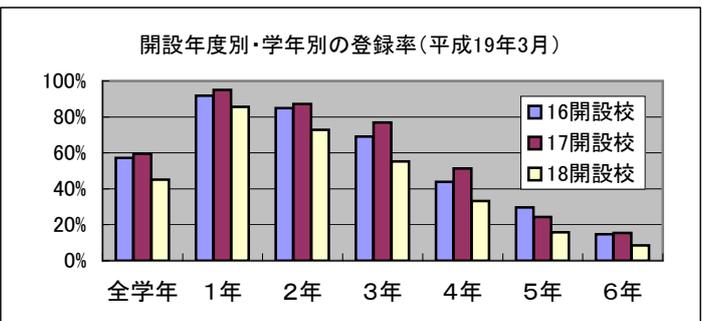
コスト	区 分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)	218,040	411,899	595,548	581,464
うち一般財源等	(千円)	216,397	401,683	584,870	547,926	715,539
人件費(概算)	(千円)	6,353	9,236	13,500	13,854	17,100
総コスト(概算)	(千円)	224,393	421,135	609,048	595,318	809,858

活動・成果 指標	名 称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		キッズクラブ実施か所数	か所	9	18	30	30
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(24,933)	(23,396)	(20,302)	(19,844)	(16,872)
	キッズクラブ登録児童数	人	2,080	4,569	7,620	7,769	12,400
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(108)	(92)	(80)	(77)	(65)
		か所					
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1

総合評価	合計	35	特記事項	(協働の取組状況) 運営法人が学校、地域、保護者と連携して実施している。
	100点換算	88		(環境への負荷) 各学校のISO14001の推進に協力して実施している。
	ランク(A~E)	A	放課後の居場所のニーズが高い小学校では、児童数の増加が見込まれる場合が多く、余裕教室等の専用の活動スペースを確保することが難しくなっているため、これまで以上に教育委員会事務局との連携調整が必要になっている。 開設か所の増加に合わせ、良好な運営ができる法人を確保し、運営スタッフの確保及び人材育成に取り組んでいく必要がある。	

事業名 **放課後キッズクラブ事業**



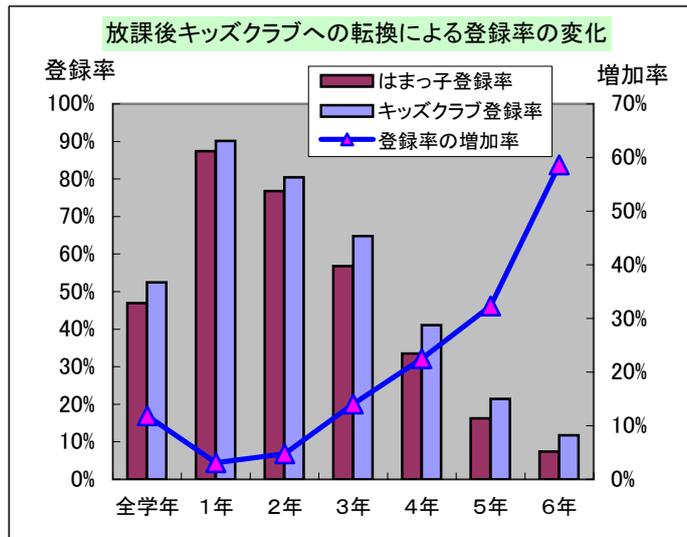
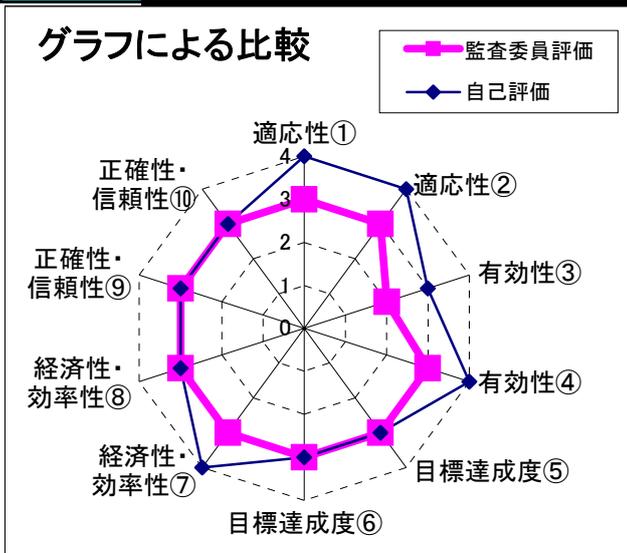
4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		「子どもたちの放課後懇話会」の検討を経て「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な居場所づくりをしていく事業として、放課後児童育成施策基本指針の中で、中心的事業として位置付けられている。放課後の児童の安全な居場所として学校を活用する他の実施主体はない。また、児童福祉の観点から留守家庭の児童対策に市が関与する必要性が認められる。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		留守家庭の児童を含み全児童を対象とした居場所づくりは他都市に数例見受けられる程度であり、先駆的な取組といえる。キッズクラブ全体の登録率は52%で、1～3年生は78.6%、4～6年生は24.8%となっている。登録率は設置後徐々に改善する傾向が見られ、新設校以外は約60%となっている。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		現状では小学校の施設面や、担い手となる運営主体の状況により実施校数を決定しているが、今後この事業を放課後児童対策の中心的事業として、どの程度のスピードで展開していくのか明確に示されていない。平成18年度は計画どおり30校で実施している。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		原則として小学校の余裕教室を有効活用することによってコストを縮減している。この事業は地域や学校の協力が必要不可欠であるところから、連絡調整等を効率的に行い円滑な運営を図るという観点から平成18年度以降区が所管している。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		安全管理と事故対応のマニュアルを作成して周知している。また、障害児への対応は巡回相談員による指導により、個別に安全な人管理体制を定めている。この事業の対象者には、保育園、幼稚園を通じてパンフレットを配布し、小学校の入学説明会の機会を利用して説明している。

監査の結果	合計	31 / 40	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input checked="" type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 「放課後キッズクラブ」は、女性の就業率の上昇や、都市化に伴う「遊び場」の減少といった社会環境の変化を踏まえて、小学生の放課後施策を緊急かつ重要な課題と位置付け、これまでの同施策を改善し、更に充実させたものとして平成16年度から始めた事業である。平成17年12月には、「放課後児童育成基本指針」を定め、従来の「放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)」と「はまっ子ふれあいスクール事業」とともに、小学生の放課後施策の中心的事業として位置付け、既に市内全校で開設している「はまっ子ふれあいスクール」からの転換促進を打ち出している。 しかし、転換の状況を見てみると、平成18年度末の「放課後キッズクラブ」の開設校は全349校のうち、わずか30校で、平成22年度末には102校となる計画だが、その時点でも全体の3割に満たない見込みである。また、「はまっ子ふれあいスクール」では時間延長等の緊急的なニーズにこたえるために「充実型」を導入しているが、「放課後キッズクラブ」への転換促進との関係ではどのようなすみ分けになっているのか明確でない。空き教室確保などの課題を具体的にどのように解決して転換を促進するのか、開設以来3年間の検証を踏まえ、予算の見直しを含めた中長期的な整備計画を明らかにしながら事業を促進する必要がある。
	100点換算	78 / 100	
	ランク (A~E)	B	

事業名		はまっ子ふれあいスクール事業		担当	区局部課名	こども青少年局青少年部放課後児童育成課		
				担当	課長名	大庭充男	電話	671 - 3276
施策名	■ 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します					重点事業 番号	2 - 3 - 1
	■ 運営方針	放課後児童育成施策の推進						
目的	学校施設を利用して、遊びを通じた異年齢児間の交流を促進することにより、子どもたちの創造性や自主性、社会性を養い、児童の健全育成を図る。							
内容	①はまっ子ふれあいスクールの運営（332校） ②充実型はまっ子ふれあいスクールの実施（13校）							
根拠法令等	横浜市はまっ子ふれあいスクール事業要綱等							
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)			2,468,269	2,303,294	2,237,150	2,188,508	2,147,174
	うち一般財源等 (千円)			2,468,196	2,302,291	2,075,150	2,186,125	1,958,041
	人件費(概算) (千円)			19,968	20,320	19,800	20,320	18,000
	総コスト(概算) (千円)			2,488,237	2,323,614	2,256,950	2,208,828	2,165,174
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	はまっ子実施か所数		か所	355	347	332	332	319
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(7,009)	(6,696)	(6,798)	(6,653)	(6,787)
	はまっ子登録児童数		人	84,807	80,193	80,193	80,760	82,053
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(29)	(29)	(28)	(27)	(26)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
①都市化による遊び場の減少、少子化・核家族化による子ども同士の交流の機会の減少、女性の就業率増加による留守家庭児童の増加、子どもの安全に対するニーズの増大から必要性は高まっている。 ②はまっ子は、学校施設を活用して実施するため本市の事業として行う必要がある。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
③児童数や学校施設、保護者の就労状況、地域特性等に応じて、開設時間の延長、おやつ提供、及び活動プログラムを充実する「充実型」を制度化し、運営委員会の他、公益的な法人も運営できるようにした。 ④中期計画の重点事業として位置づけられ、局の運営方針の重点施策のひとつに位置づけられている。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
⑤平成18年度の実績を踏まえ、充実型を今後推進していくこととして中期計画に位置づけた。 ⑥13か所で充実型を実施（内2か所は年度内にキッズクラブに移行）								
4 経済性 効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
⑦児童数や開設時間などの活動規模に応じて運営予算を効率的に配分している。 ⑧業務を区に移管するためのモデル事業を実施。								
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
⑨安全マニュアルに基づいて事故防止を図るとともに、スタッフを対象とした研修を実施。また、運営主体については適宜巡回指導を実施している。 ⑩充実型の実施にあたっては、保護者のニーズ調査を各はまっ子運営委員会で実施。毎月はまっ子便りを児童・保護者に配布。								
総合評価	合計	34	(協働の取組状況)					
	↓ 100点 換算	85	事業を保護者及び地域で構成する運営委員会等に委託又は補助している。 スタッフ及び行事等に地域の協力得て実施。					
ランク (A～E)		B	(環境への負荷)					
			各学校のISO14001の推進に協力して実施している。					
		子ども達の放課後の安全・安心な居場所が減少する中、重要な居場所の一つを提供している。 留守家庭児童が増加する中、19時まで運営する充実型はまっ子の拡大に取り組んでいる。 障害児が安心して利用できるよう参加体制を整備している。						

事業名	はまっ子ふれあいスクール事業
-----	----------------

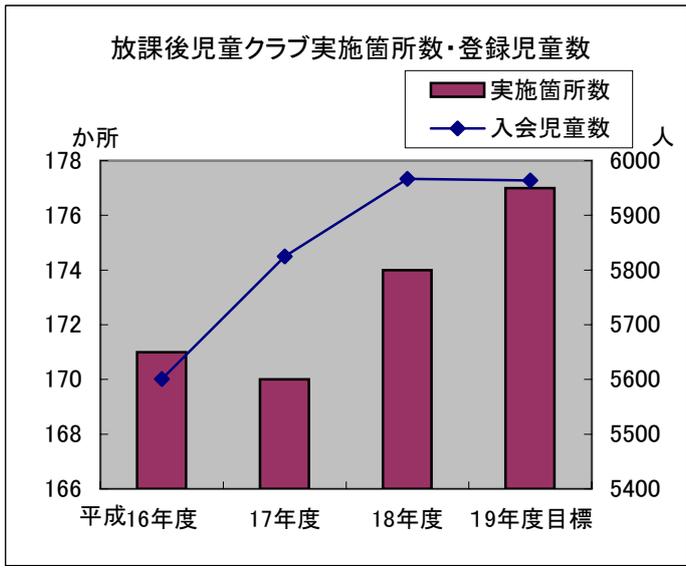
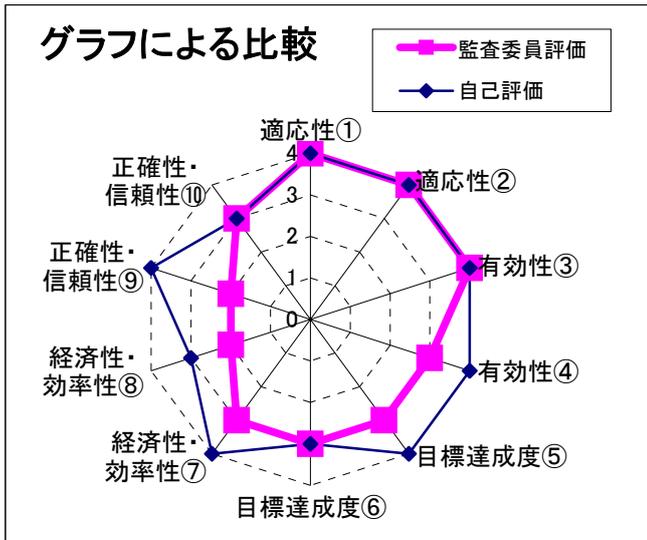


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 都市化による遊び場の減少、少子化・核家族化による子ども同士の交流の機会の減少などから、放課後児童が安全に遊べる場のニーズは、各種アンケート結果に現れている。この事業は、「遊びの場」と「生活の場」である放課後キッズクラブに順次転換していくというのが市の方針だが、学校や実施主体の条件が整わない一部の学校では、平成18年度から終了時間を延長し、おやつを提供するなど留守家庭児童に配慮した「充実型」を13校で実施した。 放課後の児童の安全な居場所として学校を活用する他の実施主体はない。また、児童の健全育成の観点から市が関与する必要性が認められる。
	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 平成19年度から始まる国の「放課後子どもプラン」に先駆けて、全校児童を対象に小学校を利用して放課後児童の居場所を提供していることは先進的な取組ともいえる。児童の登録率は46.9%となっており、キッズクラブの52%と比較すると若干低くなっている。また、4年生以上の登録率は19%となっている。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 キッズクラブへの移行が始まったことで実施校数が減り、対象児童数も減少しているものの、昨年並みの登録児童数を目標とした。結果は、登録児童数が増加し、登録率が高まった。
	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 委託料又は補助金の内訳のうち多くが人件費であり、リーダーの勤務時間を見直すことなどによりコストの削減に努めている。また、この事業は地域や学校の協力が必要不可欠であることから、連絡調整を効率的に行い円滑な運営を図るといった観点から区への事務移管を目標に、平成18年度は3区でモデル実施を行っている。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 スタッフに対しては、安全管理と事故対応のマニュアルを作成して周知している。障害児への対応は巡回相談員による指導により、個別に安全な人員体制を定めている。事業の対象者には、小学校入学説明会の機会を利用して説明会を実施し、入学後は毎月「はまっ子便り」を配布している。
	合計	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input checked="" type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 市立小学校の約9割に当たる319校で実施している放課後の居場所事業である。平成18年度からは、保護者の就労状況などに応じて開設時間の延長や、おやつを提供する「充実型」も始めている。中期計画では、放課後キッズクラブ、放課後児童クラブと合わせて、平成22年度には登録率を60%とする目標を設定している。 平成18年度のはまっ子ふれあいスクールの登録率は全体で47%、4年生以上19%だが、放課後キッズクラブではそれぞれ52%、25%となっており、高学年の登録率が伸びている。このことから、放課後の居場所事業に対する潜在的なニーズはまだあることが想定され、児童の参加を左右するのはプログラムの良し悪しや充実の度合いによるものと考えられる。 市としては、今後、はまっ子ふれあいスクールを順次放課後キッズクラブへ転換していく方針だが、計画では平成22年度末では3割に満たず、多くの学校でははまっ子ふれあいスクールが残る見込みである。プログラムの工夫やスタッフの育成などにより、放課後の児童の安全な居場所としてより多くの子どもが参加する方策を、運営主体とともに検討する必要がある。
監査の結果	29 / 40 ↓ 100点換算 73 / 100 ランク (A~E) B	

事業名		放課後児童健全育成事業		担当	区局部課名	子ども青少年局青少年部放課後児童育成課	課長名	徳田 文男	電話	671 - 4151	
施策名		■中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します					重点事業番号	2 - 3 - 1		
		■運営方針	放課後児童育成施策の推進								
目的		地域の理解と協力のもと、保護者の就労等の事情により、留守家庭となる児童の保護、及び遊びを通しての健全な育成を行う。									
内容		放課後児童クラブの運営補助									
根拠法令等		児童福祉法第6条の2第2項、社会福祉法第2条第3項第2号、横浜市放課後児童健全育成事業補助実施要綱等									
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算			
		事業費 (千円)		1,178,133	1,178,512	1,142,460	1,133,129	1,132,692			
		うち一般財源等 (千円)		1,057,118	1,058,118	994,827	974,975	954,674			
		人件費(概算) (千円)		7,261	7,389	7,200	7,389	7,299			
		総コスト(概算) (千円)		1,185,394	1,185,901	1,149,660	1,140,518	1,139,991			
活動・成果指標		名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定		
		放課後児童クラブ実施か所数		か所	171	170	177	174	177		
		活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(6,932)	(6,976)	(6,495)	(6,555)	(6,441)		
		入会児童数		人	5,601	5,825	5,967	6,111	5,964		
		成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(212)	(204)	(193)	(187)	(191)		
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)									
評価項目		点数	理由・説明等								
1	適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 ■4□3□2□1								
			② 事業を市が行う必要性があるか。 ■4□3□2□1								
		①社会経済情勢の変化により、今後も留守家庭児童数の増加が見込まれることに伴い、放課後の居場所のニーズが高まっている。 ②本事業は児童福祉法に基づく制度として実施されており、事業の実施主体は市町村等とされている。そのため、本市の事業として民間団体及び法人に対する補助事業として実施。									
2	有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 ■4□3□2□1								
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 ■4□3□2□1								
		③今年度から委託方式から補助方式に変更したことで、より運営主体の自主的で地域特性に応じた運営ができるようになった。また、従来の運営委員会の他に、公益的法人も運営ができるようにした。 ④子どもたちの放課後の居場所づくり事業の一環として、寄与している。									
3	目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 ■4□3□2□1								
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 □4■3□2□1								
		⑤前年度のクラブの申請状況に基づき、補助か所数を設定している。 ⑥廃止になったクラブがあったが、ほぼ計画通りに推進できた。									
4	経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 ■4□3□2□1								
			⑧ 事務は効率的に行われているか。 □4■3□2□1								
		⑦国の加算補助制度にあわせた加算補助制度を設定することで、国庫補助金による歳入が見込まれるほか、各放課後児童クラブの実状に応じたきめ細かな支援ができるように加算補助制度としている。 ⑧補助金申請にあたっては、必要な書式を定めているが、過度な提出書類を求めないなど、事務の効率化を推進している。									
5	正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 ■4□3□2□1								
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 □4■3□2□1								
		⑨安全対策について、全放課後児童クラブ向けに研修を実施し、併せて「安全管理マニュアル」を作成・配付した。 ⑩放課後3事業を掲載したリーフレットを作成し配付することで、保護者が制度の選択をできるようにしている。また、ホームページ等でもPRしている。									
総合評価	合計	37	(協働の取組状況)								
	↓	40	運営主体について、地域の方々が中心となった運営委員会のほか、公益法人、学校法人、社会福祉法人、NPO法人も参加ができるようになっている。								
	100点換算	93	(環境への負荷)								
		環境側面を考慮して、通知及び研修を行っている。									
ランク (A~E)		A	今年度から、これまでの委託方式から補助方式に変更したことにより、地域特性等より各放課後児童クラブの実状に応じた運営支援ができるようになった。引き続き、国の考え方や他都市における実施状況も参考にしながら、内容の改善・充実に努めていく。								

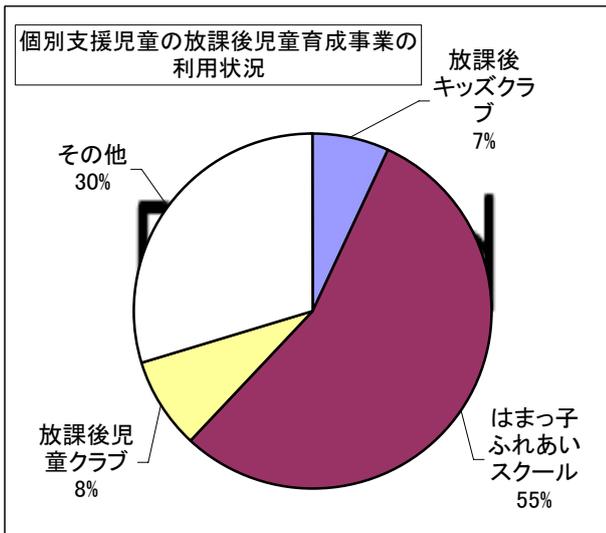
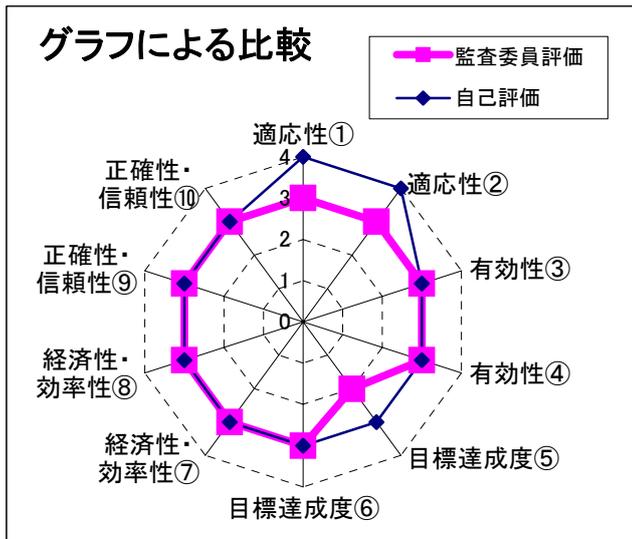
事業名 **放課後児童健全育成事業**



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に <u>適</u> っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>核家族化や女性の就業率の向上、就業形態の多様化などにより、留守家庭児童が安全に過ごせる「生活の場」の提供は社会情勢に適応している。また、入会児童数が年々増加していることからニーズが高いことがうかがえる。 この事業は児童福祉法に基づき実施しており、民間企業による事業展開もほとんどないことなどから、市の適切な関与が必要である。</p>		
2 有効性	7	③ 事業の目的に <u>照</u> らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の <u>実</u> 現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>各放課後児童クラブは、保護者や地域の自主的な運営委員会などにより、地域に根ざした留守家庭児童の「生活の場」として利用者を伸ばしている。また、他の多くの自治体で留守家庭の児童の放課後対策事業として実績があり、効果を上げている。</p>		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は <u>適</u> 切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>目標としている実施箇所数と入会児童数は、ともに過去の実績の推移を参考に設定したものであり、ほぼ例年並みの水準である。制度の見直しにより児童数が10人に満たず、廃止になったクラブがあったことから、実施箇所数は目標数に達しなかったが、この事業全体としての入会児童数は年々増加している。</p>		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>平成18年度から、従来の委託方式から国の各種加算制度にあわせた補助制度へ変更したことにより、障害児加算や長時間加算など実態に応じて支給するよう見直しが行われ、事業費は微減となっている。 区役所に提出する補助申請書の書き方が徹底されていないため間違いがあり、事務に手戻りがある。</p>		
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>安全管理面ではマニュアルを作成して危機管理の研修会も実施している。平成17年度の委託料の過大受給の事例を受けて補助金の適正な申請等に関するマニュアルを作成するとともに、現在、平成17年度と平成18年度の補助金を対象に全クラブの監査を行っている。 「放課後キッズクラブ」、「はまっ子ふれあいスクール」とともに入学説明会などで情報を提供し、周知している。</p>		
監査の結果	合計	31 / 40
	100点換算	78 / 100
	ランク (A~E)	B
<p>□指摘事項 □改善要望事項 ■評価の理由 □なし</p> <p>この事業は、留守家庭児童を対象に、保護者をはじめ地域の理解や協力のもと、自主的な運営委員会などが放課後の居場所を提供する事業である。全校児童を対象に小学校施設を活用して実施している「放課後キッズクラブ」や「はまっ子ふれあいスクール」とは、対象や手法が異なっている。他都市でも実績のある事業手法で、利用者数は増加傾向にある。 なお、平成17年度の補助金の過大受給事件を踏まえ、補助金申請及び収支報告等に関するマニュアルなどを作成し補助団体等の指導を行うとともに、平成17年度及び平成18年度の補助金を対象に全放課後児童クラブについて監査を行っているが、評価時点ではまだ結果は出ていない。</p>		

事業名		放課後児童育成施策人材養成事業		担当	区局部課名	こども青少年局青少年部放課後児童育成課			
				課長名	大庭充男	電話	671 - 3276		
施策名	■中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します					重点事業番号	- -	
	■運営方針	放課後児童育成施策の推進							
目的	放課後児童育成施策の活動内容の充実・質の向上を目的として、配慮を要する児童への対応研修、ボランティアの人材確保に関する講座を開催し、スタッフの人材養成を行う。								
内容	①個別に配慮を要する子どもへの対応に関する専門的研修 ②遊びのプログラムの企画・実施力向上研修 ③ボランティアマネジメント研修								
根拠法令等									
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)		0	572	923	342	726	
	うち一般財源等	(千円)			572	923	342	726	
	人件費(概算)	(千円)			1,848	1,800	1,848	1,800	
	総コスト(概算)	(千円)		0	2,420	2,723	2,190	2,526	
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	延べ参加人数		人		103	110	218	90	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)		(23)	(25)	(10)	(28)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)					
		単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)					
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。					■4□3□2□1		
		② 事業を市が行う必要性があるか。					■4□3□2□1		
		①本市の重要施策として実施する放課後児童育成施策については、事業に従事する人材の確保、育成が重要。 ②本市が委託又は補助する事業の人材養成のため本市が行う必要がある。							
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。					□4■3□2□1		
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。					□4■3□2□1		
		③専門機関やNPOを指導者として活用して実施している。 ④局の運営方針に位置づけて実施。							
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。					□4■3□2□1		
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。					□4■3□2□1		
		⑤局の運営方針に位置づけ、ほぼ計画通り実施。							
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。					□4■3□2□1		
		⑧ 事務は効率的に行われているか。					□4■3□2□1		
		⑥研修の指導を委託したが、今後は研修の運営も委託化を検討し、効率的な方法を検討する必要がある。							
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。					□4■3□2□1		
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。					□4■3□2□1		
		⑦個人情報管理を徹底して実施。 ⑧放課後児童育成3事業の各運営主体への呼びかけや、区役所を通してチラシの配布等地域に呼びかけている							
総合評価	合計	32	(協働の取組状況) 障害者のNPO等に実施を委託した。						
	↓ 100点換算	80							(環境への負荷) 環境側面に配慮して実施。
	ランク(A~E)	B	障害児対応にかかる専門研修では、個別対応のみでなく、健常児の中での障害児対応を学ぶため、保育園での研修を実施した。今後も、スタッフのニーズ等に基づいて、必要な研修を継続実施し、人材養成を推進していく必要がある。						

事業名 **放課後児童育成施策人材養成事業**



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 専門家等で構成する「子どもたちの放課後懇話会」から受けた各種提言の中に、人材の確保と養成の必要性が掲げられている。また、それぞれの放課後事業に障害児が積極的に参加していることから、このプログラムに対する実施主体からのニーズが高い。 市の委託又は補助事業を安全にかつ有効に実施するため、市として人材育成の支援等適切な関与を行う必要がある。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 はまっ子ふれあいスクールの個別支援学級児童の登録率は60.8%と、普通学級の46.8%と比較して高くなっており、事業を安全かつ円滑に行うための研修を通じて人材を育成することは、効果的で有用な取組である。研修受講者全員が放課後児童育成施策の3事業（「放課後キッズクラブ事業」「はまっ子ふれあいスクール事業」「放課後児童健全育成事業」）の指導員・スタッフとして活動している。障害児が在園している保育園の協力による実務研修は、参加者に好評である。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ニーズや必要性の高まりが認められるにもかかわらず、前年度並の参加者を目標として設定している。結果として指導者・スタッフの研修への希望者が多く、目標の2倍以上の実績となっている。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 横浜市総合リハビリセンターの専門家などによる内部講師の活用等で当初予算よりコストは縮減されている。 従来、放課後児童育成施策事業ごとに分かれていたスタッフの研修を統合して実施している。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 参加者の個人情報や職場のルールに基づき管理されている。また、各講座では、安全かつ効果的に実施できる人数を設定している。 研修の案内は、「放課後キッズクラブ」と「はまっ子ふれあいスクール」の実施校には庁内メールで送り、「放課後児童クラブ（放課後健全育成事業）」には郵送している。また、区役所からチラシを配布している。
監査の結果	合計 29 / 40 100点換算 73 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし

事業名	よこはま若者サポートステーション(仮称)事業	担当	区局部課名	子ども青少年局青少年部青少年育成課
			課長名	川名 一行
			電話	671 - 3718
施策名	■ 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します		
	■ 運営方針	青少年の自立支援－青少年自立のための支援拠点の開設		
重点事業番号	2 - 3 - 2			
目的	若年無業者やひきこもり状態にある青少年の職業的自立を支援するため、さまざまな支援機関とのネットワークを構築し、連携しながら若年無業者の個別の状況に対応した継続的な支援を行う。			
内容	青少年の自立支援を進めるための支援拠点として、若年無業者やひきこもり状態にある青少年、及びその保護者を対象とした総合相談・支援を実施するよこはま若者サポートステーションを設置し、実施団体に対し、運営費の補助を行う。			
根拠法令等	よこはま若者サポートステーション事業実施要綱(平成18年10月2日)			

コスト	区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)		-	-	36,550	34,267
うち一般財源等 (千円)		-	-	36,550	34,267	41,500
人件費(概算) (千円)		-	-	9,000	9,000	7,200
総コスト(概算) (千円)		-	-	45,550	43,267	48,700

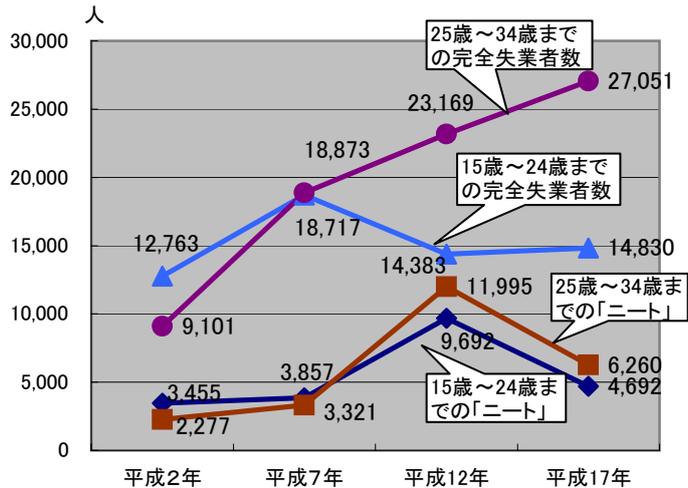
活動・成果指標	名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	サポートステーション利用者数	人		-	-	2,500	2,500
成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	-	-	(18)	(17)	(6)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
3 目標達成度	8	⑤ 目標の水準は適切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
4 経済性効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
5 正確性信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1

総合評価	合計	33	特記事項	(協働の取組状況) 事業目的、基本的事項などを本市で作成し、青少年の自立支援に関する取組実績のあるNPO法人を実施主体とすることで、民との協働により事業を進めている。
	100点換算	83		(環境への負荷)
	ランク(A~E)	B	大きな社会問題に対応する効果的な事業を実施することができた。今後は、支援の方法や事業の効率化を再点検するとともに、関係機関や関連団体、市民との協働による取組を進めていく。	

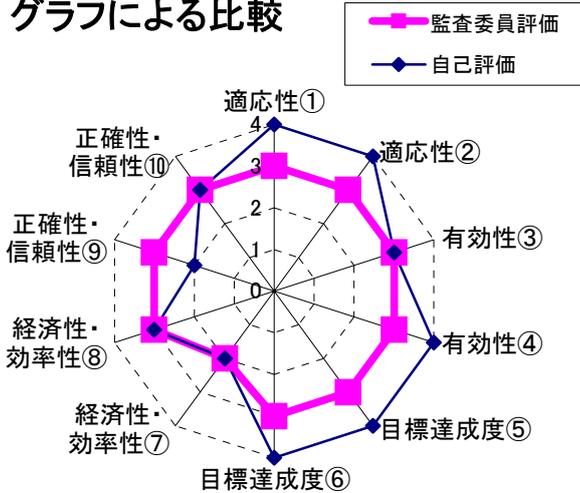
事業名 **よこはま若者サポートステーション(仮称)事業**

横浜市における年齢階級別の若年無業者
 (「ニート」及び「失業者」)の推移



※「横浜市青少年自立支援研究会 提言」を基に作成
 4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

グラフによる比較



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成17年の国勢調査のデータによると、ニートの数が10,952人と平成12年の21,687人からほぼ半減しているが、本市が自立支援の主たる対象としている若年無業者(ニート+失業者)の総数でみると、同年齢に占める比率では7.8%から8.1%と増加傾向となっており、依然として自立支援が必要な状況が認められる。基本的に就業対策は国の事業だが、この事業は就業に向けたトレーニングなど、就業活動の一手手前の問題を解決していくための事業であり、他の機関にはないサービスとなっている。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
若年無業者を就労活動ができる状態までにするという職業的自立を支援するために、本人だけでなく保護者も対象にし、臨床心理士によるメンタル相談、他団体活動(居場所・ボランティア)、短期就労体験等の幅広いメニューを揃え、4か月間で2,409人が来所し、303人が一人ひとりに合わせた「パーソナルプラン」を活用している。開設後間もないことから、事業の効果を見極めるにはもう少し時間が必要である。横浜市青少年自立支援研究会の提言において、職業的自立を中心とした社会資源のネットワークとして位置付けられている。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
設定目標の数値は国での事業実施における数値や周辺の支援機関の利用者数を参考に設定しており、おおむね妥当な水準である。来所者総数は2,409人であり、ほぼ計画どおりに達成している。		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成18年度については、他都市、民間で当該事業と同様の事例がなく、コスト縮減は今後の検討課題としている。この事業は9月補正予算により事業化したもので、短期間で効率的に始めることができた事業である。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
個人情報に関してはマニュアルに基づいて管理されている。開設前から連携をしている他機関での会議等でPRしていた。また高校の卒業前の生徒を対象に授業と連携してチラシを配布したり、ホームページでも情報発信をしている。		
監査の結果	合計	29 / 40
	100点換算	73 / 100
	ランク(A~E)	B

事業名	青少年相談センター事業		担当	区局部課名	子ども青少年局青少年部青少年相談センター	電話	260 - 6614	
				課長名	山口 勝			
施策名	■ 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します				重点事業 番号	2 - 3 - 2	
	■ 運営方針	5 青少年の健全育成施策の推進 (3) 社会的ひきこもり支援の充実						
目的	青少年の総合的な相談及び継続的な支援を関係機関と協力して行い、青少年の健全な育成を図る。							
内容	① 青少年に関する相談活動(電話・来所相談、家庭訪問など) ② 対人関係の改善に向けたプログラムの実施(グループ・サークル活動) ③ 夏期キャンプなどの特別活動 ④ フリースペースの運営 ⑤ 父母会の育成(父母会・家族勉強会の開催) ⑥ 社会的ひきこもり市民講座の実施							
根拠法令等	青少年相談センター条例							

コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)					
うち一般財源等	(千円)						
人件費(概算)	(千円)		61,717	62,805	61,200	62,805	61,200
総コスト(概算)	(千円)		61,717	62,805	61,200	62,805	61,200

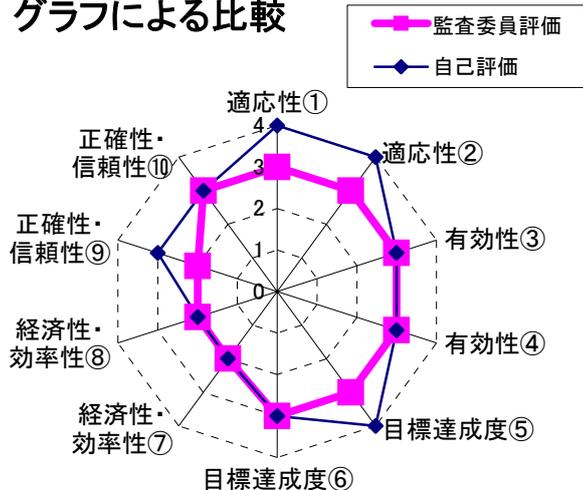
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		相談員による集団活動などの延べ支援件数	人		1,458	1,712	1,700	1,750
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(42)	(37)	(36)	(36)	(35)
	父母会・家族勉強会への参加人数	回		230	231	230	240	240
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(268)	(272)	(266)	(262)	(255)
	社会的ひきこもり市民講座の参加人数	人		134	360	200	161	200
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(461)	(174)	(306)	(390)	(306)

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 4 ■4□3□2□1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 4 ■4□3□2□1
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 3 □4■3□2□1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 3 □4■3□2□1
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 4 ■4□3□2□1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 3 □4■3□2□1
4 経済性効率性	4	⑦ コストは縮減しているか。 2 □4□3■2□1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 2 □4□3■2□1
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 3 □4■3□2□1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 3 □4■3□2□1

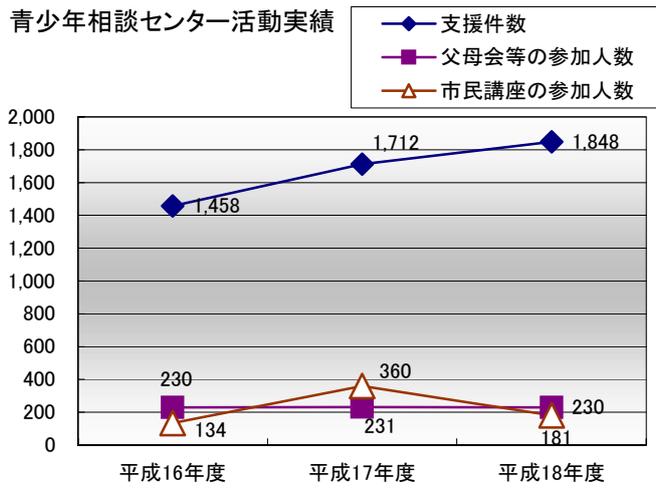
総合評価	合計	31	特記事項	(協働の取組状況) 市民に社会的ひきこもりの理解を促す、市民講座の実施にあたっては、青少年相談センター・父母会との協働やNPO法人など関係支援団体の協力を得て実施した。
	100点換算	78		(環境への負荷) グループやサークル活動などの実施により排出されるゴミなどは相談員を通じて分別するよう案内するとともに、利用者作成のポスターにより啓発活動に努めている。
ランク(A~E)		B		近年、青少年を取り巻く環境も変化し、社会的・職業的に自立できない青少年の増加が、社会的な問題としてクローズアップされている。また、行政だけでは解決できない問題もあることから、地域で青少年の支援活動を行っている、NPO法人や関係支援団体と連携・協働していくよう支援のネットワークの構築をすすめている。

事業名	青少年相談センター事業
-----	-------------

グラフによる比較



青少年相談センター活動実績

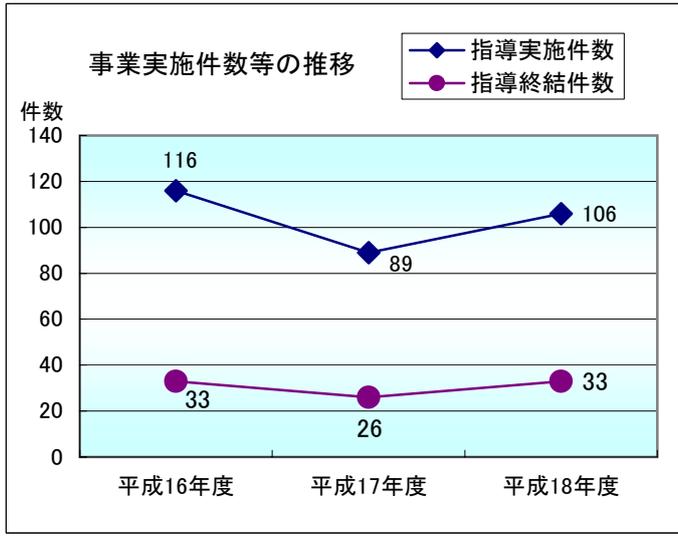
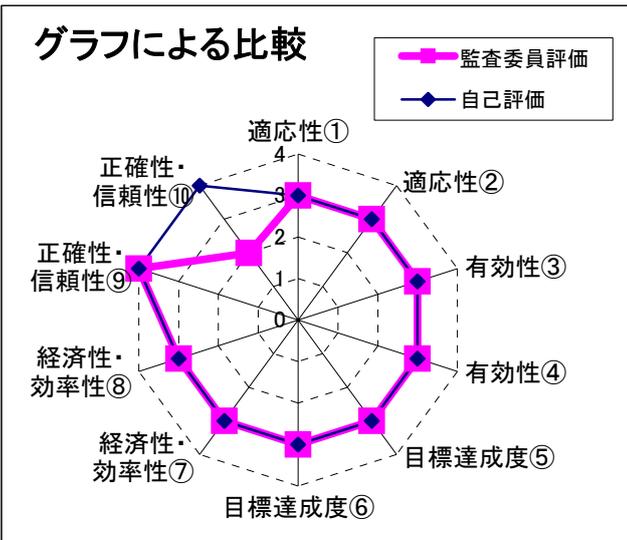


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 社会的な問題となり始めた当初から「社会的ひきこもり」の相談を行っており、平成14年度からは対象を20歳代まで拡大している。それ以降、不登校、ひきこもりに対する相談件数は減少することなくほぼ横ばいであり、支援が必要な状況が続いている。相談だけであれば、県の青少年センターや民間団体でも実施しているところがあるが、問題解決のための具体策としてグループ活動等を実施する主体は少なく、市がその役割を担う必要性は認められる。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ひきこもりや対人関係等多様化・深刻化する相談内容に対応するために、本人向けのみならず家族も含めた相談体制や個別活動とグループ活動を組み合わせた継続的な支援を実施し、相談者や家族の問題解決に貢献している。また、本人・家族の了解の上、児童相談所、教育委員会、医療機関等と情報交換を行い連携を図っている。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 相談員による集団活動の延べ支援件数等を過去の実績から目標として設定し、おおむね適当な水準である。相談センターの事業としている父母会・家族会、社会的ひきこもり市民講座の参加人数は計画どおり実施できている。
4 経済性・効率性	4	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 コストについては、縮減策の検討が十分でなく、今後、国庫補助による財源確保や受益者負担等の検討が課題として認識されている。グループ活動と電話相談について支援マニュアルはあるが、平成14年度に作成して以来見直しが行われていない。
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 個人情報については、マニュアルを職員に配布して周知徹底しているが、相談者のケースファイルの保管場所に一部不十分な面があった。リーフレットと年1回作成している業務報告書を区役所のサービス課、図書館等関係機関に配布している。今後はホームページで事業内容の発信を充実する予定である。
監査の結果	合計 ↓ 100点換算 ランク(A~E)	27 / 40 68 / 100 C
		<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 青少年相談センター事業は、青少年の総合的な相談及び支援を、関係機関と協力しながら継続的に実施している事業である。近年、社会的課題として取り上げられることもある「社会的ひきこもり」の相談についても取り組んでおり、平成14年度からは対象年齢を20歳代にまで拡大している。年々増加している相談者に対して、単なる相談にとどまることなく、個別活動とグループ活動を組み合わせて継続的に支援する手法を取り入れ、関係機関とも連携しながら事業を進めている。コスト縮減に向けた取組や、事業を行うためのマニュアルの改訂が課題となっている。

事業名		ひきこもり・不登校児童家庭支援事業		担当	区局部課名	横浜市中心部・南部・北部児童相談所		
				課長名	勝島 聡一郎		電話	-
施策名	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します					重点事業 番号	2-3-2
	<input type="checkbox"/> 運営方針							
目的	ひきこもり・不登校児童およびその家族を支援する							
内容	家族療法を行うとともに、専門家の助言指導を仰いだり、研修を行う「家族療法事業」、不登校児等に学生ボランティア等を派遣する「ふれあいフレンド事業」、児童相談所へ通ってきてもらい相談援助する「通所指導」事業、グループで屋外活動をする「野外指導事業」、児童精神科医の「巡回訪問事業」の5つで構成されている。							
根拠法令等								
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)	3,169	2,648	3,615	3,615	4,614	
	うち一般財源等	(千円)	1,366	844	2,215	2,215	2,963	
	人件費(概算)	(千円)	145	157	216	216	276	
	総コスト(概算)	(千円)	3,314	2,805	3,831	3,831	4,890	
活動・成果 指標	名 称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)						
	<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)						
	<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)						
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
教育委員会や青少年相談センターで類似の事業は行われているが、児童相談所ではそうした他の機関につながりにくいケース(家庭基盤そのもの問題があるもしくは家庭養育上の問題が大きいケースなど)を主に対応しているという実状があり、児童相談所に対するニーズは依然としてあるため。								
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
家族療法やボランティアの派遣などの手法は他都市の児童相談所でも採用されており、一定の成果を上げている。								
3 目標 達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
相談継続中のケースに、必要に応じ随時適用するという形なので、必要なケースには、提供可能な範囲でこれらのサービスを適用できている。								
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは削減しているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
ふれあいフレンドの謝金は、国の基準を適用しているほか、他の事業に関してもコスト意識を持って必要最小限の費用で実施するよう努めている。								
5 正確性 信頼性	8	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		<input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1				
「ふれあいフレンド」に関しては、ボランティアに対する保険制度が適用される。他の事業は、児童相談所の相談業務一般として、安全に配慮している。情報提供については、一般に広報する事業ではなく、児童相談所で相談継続中のケースに対し、相談経過の中で個別に適用する事業であり、当然、対象者には事前に十分説明の上、了解を得て実施している。								
総合 評価	合計	32	(協働の取組状況)					
	↓ 100点 換算	80	特記 事項	(環境への負荷)				
	ランク (A~E)	B						

事業名 **ひきこもり・不登校児童家庭支援事業**



4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 学校基本調査によると、平成17年度の不登校児童生徒数は、小学生864人で横ばい、中学生2,523人で増加傾向となっており、なんらかの対策が必要な情勢となっている。不登校の相談等を行う機関は他にもあるが、家族や児童に選択の余地がないなどの場合には、市の役割として児童福祉法の趣旨に沿って市が対応する必要がある。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 家族療法やボランティアの派遣などは、多くの他の自治体の児童相談所でも採用され、成果を上げている手法である。 教育委員会でも相談事業を行っているが、児童相談所では家庭基盤そのものの問題があるか、若しくは家庭での養育上の問題が大きいなど、他の機関につながりにくいケースについて対応している。また、必要に応じて相互に紹介するなど、それぞれの役割に応じた対応をしている。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 この事業は、ケースに応じた相談活動のバリエーションとして活用する支援ツールのため、実施内容ごとに活動目標を設定することに積極的な意義は認められないが、活動の結果として、平成18年度は106件の継続指導に対して33件が終結している。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 コストの多くは人件費であり、アルバイト等は国の基準により積算している。また、野外活動等はコストのかからない場所などで節約に努めている。それぞれの支援ツールの選択に当たっては、相談者の状態に応じて判断している。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 それぞれの事業で児童相談所の専門職が対応するとともに、家族療法では精神科医による相談指導を受け、安全確実な実施に努めている。「ふれあいフレンド」に関しては、ボランティアに対する保険制度が適用される。情報提供については、相談当事者や関係機関には相互の緊密な関係を基に情報を提供している。事業の実施状況は、児童相談所の「事業概要」の中で公開されている。
監査の結果	合計 30 / 40 100点換算 75 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし

事業名	社会的ひきこもり就労支援 モデル事業		担当	区局部課名	子ども青少年局青少年部青少年相談センター	電話	260 - 6614
			課長名	山口 勝			
施策名	■ 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します				重点事業 番号	2 - 3 - 2
	■ 運営方針	5 青少年の健全育成施策の推進 (3) 社会的ひきこもり支援の充実					
目的	社会的ひきこもり回復期にある当事者を対象として、拠点活動、ボランティア・職業体験、技能習得などの活動を通じ、就労を目標として社会参加する当事者を支援するプログラムの開発・検証を行う。						
内容	①拠点活動(パソコン倶楽部、お料理クラブ、ものづくりクラブなど) ②ボランティア・職業体験(社会見学、農業体験、野菜の販売体験、高齢者デイケア、障害児デイケアなど) ③技能習得(ヘルパー2級取得講座、パソコン検定受講講座、家庭生活支援員養成講座などの受講)						
根拠法令等	社会的ひきこもり就労支援モデル事業実施要綱						

コスト	区 分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)		3,000	3,000	3,000	3,000
うち一般財源等 (千円)		3,000	3,000	3,000	3,000	
人件費(概算) (千円)		1,815	1,847	1,800	1,847	
総コスト(概算) (千円)		4,815	4,847	4,800	4,847	0

活動・成果 指標	名 称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	成果	来所相談者数に占める事業参加者数	%	4	5	4	4
単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)	(1,376)	(1,031)	(1,200)	(1,212)	
モデル事業参加者		人	18	21	17	17	
活動		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)	(268)	(231)	(282)	(285)	
成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)						

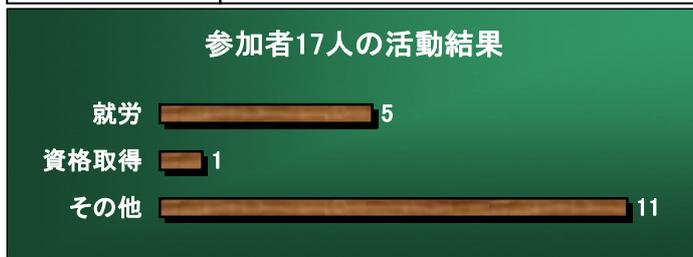
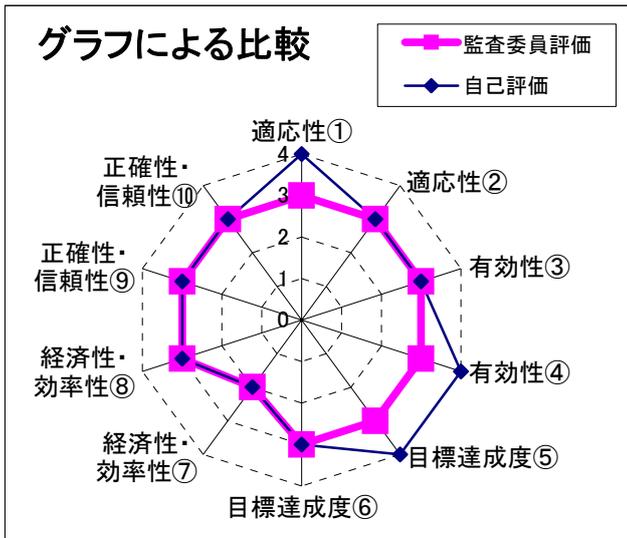
評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 4 ■4□3□2□1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 3 □4■3□2□1 社会的ひきこもりや若年無業者(ニート)と呼ばれる若者の社会的・職業的自立は、社会全体の課題となっており、当事者本人の社会参加に向けた相談や就労に関する支援・取組に対する要望はアンケート調査においても多い。こうしたニーズに応えるためには、社会参加の機会を提供するプログラムの開発・検証は不可欠であり、NPO法人などと協働で本市が先駆的・積極的に支援していく必要がある。
	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 3 □4■3□2□1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 4 ■4□3□2□1 相談者の個別の状況にあったプログラムの実施であり、アルバイト等の短期就労に結びつくなど概ね期待された効果を導き出すことができた。来年度からはモデル事業の結果を踏まえ、利用者の状況に合わせた社会参加・就労体験事業を新たに展開していく。ひきこもりからの回復期にある青少年に対し、社会福祉法人やNPO法人などと協働して先駆的に取り組んでおり、施策面や局運営方針の目標実現に一定程度寄与している。
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 4 ■4□3□2□1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 3 □4■3□2□1 ひきこもりの回復期にある当事者の現状を勘案し、活動参加者の目標数値を設定した。目標数値は過去の実績を考慮し設定したものであり、達成することにより社会のニーズに応えることができる。定期的・計画的に実施され、実参加者数は目標値を若干下回ったものの、延べ参加者数は目標値を上回る結果となり、概ね目標水準は達せられた。
	5	⑦ コストは縮減しているか。 2 □4□3■2□1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 3 □4■3□2□1 社会福祉法人との協働事業だが、支援の内容や実施方法、受益者負担(実費徴収)を検討するなど、コスト削減に対する工夫も必要であった。実施にあたっては、社会福祉法人のスタッフや当事者との話し合いのもと、プログラム内容を検討し、効率的・効果的な実施が図られた。来年度はモデル事業の結果を踏まえ、プログラムを改善し実施していく。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 3 □4■3□2□1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 3 □4■3□2□1 モデル事業参加者の個人情報(実施記録)は社会福祉法人で作成され、担当者以外が見ることのないよう保管されており、個人情報の持ち出しは原則禁止している。モデル事業参加者に対し、事業実施にあたっての情報提供は逐次おこなわれ、内容も周知されている。

総合評価	合計	32	特記事項 (協働の取組状況) モデル事業の実施にあたっては社会福祉法人のほか、社会的ひきこもりに理解の深いNPO法人や関係支援団体の協力を得て協働で実施した。 (環境への負荷) モデル事業の実施により排出されるゴミは分別するよう案内するとともに、各NPO法人が取り組んでいる環境への取組についても周知しながら、事業を実施した。
	100点換算	80	
ランク(A~E)	B 近年、青少年を取り巻く環境も変化し、社会的・職業的に自立できない青少年の増加が、社会的な問題としてクローズアップされている。また、行政だけでは解決できない問題もあることから、地域で青少年の支援活動を行っている、NPO法人や関係支援団体と連携・協働していくよう支援のネットワークの構築をすすめている。		

事業名 **社会的ひきこもり就労支援
モデル事業**

◆モデル事業の概要

活動形態	内容
拠点活動	参加者懇談会、情報交換会、パソコン教室、料理クラブなど
ボランティア・職業体験	高齢者・障害者デイサービス、おやつ作り(有償ボランティア)など
技能取得・職親・チーム就労	ヘルパー2級養成講座、ハウスクリーニング隊など

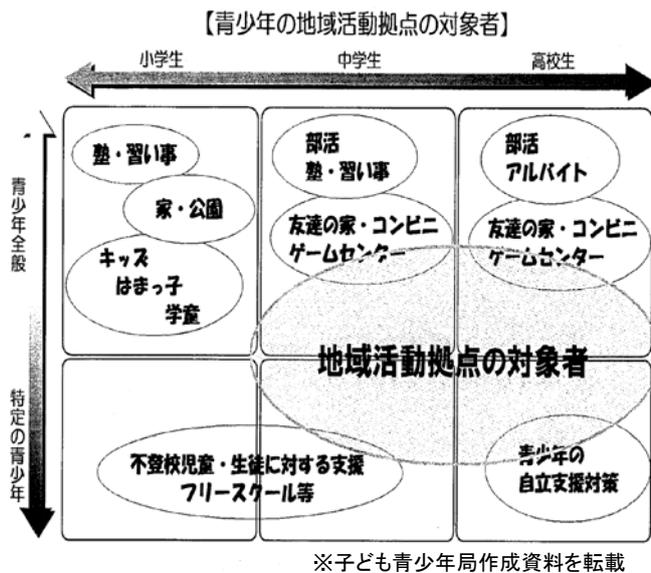
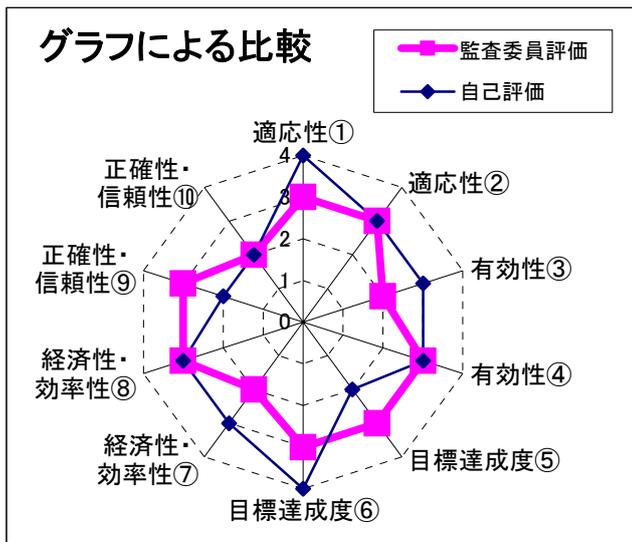


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 社会的な問題となり始めた平成14年度から「社会的ひきこもり」の相談を開始し、それ以降、不登校、ひきこもりに対する相談件数は横ばいであり、支援が必要な状況が続いている。平成16年度から3年間のモデル事業として実施し、平成18年度は回復期にある17人の参加者を対象に就労支援のプログラムを実施・検証した。 平成19年度以降は就労支援のプログラムの開発など、地域のNPO法人等にも拡大していく方向であるが、そのためには市が持っているネットワークの活用、後方支援の必要性が認められる。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 参加者の回復期の段階に合わせた就労体験プログラムを設定している。検証の結果として、参加者のニーズに合わせたプログラムの策定が大切であり、それを調整する専門のコーディネーター、体験を支援する人材の必要性などを確認でき、モデル事業の成果を出している。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 目標は過去の参加者実績から数値を設定し、おおむね妥当と考えられる。 事業は計画どおりに進み、参加者数は目標値に達している。参加者17人中5人が何らかの形で就労に結びついた。
	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 効率・効果の観点から、多様な就労支援の活動プログラムや講座を實踐できる「社会福祉法人たすけあいゆい」と協働して実施している。受益者負担は、参加者の参加意欲を損ないかねないとの理由から求めておらず、コストの縮減については今後の検討課題としている。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 個人情報、実施主体の社会福祉法人において担当者以外の目に触れることのないように管理されている。 事業参加者には、事業実施に当たっての内容等の必要な情報提供は適宜行われている。
	合計	29 / 40
監査の結果	100点換算	73 / 100
	ランク(A~E)	B

事業名		青少年の居場所支援事業		担当	区局部課名	こども青少年局青少年部青少年育成課			
				担当	課長名	川名 一行	電話	671 - 2297	
施策名	<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します					重点事業番号	2 - 3 - 3	
	<input type="checkbox"/> 運営方針								
目的	中・高校生世代の青少年が、安心して気軽に集い、仲間や異世代との交流、様々な体験を行い、さらに青少年自らの企画、運営により事業を実施する青少年の居場所を各区に設置し、青少年の健全な成長を支援する。18年度は、先行実施している他都市の事例を視察し、居場所づくりの基本的な考え方を構築する。								
内容	① 先行実施している他都市の青少年の居場所の視察 ② 居場所づくりの基本的な考え方の構築								
根拠法令等									
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算		
	事業費 (千円)		2,889	0	400	848	30,000		
	うち一般財源等 (千円)		2,889	0		848	30,000		
	人件費(概算) (千円)		8,169	7,388		10,160	9,900		
	総コスト(概算) (千円)		11,058	7,388	400	11,008	39,900		
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	[] 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)						
	[] 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)						
	[] 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)						
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適合しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
「市民からの提案」や「シティフォーラム」などで、青少年の居場所を求める市民の声が多く出ている。小学生には、放課後キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブなど放課後施策が充実しているが、中・高校生世代の青少年にはそのような施策がないため、NPO法人等と協働で設置・運営していく。									
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
中・高校生世代の青少年を対象とした居場所の施策は、多くの自治体が課題としているところであり、他都市の先行事例を視察することによって、横浜市として、中・高校生世代の青少年を対象とした事業の考え方を構築することができた。									
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
中・高校生世代の青少年を対象とした重点事業として「青少年の居場所支援事業」を位置付け、当初目標としていた「居場所運営団体スタッフの研修」等の内容をさらに進め、来年度以降の「青少年の地域活動拠点事業」の本格実施に向けて、課題や有効な手法を探るためのモデル事業をNPO法人に委託して実施することができた。									
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
設置場所として、空店舗や空きビルを利用し、運営主体については、青少年の自立支援に実績のあるNPO法人等の民間活力の活用するなど、コスト縮減を図った。また、必要な情報を図式化し、関係職員間で情報を共有化するなど、事務作業の効率化にも取り組んでいる。									
5 正確性信頼性	4	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
H16・17で実施したモデル事業により把握された課題を反映させながら、事業の要綱等の作成に取り組んでいる。情報提供については、次期中期計画により事業の方向性等は示されているが、今後はより具体的な内容の情報提供が必要である。									
総合評価	合計	29	(協働の取組状況)						
	100点換算	73	特記事項	(環境への負荷)					
	ランク (A~E)	B	18年度こども青少年局が誕生して、生まれる前から乳幼児期を経て、青少年期にいたるまでのライフステージを縦断する一貫した施策の展開として、中・高校生世代の青少年を対象とする「居場所づくり」が重点的取組としての位置づけとなり、市民ニーズにも合致するとともに、従前の事業の課題を踏まえて基本的な考え方が構築できた。今後は、区、教育委員会及びNPO法人等との連携が課題である。						

事業名	青少年の居場所支援事業
-----	-------------

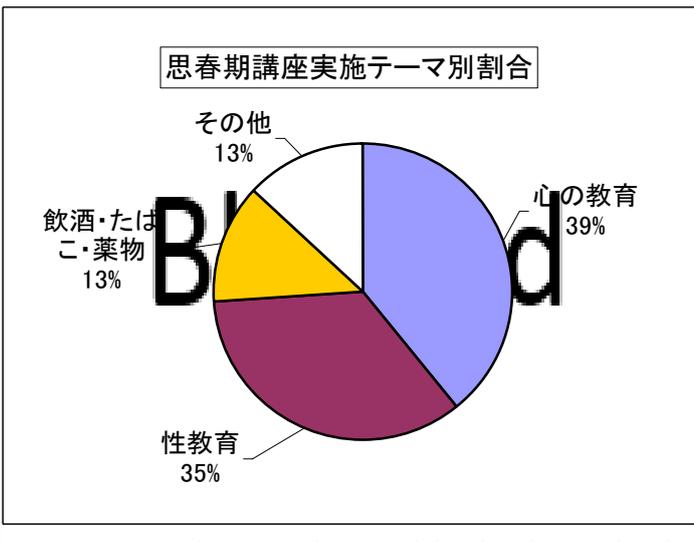
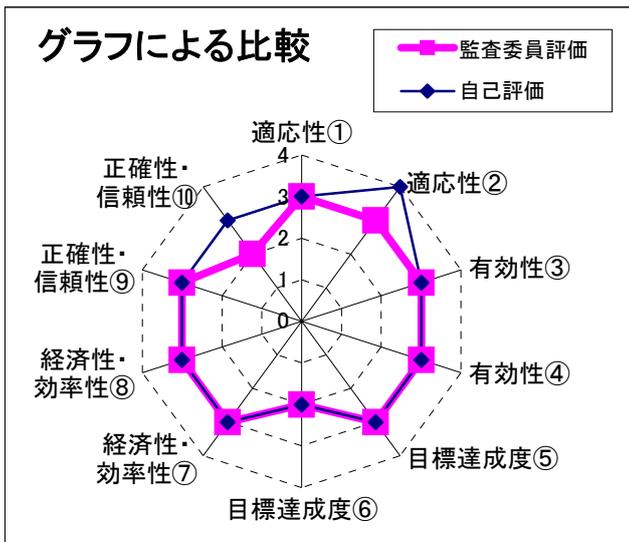


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 □4 ■3 □2 □1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 □4 ■3 □2 □1 横浜シティフォーラムでは、「若者がエネルギーを発散できる場所がない」、「中高生が自由に居られる場がない」など大人からの意見が出され、「青少年の居場所づくり検討委員会」の報告書でも同趣旨の情勢が認識されている。 今後の方向性を検討するためのモデル事業の実施に当たって、実施場所の確保や関係機関との調整、広報活動の支援などは市が関与する必要がある。
	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 □4 □3 ■2 □1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 □4 ■3 □2 □1 平成16、17年度に実施したモデル事業の検証を踏まえ、平成18年度は、新たに専用の場を用意したモデル事業をNPO法人に委託して実施した。対象は小中高生としていたが、登録参加者は20名で小学生15人、中学生5人で、高校生の参加はなかった。検証後の課題としては、保護者にも関心を持たせ、学校との連携をより強化することで、より多くの参加者を募る必要があるとしている。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 □4 ■3 □2 □1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 □4 ■3 □2 □1 平成18年度の調査・研究・検討の結果を受けて、年度当初計画に加えてモデル事業を行って検証し、平成19年度に向けて事業の方向性を示すという目標を設定し、「青少年の地域における活動拠点づくり事業」をまとめた。
	5	⑦ コストは縮減しているか。 □4 □3 ■2 □1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 □4 ■3 □2 □1 当初予算に加え、モデル事業の実施により増額となっている。 効率・効果の観点から、実績豊富なNPO法人に委託して検証している。
5 正確性信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 □4 ■3 □2 □1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 □4 □3 ■2 □1 モデル事業は経験豊富なNPOが実施するとともに、登録参加者には傷害保険に加入し、安全性を確保している。 情報提供の課題として、学校へのチラシの配布、地域ごとのフリーペーパーの活用、学校との連携、地域の人々や保護者へのアプローチなどが認識されている。
	合計	27 / 40 100点換算 68 / 100 ランク (A~E) C □指摘事項 □改善要望事項 ■評価の理由 □なし 小学生の放課後は、「放課後キッズクラブ」や「はまっ子ふれあいスクール」等の居場所があり、中高生にはその場がないとの問題意識のもとに始められた事業で、主な対象を中高生としている。しかし、モデル事業に参加したのは小学生が中心であったため、「青少年の居場所づくり検討会」の報告書で「事前のニーズ把握は、成功するための重要なポイント」とされているにもかかわらず、主な対象者である中高生自身の意見は聴取できなかった。 今後平成22年度に18か所の設置を目指し、活動実績のあるNPO等を活用する予定である。

事業名		思春期の子どもへの支援事業		担当	区局部課名	こども青少年局青少年部青少年育成課		
				担当	課長名	川名 一行	電話	671 - 2325
施策名	■ 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します					重点事業 番号	2 - 3 - 3
	■ 運営方針	思春期の青少年への支援・啓発事業の展開						
目的	思春期の子ども達の「生」と「性」の課題について、親も含めたまわりの大人と一緒に考え、子ども自身が自らの力でこれらの課題を乗り越えて、もう一段の成長段階へ進むための支援を行う。							
内容	① 思春期保健キャラバン隊による思春期講座の開催 ② 思春期保健キャラバン隊立ち上げキャンペーン ③ 小・中学生に対する赤ちゃんふれあい体験の実施							
根拠法令等								
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)				3,000	2,705	2,348
	うち一般財源等	(千円)				3,000	2,705	1,647
	人件費(概算)	(千円)				2,700	2,771	2,700
	総コスト(概算)	(千円)				5,700	5,476	5,048
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	キャラバン隊による思春期講座の開催		回			36	24	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(158)	(228)	
	立ち上げキャンペーン講演会の開催		人			400	140	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(14)	(39)	
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		思春期の青少年の健全育成を進めていく上で、さまざまな課題がある。それらの課題に対する意識啓発と正しい情報の提供を行うため、講座やシンポジウムなどの機会を提供する必要がある。						
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		一部のテーマに派遣依頼が集中している。今後は、希望の多いテーマに対応するため、講師の確保と育成が必要と考える。本事業の実施が、保護者をはじめとした大人が青少年の抱える課題について考えるきっかけになっていると考える。						
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		事業内容や市民ニーズから考えると、おおむね妥当な目標設定となっている。この目標達成に向けて、事業を実施したものの、参加者数を達成することができず、目標値を下回った。						
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		できるだけ施設使用料のかからない会場で講座や講演会を行うなどの工夫を行った。また、事務作業については、誰が見ても分かるように関係書類を整理し、効率化を図った。						
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		講師派遣については、「横浜市思春期保健キャラバン隊講師の派遣に関わる事務手続要領」を制定し、要領に基づいて手続きを行っている。学校やPTA、青少年に関わる団体等に情報提供を行ってきたところだが、目標達成に向けた事業のPRを行う必要がある。						
総合評価	合計	30	(協働の取組状況)					
	↓	40	学校、PTAや地域などの団体が主催する講演会や講座に、市が講師を派遣する仕組みとなっている。					
	100点換算	75	(環境への負荷)					
	↓	100						
ランク (A~E)		B	青少年が、保護者や地域の大人に見守られながら健全に成長するためには、思春期の青少年が抱える課題への啓発事業を継続して実施する必要があると考える。					

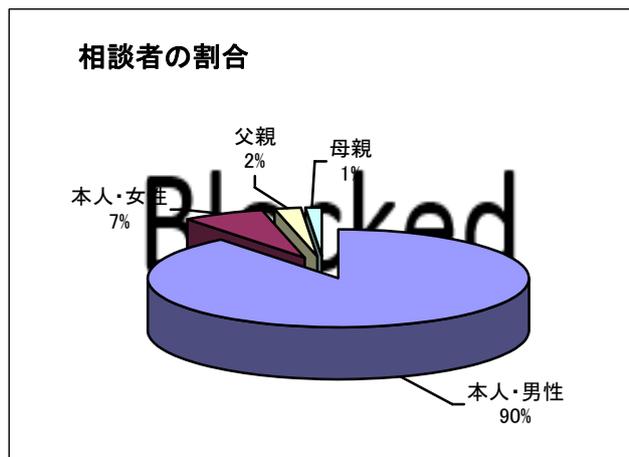
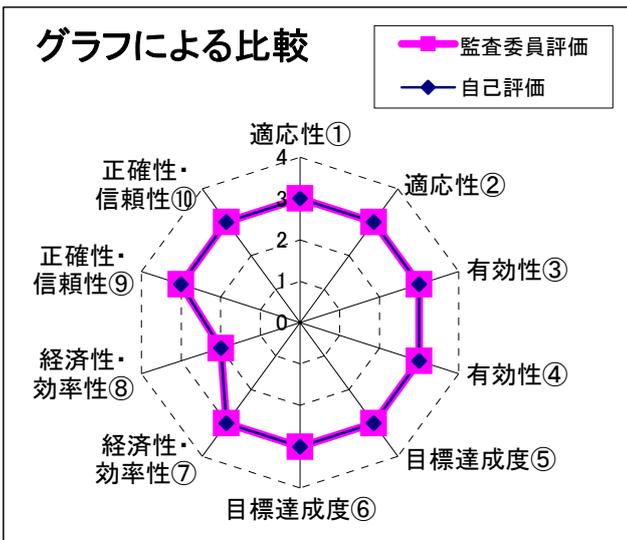
事業名 **思春期の子どもへの支援事業**



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		学識経験者・医療関係者などで構成する「思春期保健連絡会」で、思春期の子どもや養育者に対する性教育や未成年者の問題などを検討し、この事業の中心的取組である、大人が思春期のこどもの現状などを理解する「キャラバン隊」が提案された。 市として思春期の青少年の健全育成を進めていく上で、講座やシンポジウムなどの機会を提供する必要がある。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		思春期保健連絡会で八つのテーマを設定し、PTAなどの団体が希望するテーマの講師を派遣する手法で実施した。「性教育」と「心の教育」に派遣依頼が集中したものの、参加者のアンケート結果では満足度の高い意見や感想を得ている。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		予算の制約もあり、1区2回程度の講座開催と、会場の収容人員に応じた講演会の参加者数を目標として設定した。目標設定については、新規事業なので試行錯誤の部分があるものの、講座開催、講演会の参加者数とも目標値を下回った。なお、1区2回程度の目標だったが、実施しない区が5区あった。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		コストの多くは講師謝金であり、一律に定められている。また、会場等は公的施設を使用することによりコスト削減に努めている。 事業の実施に当たっては、区役所を通じて希望する団体を募集することにより、効率的に地域に周知徹底を図っている。
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		講師派遣については、「横浜市思春期保健キャラバン隊講師の派遣に関わる事務手続要領」を制定し、要領に基づいて手続を行っている。講座の申込みや講演会の参加者が目標に達していないこともあり、PRを工夫することも一つの方策である。
監査の結果	合計	28 / 40
	100点換算	70 / 100
	ランク(A~E)	C
		<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 思春期の青少年とかかわる学校関係者や民生委員などで構成する「思春期保健連絡会」の検討を通じてプログラムを決定し、区役所を通じて希望する団体に講演会の機会を提供している。 しかし、実績としては全36回の目標に対し24回、実施していない区が5区であったため、区役所との情報交換を十分に行った上で計画と、関係団体等の参加に結びつくような情報提供をしていくことが課題である。

事業名		思春期保健指導事業		担当	区局部課名	こどもも青少年局こども家庭課				
				担当	課長名	大場 エミ	電話	671 - 4286		
施策名		<input checked="" type="checkbox"/> 中期計画 子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します <input type="checkbox"/> 運営方針					重点事業番号	2 - 3 - 3		
目的		思春期特有の医学的問題や性に関する不安や悩みについて、個別相談及び集団指導を実施し、思春期にある男女の心身の健やかな成長を支援する。								
内容		①助産師による電話相談 ②福祉保健センターや学校で思春期の男女やその親に対する集団指導 ③横浜思春期保健連絡会の開催								
根拠法令等		母子保健法第9条 横浜市思春期保健事業実施要領								
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算		
		事業費 (千円)		1,709	1,536	2,994	2,198	2,698		
		うち一般財源等 (千円)		592	875	1,328	532	1,892		
		人件費(概算) (千円)		3,630	3,694	3,600	3,694	3,600		
		総コスト(概算) (千円)		5,339	5,230	6,594	5,892	6,298		
活動・成果指標		名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
		思春期電話相談(専用電話)		回	51	50	49	49	49	
		活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)			(105)	(105)	(135)	(120)	(129)
		思春期講座		回	46	46	46	46	46	
		活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)			(116)	(114)	(143)	(128)	(137)
		思春期保健連絡会の実施		回		4	4	3		
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)			(1,308)	(1,649)	(1,964)				
評価項目		点数	理由・説明等							
1	適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
			② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		思春期の子ども達は、性の問題やこころの問題等さまざまな問題を抱えており、この問題に対応するために個別相談や集団への教育・啓発が必要である。また、地域や教育、医療等の支援機関の連携は欠かせず、連絡会を開催し市が積極的に情報交換、連絡調整に取り組む必要がある。								
2	有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		思春期の子どもが気軽に相談できる電話相談も有効と考える。また、多様化している思春期の問題に対応するため、関係機関、職員と連携することで事業推進が図れている。今後も関係諸機関との一層の連携を図っていく必要がある。								
3	目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		思春期保健連絡会の成果として、思春期キャラバン隊を組織し、各界第一人者による大人への出前講座は他都市に先駆けた取り組みであった。思春期の子どもたちの実態について理解が深まった等の感想が聞かれ、効果が見られた。								
4	経済性効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
			⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		思春期電話相談については、NPOなどの民間でも実施しているところがあるため、今後、それらの活用を検討し、民との協働を図っていく必要がある。								
5	正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		電話相談は母子保健法第9条、横浜市思春期保健事業実施要領に基づき実施している。匿名での電話相談で個室での対応をし、対応記録も鍵つきロッカーに保管している。								
総合評価	合計	29	(協働の取組状況)							
	↓	40	思春期保健全般について一般市民、有識者からなる連絡会を設けて外部の意見を取り入れ見直しを行っている。							
	100点換算	73	(環境への負荷)							
ランク(A~E)		B	関係機関、一般市民からなる委員構成による思春期連絡会を開催し、思春期キャラバン隊を組織し、計画的に事業を実施した。また、委嘱職員による電話相談は土曜日に設定し、相談者が活用しやすいようにしている。							

事業名	思春期保健指導事業
-----	-----------



4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 検討委員会やパブリックコメントを経て策定した「かがやけ横浜子どもプラン～横浜次世代育成支援行動計画～」にも盛り込まれ市民ニーズや社会情勢等を反映させていると同時に、国のソフト交付金の対象にもなっており、市が進めるべき事業である。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 思春期の子どもが気軽に相談できる電話相談は、年間672件の需要があり、また、思春期講座は区の企画・運営により全区で実施しており、事業の効果が認められる。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 電話相談は開催日数(毎週土曜日)を目標とし、予定どおり実施したが、相談件数の実績を見ても、1日(3時間)当たりの相談件数は約14件、年間672件とおおむね妥当な水準と思われる。 また、集団指導は、区の企画、運営によりおおむね順調に実施された。
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 集団指導は、区役所の職員が講師を務めることによりコストを縮減している。 なお、電話相談の内容は思春期の保健問題にとどまらず、多様化していることから、青少年相談センターの電話相談事業との連携などが検討されている。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 電話相談は母子保健法第9条、横浜市思春期保健事業実施要領に基づき実施している。匿名での電話相談で個室での対応をし、対応記録も鍵付きロッカーに保管している。 女性の相談者の率が1割弱と低いことについては、「かがやけ横浜子どもプラン～横浜次世代育成支援行動計画～」でも「相談しやすい体制や広報の工夫」を必要とし、ホームページや暮らしのガイド等によりPRしている。
監査の結果	合計 ↓ 100点換算 ランク(A～E)	29 / 40 73 / 100 B

指摘事項 改善要望事項 評価の理由 なし

事業名	学齢障害児地域生活サポート等事業		担当	区局部課名	子ども青少年局障害児福祉保健課	電話	671 - 4279
				課長名	仲俣正之		
施策名	■ 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します				重点事業 番号	2 - 3 - 4
	■ 運営方針	障害児の生活支援の充実					
目的	身近な地域で気軽に利用できる場を提供し、地域における様々な生活課題に対応できる場を提供し、学齢期における障害児が豊かな地域生活を送れるよう支援します。						
内容	学齢期の障害児とその家族の日常的な暮らしを支えるため、いつでも気軽に利用できる場の提供や、地域の課題に応じて様々な事業を実施する地域拠点を運営します						
根拠法令等	横浜市障害児放課後等支援事業費補助金要綱						

コスト	区 分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)		4,900	4,900	15,393	14,530
うち一般財源等 (千円)		4,900	4,900	15,393	14,530	57,014
人件費(概算) (千円)				3,000	3,000	4,500
総コスト(概算) (千円)		4,900	4,900	18,393	17,530	61,514

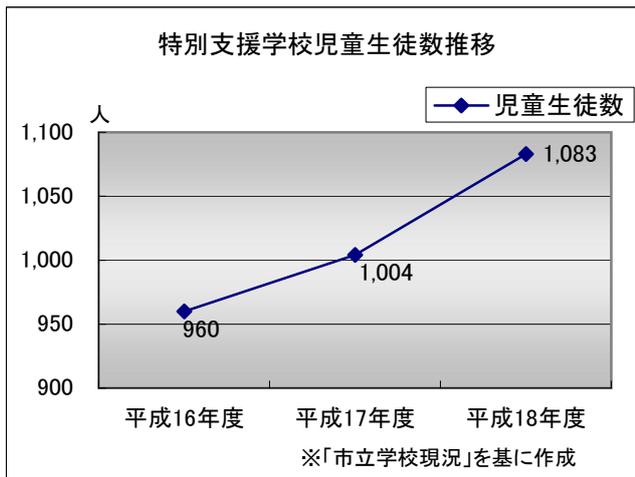
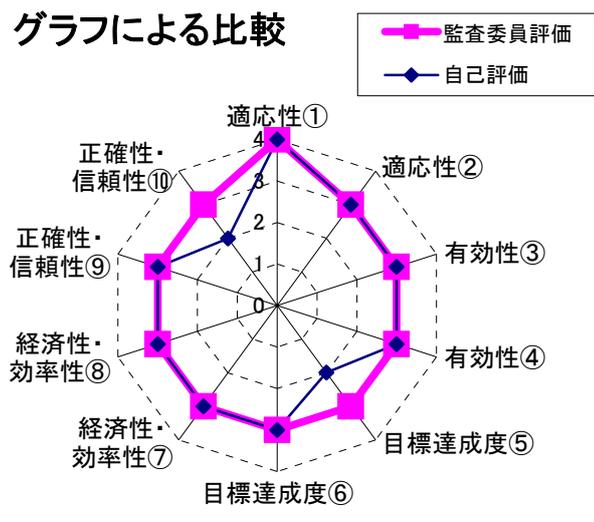
活動・成果 指標	名 称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		実施事業所数	所	2	3	5	6
成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(2,450)	(1,633)	(3,679)	(2,922)	(8,788)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		利用ニーズは高く、早急に実施事業所数の増加が必要です。地域で自主的な取り組みが見られますが、利用料が高額となっているため、必ずしもニーズと利用が結びついているとはいえない現状があります。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		区役所や地域における他の社会資源との連携を図りつつ利用者とその家族への支援に取組むなど、適切な事業運営に取り組んでいます。また、本事業の実施により、平成18年度局運営方針「障害児の生活支援の充実」の実現に寄与していると考えています。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 2 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 3 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		平成16年度から3か年限定のモデル事業として開始しており、3年目となる今年度も計画通りに事業を実施しています。目標の水準設定については、当初の想定を上回る地域ニーズがあり、適切とはいえない状況となっています。
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは削減しているか。 3 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 3 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		前年度の補助額を参考に、非常に低廉なコスト設定となっているため、運営法人の持ち出しや利用者負担が多額になっています。補助要綱を定め、効率的な事務の執行に取り組んでいます。
5 正確性 信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 3 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 2 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		新たに補助要綱を定めるとともに、請求に当たってはダブルチェック体制を敷いています。情報提供については十分とは言えず、最低限度の情報提供しかできていないのが現状です。

総合評価	合計	29	特記事項 (協働の取組状況) 18年度においては、地域において自主的な取り組みを実施している団体2か所に対して補助を行っています。 (環境への負荷)
	100点換算	73	
ランク (A~E)		B	障害児が家族との在宅生活を維持していくためには必須の事業です。障害児自身の心身の健全な発達を保障するとともに、親の就労等社会参加の機会を確保するための取組みが展開されており、今後量的拡大と更なる質的な充実が求められています。

事業名 学齢障害児地域生活サポート等事業

グラフによる比較



4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 従来から民間施設等で取り組んでいる事業者により、平成16年度から3年間モデル事業として補助金を交付した。検証結果では、多数の申込みがあり利用者のニーズが確認されている。また、対象者である特別支援学校に通う児童生徒は平成9年度以降増加傾向にある。この事業のコストを全額利用者が負担することは困難なことから、市が適切に関与する必要性がある。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 利用者の声や実施主体の振り返りによるモデル事業の検証で、障害児の放課後や長期休暇中の居場所、通学時等の送迎、相談事業などの支援が、子ども自身と家族の日常生活の負担軽減に効果があったことを確認しており、効果的な手法であるといえる。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 学齢障害児地域生活サポートモデル事業2か所、障害児の放課後の居場所事業2か所、軽度発達障害児の放課後の居場所事業2か所の合計6か所を目標として実施した。それぞれに予算の制約等の中で妥当な目標を設定し、達成しているが、定員を超える申込みもあり、需要は高くなっている。
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 前年度の補助額を参考に、コストを設定しているが、実施報告などによると運営法人の持ち出しや利用者の負担が増えることなどが事業を継続していくうえでの検討課題となっており、コスト削減の余地はあまりないと考えられる。 平成18年度当初、「障害児の居場所づくり事業」と「学齢障害児地域生活サポート事業」の2事業が存在したが、「学齢障害児地域生活サポート等事業」として統合して効率的に進めた。
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 補助要綱に、施設の衛生環境や安全性、登録者数の実績要件などを定め、事業の安全性に配慮している。情報提供は広く行っていないが、モデル事業では利用者の資力などにも配慮しながら利用できる支援メニューの情報提供など、きめ細かい相談を行っている。
監査の結果	合計 ↓ 100点換算 ランク(A~E)	31 / 40 78 / 100 B

指摘事項 改善要望事項 評価の理由 なし

事業名	アーツ・コミッション事業 (教育プログラム試行事業)		担当	区局部課名	市民活力推進局文化振興部文化振興課	電話	671 - 3703
				課長名	堀江 武史		
施策名	■ 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します				重点事業 番号	2 - 3 - 5
	■ 運営方針	文化芸術活動の支援と次世代の育成					
目的	次世代を担う子どもたちに芸術家や芸術と出会う体験の場を提供し、創造力育成のきっかけとする。中期計画最終年度の目標は、100校でのプログラム実施						
内容	過去2か年の試行実施の結果を改善し、早期に実施校を募集。 平成18年度は、18校での実施を目標とした。 市内22の小学校に音楽、美術、伝統芸能等多様なジャンルのプログラムを提供した。						
根拠法令等	文化芸術振興基本法(第35条、第24条)						

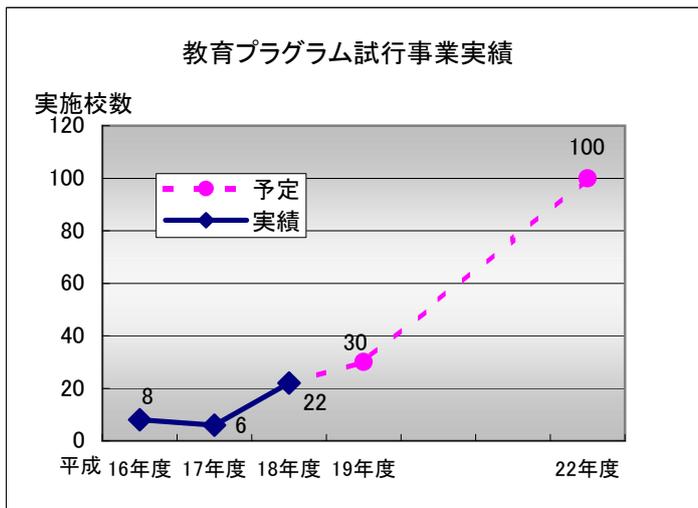
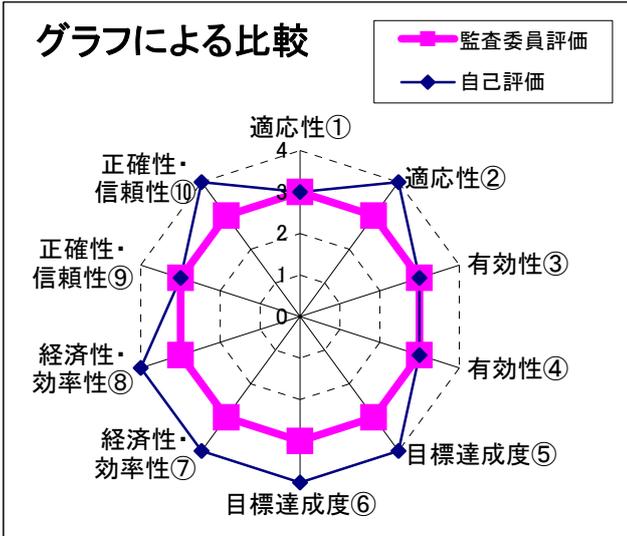
コスト	区分	H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)		1,499	1,999	2,000	2,251
うち一般財源等 (千円)		1,499	1,999	2,000	2,251	22,300
人件費(概算) (千円)		454	462	3,150	3,233	3,150
総コスト(概算) (千円)		1,953	2,461	5,150	5,484	25,450

活動・成果 指標	名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		学校へのプログラム提供	回	8	6	18	22
	活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(244)	(410)	(286)	(249)	(848)
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
		校					
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
変化の激しい時代にあつては、知識の伝達だけでなく、他者と協調する「市民力」、自己を確立していく「創造力」の育成が求められている。学校という公の場での実施となるため、事業を市が統括する必要がある。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
今後の事業拡大の中心的役割を果たす公益団体であり、市内の文化施設運営、文化事業運営のノウハウを有しアーティストとのネットワークが豊富な財団法人横浜市芸術文化振興財団への委託により実施した。		
3 目標達成度	8	⑤ 目標の水準は適切か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成16・17年度と比較し、実施学校数を大きく増やした。また、提供プログラムのジャンルを増やしたことから、学校のニーズにあわせたプログラム実施が可能となった。 さらに、2月には、県の実施する協働事業のシンポジウムの中で、横浜の事例報告を行うことができた。		
4 経済性効率性	8	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
受託者である財団は、試行事業による経験の蓄積と、財団法人地域創造から助成金を得たことから、昨年度と同予算額で、実施校を増やすことができた。		
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
アーティスト、学校との綿密な連絡により、事業を円滑に展開することができた。 記者発表を丁寧に行うことで、情報提供に努めた。		

総合評価	合計	36	特記事項	(協働の取組状況) 平成16年度より県との協働事業として教育プログラムを実施しているNPO法人STスポット横浜との連携により、シンポジウムの中で横浜の事例をPRすることができた。
	100点換算	90		(環境への負荷)
ランク (A~E)	A 次世代を担う子どもたちの育成という点でソフト事業の基盤的役割を果たす重要な事業である。中期計画最終年度の100校での実施を可能とするためには、教育委員会、学校、アーティスト等、様々な実施主体への働きかけを強め、さらなる環境整備を図っていくことが必要である。			

事業名 **アート・コミッション事業
(教育プログラム試行事業)**



4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
平成16年3月、(株)政策技術研究所が作成した芸術文化教育政策基礎調査報告書によると「アウトリーチ活動が芸術文化振興策の一つの柱となりつつある」、「子どもに対する芸術文化教育の重要性」とされている。文化芸術振興基本法の学校教育における文化芸術活動の充実など、市として推進する役割が求められている。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
アーティストが学校へ出向き、芸術文化を鑑賞させるだけではなく、複数日をかけてワークショップを行うことを基本とするなどの手法を用いた「アウトリーチ」は好評であり、効果が認められる。子どもが直接芸術文化と触れ合える機会を提供し創造力を育成するきっかけとしている。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
目標の18校は、1区1校程度の見込みで設定しているが、平成17年度実績からみると3倍の水準になっている。事業の実施に当たっては、スケジュールどおりに進ちよくしており、資金面で助成金を得られたことにより目標より4校多く実施することができている。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
当初予算額のほかに、(財)地域創造の「地域の芸術文化環境づくり支援事業」の中の「研修企画支援事業」から助成金を受け活用している。アーティストの選定等事業の段取りについては、文化事業運営等実績がある(財)横浜市芸術文化振興財団に委託して効率的に実施している。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
学校との連絡を密にとり、責任や役割を明確にして安全かつ円滑に事業を進めている。学校長会で説明のほかパンフレット、チラシ等を用い広報を行い、教育関係の広報誌にも掲載されている。		
監査の結果	合計	30 / 40
	100点換算	75 / 100
	ランク (A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし この事業は、学校へアーティストが出向いていくアウトリーチの手法を用いて、子どもたちに直接芸術文化と触れ合える機会を提供し、子どもの創造力を育成するきっかけを作る事業である。平成18年度は当初見込んでいなかった財団法人からの助成金を受けたことにより目標を上回って実施することができた。これまでは実施校数が比較的少なく、財団法人に委託して実施してきたが、平成22年度には100校に拡大していく目標を設定しており、今後の事務の効率化や提供するプログラムの維持向上など、本格的な実施体制の確立に向けて、現在検討を進めている。		

事業名	子どものためのJAZZ教育事業		担当	区局部課名	市民活力推進局文化振興部文化振興課	電話	671 - 3703
			担当	課長名	堀江 武史		
施策名	■ 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します				重点事業 番号	2 - 3 - 5
	■ 運営方針	文化芸術活動の支援と次世代の育成					
目的	次代を担う子どもたちに様々な場で芸術に触れる機会を提供する一環として、横浜の文化であるJAZZ音楽の教育プログラムを実施する。						
内容	北米の芸術機関であるリンカーンセンターからジャズ奏者を招聘し、①コンサートのほか②レクチャーコンサート③学校へのアウトリーチ④マスタークラス(楽器別のレッスン)⑤バンドクリニックを開催する。						
根拠法令等	文化芸術振興基本法(第35条、第24条)						

コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)			27,950	15,000	15,060
うち一般財源等	(千円)			27,950	15,000	15,060	0
人件費(概算)	(千円)			813	792	813	0
総コスト(概算)	(千円)			28,763	15,792	15,873	0

活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		ジャズについてのレクチャーコンサート		回		1	1	1
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(28,763)	(15,792)	(15,873)	(15,873)	
	バンドクリニック・マスタークラスの実施		クラス		2	2	2	
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(14,381)	(7,896)	(7,936)	(7,936)	
	学校への出前コンサート		校		-	6	6	
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)				(2,632)	(2,645)	

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
横浜は、JAZZ発祥の地のひとつであり、子どもたちが郷土の特色のひとつである音楽に接する機会を提供することは意義深い。当事業は、平成16年度末に市長が直接NYに出向き、プログラム提供を依頼したのもあり、2年目は、新たにアウトリーチ活動にも取り組み、多くの子どもたちに参加してもらえた。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
招聘団体であるジャズアットリンカーンセンターは、世界有数の芸術団体であり、また、教育プログラムの実施については先駆者でもある。優れたプログラムの成果を子どもたちに体験してもらうことで今後の教育プログラム推進事業展開のための学校、PTA、関係業界への大きなPRにもなった。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
予算の縮減を果たしながら新たにアウトリーチ活動に取り組むなど、より成果を挙げる事業内容を設定し、計画したスケジュールに沿って事業を実施した。		
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
実施初年度の平成17年度は、実行委員会の立ち上げ、相手方との意思確認に手間がかかることもあったが、本年度は、昨年度の経験をもとに、スムーズに事業を展開でき、結果として、効率的な運営ができた。しかし、総額としては、渡航費用等の関係からコスト高の面は否めず、今後改善の余地がある。		
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
児童が参加するプログラムの実施においては、スタッフを必要正数配置し、学校と密な連絡をとり実施することができた。市内小中学校の全児童・生徒あてにリーフレットを配布したほか、広報よこはま、横浜みなとみらいホールホームページ、ちらしにより広報を行った。		

総合評価	合計	31	(協働の取組状況)
	↓ 100点換算	78	特記事項 (環境への負荷)
ランク(A~E)	B 米国の優れた教育プログラムの成果を横浜の子どもたちに提供する事業として評価できる。学校へのアウトリーチ活動により多くの児童にJAZZの魅力を伝えることができた。今後は、継続的な取り組みの仕組みを検討するため国内奏者の活用を検討する。 ※アウトリーチ活動・・・当事業では、学校への出張コンサートのことを示します。		

事業名	子どものためのJAZZ教育事業
-----	-----------------

◆アウトリーチプログラム実施

実施日	訪問校
10月5日(木)	大口台・港北小(合同開催)、中山小、瀬谷第二小、永田台小
10月6日(金)	美しが丘東小、永谷小

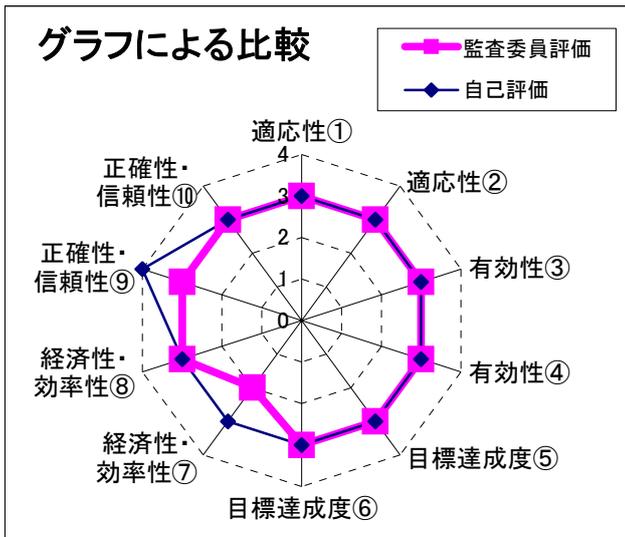
◆バンドクリニック出演校(横浜みなとみらいホール大ホール)

実施日	出演校
10月7日(土)	・新潟市立五十嵐中学校ビッグバンドジャズと横浜市立笹下中学校(港南区)ジャズアンサンブル ・横浜市立戸塚高等学校の吹奏楽部

◆マスタークラス(横浜みなとみらいホール小ホール)

実施日	楽器(クラス)
10月7日(土)	トランペット
	トロンボーン(テナートロンボーンバストロンボーン)
	サクソ(アルトサクソ、テナーサクソ、バリトンサクソ)
	パーカッション、リズムセクション(ピアノ、ベース、ドラム)

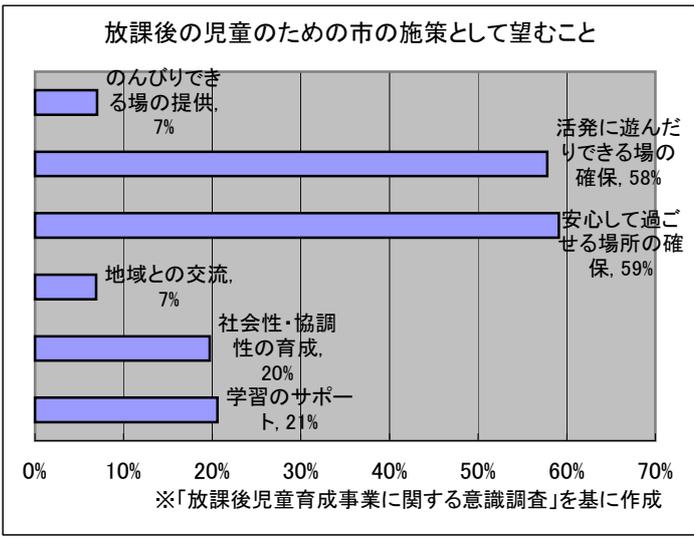
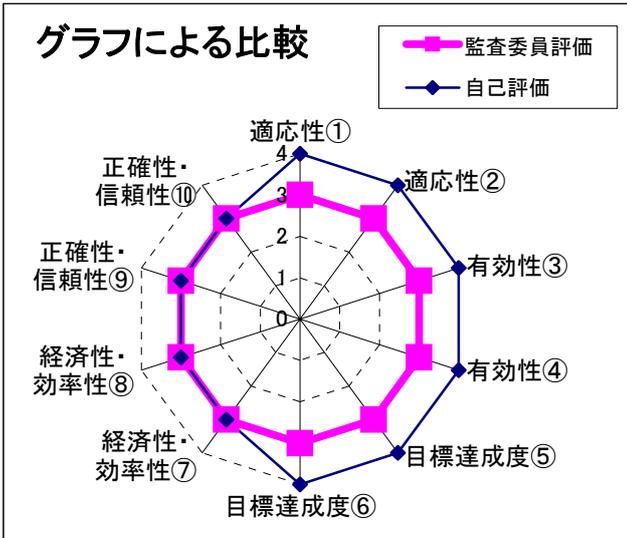
4:十分にできている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 横浜は、日本の「JAZZ発祥の地のひとつ」との価値観のもと、文化芸術活動の支援と次世代育成の教育プログラムの一環として実施した。平成18年度は、多くの子どもたちにアメリカのミュージシャンの音楽を提供するために、新たに公立学校への出張コンサートを実施していることや広報活動のバックアップの面からも市の関与が必要と考えられる。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ジャズアットリンカーンセンターの活動は、コンサートにとどまらず、小学校への出張コンサート、中高校のブラスバンド部の手ほどきや、マンツーマンの演奏指導など多岐にわたり、今後の教育プログラム推進事業展開に資するとともに、学校、PTA、関係業界へのPRにもつながり、効果が認められた。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 アウトリーチ活動に取り組むなど、前年度にはないプログラムを盛り込むことにより、実施水準を高めた目標を設定し、計画したスケジュールに沿って実施した。
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 コストの面では、渡航費用等がかさみ総額約3,900万円となり、事業費に協賛金や入場料を得ても、本市負担額は約1,500万円となっている。平成17年度の経験を基に、ジャズアットリンカーンセンターとの調整等に支障はなく、プログラム実施については効率的に行われた。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 学校での事業はそれぞれの役割や責任を明確にしており、その他の会場については各々の会場に見合ったスタッフを配置するなど、安全に配慮して実施した。 市内小中学校の全児童・生徒あてにリーフレットを配布したが、締切り後に知らなかったという声もあった。その他、新聞等のマスコミや、音楽専門誌、広報よこはまなどにより広報をするとともに、多くの取材を受けている。
監査の結果	合計 29 / 40 ↓ 100点換算 73 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 ■なし

事業名		プレイパーク支援事業		担当	区局部課名	こども青少年局青少年部放課後児童育成課			
				担当	課長名	徳田 文男	電話	671 - 4151	
施策名	■ 中期計画	子どもや青少年の健やかな成長空間を創出します					重点事業 番号	2 - 3 - 6	
	■ 運営方針	放課後児童育成施策の推進							
目的	公園において、子どもの創造力を生かした、自由な遊びができるプレイパークを推進する。								
内容	プレイパーク運営支援 ①プレイリーダーの配置のための人件費補助 ②プレイパークの広報活動費補助等								
根拠法令等	横浜市放課後児童の特別体験活動補助金交付要綱、横浜市プレイパーク運営支援要綱等								
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)				9,989	8,919	20,000	
	うち一般財源等	(千円)				9,989	8,919	20,000	
	人件費(概算)	(千円)							
	総コスト(概算)	(千円)				9,989	8,919	20,000	
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	補助対象プレイパークか所数		か所			7	7	9	
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)			(1,427)	(1,274)	(2,222)
				人					
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)					
			か所						
活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)						
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。						■4□3□2□1	
		② 事業を市が行う必要性があるか。						■4□3□2□1	
①都市化による、子どもたちが自由にのびのびと遊べる場の減少、少子化・核家族化による子ども同士の交流機会の減少等から必要性が高まっている。 ②市立公園等を活用するため、本市が支援事業を行う必要がある。									
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。						■4□3□2□1	
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。						■4□3□2□1	
③市内プレイパークの推進を目的として実施している。NPOに補助し、実施している。 ④中期計画の重点事業として位置づけられ、局の運営方針の重点施策のひとつに位置づけられている。									
3 目標 達成度	8	⑤ 目標の水準は適切か。						■4□3□2□1	
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。						■4□3□2□1	
⑤中期計画の重点事業として目標を設定している。 ⑥支援事業を制度化し、中期計画の重点事業とした。									
4 経済性 効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。						□4■3□2□1	
		⑧ 事務は効率的に行われているか。						□4■3□2□1	
⑦NPO法人との協働事業として実施。 ⑧環境創造局及び区(土木事務所)との共管事業として役割分担をし、連携しながら実施している。									
5 正確性 信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。						□4■3□2□1	
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。						□4■3□2□1	
⑨各プレイパーク管理運営委員会と土木事務所との間で開催に関する覚書が締結され、プレイパーク開催時にはプレイリーダー等が配置されている。 ⑩市民向けホームページを開設している。									
総合 評価	合計	36	(協働の取組状況)						
	↓	40	NPO法人が行政と協働し実施している。						
	100点 換算	90	(環境への負荷)						
		100	ISO14001の推進に協力して実施している。						
ランク (A~E)		A	プレイパークを拡充していくためには、プレイリーダーを養成するとともに、プレイパークを運営する市民団体の育成や、市民団体と地域及び行政とが連携していくことが必要となる。 プレイパーク活動には、近隣など地域の理解・協力を得ることが不可欠なので、プレイパークの魅力を多くの人に知ってもらう必要がある。						

事業名	プレイパーク支援事業
-----	------------

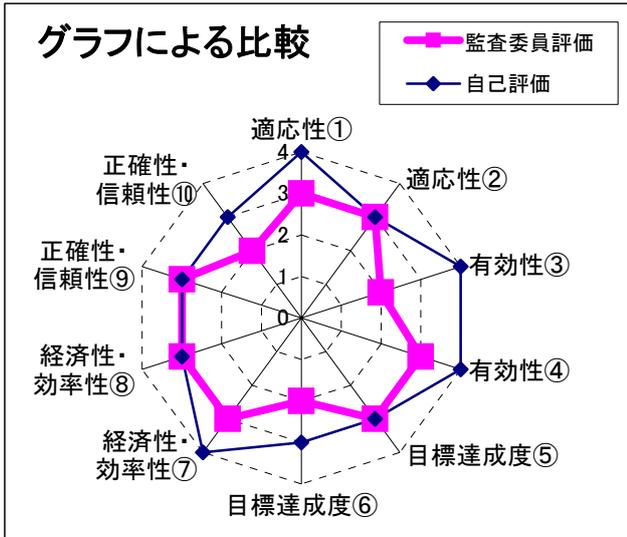


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	<p>① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>平成15年度の「次世代育成支援に関するニーズ調査」では、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」と答えた人が約60%と最も多くなっている。また、「放課後児童育成事業に関する意識調査」でも、市の施策として望むこととして「活発に遊んだりスポーツのできる場の確保」を58%の人が選んでいる。さらに、この事業は市立公園を活用するものであるため市が行う必要性が認められる。</p>
	6	<p>③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>公園での自由な遊びを目指し、NPOのメンバーや町内会、青少年指導員などが協力して管理運営委員会を立ち上げ、地域の活動として取り組んでいる。活動状況は場所により異なるが、1日当たり平均75人の参加があり子どもにとって自由に遊べる広い場所としておおむね好評である。</p>
3 目標達成度	6	<p>⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>中期計画の目標は平成22年度に18か所の実施となっており、平成18年度の目標の7か所はこれまでの実績により現時点ではおおむね妥当であり、達成している。</p>
	6	<p>⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>補助金対象は内容はプレイヤー雇用費及び研修費及び事業費等で、1か所当たり平均127万円となっており、当初予算より縮減されている。 事業の実施に当たっては、環境創造局、土木事務所、実施主体等で役割を分担しており、効率化を図っている。</p>
5 正確性・信頼性	6	<p>⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>プレイヤーは、※YPCネットワークが定める基準により認定し、配置基準が定められている。 また、それぞれのプレイパークでは市民向けホームページの開設や、パンフレットを配布している。</p> <p>※YPCネットワーク:特定非営利活動法人 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク</p>
	合計	<p>30 / 40</p> <p>子どもが自由に遊んだり、活動できる場は、次世代育成に関するニーズ調査等の結果から、多くの人が必要と考えていることが認められ、そのニーズにこたえる形で地域のボランティアなどが活動を行ってきた。</p> <p>平成18年度から、補助金を交付する事業となり、1日当たり平均75人が参加する遊びの空間が創出されている。今後ともNPOや地域との協働により、平成22年度には18か所を実施することを目標としている。</p>
監査の結果	100点換算	75 / 100
ランク (A~E)		B

事業名		次世代育成支援～地域の学習活動支援事業～		担当	区局部課名	西区福祉保健センター福祉保健課		
				課長名	石川 秀一	電話	320 - 8437	
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業番号	-
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	重点推進課題2 元気でいきいきとしたまちづくりの推進						
目的	子どもの健全育成のために必要な知識や技術を、子ども自身が理解し、身につけるため、地域の団体・組織による自主的な学習や研修の機会創出に対して支援を行います。							
内容	①講座・研修会等における講師料補助 ②事業紹介チラシ等の作成							
根拠法令等	「横浜市補助金等の交付に関する規則」「西区次世代育成支援・地域の学習活動支援事業補助金交付要綱」							
コスト	区分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)			1,300	1,021	950	
	うち一般財源等	(千円)			1,300	1,021	950	
	人件費(概算)	(千円)			9,000	9,236	9,000	
	総コスト(概算)	(千円)			10,300	10,257	9,950	
活動・成果指標	名称		単位		H18予定	H18実績見込	H19予定	
	補助金申請団体数		団体		15	10	9	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(687)	(1,026)	(1,106)	
	講座開催回数		講座		60	50	45	
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(172)	(205)	(221)	
	講座参加者数		人		1,600	1,500	1,350	
成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(6)	(7)	(7)		
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■4□3□2□1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		□4■3□2□1				
子どもを取り巻く課題として、生活リズムの乱れや、飲酒・喫煙、万引きなど様々な問題がありますが、いじめや児童虐待が大きな社会問題となっている中、子どもに関する機関や団体が連携して対策を講じる必要があるとともに、子ども自身が正しい知識や技術を身につけ、実行することが重要であり、現状に合っています。また、市として地域の学習機会を支援する必要があります。								
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		■4□3□2□1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		■4□3□2□1				
各機関や団体が、課題解決に向けて主体的に取組めるよう補助金形式にしました。自主的に10団体が申請し、地域の活性化等運営方針「元気でいきいきとしたまちづくりの推進」の実現に寄与しました。また、中期計画「子ども未来戦略」にも寄与しています。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		□4■3□2□1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□4■3□2□1				
いじめや児童虐待への対応として、小学生へのCAPワークショップを開催できるよう、また、その他子どもに関わる団体や地域が研修会を開催できるよう60回分の講師料補助を設定しました。CAPワークショップについては区内のすべての小学校PTAより申請があり49回実施できました。その他の団体に関しては、ほとんど申請がないため、事業転換の必要があります。								
4 経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。		■4□3□2□1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		□4■3□2□1				
別事業で実施していた平成17年度のCAPワークショップについては、委託事業として区内の全小学校で49回開催しましたが、その際の委託料は約1,300(千円)でした。今年度は、この事業に取り込んで同様に49回開催しましたが、補助金交付は980(千円)でコストは縮減しています。事務手続きは、簡素化をはかり、効率的にできました。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		□4■3□2□1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□4■3□2□1				
個人情報に記載されている補助金申請書については、施錠できる場所で施錠し管理しました。事業開始に当たり、リーフレットを作成し、子どもに関わる団体の会議や関係施設の窓口で周知したほか、補助金の取り扱いについても説明しました。								
総合評価	合計	34	(協働の取組状況) これまで区が実施していましたが、団体との協働の発端として、補助金形式にし実施しました。					
	↓ 100点換算	85						(環境への負荷)
	ランク(A～E)	B	従来から想定していた講座等のニーズはありませんでした。子どもへの暴力防止プログラムに関しては、社会情勢や区民ニーズに照らし、今後も地域で開催できるよう支援をしていく必要があり、事業転換を検討しました。					

事業名 **次世代育成支援～地域の学習活動支援事業～**

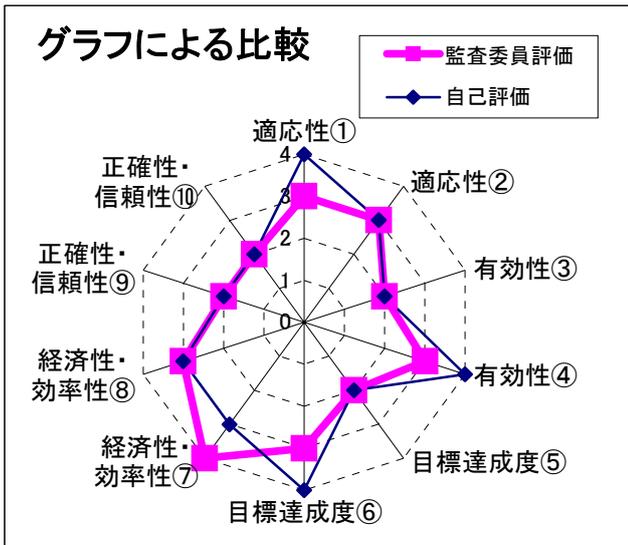


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等	
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
子どもの健康や児童虐待の防止、育児不安解消などの学習機会に対するニーズは認められるものの、「子育てサークル」などの地域団体が自主的に企画し、それに対して補助金を交付するという手法にニーズがあるかどうかは、必ずしも明確でない。保護者には*CAPのニーズが高く、区内全小学校で1年生、4年生を対象に実施している。また、一部の学校ではPTAも対象に実施している。			
2 有効性	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。	<input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
地域の団体が主体的に取り組めるように、自主的な企画に対する補助の方法をとっているが、小さな団体では企画立案の力量に対する不安や申請の手間などから、この制度の活用には消極的になることも予測される。この制度が活用されるためには、講師の紹介やプログラムの提供などの面で事前に周知したが、不十分であったと考えられ、さらに利用者の立場に立ったきめ細かな支援が必要である。			
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。	<input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
これまでの講座開催実績を踏まえ、小学校9校のPTAと、地域団体6団体の合計15団体への補助を目標とし、10団体で実施した。区内全小学校のPTAで「子どもへの暴力防止プログラム」を実施できたが、その他の地域団体からの申込みは1団体のみであった。			
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
PTAが実施したCAPの講座では、補助額に足りない額をPTAの負担とすることにより、また、子育て団体が実施した講座では講師にアルバイトの単価をお願いするなど工夫して、それぞれ補助額を縮減した。			
5 正確性・信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。	<input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
CAPの講座は学校内の活動の一環であることから、危機管理にノウハウのある法人に委託することにより安全に配慮している。また、補助金申請等に係る個人情報の保護はマニュアルを作成して事故防止に努めている。 なお、現状でも関係団体の会合等や関係施設の窓口での周知、子育てサークルへの専用チラシの配布などを行っているが、予定した申込数に達せず、地域団体へのPRには工夫が必要であった。			
監査の結果	合計	27 / 40	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし この事業は、子どもの健康や児童虐待の防止、育児不安の解消などの学習機会を提供するもので、中でも保護者のニーズが高い「子どもへの暴力防止プログラム」は、区内の全小学校においてPTA主催で実施している。一方、この事業のもう一つのねらいである、「地域団体等による自主的な企画」に対する補助の実績は、PTAに偏っており、この手法による地域全体のニーズや明確な成果を見いだすことができなかった。 西区ではこのことを踏まえ、平成19年度から地域団体等の企画による講座に対して補助する仕組みは廃止し、保護者のニーズが高いCAPの講座を引き続き小学校で実施することとしている。 *CAP:子どもたち自身が人権意識を持ち、暴力から自分を守るための知識や技能を持つためのプログラム。子どものためのプログラムと親や教職員、地域の大人へのプログラムがある。
	100点換算	68 / 100	
	ランク(A~E)	C	

事業名		青少年サポート事業		担当	区局部課名	中区総務部地域振興課			
					課長名	渡辺三樹男	電話	224 - 8134	
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画							重点事業	-
	<input type="checkbox"/> 運営方針							番号	-
目的	子供達の健全育成と、これを支援する人達のネットワーク作り等による、青少年健全育成の仕組み作りを目的とします。								
内容	・なかっ子サポーター事業 ・なかっ子芸術劇場事業 ・なかっ子ドリムスクール ・なかっ子わーどフェスティバル事業								
根拠法令等	中区子供芸術鑑賞会補助金交付要綱、中区青少年交流事業補助金交付要綱								
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)		0	3,660	2,350	1,776	2,220	
	うち一般財源等	(千円)		0	3,660	2,350	1,776	2,220	
	人件費(概算)	(千円)		0	9,236	9,000	9,236	9,000	
	総コスト(概算)	(千円)		0	12,896	11,350	11,012	11,220	
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	イベント来場者数		人		1,650	1,860	1,813	1,750	
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(8)	(6)	(6)	(6)	
	イベント実施回数		回		6	10	10	8	
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(2,149)	(1,135)	(1,101)	(1,403)	
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)						
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
既存の団体、企業などあらゆる立場の人たちが協力、協働して青少年を育成していくことを目的とした事業内容となっており、市民ニーズに適合したものとなっている。 青少年の健全育成を行うためには、様々な人たちの協力が必要であり、この協力を取りまとめるところに、市の役割があると考えられる。									
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
事業内容などについては、青少年育成団体などと検討し実施しており、また、青少年育成プランと合致した内容となっている。									
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
青少年の育成に関心のある企業など(なかっ子サポーター)の発掘を実施でき、また、青少年育成団体などと共同での事業を計画どおり実施できた。									
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
事業実施時の講師謝金など無償で実施できた。 常に、協力団体などとは、連絡を取れる状態にあり、関係を密にして事業執行を図っている。									
5 正確性信頼性	4	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
運営協力者、参加者などの情報をパソコンで管理しており、部外には、持ち出さないようにしている。 青少年育成団体とは、常に連絡を取り合っている。									
総合評価	合計	29	(協働の取組状況) 区内の企業、官公庁などと協力し、小・中学校向けに、出張講義、施設見学などの実施している。						
	100点換算	73							(環境への負荷) 小学生、中学生向けに青少年育成協力企業などが出張講義などを実施し、環境問題などを内容とした講義を実施している。
	ランク(A~E)	B	青少年健全育成に協力してもらえる企業などを更に発掘し、また、協働事業を更に増やしていく。						

事業名	青少年サポート事業
-----	-----------

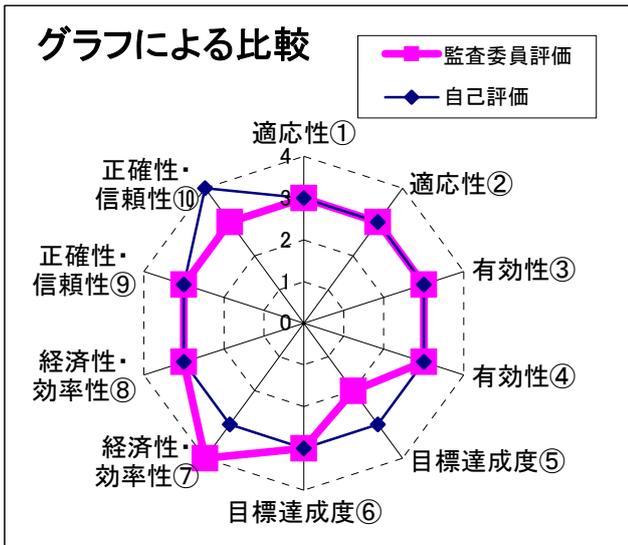


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>近隣地域や他人とのかかわりが薄くなっているといわれる昨今の青少年を巡る状況の中で、子どもたちに様々な体験の機会を与えたいという学校の希望などを踏まえて事業を実施している。現在は区が学校と企業の仲介役となり、事業の準備をしているが、関係者間の役割や責任の分担を含めて今後の事業の進め方を明確にする必要がある。</p>		
2 有効性	5	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>「なかくっ子芸術事業」、「なかくっ子フェスティバル」はこの事業の開始以前から実施されていた事業であり、参加者数が増えないことに加えて、マンネリ化しているなどの課題があるので見直しが必要である。「なかくっ子サポーター事業」、「なかくっ子共催事業」、「なかくっ子ドリームスクール」は、官公庁を含めて企業が集積している中区の地域特性を踏まえて実施しており、青少年の健全育成に寄与している。</p>		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>イベント来場者数とイベント実施回数だけでは、この事業全体の活動指標・成果指標としては不十分である。なお、当初予定していたサポーター企業の発掘や青少年団体との協働事業などは、ほぼ計画どおり行うことができた。</p>		
4 経済性・効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>「なかくっ子共催事業」や「なかくっ子ドリームスクール」では、無償でクルーズ船を提供してもらったり、講師謝金を無料にってもらったりして企業の協力を得ながら、極力コストのかからない方法で事業を行った。イベント開催時の会場設営と出席者の事前調整に最も労力を要しているため、一部作業を民間に委託したが、効率的な運営のために一層の見直しを進める必要がある。</p>		
5 正確性・信頼性	4	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>書類発送時のダブルチェックを行ってこなかった(この点については既に改善済み)。また、各事業の活動実績の公表は十分とはいえず、サポーターとして事業の実施に協力してもらっている企業への説明責任を果たすためにも、今後は積極的に情報を提供していくことにしている。</p>		
監査の結果	合計	27 <input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし
	↓	/ 40
	100点換算	68 <input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし
ランク(A~E)	C	「なかくっ子サポーター事業」、「なかくっ子共催事業」、「なかくっ子ドリームスクール」は、中区で活動している企業や公共機関にサポーターになってもらって、様々なプログラムの提供を受け、学校単位で小中学生がそれに参加するという形となっており、地域とともに協働して行う青少年育成事業となっている。今後は、これらの取組を中心に「青少年サポート事業」を進めていくことが期待される。

事業名		青少年健全育成事業		担当	区局部課名	港南区地域振興課 学校支援・連携担当			
				担当	課長名	小林 敏夫	電話	847 - 8393	
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画							重点事業番号	- -
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	子育てと青少年の健全育成							
目的	地域における青少年育成活動を推進するため、青少年団体活動の奨励・支援を柱に、自主的な地域活動の推進を図り。区民が青少年問題について共通の問題意識を持ち、青少年を見守る意識を育む。								
内容	元気で豊かな青少年の育成を推進するため、青少年育成団体活動の支援を実施する。また、学校と連携し青少年育成を協働して取り組みます。								
根拠法令等	青少年健全育成推進事業補助金交付要綱、横浜市青少年プラン、横浜市次世代育成支援行動計画								
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費 (千円)				4,390	4,600	4,600		
	うち一般財源等 (千円)				4,390	4,600	4,600		
	人件費(概算) (千円)				4,618	4,500	4,618		
	総コスト(概算) (千円)				9,008	9,100	9,218		
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	夢を持とう！講演会参加者数		人	250	350	350	350	350	
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)			(26)	(26)	(26)		
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)							
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)							
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
青少年非行の増加・低年齢化や子ども関係の相談件数の増加など、青少年の健全育成は社会的ニーズが高まっています。									
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
18年度から、子どもフォーラムの一部(地域子どもフォーラム部分)を学校・家庭・地域連携事業に組み込むことで、各中学校区で効果的な運営ができました。また、運営委員を推薦する小中学校や各団体には、前年度から、地域を主体とした開催について説明を行い、スケジュール調整を早めに行いました。地域を主体とした子どもフォーラムの開催により、地域の各団体間の連携を図ることができました。									
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
関係機関と早めのスケジュール調整を行い、地域を主体とした子どもフォーラムを開催するという目的を達成することができました。									
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
子どもフォーラムでは、地域の担当者が各グループで活動物品や活動場所の手配等を行い、効果的に運営することができました。緊急フォーラムでは、受付や設営などを団体内で対応できれば、さらに効率的でした。									
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1							
イベント参加者については傷害保険に加入しています。事業実施前に記者発表を実施し、実施後はホームページに実施内容を掲載し、リーフレットや報告書等を作成して小中学校や関係機関等に配布しました。									
総合評価	合計	31	(協働の取組状況)						
	↓	40	区民により青少年健全育成を推進する会が構成されており、各事業へ意見を反映させています。子どもフォーラムをはじめとして、地域、学校と協働して諸事業を実施できました。						
	100点換算	78	(環境への負荷)						
ランク(A~E)	B	子どもフォーラムでは、子どもたちが街の美化やゴミ削減、快適な街づくりに向けた取り組みを行っています。イベント実施時は、スープを飲むために参加者にコップを持参してもらいました。18年度に実施できた地域を主体とした子どもフォーラム開催の体制を、19年度も継続できるよう準備します。							

事業名	青少年健全育成事業
-----	-----------

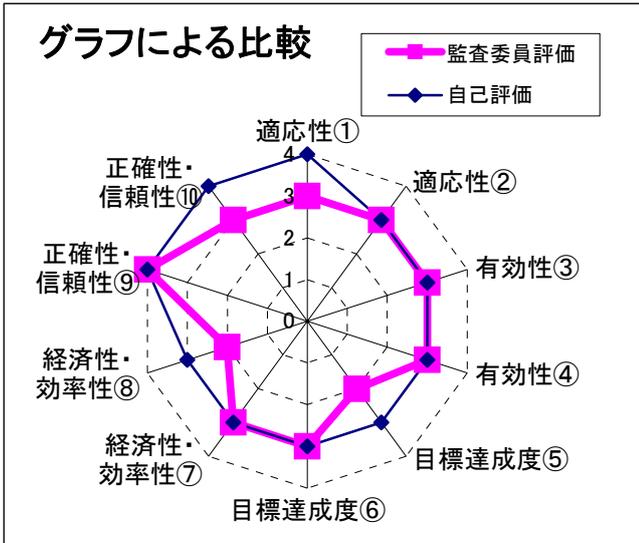


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
区内の子ども関係の相談件数は最近3年間で1,700件以上増加しており、子育てに関する養育者への支援が求められている。また、平成18年度区民満足度調査では、約45%が「青少年育成に関する取組やイベントが充実していない」と回答している。学校・家庭・地域が連携して青少年を育成するためには、区が青少年活動を支援する体制を一層充実させる必要がある。		
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
区独自の取組として、「港南区青少年健全育成を推進する会」と協働で子どもフォーラム等を実施している。また、子どもフォーラムについては、平成18年度から学校を基盤とした活動から地域主体の活動へとその役割を明確化している。この事業は運営方針の重点推進施策「青少年の健全育成」に位置付けられており、目的の実現に一定の寄与をしている。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
「夢を持とう！」講演会の参加者数を350人としたのは会場の収容可能人数によるものであり、目標の設定の考え方としては疑問である。対象者数、収容可能人数、開催回数を考慮した上で目標を設定する必要がある。「夢を持とう！」講演会を含め、各イベントについては当初のスケジュールどおりに実施することができた。		
4 経済性・効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
リーフレットの作成に当たっては、近隣の横浜刑務所に印刷を依頼し経費節減に努めた。また、ユースサイトハイクでは、4社から飲食物等の協賛を得ることができた。青少年育成団体との連絡調整が多いため、事務マニュアルが整備されており、職員がいつでも確認できる状態になっている。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
ユースサイトハイクについてはスタッフマニュアルを作成し、チェックポイントにおいて参加者一人ひとりの安全確認を行っている。それぞれの取組については、実施時に記者発表をしたり、広報紙・イベント情報誌などを発行したりして情報提供に努めている。また、実施後も取組結果について区ホームページに掲載して情報提供を行っている。		
監査の結果	合計	30 / 40
	100点換算	75 / 100
	ランク (A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし		

事業名		みなんで育むがやっこ事業		担当	区局部課名 保土ヶ谷区総務部地域振興課			
				課長名	生沼 章			
				電話	334 - 6301			
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画							
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	地域の力を活かした新しい公共の創出						
目的	保土ヶ谷区の地域特性を活かしながら地域学校等と協働して青少年の健全育成を図ります。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜国大生を、小・中・高校に「がやっこ先生」として派遣 ・自然科学の不思議や面白さを伝える「がやっこ科学教室」を横浜国立大学で開催 ・横浜国大生の企画、実施による区の特性を活かした「がやっこ探検隊(体験学習や宿泊体験)」を開催 							
根拠法令等								
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)	2,588	9,819	7,100	6,500	5,200	
	うち一般財源等	(千円)	2,588	9,819	7,100	6,500	5,200	
	人件費(概算)	(千円)	5,500	7,076	6,832	6,832	6,832	
	総コスト(概算)	(千円)	8,088	16,895	13,932	13,332	12,032	
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	がやっこ育成事業(開催回数)		回数	115	1,438	1,047	1,672	1,500
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(70)	(12)	(13)	(8)	(8)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)					
	がやっこ育成事業(参加人数)		人	5,368	9,807	2,480	3,482	2,590
	成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)	(2)	(2)	(6)	(4)	(5)
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
子どもたちを取り巻く生活環境や社会環境の変化に対応し、子どもたちの居場所づくりや防犯、体力向上に役立っています。 また、青少年の健全育成は、家庭教育では体験できない部分を補完する意味で重要な施策として必要である。								
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
横浜国立大学やスポーツ振興事業団と連携することで、専門的ノウハウを持った人材を有効活用でき、事業の成果・効果を高めています。また、それぞれ特色、機能を持つさまざまな団体・組織と連携しながら事業展開することで、多角的に青少年の健全育成を図ることができるとともに、地域社会全体の教育力やネットワーク化が促進され、区政運営方針の地域コミュニティの再生及びさらなる協働の推進の目的の実現に寄与しています。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
各事業とも開催回数は予定通り行われ、参加人数もほぼ応募人数をクリアした。 小中学生が対象なので、事業が夏休みに集中するのは仕方がないが、秋・冬・休日を有効に利用し開催することが出来た。								
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
がやっこ探検隊については、参加費1人7,500円を徴収しています。 がやっこ先生については費用のほとんどが交通費なので非常に難しい。 専門知識を持った大学・団体に委託して効率的に事業を実施しています。								
5 正確性信頼性	8	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
委託契約・仕様書に基づき適正に実施しています。また、実施にあたっては、保険に加入しています。 広報よこはま区版、HP、CATV、ミニコミ誌など多様な広報媒体を活用し幅広く周知しています。								
総合評価	合計	33					(協働の取組状況)	
	↓	/ 40					地域の団体や人的資源を活用して事業を実施しています。	
	100点換算	83	特記事項				(環境への負荷)	
↓	/ 100					活動の支援が中心なので、特になし。		
ランク(A~E)	B							
不登校児童の増加や青少年犯罪の低年齢化、引きこもりなど青少年に関する問題が多様化、複雑化するなか行政・家庭・学校など社会全体で、それぞれの力を発揮しながら協働して青少年育成の取り組みを進める必要があります。								

事業名 **みんなで育むがやっこ事業**

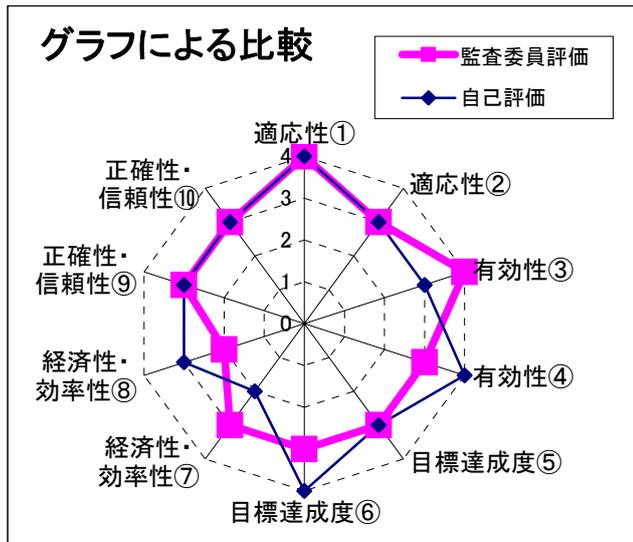


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 区民のニーズについては、自治会町内会、子ども会、青少年指導員、体育指導員らが行う意見交換会や区民会議の場で把握に努めている。また、科学教室以外の各取組を実施した後はアンケート調査を行っている。この事業が目的としている内容については、いずれは地域主体で進めていくのが望ましいものの、当面は区が学校、家庭、地域のコーディネーター役を担うことで自立を支援していく必要があると考えられる。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 これまで地域との接点がほとんどなかった横浜国立大学に働きかけて、この事業における様々な取組を実現できた。また子どもへの暴力防止プログラム(CAP)事業は、区内の小学校4年生全員を対象として実施している。しかし体育教室は、この事業の目的に掲げている地域特性が認められないので見直しが必要である。この事業を実施したことで運営方針で掲げた目的はおおむね達成しており、有用な事業である。
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 目標水準は、過去の実績をもとに設定しているものと思われるが、設定の理由が明確でない。がやっこ育成事業の開催回数、参加人数は、いずれも活動指標であるが、当初の目標は達成した。
	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 がやっこ探検隊については、実費相当分を負担してもらっている。それ以外の取組に関する受益者負担については、現在検討中である。事務を効率化するための特段の取組は行っていない。
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 事故対策として、保護者の緊急連絡先を把握するとともに、保険にも加入している。区の職員も必ず立ち会うようにしている。科学教室、探検隊での興味深い記事は、ホームページ等に載せるようにしている。
	合計	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし 29 / 40 ↓ 100点換算 73 / 100 ランク (A~E) B

事業名		学齢障害児地域生活サポート事業		担当	区局部課名	旭区 福祉保健センター サービス課		
				担当	課長名	村岡 福藏	電話	954 - 6198
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画 <input checked="" type="checkbox"/> 運営方針 3 地域福祉保健の充実～イキイキと支えあい～					重点事業番号	- -
目的		放課後や長期休暇中の居場所を提供し、学齢期の障害児やその家族の地域生活を支援する。						
内容		・学齢障害児とその家族が利用し交流できる「拠点」の運営 ・放課後や長期休暇中の一時預かりや余暇活動支援 ・通学・移動支援の実施						
根拠法令等		旭区学齢障害児地域生活サポート事業補助金要綱						
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)				2,540	2,400	2,400	2,400
	うち一般財源等 (千円)				2,540	2,400	2,400	2,400
	人件費(概算) (千円)				718	700	718	700
	総コスト(概算) (千円)				3,258	3,100	3,118	3,100
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	一時預かり利用件数		件		781	720	730	720
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)			(4)	(4)	(4)	(4)
	送迎移動支援利用件数		件		1,545	1,200	1,260	1,200
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)			(2)	(3)	(2)	(3)
		単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)						
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
学齢期の障害児の放課後、長期休暇中の居場所については既存のサービスが乏しく、障害者と家族が安心して地域生活を送る上での大きな課題となっている。健康福祉局でも地域に学齢障害児の居場所をつくる事業を展開しており全市的にもその居場所が必要となっている。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
一時預かりの事業実施後、利用者数は安定している。一時預かりをはじめ他の事業所も出てきたが、本事業は送迎サービスと一体型の事業であるため特にニーズは高い。								
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
一時預かりではスペース的に可能な範囲の利用者を集めることができ、送迎事業でもコンスタントな予約が入り、できる限りの対応をしている。一時預かり、送迎ともに年間の目標件数を少し上回るペースでの利用がある。								
4 経済性効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
障害児を対象とした事業のため人件費もコスト高になりがちであり、事業全体としてのコストの縮減はなされていない。事務効率性はモデル事業2年目となり効率化が図られている。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
事故の未然防止のため人員配置をマンツーマンにし、障害保険にはいるなどの対策を講じている。利用者に対する事業説明は十分になされているが、区民全般に対する広報はパンフレット及びホームページでの案内にとどまっている。								
総合評価	合計	32	(協働の取組状況)					
	↓	40	NPO法人との協働により、事業が実施されている。					
	100点換算	80	(環境への負荷)					
ランク(A～E)		B	障害児の一時預かり、送迎ともにニーズも高く利用実績も安定してるが、平成19年度でモデル事業が終了となるため、平成20年度以降、継続実施できるよう実施団体等と協議していく必要がある。					

事業名 学齢障害児地域生活サポート事業



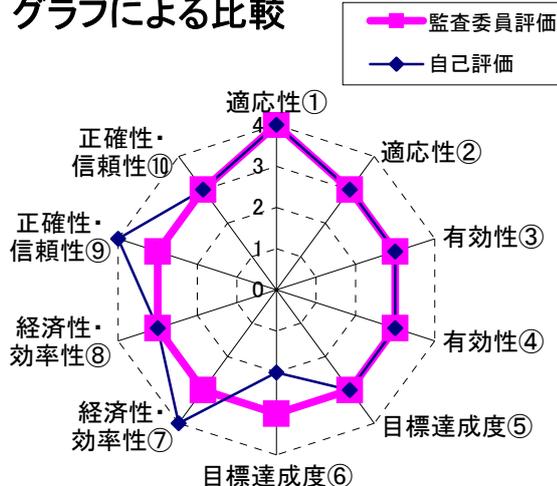
4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
学齢障害児の平日の居場所が少ない実情を踏まえ、平成15年度から学齢障害児の支援に取り組んでいる。この事業は障害児福祉の一環であり、行政が対応していく必要がある。特に旭区では愛の手帳交付者が市内で最も多く、同事業に対するニーズは高いと考えられる。また、国・県による同種の事業はなく、事業そのものの市場性が低いこともあり、区の補助によりNPOが実施するという協働型の事業として展開している。		
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
3年間のモデル事業であり、市内では、他の2区で市のモデル事業として始まった先進的な事業である。受益者負担については、国の基準が平成18年1月にできたことを受けて、利用料の改正を行っている。この事業は区の運営方針に位置付けられている。		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
一時預かり、送迎移動支援については、施設の収容人員等や過去の実績を基に目標値が設定されている。利用料を値上げしたため、利用者数が減少することも予測されたが、前年並みの利用者数を目標として設定しており、適切な目標水準といえる。一時預かり、送迎移動支援とも、目標どおりの利用実績があった。		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
適切な受益者負担とするため、一時預かりと送迎移動支援の利用料を値上げしたため、コストは、ほぼ前年並みとすることができている。一時預かりのスタッフの配置については、より経済性のある体制を目指して、検討を行っている。また、事業の執行体制については、職員の事務分担に偏りがあり、適切な業務配分であるとは言い難い状況である。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
補助金交付要綱等は整備され、これにのっとり事業を実施している。事故については、発生したことはない。情報提供はホームページを通じたものに加え、利用者の範囲が限定されているため、制度内容について、関係者の会議等を通じて、確実に伝わるような方法をとっている。		
監査の結果	合計	31
	↓	/ 40
	100点換算	78
		/ 100
ランク (A~E)		B
□指摘事項 □改善要望事項 □評価の理由 ■なし		

事業名		こども体験学習・交流事業		担当	区局部課名	金沢区総務部地域振興課		
				課長名	小張 弘之	電話	-	
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業	-
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	こどもと青少年が健やかに育つ環境づくり					番号	-
目的	事業を通じて地域の大人と青少年との異世代間交流を図る。金沢区への愛着を醸成し、次代の金沢区を担う人材の育成と相互交流を図る。こどもたちに多種多様な学習・体験の機会を提供する。							
内容	①文化伝承事業(塩づくり、小学生のための歴史講座、親子能体験講座) ②こどもセミナー(和楽器・茶道・着付、経済学習、自然体験、そば打ち体験) ③中学生職業体験 ④青少年地域交流事業(土曜塾)							
根拠法令等								
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)		990	1,883	1,883	1,853	
	うち一般財源等	(千円)		990	1,883	1,883	1,853	
	人件費(概算)	(千円)		1,800	2,600	2,600	2,600	
	総コスト(概算)	(千円)		2,790	4,483	4,483	4,453	
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	事業参加者数(文化伝承事業)		人		186	320	160	320
	成果 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)		(15)	(14)	(28)	(14)
	事業参加者数(こどもセミナー)		人			170	100	170
	単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)			(26)	(45)	(26)
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■4□3□2□1				
		② 事業を市が行う必要性があるか。		□4■3□2□1				
① こどもを育てることを地域ぐるみで行うこと、「地域の教育力」を活かすことが昨今の目標とされている。 ② 区役所の制度である「街の先生」や生涯学習団体、文化団体を実施主体として行う事業で区として関わることは必要である。								
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		□4■3□2□1				
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		□4■3□2□1				
③ 主に街の先生と学習団体で組織する団体、地域の文化団体との連携・協働を基本として実施していることから「地域の教育力」を活かす意味からも効果的である。 ④ こどもたちに地域で多種多様な体験の場を提供する観点から目的の実現に寄与している。								
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。		□4■3□2□1				
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□4□3■2□1				
⑤ 事業主体や内容からして適正である。 ⑥ 計画通りに行えたが、参加者数という観点では不十分である。								
4 経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。		■4□3□2□1				
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		□4■3□2□1				
⑦ 講師謝金等人件費は交通費程度に押さえ、ボランティアとして行ってもらっている。 ⑧ 事前準備作業や会議等も少なく押さえ、効率的に行っている。事業工程表を作成し、計画的な事業実施に努めている。								
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		■4□3□2□1				
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□4■3□2□1				
⑨ 事業実施にあたっては、講師の他に講師補助者として複数の人員を配置するなど、こどもの安全に配慮している。 ⑩ 広報紙ほかホームページでの情報提供や学校との連携による広報・周知に努めている。								
総合評価	合計	32	(協働の取組状況)					
	↓	/ 40	本事業は、生涯学習団体や街の先生、地域の文化団体、ボランティア団体との協働事業で実施している。					
	100点換算	80	(環境への負荷)					
ランク(A~E)		B	金沢区にある自然、歴史、文化、産業を「教育資源」ととらえ、それらの資源を活用して、こどもたちに様々な体験の機会が与えられた。実施にあたっては、地域の各団体・ボランティアとの協働がうまく行われた。 参加者の満足度は高いが、募集人員に対して応募者(参加者)がやや少なく、募集の仕方、PRの方法、学校との連携について工夫が必要である。					

事業名 **こども体験学習・交流事業**

グラフによる比較

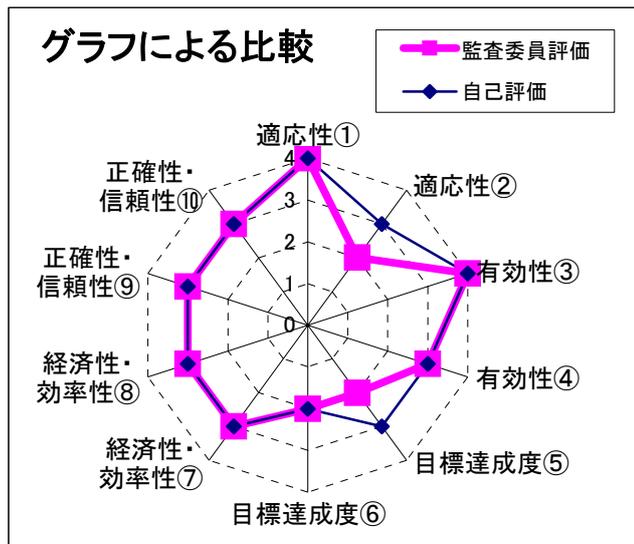


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 歴史的建造物や自然環境、さらに地域ボランティア(街の先生)など、地域に体験学習のための資源が整っており、異世代間交流を通じた活動のニーズとあいまって良好な事業環境に恵まれている。一部のプログラムには民間業者で行っているものと類似したものがあるが、区が支援することで地域交流、指導力向上、異世代間交流を通じた地域の活性化につながっている。
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 身近な資源とボランティアを活用しており異世代間交流を通じた体験学習に地域の資源を活用することができている。「職業体験」は中学校との調整不足があったため、受入可能人数の約25%にとどまっている。子どもたちに多種多様な学習の機会と体験の場を提供することにより、子どもと青少年が健やかに育つ環境づくりに役立っている。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 目標水準については、実施会場の収容範囲・安全面、講師の力量などを考慮して決定している。おおむね計画どおりに実施したが、天候による日程変更があったため目標とした参加者数に達しないものもあった。
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 講座の講師に、「街の先生」などボランティアの協力を得ることにより、コストが抑えられている。職業体験では、16職種19事業所について81人の受入先を確保したが、参加者は20人にとどまった。同取組の趣旨に賛同してもらった企業等の情報は、今後の活動に向け学校等に提供した。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 屋外実施の講座にはスタッフを増員し、また小学校2年生以下については、必ず保護者を同伴させるなどの安全対策を講じている。平成19年度は、より効果的な広報を目指し、各講座の情報が保護者の目にとまることをねらいとして、夏休みに実施する講座等を一冊のリーフレットにまとめ、全校生徒に配布することとした。
監査の結果	合計 31 / 40 ↓ 100点換算 78 / 100 ランク (A~E) B	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 ■なし

事業名		青少年活動支援事業		担当	区局部課名	港北区地域振興課		電話	540 - 2239				
担当		課長名		山同秀夫									
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画 <input checked="" type="checkbox"/> 運営方針 区民の力が活きる個性豊かな地域づくり							重点事業番号		-		
目的		青少年を育む環境を整備し、健全育成を促進する。											
内容		(1)ペットボトルロケット大会: 事業を主催するふるさと港北ふれあいまつり実行委員会へ事業補助 (2)こうほく青少年活動支援事業補助金: 青少年健全育成を目的として、広く区民を集めて活動している団体に対する事業補助											
根拠法令等		ふるさと港北ふれあいまつり補助金交付要綱、こうほく青少年活動支援事業補助金交付要綱、子ども書道展補助金交付要綱											
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算					
		事業費 (千円)		3,124	4,061	2,930	2,300	2,760					
		うち一般財源等 (千円)		3,124	4,061	2,930	2,300	2,760					
		人件費(概算) (千円)		2,723	2,771	2,700	2,771	2,700					
		総コスト(概算) (千円)		5,847	6,832	5,630	5,071	5,460					
活動・成果指標		名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定				
		ペットボトルロケット大会参加者		人	350	350	350	350	350				
		成果 単位当たりコスト【事業総額/指標】 (千円)			(9)	(9)	(9)	(9)	(9)				
		こうほく青少年活動支援事業補助金申請団体数		団体数	21	17	10	12	15				
		活動 単位当たりコスト【事業総額/指標】 (千円)			(86)	(89)	(107)	(105)	(96)				
		子ども書道展出展数		人	500	475	500	500	500				
成果 単位当たりコスト【事業総額/指標】 (千円)			(0)	(0)	(0)	(0)	(0)						
評価項目		点数	理由・説明等										
1	適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ペットボトルロケット大会は、区民が実施する「ふるさと港北ふれあいまつり」の一環として、資源の再利用をテーマに、青少年に環境問題を考えるきっかけとなる場を提供している。また、反省会において参加者や地域の意見を聞き、翌年度に反映している。青少年活動支援事業では、地域代表や青少年関連団体代表で構成される審査委員会を設け、外部の意見を取り入れながら実施している。青少年の健全育成には地域の協力が不可欠であることから、地域に対しての区の支援は必要である。										
		7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 青少年の健全育成を目的としていることから、地域や区民が主体となって「ふるさと港北ふれあいまつり実行委員会」を組織し、企画・運営し、多くの青少年が各地区の予選会を勝ち抜き、地区代表として出場することは、適切な手法である。また、区政運営方針「区民の力が活きる個性豊かな地域づくり」に寄与している。										
3	目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 地域や区民が主体となったペットボトルロケット大会が開催され、小学生350人が出場し、約1,000人の来場者があった。この開催より地域間や世代間の交流が図られ、青少年の健全育成に貢献した。補助金事業において、申請様式を改良し記載例を作成するなど見直しを図り、活性化を目標とした。記載誤りが減り、補助金事務も軽減したが、申請件数の増加には至らなかった。										
		6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ペットボトルロケット大会において、協賛団体を幅広く募ることにより、運営経費の節減を実施し、節減された経費は、さらなる大会内容の充実を図ることに充たしている。また、大会運営にあたっては、青少年指導員連絡協議会や地域の協力を得て行っている。										
5	正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ペットボトルロケット大会においては、来場者の安全確保のため、飛行方向に運営スタッフを配置している。参加者については、ホームページや広報で公募しており、大会結果についてもホームページへの掲載を行っている。										
		合計		31	(協働の取組状況)							青少年育成団体と行政が、役割分担や会議等で情報共有を行い、事業を実施している。	
総合評価	100点換算	78	特記事項		(環境への負荷)							ごみ・リサイクル等の環境問題を考えるきっかけとなる、ペットボトルロケット大会を開催している。	
	ランク (A~E)	B	ペットボトルロケット大会は、地域や区民の協力の基に企画・運営され、各地域で予選会が開催されるなど参加者数が増加している。今後は、参加者の満足度を更に向上させることができるように、大会運営にあたり新たな工夫を図ることが必要である。										

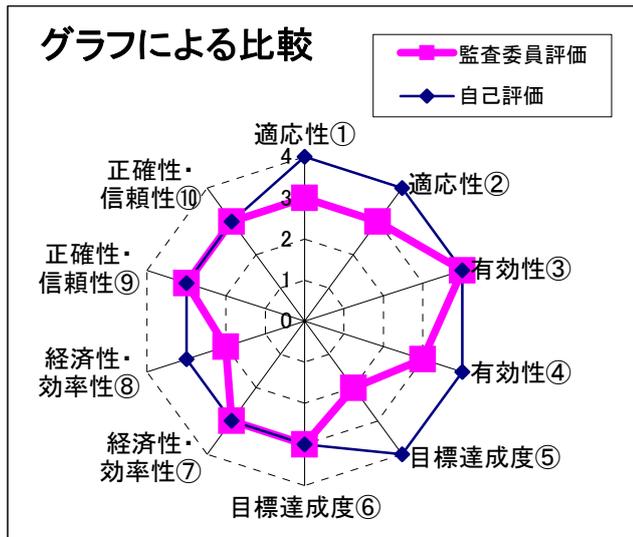
事業名	青少年活動支援事業
-----	-----------



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
ペットボトルロケット大会については、毎年参加者350人、地域の応援者も含めると1,000人規模の大会であり、区民ニーズは高いといえる。また、青少年指導員協議会の意見交換会により区民ニーズの把握に努めている。こうほく青少年活動支援事業補助金については、こども青少年局所管の制度と一部重複しており、必ずしも区が行う必要のある事業とはいえ、見直しが必要である。		
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
ペットボトルロケット大会は地域が主体となって企画運営するとともに、青少年指導員が地区の予選会やロケット製作指導を行っており、地域ぐるみで青少年の健全育成を支援している。ペットボトルロケット大会の開催により参加者と地域との交流は深まりつつあり、運営方針の重点推進施策「区民の力が活きる個性豊かな地域づくり」に一定程度貢献している。		
3 目標達成度	4	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
こうほく青少年活動支援事業補助金の申請団体数については、過去の水準から考えるとやや低い目標水準となっている。また、事業補助は3年間を限度としており、事業開始(平成15年度)から4年目を迎えたため、申請団体数が減っている。		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
ペットボトルロケット大会開催に当たっては、参加記念品や周辺警備など企業等からの協賛を得ることにより、経費を削減することができた。また、開催に当たっては事務マニュアルを整備し、地域や協賛団体との連絡調整を円滑に行うことができた。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
ペットボトルロケット大会については、保険に加入するとともに、会場警備員を配置し歩行者の誘導や立入禁止区域の設定を行い、事故防止に努めている。また、ケーブルテレビや地元タウン誌を活用するなどして、参加者を増やすための取組を行った。		
監査の結果	合計	29 / 40
	100点換算	73 / 100
	ランク(A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし		

事業名		青少年地域サポート事業		担当	区局部課名	緑区地域振興課		電話	930 - 2236		
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画 <input checked="" type="checkbox"/> 運営方針		共に支えあい、誰もが安心して暮らせるまちづくり		重点事業番号		- -			
目的		青少年に対する地域サポートの促進									
内容		大学生(ユースパートナー)と協働し、青少年の居場所づくりの活動を拡充。青少年育成のボランティア団体の活動を支援します。									
根拠法令等											
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算			
	事業費 (千円)					3,630	3,630				
	うち一般財源等 (千円)					3,630	3,630				
	人件費(概算) (千円)					9,000	9,000				
	総コスト(概算) (千円)					12,630	12,630				
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定			
	青少年の居場所づくり		人			84	84				
	<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)					(150)	(150)				
	青少年育成活動団体への補助		団体			11	11				
	<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)					(1,148)	(1,148)				
学校・家庭・地域連携事業											
<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)											
評価項目	点数	理由・説明等									
1 適応性	8	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■4□3□2□1							
		② 事業を市が行う必要性があるか。		■4□3□2□1							
中山地区センターにおいて様々な小中高生がセンターを利用している中で、身近に触れあう事により気軽に立ち寄れる場所になってきている。今後、ますます地域の方々の居場所に対する興味と支援をいただきながら、地区センターと行政と地域が上手く繋がるよう連携していく必要があります。											
2 有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		■4□3□2□1							
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		■4□3□2□1							
中学生や高校生が、自由に活動できるように声をかけしながら、ジョイ・インのメンバーとして仲間になってもらえるよう参加を促している。居場所からイベント開催や情報を提供する事で、地域での協力を得ることができ地域が活性化される。											
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。		■4□3□2□1							
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□4■3□2□1							
ユースパートナー(中高生に年齢の近い若者のボランティア)とコーディネーター(マネジメントできる大人)が連携を図り、居場所づくりを進めます。ユースパートナー及びコーディネーターを中山地区センターにおいて居場所づくりを進めることができた。											
4 経済性効率性	6	⑦ コストは削減しているか。		□4■3□2□1							
		⑧ 事務は効率的に行われているか。		□4■3□2□1							
公共施設を利用することにより、また、意欲のある青少年やボランティアなどでの活動により、コスト削減に配慮している。さらに発展した場合、地域の団体、企業等から協賛を得るなども考えられる。											
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		□4■3□2□1							
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□4■3□2□1							
今後に関する要綱などを整備し、適正執行していく。必ず、活動終了時には地区センター指導員なども入り、活動内容や今後の反省などを記録している。											
総合評価	合計	35	(協働の取組状況)								
	↓	40	ユースパートナーは、地元の大学生ボランティアと連携し、コーディネーターは地域の大人の方々のお願いし、協働を図っている。								
	100点換算	88	(環境への負荷)								
ランク(A~E)		A	青少年活動を大人がボランティア等で支援していくためには、支援する、できる大人のボランティアを養成する必要があり、今後の課題となる								

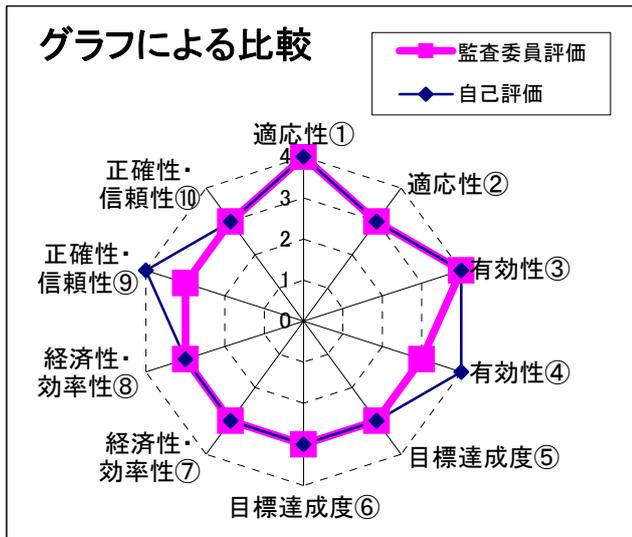
事業名	青少年地域サポート事業
-----	-------------



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
居場所づくり事業は市のモデル事業として開始され、実際に問題を抱えている青少年の居場所となっている。平成17・18年度には区の自主企画事業として継続実施した。また、青少年ボランティア支援・交流イベント等については、青少年育成団体の活動支援等を目的として継続して実施している。この事業自体には市場性がなく、区民ニーズに基づいて実施している。		
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
大学生をユースパートナーとして、また、地域の大人をコーディネーターとして活用し、青少年との交流を深めることで居場所づくり事業を実施した。支援事業では地域の人材を活用して講座等を開催した。また、この事業にかかわった人と区民との交流フェスティバルについても、多くの人が参加した。区の運営方針に位置付けられた事業である。		
3 目標達成度	5	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
青少年の居場所づくりでは、ユースパートナー・コーディネーターとの交流の推進、ボランティア支援事業では、事業の推進を目標としているが、達成の状態が確認できるようなより明確な目標を設定する必要がある。居場所の利用は1日平均約20人程度である。ユースパートナーの派遣はほぼ予定どおり行われた。ボランティア支援事業でも、11団体を支援している。子どもフェスティバルでは約3,000人と多くの参加があった。		
4 経済性・効率性	5	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
配布チラシの見直しや協賛企業の募集を行うなど、コストを縮減する取組が行われている。なお、事務マニュアルを整備する等、事務の効率化のための取組が必要である。		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
ユースパートナーに対しては県の研修等に参加することで安全性の向上を図っており、これまでのところ、居場所での事故は発生していない。補助金の交付要綱は整備されている。事業の情報提供については、広報・チラシ等で行われた。居場所については、関係団体に対して説明が行われている。		
監査の結果	合計	29 / 40
	100点換算	73 / 100
	ランク (A~E)	B
<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし 平成16年度に、中山地区センターを使った青少年の居場所づくりが市のモデル事業として始まり、区づくり推進事業として平成18年度も継続している。また、青少年ボランティア支援事業・青少年育成団体交流イベント(子どもフェスティバル)については、青少年育成団体の活動支援等を目的として、継続して実施している。いずれの事業も、多くの人が参加しているが、それぞれの事業について、事業の振り返りを踏まえて、事業の成果を検証することができる目標の設定が必要と考えられる。		

事業名		青少年居場所交流・運営サポーター養成事業		担当	区局部課名	都筑区総務部地域振興課			
					課長名	中村 義則	電話	948 - 2236	
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業番号	-
		<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針		子育て支援と青少年育成					
目的		音楽、演劇、絵画などをきっかけに、青少年の夢作りを支援するとともに、青少年支援者の人材育成を進めます。							
内容		青少年のための夢づくり講座 青少年支援者講座							
根拠法令等		横浜市青少年プラン、都筑区青少年のための夢づくり講座実施要綱							
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
		事業費 (千円)			96	1,500	1,250	1,090	
		うち一般財源等 (千円)			96	1,500	1,250	1,090	
		人件費(概算) (千円)			923	2,700	2,700	2,700	
		総コスト(概算) (千円)			1,019	4,200	3,950	3,790	
活動・成果指標		名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		青少年のための夢づくり講座委託件数		件			3	6	6
		<input checked="" type="checkbox"/> 活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)			(1,400)	(658)	(632)
		青少年支援者講座参加者数		人		30	30	25	30
		<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)		(34)	(140)	(158)	(126)
		<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)		(千円)					
評価項目		点数	理由・説明等						
1	適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。		■4□3□2□1				
			② 事業を市が行う必要性があるか。		□4■3□2□1				
都筑区では、年少人口の割合が高く、地域社会と青少年との交流が図られ、青少年が地域で見守られながら育つ環境を築いていくことが求められている。地域の人材を活用した青少年向けの事業や青少年支援者への講座は他都市でも実施例がある。									
2	有効性	8	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。		■4□3□2□1				
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。		■4□3□2□1				
都筑区は、地域団体による文化芸術活動が盛んなため、地域の力を生かす手法は有効である。音楽・演劇等文化活動を通じた青少年の健全育成に寄与している。									
3	目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。		□4■3□2□1				
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。		□4■3□2□1				
地域事情から目標設定は適切であったが、公募により協力団体や参加者を募った結果、特に夢づくり講座は目標を超える講座を実施できた。									
4	経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。		□4■3□2□1				
			⑧ 事務は効率的に行われているか。		□4■3□2□1				
講座の実施回数により委託額の上限を定め、コスト縮減を図った。区民と協働で進め、青少年のための夢づくり講座を委託事業として実施した。事業企画や広報は委託団体が主体であるが、より効果をあげるよう本市の広報媒体や会場提供により適切な役割分担により効率的に事業を進めた。									
5	正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。		■4□3□2□1				
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。		□4■3□2□1				
青少年のための夢づくり講座実施要綱に基づき、適正に行われている。区民活動センターメールマガジンなどで事業を紹介している。									
総合評価	合計	34	(協働の取組状況)						
	↓	/ 40	区民と協働で事業を進めた。						
	100点換算	85	特記事項 (環境への負荷)						
	ランク (A~E)	B	地域団体が持つノウハウや人材が生かされ、青少年と地域社会との交流が図られた。今後は青少年の関心にこたえる多様な事業となるよう、地域団体や青少年支援者の育成・発掘とともに、事業の広報に力を入れていく必要がある。						

事業名 **青少年居場所交流・運営サポーター養成事業**

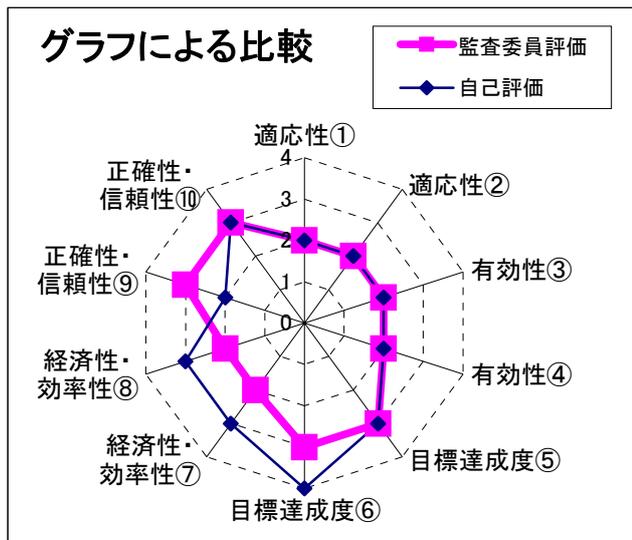


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>青少年が関連した事件が多い中で、青少年指導員やPTA等から、地域が連携・協力して青少年への支援を求める気運が高まり、区に青少年育成策検討委員会を設置した。そこでの検討を基にして、青少年と大人の交流のきっかけづくりをねらいとして「青少年の夢づくり講座」を実施した。一般の教養講座は市及び市立大学やカルチャーセンターなどで行われているが、青少年を対象とした同様の講座については開催されていない。</p>		
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>講座の開催にあたって、地域で文化的活動を行っている人材を活用するため、事業の実施団体を公募し、その団体と委託契約を締結し、事業を展開している。参加料については、各団体が行う事業の内容に応じて決定することとしており、受益者負担を求めることができるものとなっている。この事業は区の運営方針に位置付けられている。</p>		
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>「青少年の夢づくり講座」では3講座の開催を目標としていたが、実際には6講座について募集した。応募は4団体にどまったため、区の企画による2講座を追加し、結果として、目標を上回る6講座を実施することができた。しかし、「青少年支援者講座」については、開催する時期が予定より大幅に遅れ、ワークショップも同時開催となっている。</p>		
4 経済性・効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>夢講座は新規事業であるため、過去の実績との比較対照が困難であるが、区による直接執行ではなく、実施団体への委託方式を採用している。各講座の開催数により委託料にランクを付け、各団体の開催意欲の向上を図るよう実施することとしている。事務マニュアルは作成していないが、実施要綱や記入例等の利用により代えている。</p>		
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
<p>事業の実施要綱は整備されている。また、保険に加入しており、万一の場合は適切に対応できるようになっている。個人情報の保護についても委託契約の特記事項の中で遵守を求めている。情報の提供についてはホームページ・ポスター・広報のほか、チラシ・メールマガジンも利用し周知を図っている。</p>		
監査の結果	合計	32
	↓ 100点換算	80
	↓ ランク(A~E)	B
<p><input type="checkbox"/>指摘事項 <input type="checkbox"/>改善要望事項 <input type="checkbox"/>評価の理由 ■なし</p>		

事業名		青少年パフォーマンス・スペース提供事業		担当	区局部課名	戸塚区総務部地域振興課			
				課長名	長野 正一		電話	866 - 8410	
施策名		<input type="checkbox"/> 中期計画 <input checked="" type="checkbox"/> 運営方針 地域の支えあいで作る安心社会のまちづくり					重点事業番号		
目的		音楽やダンス等に関心がある青少年に各種パフォーマンスの練習・交流の場を提供し、その場に集まった青少年が、地域の大人や仲間と交流することで、青少年の個性の発揮と心豊かな成長への支援を図る。							
内容		・練習場所の提供(戸塚公会堂) ・練習成果の発表・交流の場(平成18年11月3日 交流発表会)							
根拠法令等		青少年パフォーマンス・スペース提供事業実施要領							
コスト		区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
		事業費 (千円)			774	1,360	1,360	—	
		うち一般財源等 (千円)			774	1,360	1,360	—	
		人件費(概算) (千円)			4,041	4,041	4,041	—	
		総コスト(概算) (千円)			4,815	5,401	5,401	—	
活動・成果指標		名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
		練習場所の提供回数		回		12	42	36	—
		活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(401)	(129)	(150)	—
		交流発表会来場者数		人		50	400	400	—
		成果 単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(96)	(14)	(14)	—
評価項目		点数	理由・説明等						
1	適応性	4	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		練習場所の提供については、現状の事業手法のなかでは、区役所が主体的に運営する必要性は低いと考えられる。							
2	有効性	4	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		練習成果の発表・交流の場を設定したことは、青少年の個性の発揮と心豊かな成長に一定の寄与をしたと考えられる。一方、練習場所の提供については、その効果が見えにくく、効果的な手法であるかは疑問である。							
3	目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		交流発表会については、当初の目標どおり地域の大人と青少年の交流の場として機能したと考えられる。							
4	経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		練習場所の提供に関しては戸塚公会堂を利用することにより、会場借り上げに伴うコストを削減した。事務については、事業要領を制定し、適切かつ効率的に進めることができるようにした。							
5	正確性信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
			⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		練習場所の提供時の事故等への対応については、連絡体制等について調整・確認する必要があった。事業の情報提供については、学校・グループ等へのお知らせやチラシ等で区民に対する周知を行った。							
総合評価	合計	26	(協働の取組状況)						
	↓	/ 40	青少年への直接の働きかけを重視したことにより、区民との協働は十分とは言えない。						
	100点換算	65	(環境への負荷)						
		/ 100	馴染まない。						
	ランク(A~E)	C	事業手法や効果等について総合的に判断した結果、当事業については平成18年度末をもって廃止することとした。 なお、文化・芸術活動を志す若者に交流・発表の場を別の形で提供していくことは今後も必要であると考える。						

事業名 **青少年パフォーマンス・スペース提供事業**



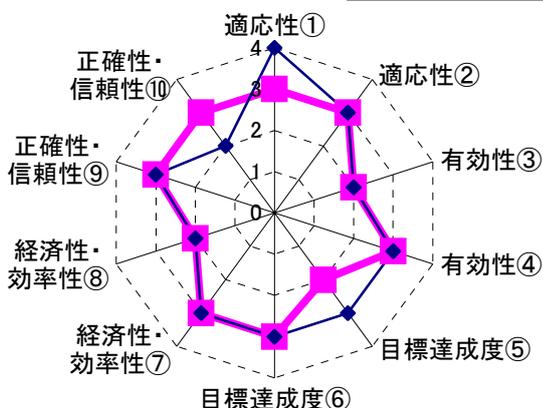
4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	4	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 音楽等の練習場所の提供自体にはニーズがあると考えられるが、それについては既に民間事業者が提供しているサービスもあり、区役所が主体的に運営することに対するニーズや必要性は低い。
2 有効性	4	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 地域の大人や仲間との交流を目的としたものの、結果として一定のグループに練習場所を提供することが主な活動となってしまう、地域の大人や仲間と交流するという事業目的に照らして有効な手法となっていない。このような結果を踏まえ、この事業は平成18年度をもって終了した。交流会は区民祭りの場を活用したことで、地域や大人との交流があり、一定の成果を上げている。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 目標は、公会堂の利用可能な回数の範囲で設定し、交流発表会は来場者数としている。練習場所の提供回数、交流会の参加者数とも、目標をおおむね達成している。
4 経済性・効率性	4	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 練習場所の提供は、民間でも行っているサービスであり、市が行う必要性は低いものの、仮に行う場合であっても利用者に相応の負担をしてもらう検討をする必要がある。また、公会堂の予約手続は、全面的に区役所が行ったが、グループ間の日程調整などの一部については利用者が行うことで、事務負担の軽減を図ることができた。
5 正確性・信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 練習場所での事故への対応は、通常の公会堂の利用ルールに従うこととなっていたが、安全に万全を期すためには、主催者として事故時の対応を関係者とともに徹底する必要がある。この事業に関する情報の提供については、学校や地区センターを中心にチラシを配布した。
監査の結果	合計 24 / 40 ↓ 100点換算 60 / 100 ランク (A~E) C	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし

事業名		栄区青少年にやさしいまちづくり事業		担当	区局部課名	栄区地域振興課		
				担当	課長名	戸口 和夫		
					電話	894 - 8395		
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業番号	- -
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	地域で取り組む子育て・青少年育成の展開						
目的	青少年の健全な生活にとってふさわしい環境を維持し、啓発を行うとともに、放課後や学校休業日の居場所を提供します。							
内容	①新聞作成ワークショップと栄区青少年会議の開催 ②社会環境の調査と啓発 ③居場所づくりを実践する団体や青少年の健全育成を目的として実施する事業への補助金交付							
根拠法令等	神奈川県青少年育成条例、横浜市青少年プラン、栄区社会環境健全化活動補助金交付要綱他							
コスト	区 分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費	(千円)		400	2,320	2,320		
	うち一般財源等	(千円)		400	2,320	2,320		
	人件費(概算)	(千円)		2,770	4,950	5,080		
	総コスト(概算)	(千円)		3,170	7,270	7,400		
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	青少年(5~19才)の栄区人口割合		%		13.0	12.9	12.9	
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(244)	(564)	(574)	
	補助金対象事業(居場所除く)参加者数		延べ人		2,336	2,200	2,000	
	<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(1)	(3)	(4)	
	居場所づくり事業参加者数		延べ人		2,168	2,200	2,200	
<input type="checkbox"/>	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(1)	(3)	(3)		
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
報道や電話等で寄せられる区民の声からもわかるとおり青少年がからむ事件が社会的に大きな問題となり、青少年を取り巻く環境も携帯電話やインターネットなどの普及やコンビニ、ゲームセンターなどの深夜営業の増加などで常に激変しています。そのため、青少年にふさわしい環境を維持し、啓発を図ることは、地域や行政が一体となって進め、地域の力を引き出していく支援を行っていく必要があります。								
2 有効性	5	④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑤ ⑥ ⑦ ⑧ <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
新聞作成ワークショップ・青少年会議に参加した青少年にとっては、栄区を考える有意義な機会となったが、参加する人数が少ないことから効果的な手法と言えない面があります。社会環境健全化事業や居場所づくり事業に関しては横浜市の施策にとって重要な位置を占めているばかりでなく、神奈川県の政策にも反映されています。								
3 目標達成度	6	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑤ ⑥ ⑦ ⑧ <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
当該事業は、上位の政策や施策に基づいて体系立って進められており、施策目標である青少年の健全育成に大きく寄与しています。目標の性格上数値目標を設定するのは困難で、単純に行事の数や、行事の参加者数が青少年の健全育成に直結するものでもないが、多くの青少年を参加させることで、育成の一助になっていると考えられ、また、目標どおりの事業数、参加者数を達成しています。								
4 経済性効率性	5	⑦ ⑧ <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑦ ⑧ <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
各種事業の実行団体に対しては補助金の有効な活用を求め、指導を行ったことから、従来よりも少ない補助金額により同等の効果を上げる事業を実施することが可能ですが、補助金の交付事務についてはより効率的な事務の執行を検討する必要があります。								
5 正確性信頼性	5	⑨ ⑩ <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑨ ⑩ <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
本事業は要綱に沿って進められており、正確性は確保されています。また、補助金の報告書に添付された個人情報については最低限のものとし、情報提供は事業の実施団体によるちらし等の配付と栄区ホームページによる発信が中心です。								
総合評価	合計	28	(協働の取組状況)					
	↓	/ 40	青少年の育成につながる事業、イベント等の開催については、主として地域の団体に補助金を交付することで実施しています。					
	100点換算	70	(環境への負荷)					
		/ 100	青少年に対し、G30等環境問題をテーマに意識啓発を行いました。					
ランク(A~E)		C	補助金については区全体としての見直しの中で19年度より新補助金事業へ移管し、青少年ワークショップ・会議についてはよりコストがかからず、多くの青少年が係わることの出来るやり方への転換を図る必要があります。					

事業名 **栄区青少年にやさしいまちづくり事業**

グラフによる比較

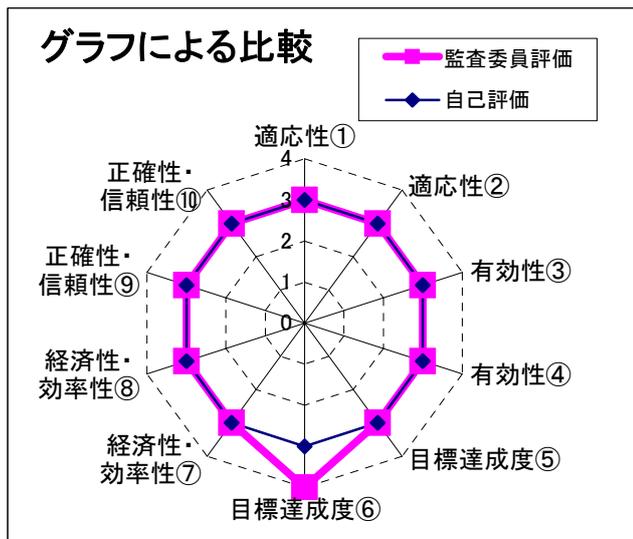


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	<p>① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>② 事業を市が行う必要があるか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>中学生が取り組む新聞作成と青少年会議は区が企画し、体験事業や居場所づくりなどは地域のニーズをとらえながら青少年指導員や地域団体が実施している事業となっている。 コンビニやゲームセンターでの青少年の実態調査や、地域の青少年健全育成事業は、広報や各関係機関との連絡調整等の面で区によるバックアップが図られている。</p>
	5	<p>③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/>4 <input type="checkbox"/>3 <input checked="" type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>青少年指導員等が行う健全育成事業における参加者の状況はおおむね良好であり、一定の成果を上げている。中学生による新聞作成及び青少年会議は、参加した生徒の満足度は高く、有意義であったが、区内の全公立校7校から2名ずつ計14名(青少年会議は12名)の参加が区の事業として効果的であったとは言い難い。この事業は平成18年度限りのものであった。</p>
3 目標達成度	5	<p>⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/>4 <input type="checkbox"/>3 <input checked="" type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>目標は設定されておらず、実績にあわせて記載した。新聞作成及び青少年会議参加者14人、青少年健全育成関連補助金対象事業参加者1,883人、居場所づくり事業参加者延べ1,849人となっている。</p>
	5	<p>⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/>4 <input type="checkbox"/>3 <input checked="" type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>補助金交付申請に当たり、経費見直しの指導を行い、交付額の削減に努めた。 補助金交付事務では、交付決定までの手続が煩雑で非効率な部分があった。補助対象事業の決定方法は、平成19年度から第三者による審査会により、透明性・公平性を高めることとした。</p>
5 正確性・信頼性	6	<p>⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>個人情報、「個人情報漏洩防止マニュアル」に基づいて管理した。 この事業で取り組むこととしているもののうち、広く参加者を募る必要のあるものなどについては、ホームページ等で広報をするほか、それ以外のものについては、対象を絞って小中学校校長会や、民生委員の定例会等で情報提供をした。</p>
	合計	<p>27 / 40</p> <p>100点換算 68 / 100</p> <p>ランク (A~E) C</p> <p><input type="checkbox"/>指摘事項 <input type="checkbox"/>改善要望事項 <input type="checkbox"/>評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/>なし</p>

事業名		青少年を育むまちづくり事業		担当	区局部課名	泉区役所総務部地域振興課		
				課長名	小山 和久	電話	800 - 2394	
施策名	■ 中期計画						重点事業	-
	■ 運営方針	横浜で1番子育てが楽しい区づくり					番号	-
目的	青少年に関係する団体が相互に協力して、地域において子どもたちの状況に応じた事業を企画・運営し、地域の大人たちと青少年の顔の見える関係を構築する。							
内容	① 青少年を見守り育む地域支援 ② 泉区青少年音楽フェスティバル							
根拠法令等								
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)			1,396	3,500	2,660	2,350
	うち一般財源等	(千円)						
	人件費(概算)	(千円)			5,442	6,300	6,465	6,300
	総コスト(概算)	(千円)			6,838	9,800	9,125	2,350
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	青少年の居場所づくり実施回数		回	8	29	30	35	35
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)		(236)	(327)	(261)	(67)
	青少年音楽フェスティバル 参加団体		団体			15	14	
	活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)			(653)	(652)	
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。					□4■3□2□1	
		② 事業を市が行う必要性があるか。					□4■3□2□1	
『子どもたちを健やかに育むための「地域と学校との連携のあり方及び青少年行政のあり方」について検討した結果を反映させた事業内容となっている。』								
2 有効性	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。					□4■3□2□1	
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。					□4■3□2□1	
青少年に関係する団体や学校と調整を図りながら事業を実施しており、事業の成果をあげることで、施策や運営方針等の目的の実現に寄与している。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。					□4■3□2□1	
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。					□4■3□2□1	
青少年の居場所づくり事業について、昨年度実績の29回を上回る35回を目標と設定し、実施することができた。また、泉区青少年音楽フェスティバルや青少年を育むまちづくり事業については、予定どおり行われた。								
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。					□4■3□2□1	
		⑧ 事務は効率的に行われているか。					□4■3□2□1	
事業に使用する物品の購入を必要最低限に押さえ、一括管理することで経費の削減に務めている。また、青少年の居場所づくり事業については、青少年に関係する団体に対する補助金の支出による事業執行を検討し、事業の効率化をはかっていきたい。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。					□4■3□2□1	
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。					□4■3□2□1	
事業の実施に際しては、レクリエーション保険をかけることにより、不測の事態に備えている。また、対象者全員にチラシを配るなど説明責任をはたしている。その他、青少年を育むまちづくり事業補助金については、補助金要綱に基づき実施している。								
総合評価	合計	30	(協働の取組状況)					
	↓	40	青少年に関係する団体や学校と協働で事業実施している。					
	100点換算	75	(環境への負荷)					
ランク(A~E)		B	区民ニーズや社会情勢の変化に的確に対応し、青少年に関係する団体や学校との連携を密にして事業実施しているが、一部の青少年に関係する団体に負担がかかっている面もあるため、事業の担い手の幅を広げていく必要がある。					

事業名	青少年を育むまちづくり事業
-----	---------------

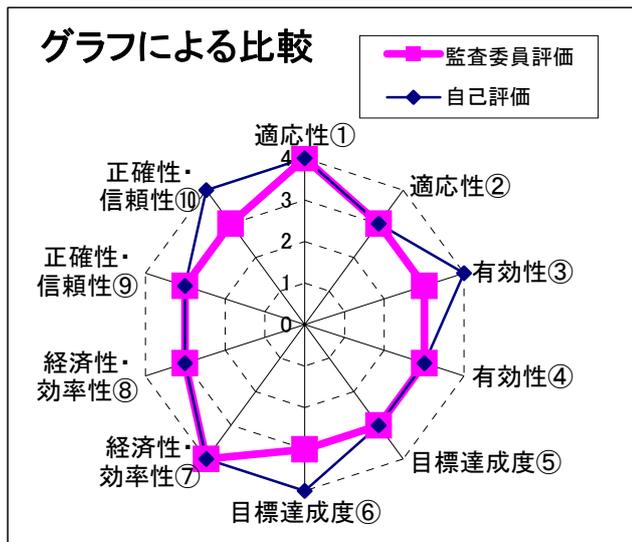


4:十分できている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	<p>① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>青少年健全育成にかかわる区民及び関係機関の代表者等で構成された委員会の「地域と学校との連携のあり方」に関する答申を踏まえ、子どもの居場所の整備と自主企画事業への助成を行っている。</p>
	6	<p>③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>青少年の居場所づくり事業については、青少年指導員・体育指導員・主任児童委員等の地域のメンバーが主体となり、方面別の地区センター等で実施している。地域の主体的な活動を促しており、事業目的に照らして効果的な手法である。</p>
3 目標達成度	7	<p>⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/>4 <input type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>青少年の居場所づくり事業については、居場所の実施回数が35回で、目標を達成した。また、従来からの課題であった居場所の実施箇所数を1か所増やし5か所とすることについて調整に努め、19年度から実施することができた。</p> <p>青少年音楽フェスティバルについては、ほぼ目標どおりの14団体の参加により、区公会堂で2回実施した。</p>
	6	<p>⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>青少年の居場所づくり事業については、使用する物品を一括管理し、購入数を削減することで経費の削減を図っている。また、情報の共有に努めるとともに伝達を図り、事務執行について地区担当制をとることにより効率化を図っている。</p>
5 正確性信頼性	6	<p>⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>青少年の居場所づくり事業については、企画会議等で役割分担・確認を行っており、地域のメンバーは、事故防止・安全確保のための研修を受講している。青少年音楽フェスティバルについては、実行委員会で役割分担・確認を行い、誘導員の配置などを確認した。青少年の居場所づくり事業の広報については、区内全小中学校の全生徒に対してチラシを配布して参加を促している。</p>
	合計	<p>31 / 40</p> <p>100点換算</p> <p>78 / 100</p> <p>ランク (A~E)</p> <p>B</p> <p><input type="checkbox"/>指摘事項 <input type="checkbox"/>改善要望事項 <input type="checkbox"/>評価の理由 ■なし</p>

事業名		せやキッズデイ事業		担当	区局部課名	瀬谷区総務部地域振興課		
				担当	課長名	武井 伊織	電話	367 - 5695
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業	-
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	人にも環境にもやさしい暮らし やさしさ交流					番号	-
目的	すべての子どもたちに交流、体験、活動、相互理解を進める機会を提供し、子どもたちの心豊かな成長を支援します。							
内容	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち自らの参画(小学生の合唱、養護学校生徒のダンス和太鼓等の発表) 区民、地域、企業の理解と協働による開催 							
根拠法令等	せやキッズデイ補助金交付要綱							
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費 (千円)					1,400	856	1,800
	うち一般財源等 (千円)					1,400	856	1,800
	人件費(概算) (千円)					4,500	4,618	4,500
	総コスト(概算) (千円)					5,900	5,474	6,300
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	来場者数		人			5,000	4,500	5,000
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(1)	(1)	(1)
	出展数		団体			20	28	30
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(295)	(196)	(210)
	協賛額		円			300,000	455,000	300,000
<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】 (千円)				(0)	(0)	(0)	
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適合しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
少子化が進む中で、瀬谷区は年少人口が15%と多くの子ども・青少年が居住し(18区中3位)、また、区内3つの養護学校には多くの障害児が在学している。しかし、障害の有無を越えた子どもたちの交流の機会はまだ多くなく、両者が交流し理解を深めることが大切である。区が、地域で活動する青少年関係団体や障害関係団体などと連携することで、大人たちが地域で子どもを見守る環境づくりに繋がる。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
「交流」「体験」「障害への理解」は青少年育成にあたっての重要なテーマであり、区の運営方針「やさしさ交流」と合致している。地域で活動する青少年指導員や学校関係者、地域作業所関係者などで構成する実行委員会において事業を検討し、企画段階から区民と協働することができた。								
3 目標達成度	7	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
4,500人が来場し、概ね目標とする来場者を得ることができた。他都市の同様事業の多くが、子どもが単純に楽しめるイベントとして実施しているが、瀬谷区においては、「障害への理解」という高い目標を設定した。養護学校に参加、出演を呼びかけ、積極的な参画を得ることができた。また、当初予定していたよりも多くの出店があり、バラエティに富んだ内容とすることができた。								
4 経済性効率性	7	⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
地域の企業、幼稚園等から協賛を得て実施した。(協賛企業数:27、協賛額:455,000円)関係部署と連携して事業を進めたが、新規事業であったため会議や準備に時間を要した。より効率的・効果的に合意形成を図る必要がある。								
5 正確性信頼性	7	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
傷害保険に加入し、万一の事故に備えた。また、会場内や道路付近に警備の担当を配置し事故を未然に防ぐ努力をした。広報よこはま瀬谷区版での事業周知のほか、各自治会、区内公共施設、学校等にポスターを配布した。また、区内小学校の全生徒に、ふりがなつきの分かりやすいチラシを一人一枚ずつ配布した。								
総合評価	合計	35	(協働の取組状況)					
	100点換算	88	青少年指導員、ボーイスカウト・ガールスカウト、作業所関係者、小学校教諭、養護学校教諭、その他区民で構成される実行委員会で10回にわたって内容を検討した。					
ランク(A~E)		A	(環境への負荷)					
			食販ブースに、繰り返し使用できるエコ容器の使用を取り入れた。障害への理解というテーマを掲げ、養護学校の生徒によるステージで出演のほか、会場にも多くの障害児に来場していただくことができた。また、実行委員会で多彩なプログラムを企画したほか、多くのブース出展で、子どもたちや地域の皆さんが楽しみながら交流できる機会を提供できた。今後は、子どもたちがより主体的に関わり、楽しめるように工夫するとともに、事業PRに力を入れ、さらに多くの参加者を得て実施したい。					

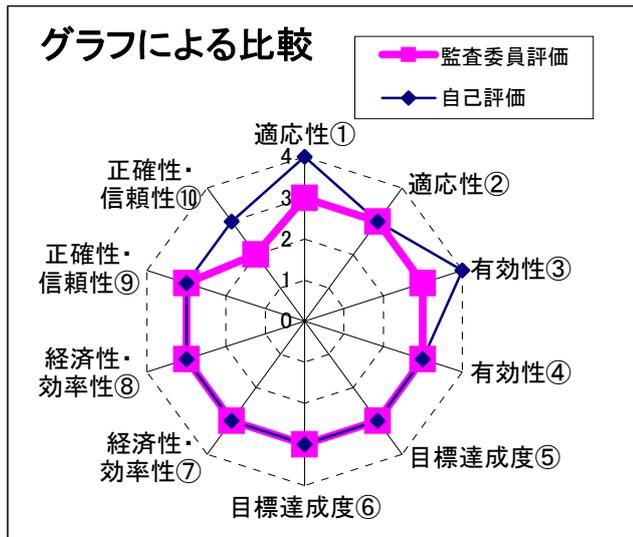
事業名	せやキッズデイ事業
-----	-----------



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	7	<p>① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/>4 <input type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>② 事業を市が行う必要があるか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>瀬谷区内には三つの養護学校があるが、区内のすべての子どもたちが一緒に交流、活動する機会が少なかったため、イベントを通じての交流を目的として実施している事業である。区で同種の事業はなく、地域特性から、実施要望がある事業である。</p>
	6	<p>③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>青少年指導員、小学校・養護学校教諭、ボーイスカウト・ガールスカウト、地域作業所関係者、区民等をメンバーとする実行委員会を設置し、イベントを実施した。実行委員会を10回開催し、そのメンバーから、養護学校の発表の機会提供の必要性や、子どもたちに魅力的なプログラムづくりというニーズを吸い上げることができ、子どもが参加できるプログラムを作成している。</p>
3 目標達成度	6	<p>⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>来場者数は4,500人で、ほぼ目標を達成している。出店団体数も28団体と当初予定を上回った。養護学校の生徒の積極的な参加があり、障害への理解というテーマに沿った事業となった。なお、実施時期については、会場予定地の学校が工事で使用できなくなったため、5月から8月に変更になった。</p>
	7	<p>⑦ コストは縮減しているか。 <input checked="" type="checkbox"/>4 <input type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>地域の企業等から、当初予定していた以上の協賛金を得て実施しており、コストの縮減が図られている。情報を課の会議で共有し、イベント当日に備えていた。また、新規事業のため、実行委員会での議論や、当日のボランティアに対する説明に時間がかかっており、より効率的な事務執行が必要である。</p>
5 正確性信頼性	6	<p>⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/>4 <input checked="" type="checkbox"/>3 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>1</p> <p>イベント当日、会場周辺に警備担当を配置するなど、事故未然防止のための体制をとった。事業の広報を、広報よこはま区版、自治会・公共施設等へのポスター配布により行うとともに、区内小学校の全生徒へチラシを配布し周知している。</p>
監査の結果	合計	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の理由 <input type="checkbox"/> なし
	100点換算	
ランク(A~E)	B	<p>三つの養護学校がある地域特性から、区内のすべての子どもたちが、イベントを通じて交流することを目的として実施している事業である。養護学校の生徒の積極的な参加があり、障害への理解というテーマに沿った事業となった。子どもたちの積極的な参加を促すためのプログラムづくりに、引き続き取り組んでいく必要がある。</p>

事業名		瀬谷ユースフォーラム事業		担当	区局部課名	瀬谷区総務部地域振興課		
				担当	課長名	武井 伊織	電話	367 - 5695
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画						重点事業	-
	<input checked="" type="checkbox"/> 運営方針	人にも環境にもやさしい暮らし やさしさ交流					番号	-
目的	青少年の参加による公開討論会を開催し、幅広く青少年・区民に青少年育成について意識啓発を図る。							
内容	区内3高校の生徒会、学・知識経験者、区内の青少年関係者等の参加によりフォーラムを開催し、区内高校間との交流と、区民への青少年育成に向けた意識啓発を進める。							
根拠法令等								
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算
	事業費	(千円)				1,650	1,650	835
	うち一般財源等	(千円)				1,650	1,650	835
	人件費(概算)	(千円)				3,150	3,232	3,150
	総コスト(概算)	(千円)				4,800	4,882	3,985
活動・成果指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定
	企画委員会参加生徒数		人			15	15	15
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)			(320)	(325)	(266)
	フォーラム当日参加者・入場者		人			180	180	400
	<input checked="" type="checkbox"/> 活動	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)			(27)	(27)	(10)
青少年育成の意識啓発					推進	推進	推進	
<input checked="" type="checkbox"/> 成果	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)						
評価項目	点数	理由・説明等						
1 適応性	7	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
社会環境が大きく変化し大人や家庭の意識も多様化している今日、青少年をめぐる問題も複雑化、深刻化している状況にある。そこで、すべての区民が子ども・青少年に目を向け、一歩踏み出して育成に取り組んでいくことが求められている。								
2 有効性	7	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
青少年(高校生)自らが、企画・運営によりフォーラムを実施することにより大人が青少年の抱える問題を意識し、世代間の意見交換の場とすることができた。会場内区民との意見交換により、高校生と区民(大人)との交流が図られるとともに、これまでなかった区内3高校間の交流が実現した。区政運営方針の「やさしさ交流」に添い事業を推進することができた。								
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
区内3高校全校の参加を目標とし、全校の参加を得られた。また、フォーラム当日の集客については、さらなる工夫が必要だが、初回としては、概ね目標を達成した。								
4 経済性効率性	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
事業の企画・運営を高校生が自ら行ったことで、コストの縮減の一助となった。また、フォーラムの基調講演の講師については、専門業者に委託することで、調整面で事務の効率化が図られた。								
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
		⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1						
参加学校との連絡を密にし、企画委員会の集合場所への経路の確認、所要時間など把握するよう努めた。学校や青少年団体を通じて情報提供した。								
総合評価	合計	32	(協働の取組状況)					
	↓	/ 40	学校同士の交流・連携が進み、高校生と区民(大人)との交流も図られた。					
	100点換算	80	特記事項 (環境への負荷)					
↓	/ 100							
ランク (A~E)	B	新規事業として、モデル的な手法の検証ができた。また、一定の成果を上げられた反面、当日の区民の来場者の確保など、実施上の問題点などが確認された。今後の取り組みに生かしながら、青少年育成に向けた啓発を推進していきたい。						

事業名	瀬谷ユースフォーラム事業
-----	--------------



評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に合っているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 青少年指導員や教師からの提案により新規事業として実施している。高校生が中心となり、企画から実施まで行う事業で、青少年向け事業としてのニーズは認められる。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 公開討論会を、講師・区民・区内3高校の生徒を対象に実施した。企画委員会を10回実施し、高校生たちが自らテーマや講師の選定等について検討することで、生徒の主体性を尊重することとしている。しかし、事業実施後に企画委員会が開催されておらず、事業についての検証が行われていない。
3 目標達成度	6	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 区内3高校の参加によるフォーラムの開催が目標とされており、予定どおり開催された。当日の来場者数が180人で、ねらいとしていた40歳代以上の世代を中心とした参加もあった。
	6	⑦ コストは縮減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 企画委員会では高校生を中心にしたため、企画に関する委託料を削減し、コスト縮減を図ることができた。企画委員会と課の連絡会議で情報の共有に努めたので、無駄のない効率的な事務執行ができた。
5 正確性信頼性	5	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 公会堂で実施しているため、事業の実施に際し、スタッフには避難経路の説明を行っている。広報については、広報よこはまや自治会回覧、学校・青少年団体にチラシを配布する等の方法を行っているが、当日の来場者数が少なかったことから、PRの充実が必要である。
	合計	<input type="checkbox"/> 指摘事項 <input type="checkbox"/> 改善要望事項 <input type="checkbox"/> 評価の理由 <input checked="" type="checkbox"/> なし
監査の結果	29 / 40	
	73 / 100	
ランク (A~E)	B	

◆施策評価シートの見方

平成 18 年度 施策評価シート【自己評価】(中期計画)

1 基本情報

評価対象の基本施策名	海外諸都市との交流、世界への貢献、国際性豊かなまちづくりを進めま	基本施策番号	6-1
関連する基本構想	1. 世界の知が集まる 交流拠点都市	担当	進行管理担当課名 都市経営局 政策課
重点政策名	【重点政策6】ヨコハマ国際戦略	課長名	林 琢己
重点政策の目的	世界に貢献し、競争力のある創造性あふれる都市を実現します。	電話	671-3912
現状と課題	アジアを中心とする海外諸都市とさらなる交流を推進するため具体的な成果を目指した新たな手法による交流を推進する必要がある。また、ピースメッセージー都市及びシティネット会員都市として、災害復興支援などの国際協力や地球規模の課題に取り組む国際機関等への支援などにより、世界の平和と発展に貢献することが求められている。加えて、市内の外国人登録者数は増加しつつ多様化しており、様々な文化を持った人々にとって暮らしやすく活動しやすいまちづくりの推進が必要となっている。		
取組の方向と目指す姿	羽田空港の再国際化を活かし、アジアを重点としつつ海外諸都市との交流や国際協力を推進し、世界の平和と発展に貢献していく。そのため、交流の目的と期限を定めた新たな都市間提携を推進し、相互にメリットのある交流を推進するとともに、市内に誘致した国際機関や関連するNGO、市民などと連携し、機軸の持つ技術やノウハウなど活かした国際協力を進める。さらに、外国人市民や観光客等が安心して暮らし、又は快適に滞在し活動できる国際性豊かなまちづくりを目標により推進する。		

2 目標の達成状況(指標の選定または、変更・追加の理由を記入。累積値の場合は、※を記入。)

達成目標(成果指標)	H17実績	H22目標値	H18実績	H18目標値	H18達成率
① 新たな都市間提携都市数	※ 0	※ 10	※ 3		※ 30%
指標の選定・変更理由	目的などを明確にした新たな手法による都市間提携都市数を増やすことが、都市間交流の具体的な成果につながり、海外諸都市との交流推進の状況を図る指標として適すと考えられるため。				
② 国際交流ラウンジ数	※ 5	※ 12	事業中 1		
指標の選定・変更理由	身近な生活情報の提供や相談など地域の国際交流の拠点となる国際交流ラウンジを増やすことが、外国人市民等の安心した暮らしや快適な活動の実現につながり、国際性豊かなまちづくりの指標として適すと考えられるため。				

3 施策を構成する重点事業の事業費総額(億円)

	H18年度	H19年度	H20年度～H22年度合計	計画期間合計
概要事業費(実績・予算)	2	2	12	16

4 施策を構成する重点事業の主な課題(共通する課題等)

共通課題等	国際交流や貢献、国際性豊かなまちづくりは、多様な主体がそれぞれの役割を果たしながら様々な取組みを着実に進めていく必要があることから、庁内各局区はもとより、市民・企業・団体などが協働で推進していきようコーディネーター機能果たしていく必要がある。
-------	---

5 項目別評価

4:十分にできている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

評価項目	着眼点評価、理由・説明等	評価
政策目的等との整合性	①基本構想または政策の目的を実現するために適切なものとなっているか。	■4 □3 □2 □1
適応性	②市民ニーズや社会経済情勢の変化に柔軟に対応しているか。	□4 ■3 □2 □1
目標達成度	③目標水準を適切に設定しているか。	□4 □3 ■2 □1
	④施策の目標水準どおりに進めることができているか。	□4 ■3 □2 □1
有効性	⑤事業の重点化について明確な理由をもって行っているか。	□4 ■3 □2 □1
	⑥施策を構成する事業が円滑に進むように調整をしているか。	□4 ■3 □2 □1

各年度の決算額及び決算見込額と中期計画期間の合計額が記載されています

評価の理由・根拠が記載されています

評価点の合計により下表(総合評価ランク表)の3段階に分類しています

次の4段階で評価しています

4	十分にできている
3	できている
2	あまりできていない
1	できていない

評価点の合計
↓
評価点の合計を100点換算して表示しています

施策の現状・課題、目標達成状況など総合的なコメント(自己評価)が記載されています

6 総合評価(上記1～5とランクを踏まえて記入)

ランク(A～C)	B	合計 18 / 2
		100点換算 75 / 100

7 改善の方向性

方向性	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小・統廃合 <input type="checkbox"/> 質的向上 <input type="checkbox"/> スピードアップ <input type="checkbox"/> 計画の検証 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
何を	何時までに
どのような状態にするか	

《総合評価ランク》

A	80点以上	施策の成果や施策を構成する事業の進ちよく、進め方が優れており、目的の実現に大いに寄与している
B	50～79点	施策の成果や施策を構成する事業の進ちよく、進め方はおおむね順調だが、より上位を目指して改善することが望まれる
C	49点以下	施策の成果や施策を構成する事業の進ちよく、進め方に課題が見受けられ、検証や見直しなどが求められる

施策評価シート【監査委員評価】(案)

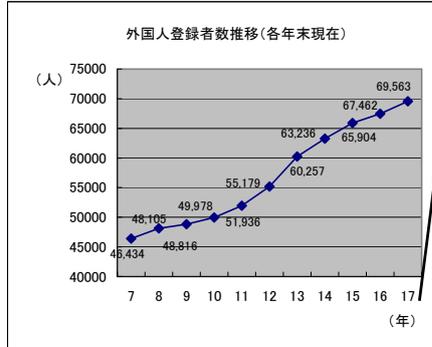
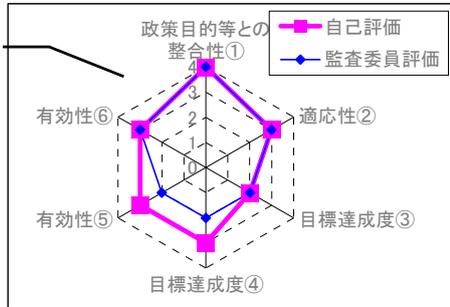
平成 18 年度

1 基本情報

基本施策名	海外諸都市との交流、世界への貢献、国際性豊かなまちづくりを進めま	基本施策番号	6-1
-------	----------------------------------	--------	-----

【グラフによる比較】

自己評価と監査委員評価の評価点を各着眼点ごとに比較しています



参考となるデータやイメージなどを掲載しています

2 項目別評価

4: 十分できている 3: できている 2: あまりできていない 1: できていない

評価項目	着眼点評価、理由・説明等	評価
政策目的等との整合性	① 基本構想または政策の目的を実現するために適切なものとなっているか。	□4 ■3 □2 □1
適応性	② 市民ニーズや社会経済情勢の変化に柔軟に対応しているか。	□4 ■3 □2 □1
目標達成度	③ 目標水準を適切に設定しているか。	□4 □3 ■2 □1
目標達成度	④ 施策の目標水準どおりに進めることができているか。	□4 □3 ■2 □1
有効性	⑤ 事業の重点化について明確な理由をもって行っているか。	□4 ■3 □2 □1
	⑥ 施策を構成する事業が円滑に進むように調整をしているか。	□4 ■3 □2 □1

施策の現状・課題、目標達成状況など総合的なコメント(監査委員評価)が記載されています

3 総合評価

ランク (A~C)	B	この施策は、「国際交流」、「国際協力」、「国際性豊かなまちづくり」の3つの大きな分野から構成されているが、当施策は市民からすると身近なものでないため、その成果等を市民に分かりやすく説明を行なっていくことが重要である。そのため、施策・事業それぞれの目標やその目標達成度をより一層明確にした上で、具体的に取り組んでいくことが重要であるとともに、従来から継続して実施している事業の検証をさらに進める必要がある。また、今後、指針に基づき具体的な取組を進めていく中で、市内関係所管課が十分に連携・協力するとともに、民間団体や企業も含めた取組みが期待される。
-----------	---	---

合計	16
↓	/ 24
100点換算	67
	/ 100

◆事業評価シートの見方

平成 18 年度 **事業評価シート【自己評価】** No. -

事業名	羽田空港再拡張事業に対する無利子貸付事業				担当	区局部課名	都市経営局政策部政策課	課長名	給木 健一	電話	671 - 3917
施策名	■中期計画 羽田空港再拡張・国際化の推進 ■運営方針 重点取組「重要な政策課題に関する取組」(1)④羽田空港の真の国際化							重点事業番号	6 - 4 - 3		
目的	国が実施する羽田空港再拡張事業の円滑な推進を図る。										
内容	滑走路などの緊急整備事業費の一部として、国に対して概ね100億円を複数年度に分けて無利子貸付を実施する。										
根拠法令等	東京国際空港における緊急整備事業の円滑な推進に関する特別措置法、東京国際空港における緊急整備事業に係る無利子貸付に関する協定書										
コスト	区分		H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算				
	事業費	(千円)	0	917,000	2,312,000	0	2,455,000				
	うち一般財源等	(千円)	0	917,000	2,312,000	0	2,455,000				
	人件費(概算)	(千円)	0	0	0	0	0				
	総コスト(概算)	(千円)	0	917,000	2,312,000	0	2,455,000				
活動・成果指標	名称	単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定				
	事業進捗(平成21年供用開始)			推進	推進	推進	推進				
	活動 単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)									
	単位当たりコスト【総コスト/指標】	(千円)									
評価項目	点数	理由・説明等									
	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適合しているか。 □4■3□2□1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 □4■3□2□1									
1	適応性	羽田空港再拡張事業は、2010年(平成22年)10月に供用開始を図るとされ、事業主体である国が推進している事業である。再拡張事業に対する無利子貸付は、事業の円滑な推進を目的として、特別措置法に基づいて、自治体から国への無利子貸付を行うものであり、市が実施すべき事業である。									
2	有効性	6 ③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 □4■3□2□1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 □4■3□2□1									
3	目標達成度	3 ⑤ 目標の水準は適切か。 □4■3□2□1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 評価対象外									
4	経済性効率性	3 ⑦ コストは縮減しているか。 評価対象外 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 □4■3□2□1									
5	正確性信頼性	6 ⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 □4■3□2□1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 □4■3□2□1									
総合評価	合計	74 (協働の取組状況)									
	100点換算	79 (特記事項(環境への負荷))									
ランク(A~E)	B 羽田空港再拡張事業は、事業主体である国において推進されている事業である。本市は、再拡張事業の円滑な推進を支援するため、特別措置法や協定に基づいて無利子貸付を行っており、今後も引き続き、国や関係自治体と調整のうえ、適切に事業を実施していく必要がある。										

各評価項目の合計点

評価の理由・根拠が記載されています

評価点の合計

評価点の合計を100点換算して表示しています

評価点の合計により下表の5段階に分類しています

※着眼点の一部を「評価対象外」とした事業については、「括弧」をつけ、「(A)」のように表示しています

事業の実施にかかるコスト(総コスト=事業費+人件費)が記載されています

次の4段階で評価しています

4	十分できている
3	できている
2	あまりできていない
1	できていない

「協働の取組」や「環境への付加」について、特記すべき事項がある場合に記載されています

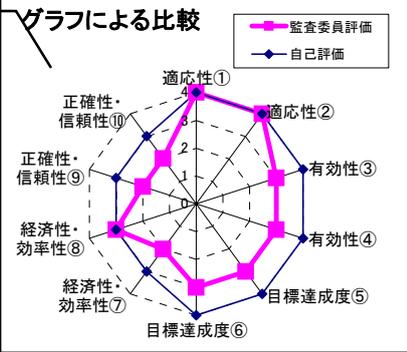
《総合評価ランク》

A	86点以上	優れた取組が多く、十分成果があがっている
B	71~85点	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	56~70点	一定の成果は上がっているが課題もあり、更なる取組によって上位を目指す必要がある
D	41~55点	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多く、更なる改善が必要である
E	40点以下	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要である

評価結果の総括や、現在の問題点、今後の課題など、事業全体からみた総合的なコメントが記載されています

事業名 羽田空港再拡張事業に対する無利子貸付事業

自己評価と監査委員評価の評価点を各着眼点ごとに比較しています



【国の経済波及効果試算】 (国土交通省試算)

●国際線を年間3万回導入するケース (単位:億円、人)

	生産額増加			税収増加		雇用増加
	直接効果	波及効果	計	国税	地方税	
東京	5,587	5,102	10,689	476	477	75,125
神奈川	306	650	956	137	133	29,044
千葉	22	46	68	10	9	2,051
埼玉	65	138	203	29	28	6,152
1都3県	5,979	5,936	11,915	652	28	112,372

【横浜市への総経済効果試算結果】 (横浜市試算)

項目/ケース	2000Km圏	3000Km圏	6000Km圏
①生産額(百万円)	56,858	77,601	90,638
②租付加価値額(百万円)	30,187	41,369	48,925
③税収(百万円)	1,679	2,301	2,722
④雇用者数(人)	4,052	5,504	6,502

※国際貨物取扱を条件とし、総発着回数40.7万回/年とした場合

参考となるデータやイメージ図などを掲載しています

評価項目	点数	理由・説明等
1 適応性	6	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適合しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ② 事業を市が行う必要性があるか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 首都圏における航空需要の増大に伴って早急に対応することが各方面から求められており、羽田空港の再拡張は社会情勢に適合している。また、本市にとっても市民の利便性向上、経済の活性化が期待できる。羽田空港整備に関する費用負担は本来、国が負うものであるが、「東京国際空港における緊急整備事業の円滑な推進に関する特別措置法(以下、「特別措置法」という。)が制定され、緊急整備事業に対して地方公共団体による無利子貸付ができることとなっている。
	6	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 本市は再拡張事業に対する資金協力者であり、羽田空港の真の国際化実現に向けて積極的に主張すべき立場にあり、様々な機会を通じて国への提案(「国の制度及び予算に関する提案・要望」)などを行なっている。再拡張のための本格工事は平成19年3月に着工しており、平成22年の供用開始に向けて、国際定期便の航就及び国内ネットワークの充実等に向けた整備が進んでいる。
3 目標達成度	3	⑤ 目標の水準は適切か。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑥ 計画通りに目標を達成できたか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 貸付総額は国が試算した経済波及効果に基づき、神奈川県や川崎市と協議して決定した額である。毎年、国からの請求に基づき、総額の枠の中(上限100億円)で貸付を行なっている。ただし、平成18年度に計画していた貸付は工事の着工が遅延して19年3月の着工となったため、国からの説明を受けた後、平成19年度に明許繰越し執行している。
	3	⑦ コストは削減しているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑧ 事務は効率的に行われているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 本市の財政状況に合わせて、起債または一般財源により負担している。また、神奈川県、川崎市とは「県・横浜・川崎空港対策研究協議会」などを通じて適宜情報交換を行い、共同で国への要望(「羽田空港の再拡張・国際化の推進について」平成18年10月)を行っている。
5 正確性信頼性	6	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 ⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1 貸付事務については「東京国際空港における緊急整備事業に係る無利子貸付に関する協定書」にのっとり適正に行われている。市民向けの情報提供は主に記者発表やホームページにより行われているが、さらに多様な広報媒体を活用し、市の羽田空港再拡張化に関する見解と対策について理解を求めていくことが望ましい。
	合計	24 / 32
100点換算	75 / 100	
ランク(A~E)	(B)	

事業により評価ができない着眼点は『評価対象外』としています。

指摘事項	改善を求める事項。今後の措置を求めます。
改善要望事項	改善を要望する事項。今後の措置を求めます。
評価の理由	自己評価と監査委員評価のランクが異なる事業のみ記載しています。評価の概要を説明したものであり、措置は求めません。
なし	上記3項目もいずれにも該当しない事業。コメントなどは記載されません。

発行：横浜市監査事務局 発行日：平成19年9月14日
所在地：〒231-0017 横浜市中区港町1-1
電話：045(671)4293 FAX：045(664)2944
電子メール：ka-hyouka@city.yokohama.jp

◆ **横浜市監査事務局のホームページ**
<http://www.city.yokohama.jp/me/kansa/>